女學世界

明治三十三年十二月廿五日第三種郵便物認可
明治四十三年七月廿六日印刷納本（毎月一回廿六日印刷納本）
八月一日發行

第十巻第十號

避暑號



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



海水浴を なさるなら！

お若くなりますと、皆さんが、やれ溫泉だとか、海水浴だとか仰しやつて、避暑にお出掛になりますと、お歸りになつて、鏡に向ふのが恥かしいなどゝ仰しやいますが、それは御道理の事と思はれます、何故？と仰しやるんですか、先海水浴の事から申しますと、一體海岸の水といふものが、皮膚に宜ないので、海岸の水といひますと、硬水といつて、硬い水で、湯に沸しますと、湯垢が澤山出る位に石灰質が多く、石鹸などは、コチ〳〵して溶解しません、恁麼水を使つて、皮膚を傷めて居る上に、汐風に吹かれて、日に照り付けられるのですから、お歸りになつて鏡を御覧になれば、生れ變つたやうに醜くなりますのも、決して無理なことゝは思ひません、ですから海岸に住む人に、皮膚の美しい人はありません、鹽燒く蜑女などと、何れも澁紙色、銭瓶色した皮膚の醜い形容に使はれる容色のみで御座いませう、

といつて絶對に海岸を棄てゝ、山ばかりといふのも、都會にお住みになる人には物足りない話ですから、海水浴にお出掛けになるなら、その樣に御準備なされば、決して御心配はありません、即ち海岸の水を其儘に用はないで、お用ひになるときは必ず乳白化粧水『レート』を滴して能く攪拌したのでお顏を洗ひ、『クレムレート』を塗つて、よく擦り込んでお置きになれば、汐日に照らされても、焦けることはなく、汐風に吹かれても、肌理を荒らされることもなく、皮膚を美しくするとも傷めることはないのです

晝間はさうして、夜間はタオルか柔かな布片へ、乳白化粧水『レート』を浸してよく顏を拭き、『クレームレート』を化粧水『レート』で薄く溶いて塗つて御寢なれば宜しうございます

日中に外へお出掛けなさいまして、日に照らされ、汐風に吹かれてお歸りになりましたときは、直ぐに熱い（漸う我慢の出來る位）湯で顏や手を洗つてその上へ『クレームレート』を塗り、又海水浴をなさる前には、キツと『レート』を塗つて置くことを忘れてはなりません

ア、『レート』ですか？、それは日本橋區馬喰町一丁目の平尾賛平さんが發賣元ですが、評判が高い品で、何處の小間物店にも賣藥店にも賣つて居りますよ、まあ避暑旅行には、必らず乳白化粧水『レート』と『クレムレート』を行李や鞄の中に入れることを忘れてはなりませんネ。

（美顏術師某氏の談）

正確なる時計と
流行せる指輪と

時計は器械の堅牢にして時間を示すこと正確なるものを撰ばざるべからず。「安もの買ひの錢失ひ」を爲さるゝ勿れ。三越の如き確實なる店について御求め遊ばせば、かゝる御心配は御無用なるべし。

指輪は十八金製寳石入が大流行なり。千圓のダイヤモンドと十錢の新ダイヤとは外見頗る相似たり。されば指輪は三越の如き信用を重んずる店へ御注文遊ばさるが、最も安全の策ところいふべけれ。

地方御注文案内書「時計と指輪」は御申込み次第無代進呈

東京駿河町

三越呉服店

(振替貯金口座東京三〇〇番)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

巻第拾號目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一品一効

●一品多能の望なきを主張する
吾製造各種の化粧料は常に

●如斯美人を試金石とし着實に
善良の効果を收めつゝあり

!!純無鉛!!

御料たつた白粉

▲博士大家無害證明▼



▲新式中の新式白粉▼

御料あらいこ

▲一合の牛乳で洗ふより▼



▲一さじの御料あらひ粉▼

「欧羅巴宮殿式」

御料フード

▲水なしで化粧のできる▼



▲西洋風新式おしろい下▼

「化粧界新美觀」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

専賣特許

エンゼル香油

田原藥學博士の實驗 清浦子爵御證明 高山三兩博士の實驗有効御證明 東京美術學校千頭教授の實驗有効御賞賛狀其他大家より多大の高評を以て迎られたる特許エンゼル香油は毛髮を黑化漆の如き光艶を出し且毛根を養ふ偉大の特効ある最新發見の高等香油にて殊に本品には目下歐米にて最も流行せる『ヘリオトロープ』『バイオレット』『ホワイトリリー』等の高雅な※る芳香を有し御使用後は馥郁として長時間保ちます故別に他の香水等御用の必要は有りません又くせ毛の方はB號エンゼル香油御使用有れば如何なる天性の縮れ毛にても自然に矯正する不思議の特許品で有升

紳士貴婦人高等專用香油



◉實價は小罎六十錢中罎壹圓大罎壹圓八十錢と天性雜毛用特製三圓五十錢の四種で送費は市内は何れも七錢内地は小中罎迄は十一錢大罎及び特製十五錢です

東京市本郷區東片町十五番地
電話下谷二五六九番
振替東京二〇七四三番
エンゼル商會

産科婦人科專門 醫學士 北畠孝夫先生閲

最近
婦人病心得
子宮病自宅療法

目次（婦人病の總論◉血の道（ヒステリー）の原因病理及び自宅療法◉神經衰弱、貧血、萎黄病とは如何及其療法◉しらちながちの病理及其根治法◉月經時の手當月經諸病の療法◉姙娠の原理、受胎すべき場合姙婦の攝生、つわりの養生法）

發行所へハガキにて申込めば 無代進呈

女の一番つらい病は。子宮の諸病であるが。此病にかかりし婦人は。大抵之れを秘して、適當の手當をなさず。亦妙齡の頃などに。月經の閉止とか。不順等あれば、獨り心を痛めて、素人的の通經劑などを試み、遂には恐ろしき難病となつて。生涯の苦みを遺すことのあるのは。洵に痛歎の極である◉著者は多年の實驗と。最近の學說を基礎とし。（婦人病者の心得）と題し上記の各項に分て丁寧親切に詳說せり◉病める婦人は勿論一般の婦女は。本書を一讀して、自宅の療法を會得せよ

發行所 東京築地新榮町四ノ一（電話新橋三三六〇一番）笹岡省三

女（いの一）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



衞生美顔術

（一回施術料金五拾錢）

美顔術實驗有効

御化粧水 ライラック水（一瓶五十錢 送料八錢）

にきび知らず 理容水（大五十錢 小三十錢 送料八錢）

芳香無鉛 理容白粉（一瓶五十錢 送料八錢）

東京市京橋區竹川町十二番地

理容館本部

電話新橋三八〇四番



女（いの二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬりもの

美術蒔絵物

常陳列縦覧所階上

東京日本橋通室町

木屋漆器店

電話本局 九百九拾七番

（長）千七百拾番

◎産婦人科　宅診 午前

◎小児科　往診 午後

病室並ニ産室ノ設備アリ隨時入院ノ需メニ應ズ

院長 女醫 鷲山彌生

東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院 電話番町(二三五七)

肺病患者を救ふ

東京大森在の不入斗川名助次郎といへるは數年來自身に最も激烈なる肺病を憂ひ京濱の大醫にさへ見はなされたるが偶然にも一大奇藥を發見し之れが爲め九死に一生を得たるを喜び爾來同病者の救濟に努むる十年一日の如く服用者の中既に全治せるもの四千六百餘人に及べりと云ふ返信附照會者には詳細を告ぐる由なり。

女(いの三)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



煉香油中の王様です

煉香油
パール

男女美髪料として好評嘖々

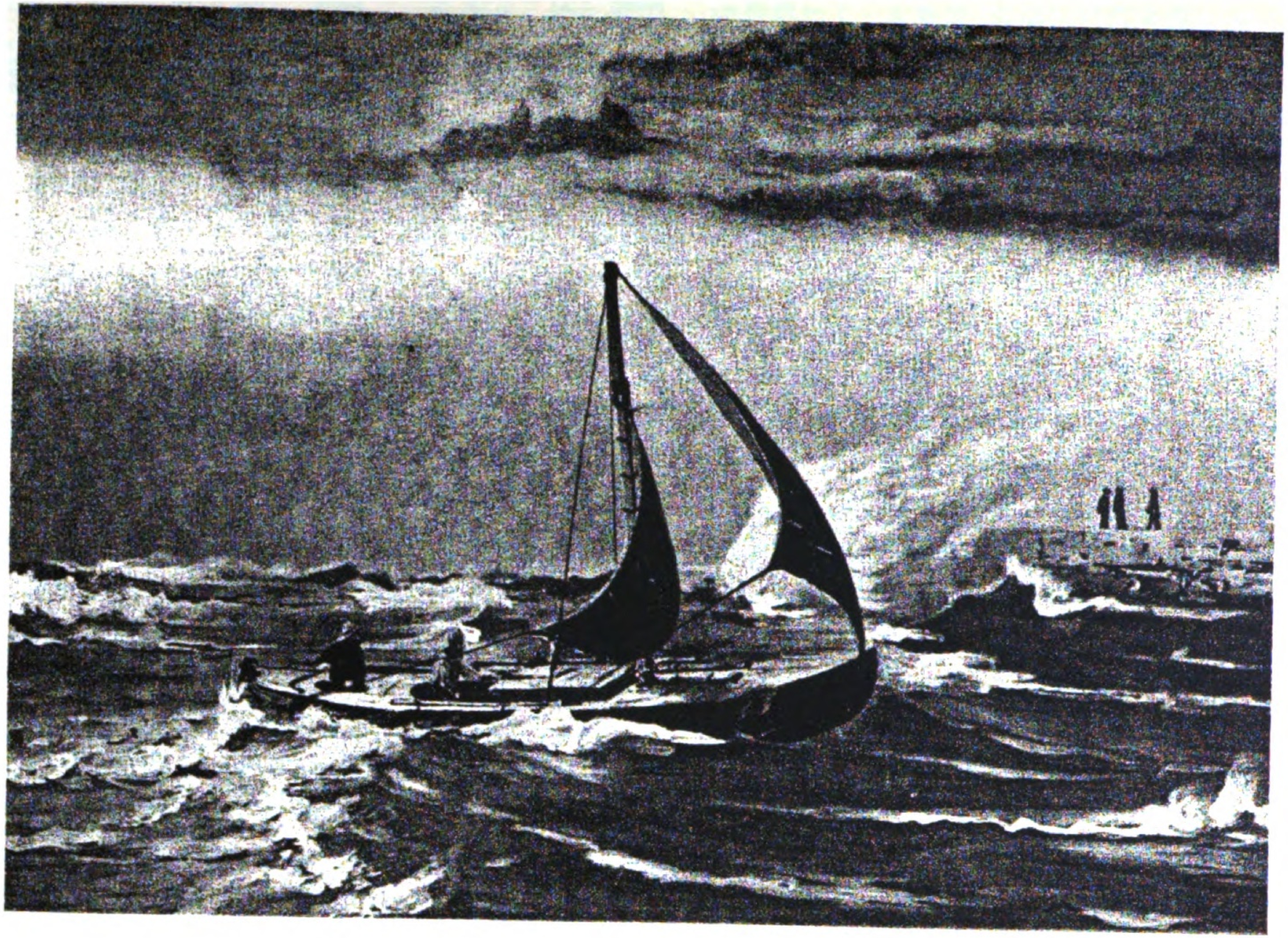
スミレ香水　スミレ黒香油

東京横山町　平尾銑也

女〇いの四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

快走



田中製版所三色版

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人一生中に最も心配な事實

政治上實業上に外交の繁き良夫を持つ夫人と日々多數の嫖客に接する婦人は殊更注意せよ恐るべき難産と流産と不姙症は必ず來るべし

婦人は身體の構造上梅毒痳病に對し病毒の發源地となりて他人に感染せしめ又病毒の蕃殖地となりて自己の膣子宮を害し血の道、癪に苦むは婦人の持病と諦め腰より脚部へ冷る如く感せば婦人は冷へ込む天性と自覺して帶下、白帶下、赤帶下の惱むも冷込と速斷し他人の擧兒を羨むと共に我が子寶なきを嘆きながら之も例の冷込みと誤信して見當違の暖め藥等を内用する故遂に長引は畢竟誤療の結果と知るべし元來婦人の生殖器は天然的受身に構造せられ即ち人類の田畑なれば病菌の蕃殖するは當前にて結婚の機會に病菌侵入し其田畑を荒すゆゑ子宮血の道に惱み倍々荒せば荒す程其肉落ち身體の寠れるは實際惡き土地の田畑に滿足の農産なき道理なり婦人科學上婦人病の療法は局部の治療を第一義とし局處の外用する藥劑の要求は益急を告るに至る余は藥劑師にて衞生の天職上豈に傍觀するに忍びず積年苦心慘憺研究の末方今婦人科學の泰斗として臨床上實地の鍊達一世を壓する獨乙伯林のフロインド博士の研究と其實驗に成る處方に則る藥液をして直接に婦人の局處に作用すると同時に吸收せられて其藥効を發揮すべく可要球（座藥にて内用藥にあらず）を調劑し幾多の婦人科醫に之が實驗を請めたるに子宮内膜炎にて下腹痛み常に帶下ありて白帶下又赤帶下に苦み腰より下腹へ筋張り更に胸先きへ差込み子宮糜爛して痛み、子宮出血して褌を汚染し、厭な處に惡臭ありて他に嫌れ又は燃へ立つ搔痒を起し搔ば痛む症、月經時の疼痛と月經過多に惱み或は痳毒性子宮病等の諸症に用ゆれば何も其の効力神速にして驚ろくべき顯著なりとの賞賛を受たり「可要球」は最新の學理に適合し最も親切なる良劑にて恰も田畑に完全の肥料を與ふる如き直接に其の藥効を顯すを以て婦人の姙娠すべき局部と田畑の道理を思ひ彼是と迷ふ事なく殊に婦人病には必ず「可要球」を外用して速に根治し給ふべし尚病毒の疑ある婦人は速に唯一丸を内用せば拭ふが如く其病毒を去り面白き程治療す故に良夫あれば相互に其病毒を驅除する事を忘るべからず

「可要球」定價三球入貳拾錢、八球入五拾錢、拾八球入壹圓、四拾球入貳圓

「唯一丸」定價三日分四拾錢、七日分八拾錢、十四日分壹圓五拾錢　三十日分參圓（いづれも内地遞送無料）

東京市本郷區湯島天神表門中坂上

發行所　藥劑師　中西荘吉

振替貯金口座東京千五百番

（ろの一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

曩に『婦人の日常生活法』を著はして、天下の耳目を聳動せしめたる弦齋先生は、今亦千古の宿題たる男女問題を解決して之を公にせらる。男女一生の禍は一に此智識の缺乏に胚胎す未婚の處女青年、既婚の新婦新郎、さては子女を有する父母は必ず一本を備へられよ。

村井弦齋先生新著

婦人及男子の參考

上製金文字入
紙數七百餘頁
正價貳圓
郵稅小包料
金拾八錢

戀愛論

△戀愛と自由結婚……
△昔の戀愛と今の戀愛
△武門時代の戀愛……
△德川時代の戀愛……
△戀愛の流行……
△個人主義の戀愛……
△自然主義の戀愛……
△戀愛の種類……
△戀愛結婚と我儘夫婦
△戀愛結婚の禍福……

結婚論

△個人主義の結婚……
△家族主義の弊害……
△近頃の結婚法……
△媒妁口の信用程度……
△相縁奇縁……
△財産結婚と人物結婚
△肩書結婚……
△理想の妻と母……
△男女の交際……
△結婚法の改良……

情愛論

△信愛せらるゝ妻……
△花嫁の覺悟……
△夫婦喧嘩……
△献身主義の婦人……
△個人主義の婦人……
△陰氣な妻……
△夫婦間の嫉妬……
△夫婦間の禮儀……
△離婚と再婚……
△夫婦の情親子の情

この外痛切なる問題數百項あり悉く有益

發行所 東京京橋南紺屋町 實業之日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人常識の發達當代無比と稱せらる、下田女史が三十年來苦心研究せられたる婦人の常識に關する大著新に成る眞に是れ女史畢世の大作にして現代婦人の必ず缺くべからざる諸般の常識自修方法悉く説明す。之を讀まずして世に立つ婦人は必ず後悔あらん。

下田歌子先生新著

婦人常識の養成

上製金文字入

正價 壹圓五拾錢

郵稅小包料金拾貳錢

重要項目

△現代婦人の覺悟……△婦人と職業……△婦人と衛生思想……
△婦人と慈惠……△婦人と手藝……△婦人と經濟思想……
△婦人と勇氣……△婦人と禮法……△理想と現實……
△婦人と信念……△婦人と音樂……△婦人と結婚問題……
△婦人と宗教……△婦人と遊藝……△婦人の長所と短所……
△婦人と教育……△婦人と裝飾……△主婦としての婦人……
△婦人と常識……△婦人と交際……△母としての婦人……
△婦人と學問……△婦人と趣味……△娘としての婦人……

本社 — 郵便振替貯金口座參貳六番 — 賣捌 全國各地書店

女(ろの三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN





Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金蓮花



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

久能木式
石油厨爐

厨爐の好季と相成候

今の季節に於て常に不用の炭火を起し置くが如き不經濟はなされぬものにて候然ればにやマッチ一本にて直ちに強烈の火力を發する簡便と且つ最も煮炊に經濟なる當『**石油厨爐**』は此期季に於て益々註文を重ね愈々好評を博しつゝ有之候間未だ御試用なき御方は御參考までに御遠慮なく目錄御請求下され其使用法を御一覧下され度候（**目錄無代進呈**）

八月末日迄
五歩引券
有効の事



製造
發賣元 久能木商店 東京日本橋室町三丁目 長電話本局二八九番 振替口座一四五七番



女（はの一）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今井柏浦君選
榊原蕉園女史口繪

古今女流俳句集

女流の俳句は、男子の俳句に較べて放膽豪宕の氣に乏しいが、纖細、優婉、溫情自然に溢る、天眞流露の趣は、到底男子の遠く及ばぬ處がある、畢竟女子は男子に比べて、思想の緻密なると共に、感情の溫柔なる處が多いから、俳句なり歌なり、女性的と男性的とは、歴然した區劃があつて其觀察點も抒情の徑路も違つてゐる、即ち女性的俳句の特色は、男性的よりも多く同情に富める點にある、この書に蒐めた俳句は、古今を通じて女流の佳吟名什約三千其秀逸なるものに至つては優に男子を凌駕するものがある、俳句を學ばんとする婦女諸君は固より女性の俳句を究めんとする人は是非一本を備へねばならぬ。

全壹册
菊半截美本
貳百五十頁
正價卅五錢
郵稅四錢

東京日本橋本町三丁目
博文館
振替口座東京二四〇番

營業目錄

婦人技藝材料

袋物、造花、刺繡
摘ミ細工、果實、瓶細工
編物、器具並に材料

東京市本郷區弓町二丁目
倉持商店
電話下谷二三五一三、振替貯金口座壹七壹壹

此切取を添へ御申込しの方へは美術技藝の栞並に定價表無代進呈す
（○女學世界八月號）

女（はの二）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

禿、脫毛、薄毛、生際惡き人試みよ……

東京皮膚病院發明山崎製

毛生液



本劑は第一毛をはやし、ぬけ毛を止め、髮の毛はへぎは眉毛髮等の薄きをこく生じ皮膚病でき物ヤケド跡はげ其他あるべき所に毛なきに用て毛はへる事請合

○藥價三十錢、五十錢●特製一圓、二圓●送料六錢

本舖 東京市日本橋區馬喰町二丁目 山崎愛國堂

生田流 井上胡蝶著

箏曲新譜

各調子の合せ方より音符休止符其他彈琴に必要なる事項は細大もなく説明し樂譜は西洋音樂に通せざる人の容易に了解彈奏し得らるべき新譜にて記載せり歌曲は鶴の聲黑髮六段夕顏亂八段越後獅子千鳥新高砂茶音頭新雪月花巖上の松春の曲小督の曲其他有名歌曲六種彈琴家の獨習書たると同時に習ひて忘れたる人の良師友なり文明的箏曲の練習は此書の外求むるを得ず

卷一定價送料共一圓七拾錢韓清國は外に送料貳拾錢を增す石版鮮明の頗美本口繪箏曲合奏の美麗なる寫眞版あり

發行所 福岡市外馬出一、一〇三 箏曲通信教授所

見よ◉月經なき女子◉病める婦人

●本劑は專門博士が學理と實驗より發見せられたる物 ▲勿驚……藥力最精實…効能確保…有効無害…

博士賞贊良藥 改良 女月丸



其主藥は最新唯一の通經藥にて帝國大學病院及各病院にて專用する最良藥なり二三月の月經閉止月經滯り月經不順は一二劑にて必ず流下し四五ヶ月又は血塊にても特製或は別製分服用せば安心に忽ち流經す女子十七八歳になり月經なき人は二劑又毎月月經困難は三日分にて通經す

藥價一劑六十錢二劑一圓十錢特製二圓廿錢別製分三圓卅錢送料各四錢

◉肥滿病新藥（米國新輸入）

諸嬢姉の福音

美人となる



やせる藥

子供の折美愛と賞せられし人も年頃になりてより肉太りたる爲め上圖の如く醜婦となる人少なしとせず本劑は獨乙ベンツオルト氏の發見藥にて脂肪多き人◉ぶと〳〵ふとり◉血太り◉肉太り◉酒太り◉水太り◉顏赤◉にきび◉ふき出物多き者輕症一二劑如何程の頑性も四劑分連服せば色は肥白となり奮て美顏窈窕たる美人となる事を保證す乞肥滿性の人は試みよ

藥價	送料
一劑一圓五十錢	三劑四圓卅錢
二劑二圓九十錢	四劑五圓半
	十錢

發賣元 東京々橋中橋和泉町 振替第壹〇六七七七番 小宮愛生堂

女（はの三）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京京橋區南傳馬町

流行の指環　大西白牡丹

振替口座東京九二三九番◎電話本局三十番・三千番



(1) 二十金眞珠入露芝彫刻　金貳拾圓

(2) 二十金貝つくし彫刻　金貳拾貳圓

(3) 廿二金眞珠入水の透し　金拾五圓

(4) 廿二金眞珠入銀杏彫刻　金拾八圓

(5) 二十金眞珠入豆彫刻　金貳拾圓

(6) 二十金百合花彫刻　金九圓五拾錢

(7) 十八金金剛石九個入　金百六拾圓

(8) 十八金金剛石三個入　金七拾五圓

(9) 十八金眞珠及金剛石　金百三拾圓

(10) 十八金眞珠三個入　金拾貳圓

(11) 十八金最上眞珠入　金參拾圓

(12) 十八金眞珠入　金拾圓

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

黄蜀葵



本多穆堂筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

(その一)



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ムーレー及ランマン製

フロリダウオーター

Murray & Lanman's
FLORIDA WATER

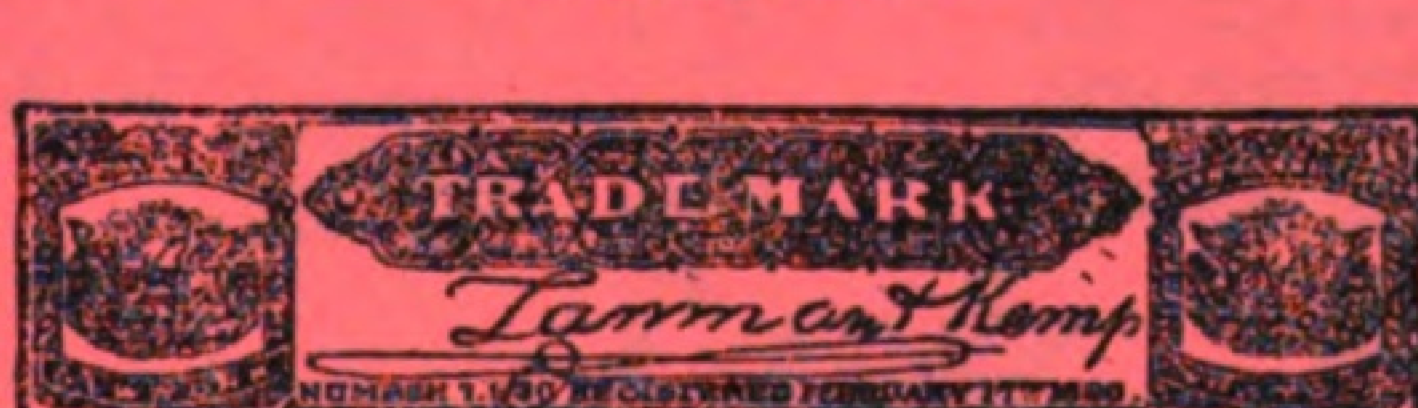
世界的流行の高尚香水

沐浴・洗手・髯を剃りたる後・疲勞せし時及び運動せし後皮膚に擦用すれば精神を快活ならしむ其他一般の化粧用



極上無比にして最も廣く愛用せらるゝ化粧用香水なることは毫も疑なし貴賤高卑を問はす又如何なる場合に使用せらるゝも神氣を爽快ならしめ恰も蘇生せしむるの快樂を得べし

登錄商標



御購求の際は此の登錄商標を御注意あれ
僞造品を以て瞞着せらるゝこと勿れ

北米合衆國紐育市

製造元　ランマン及キヤンプ

LANMAN & KEMP, New York
Proprietors and Sole Manufacturers

日本總代理店 • 横濱 • 支那及日本貿易商會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

●診察時間朝八時より夜九時迄●皮膚諸病ほ黒こぶ
梅毒りん病ぢ疾わきが生殖器病神經衰弱症
東京 淺草瓦町廿八 淺草橋通瓦町電車停留場横
中央醫院

生殖器病神經衰弱 記憶力減衰萎縮遺精早漏夢精發育不充分症等
梅毒横根下疳・りん病・わきが・ぢ 皮膚諸病
▲各自病狀を記し郵便切手六錢を封送せば其病を速治する中央醫院處方の特效新藥說明書を送る
東京市淺草區瓦町廿八淺草橋通瓦町電車停留場横
中央藥院

◉奇藥クウルーの名譽◉
ニキビ そばかすの根治藥
たる本劑は是迄幾萬の同病患者に頗つに何れも其奏効の意想外なるに驚嘆する處なり本劑は一時的の化粧藥に非ず其病源たる皮膚の惡脂肪を根本的に驅逐全治すべき理想の配劑にして如何なる頑惡症も根治す是れ本劑が名譽たる奇効なれば同病困難者は速に使用して一種獨得の奇効全治の幸福を得られよ◉本劑の効用及療法書は郵券貳錢封入申込次第進呈す
●藥價輕症用金五拾錢送料市内四錢地方八錢清韓臺卅錢[redacted]
東京市下谷區黒門町六番地 長田彌平
◉振替口座東京七六貳九番 電話下谷二一五七番

根治確證 わきが 新治療藥ラビヨシ
必ず全治し決して再發或は他病に變ぜず速に用て苦惱を脫せよ
丙價七拾錢乙價壹圓卅錢甲價特製貳圓五拾錢送料拾五錢
本劑を塗擦すれば主成分は皮膚及び肉の組織に吸收せられ其組織にある毒素を清潔驅逐し惡臭を根底より全滅せしむる作用を有する最近發見の特種の新劑にして如何程頑固劇烈の難重症も甲價特別製を用ひよ

毛のはへる
原名ヘグネス 毛髮生長液
めはへぎわうすき人●まゆ毛●口ひげ●其他の所に毛なき人用ひよ毛髮
増生す◉頭などにはげのあるのは見苦しき者也
有力なる最新液にして
毛をはやしたき人早く
試みられよ●ぬけ毛落毛を止
定價壹圓卅錢特別製貳圓送料拾四錢本品は原名をベグネスと稱する現今最賞用せらるゝ

化學製品 色の白くなる溶液
皮膚を漂白するを以て全身次第に白色艶美となる
價A印壹圓B印特製壹圓五拾錢送料拾五錢本劑は貴紳淑女粋士間に大高評を博し殊に愛用せらるる最新流行の秘方奇劑にして本劑を塗擦すれば
分の力 主性
皮膚は次第に新陳代謝を盛にし男女交際上最も必用の品なり

月やくおろし
メソルビン 此藥は子宮を痛めず如何ほど長き月經とまりも必ず下ろ二三月位のは壹劑も用ゆればすぐ下る二三ヶ月以上のとまり又は血塊には特製を用ひよ速に流經す本劑は効能極て烈強なるも毫も身體に害なくたやすく下る、月經不順より起る血の道子宮血を全治し古血を一掃す價半劑六拾五錢壹劑壹圓貳拾錢特別製貳圓卅錢參圓五拾錢送料拾貳錢
專賣 東京神田區小川町東明館前 オリエンタル藥舘

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

悪筆は一生の損

(にの四)

習へば斯くの如く直ちに上達する

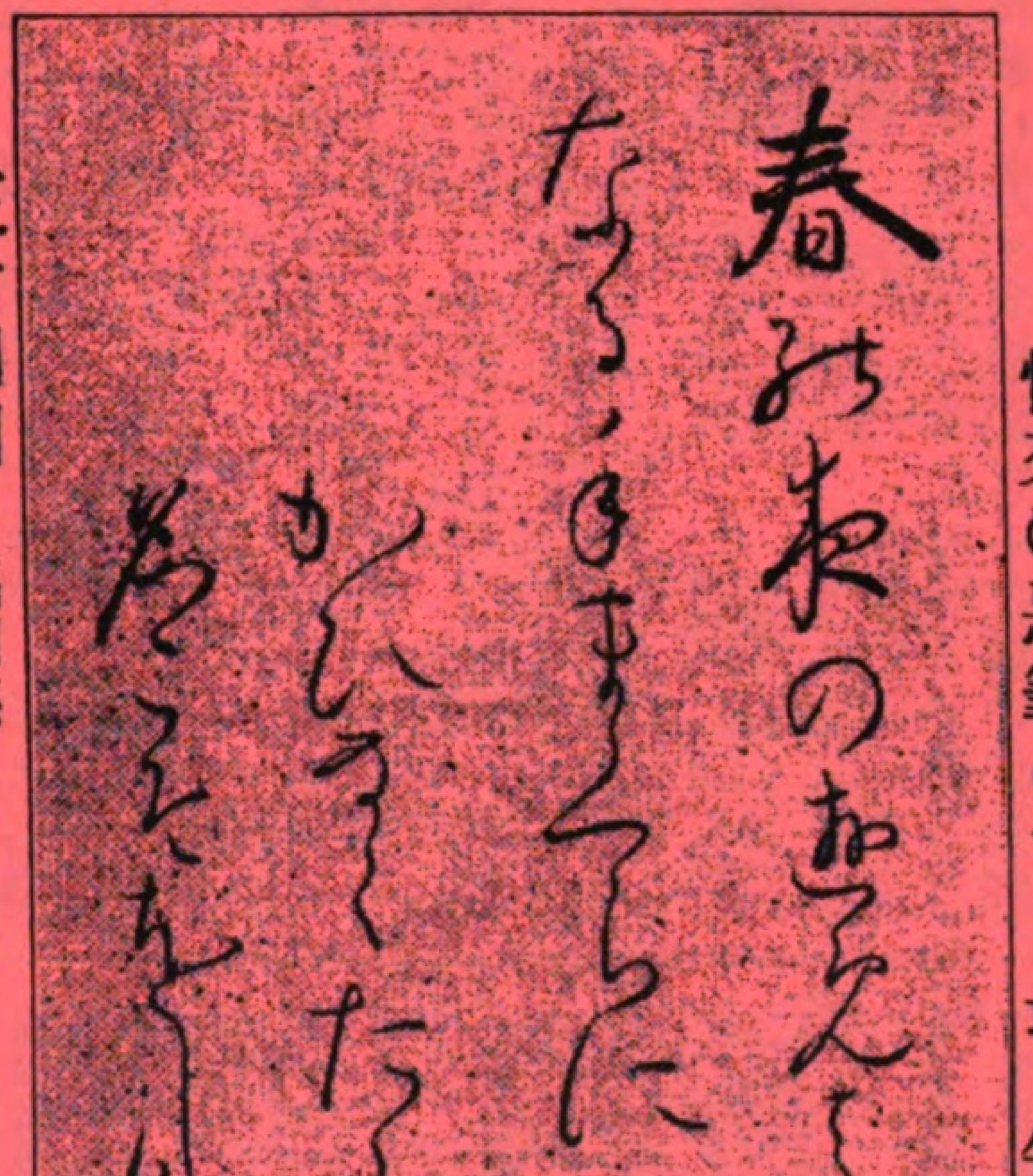
本會獨特の特許速成通信教授の方法にて練習すれば如何なる性來の悪筆にても最も短日にて上達すること全く機械的也

▼女子部の書者 **小野鵞堂先生**

▼男子部小學部書者 **稲川雲谿先生**

玉木愛石先生

外講師……大家數拾名

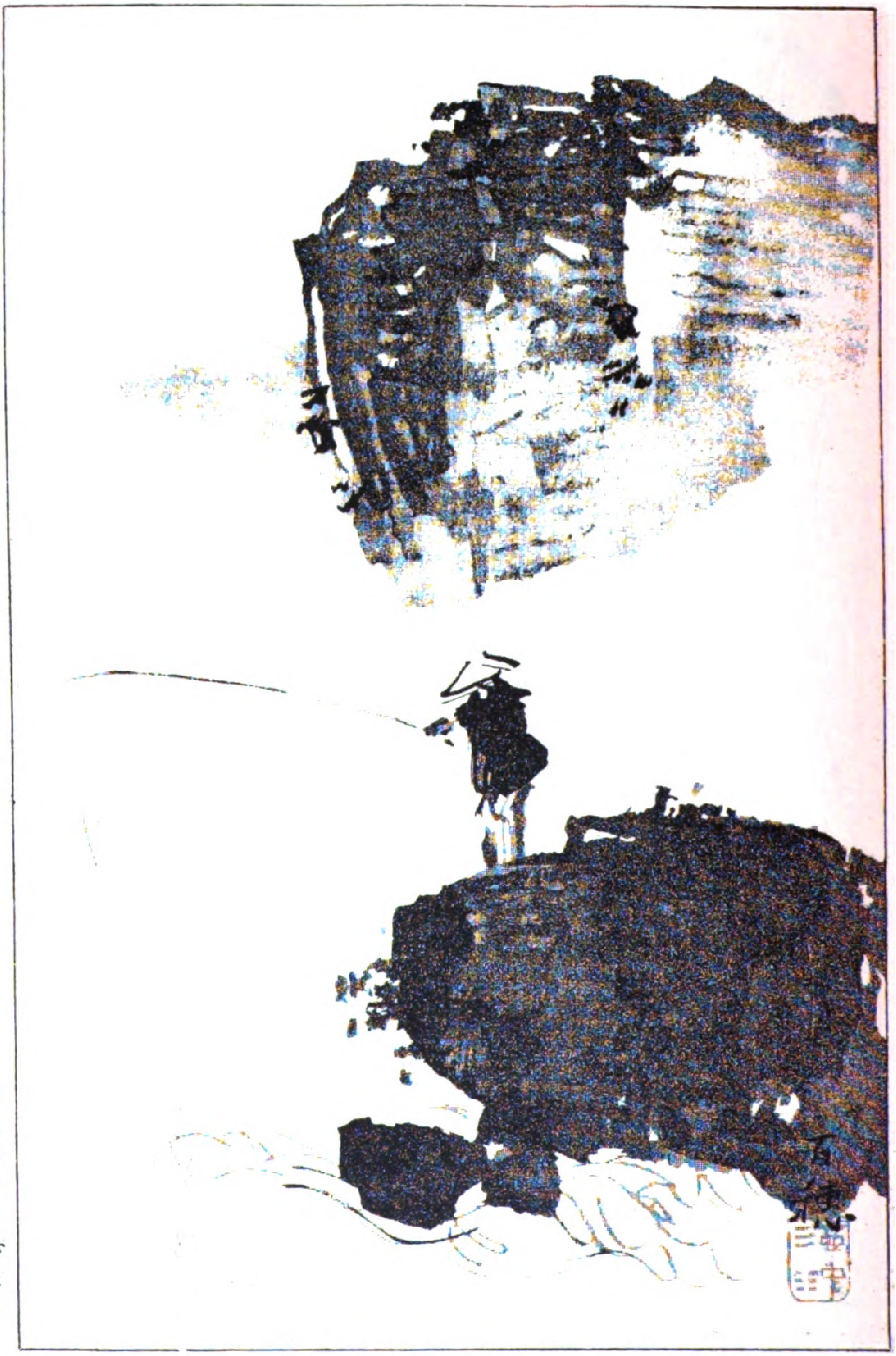


● 三ケ月目の清書 福岡縣八幡町 小田安江 (見本詳細會則無代進呈す)

帝國習字速成學會

東京本郷區大學正門前
電話下谷三〇壹[illegible]番
電話下谷三貳一〇番

溪流



平福百穗筆

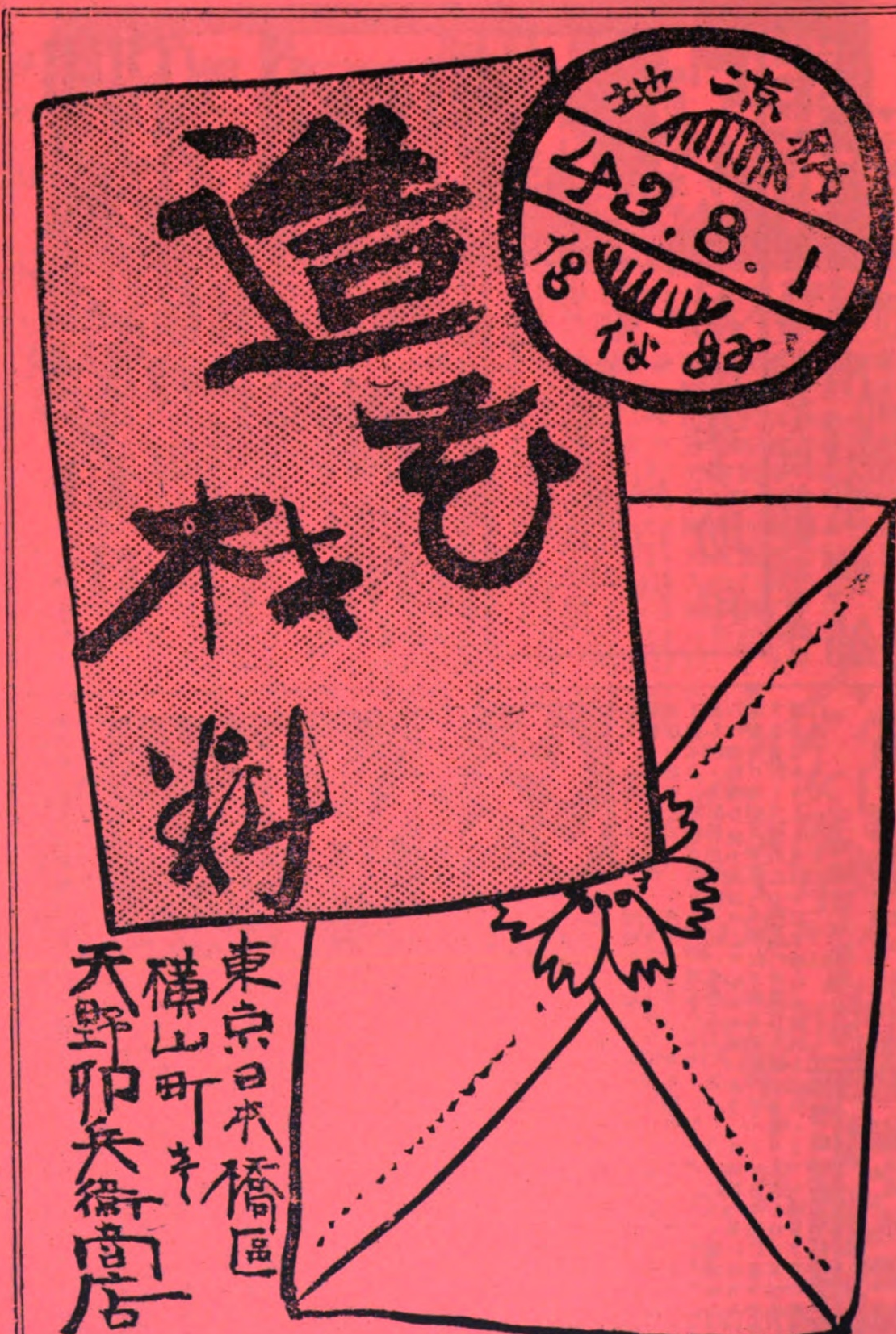
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

風光明媚の和歌の浦



（宮川安信筆）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

脚氣胃腸病者に告ぐ

百發百中効驗神の如し

卅日分卅五錢送料十錢（實驗報告說明書見本
十日分十五錢送料五錢（六錢送呈製造元へ）

前東京第二衛戍病院長臨時脚氣病調査會委員
二等軍醫正ドクトル

都築甚之助先生御證明 糠精

衛生食糠

本品は化學を應用して米糠中より本質脂油を除き其有効成分のみを美味に飲み易くした特効食料品なり

證明書

尾崎兄弟飼禽場に於て試驗の結果尾崎氏製造食糠の脚氣病に偉効あることを證明す

明治四十三年六月一日

ドクトル 都築甚之助 ㊞

製造發賣元 陸軍省御用達 尾崎兄弟飼禽場 分場 舊大隈伯爵家養鷄場

特約販賣元 東京麻布霞町 電芝二一八二 **南信堂藥舖**

▼全國到る處の藥店及食料品店に有り▲

は歐米各國にて造化の妙工を奪ふの奇効ありとの賞賛好評を博したる秘密藥を當館主が醫科大學醫院在職中深奥なる學理と老練なる技術とを以て專門的に多年苦心研究の後其有効成分を檢明し生毛に關する諸說を參考し有力藥を配合したる世界無比の學理的最も良藥なれば其効能の非凡確實なる事世間に有觸れたる技術と學理に暗き者が山師的に無責任の廣告を爲して販賣する賣藥品の比に非らず左れば普通に醫師の處方する斑蝥丁幾、レゾルチン、サリシール酸、昇汞等の在來の生毛劑や粗悪の賣藥にて効なきとて落膽せず是非本劑を試みよ頭髪、はへぎは、まゆげ、ひげ其他の濃くしあるべき所に毛なきを生じ禿頭病其他の病氣にて脫毛するを防止し拔毛の再生を早めヤケド、デキモノ、ハツボー、キリキズ等の禿に生毛せしむる事請合藥價送料共一瓶八十錢二劑一圓三十錢郵券代用二割增の事



らい病

●●●取次所ハ前月ノ廣告ニアリ

●醫師は癩病者を診察せば届出る規則なれど藥劑師には其規則無ければ決して他へ知れることなし安心服用あれ

ザノサール　一ヶ月分　貳圓

複方ザノサール　一ヶ月分　參圓

此らい病藥は有名なる癩病治療藥を化學的の方法にて分拆し當館主が醫科大學奉職中研究したる成績に考へ配劑したる有力藥なれば一度其効驗の確實なることを實驗せらるべし古來癩病は不治の病と稱し今日と雖も之が根治せしむるは難事なれども!!私製の甚しからざる中に本劑を四ヶ月間服用するか或は病勢甚しく進みたる人にても繼續服用すれば病原菌を脫力死滅せしめ漸次輕快に赴き一生醜貌を免れ得る事は確實なり本劑は安價に不幸なる病者を救護せんとする主趣に基き發賣する者にして無効なる藥品に非常なる高價を貪り大言を吐て其効能の著大なるらしく見せかけ不幸なる病者を陷れんとする瞞着主義の賣藥に非ず

本舖 三河國碧海郡刈谷町

醫科大學卒業藥劑士 從七位勳六等 **中島龜之丞鑑製**

電話 刈谷參拾貳番
振替口座東京貳參壹壹

女（ほの二）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人画報

八月一日發行　八月の卷　一冊廿五錢　郵税二錢　六冊税共壹圓五拾錢　十二冊税共二圓八拾八錢

畫報

- 水邊（彩色石版）……齋藤五百枝
- ◉花氷◉涼しき海と川…◉女學生の仕事いろ〳〵…◉待宵會◉單身渡米の少女…◉清水谷高女校長の訓話と園藝◉聖心女學院◉夏の小兒いろ〳〵◉鳩山秀夫氏同夫人◉H向氏と夫人
- 女學生東京灣周遊……
- 皇后陛下より前田家への御下賜品……
- 將校婦人會へ行啓（總會御光景）…
- 伏見宮博恭王同妃兩殿下英京にて御撮影の御眞影
- 兩殿下の御歸朝（王子王女殿下の御出迎）
- 御新築の竹田宮御邸…
- 獨逸皇族妃殿下（赤十字社病院にて撮影）…
- ◉令孃鑑◉京都佛光寺裏方蓬子の方…◉寫眞織と其手本◉露國觀光團…◉長崎幼兒保育所と土浦女式會員◉三州譽橋に於る活花大會…◉神戸松蔭高女の薙刀術…◉鍋町女學校の謝恩會…◉溝口伯培養のダリア…◉朝と夕（夏の婦人）…

織物

- ▼今日の婦人に同情せよ……侯爵 德川賴倫
- ▼女學生の忘れ得ぬ恨み……文學博士 上田萬年
- ▼女大學と現代の婦人……男爵 澁澤榮一
- ▼暑中休暇……文學士 三輪田元道
- ▼明治式女……宮田修
- ▼子守網女…遠山稲子
- ▼夏期の婦人と小兒……藤井學士
- 素人に出來る園藝　氷の家に棲む土人　暑中の米國婦人…
- ▼手輕なお惣菜
- ▼婦人の癖いろ〳〵
- ▼現代貴婦人の應接
- ▼文學に囚はれ身を誤まりし女
- ▼女中と我家　乃木夫人・宇山夫人・佐々木夫人・日向夫人
- ▼婦人美と虛榮心……藤島武二
- ▼上流婦人と自重心……安井哲子

東京飯田町四の四　東京社　電話番町二三三九　振替口座一一八一八

女（ほの三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



大學は最高の學府なり
「大學白粉」は最上の化粧品也
若し博識を得んとせば
女子大學に學び
美人たらんとせば
「大學白粉」を愛用せられよ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



古川虎之助氏夫人不二子（故西郷元帥令孃）



福澤桃介氏夫人ふさ子（故福澤先生令孃）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新婚の人



理學士三宅恒力氏と夫人安子
（新郎は三宅雪嶺博士の令甥新婦は加藤弘之男爵の令姪）



富田義男氏と夫人小豐子
（新郎は貴族院議員富田鐵之助氏令息　新婦は仙臺の名家宮内氏の令孃）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毛髪の艶を美しくする
椿製ランラン香油

ランラン香油は髪をさらりとして常に御使用被下候はゞ決して臭氣を發しませぬ



發賣元
大阪市新町
福田源次郎商店
電話……西千六百〇一番
振替……大阪一四八五番

東京市内……到る所油店小間物店有……

價（大瓶 金廿五錢
　　小瓶 金十八錢

（への一）

外國小說にして斯くの如く
痛切の興味を與ふる者なし

小說
母の戀

讀書趣味の健全を誇りとする
英國の家庭には必ず此書あり

佛國文豪 ドオデヱ作
日本 上村左川譯

▲新刊既成發賣
▲特製美本（平福百穗氏裝）
定價金 八拾錢
送料金 八錢

絢爛の文章を以て面白く筋を運び、結構に重疊の波瀾あり、作中の人物に同情を傾倒す・・・の作風を聯想せしむるものは佛の文豪ドオデヱの作品る所、我が尾崎紅葉なり。殊に本書は其最傑作『ヂヤック』を譯せるものにして、純潔の取材、清新の結構、奈何なる家庭にも推奬し得可し。而も我國の所謂家庭小說の如く淺薄卑俗ならず、面白く筋を運びて大なる興味を與ふるも、描く所は人生の眞事實也、人間心理の解剖也。

▶東京 駿河臺 神田 袋町 區 東京國民書院 振替東京三千九番 電話本局三千四番◀

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みやけ油



東京人形町通三宅堂本舗

みやけ油

宮内省（於第一回貿易品博覧會）御買上の光榮を蒙りたる最良髪油なり僞物あり東京人形町通みやけ油本舗木村三宅堂製と長髪美人商標に御注意を願ます販賣所到る所の信用ある店にあり

わきが

患者にて醫療賣藥有らゆる手を盡しても全治せざるの士女は獨逸醫學界の泰斗たるノート博士の最近發見のわきが根治劑「フレード」を用いて速に其苦痛を脱せられよ○藥價は輕症用八十錢重症用壹圓五十錢蔓性頑固用特製三圓送費十錢郵劵代用必ず二割増代金引換小包は一切謝斷：

◉發賣元 電話下谷二五六九番 振替口座東京二〇七四三番 東京市本郷區東片町十五番地 市原製劑部

男ちゞれ 女くせ毛

赤毛は何程の難毛も直に根本的矯正黑化良き艶の出る最新發見奇液を郵劵封入申込の方に教授し誓て美髪に治して差上升

東京麻布區材木町 岩阪澄子



日本輸入品に限り包裝紙に斜に「**アイボリー石鹼**」と記入し一見模造悪質石鹼と判別に容易ならしむ御購求の節「**アイボリー石鹼**」に御注意を乞ふ

（登録商標）

玉おしろい



發賣本舖

東京市京橋銀座三丁目

松澤商店

女（への三）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



(一〇四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

杜鵑一聲



上圖　島津公爵令妹爲子　下圖　杉子爵世嗣（總理大臣秘書官）夫人邦子（子爵田村丕顯氏令妹）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

クラスメート（學習院女學部）



子爵五島盛光氏令孃茂子△工學博士渡邊嘉一氏令孃久江子△醫學博士北里柴三郎氏令孃やす子△桂侯爵（總理大臣）令孃輝子△宮中顧問官長崎省吾氏令孃眞子△花房子爵令姪敏子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

都の花石鹸

都の花石鹸

大阪野村製



芳香の高雅にして品質の純良なるは紳士淑女の愛用と名譽の金牌とに依り知らる

▲全國到る處の化粧品雜貨店に販賣せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市京橋 大鋸町　女子文壇社出版　(振替口座東京第壹七貳九番)　賣捌全國書店

女子文壇

八月號要目

◎美を愛する心……安樂氏夫人

◎經濟と健康の爲にする避暑　藤原梅子

◎凉しい座敷遊びの趣向……山口えふ子

◎東京灣を一週せる女生實話　高野むさし

◎旅行心得八ヶ條……加納鎰子

◎女子判任官と語る……野に降る雨

◎人間一生の身體の變化……ドクトル…富士川游

◎女子の職業を得んとするは世界の大勢也…黑板博士

◎白晝男子に尾行されたる事實……夕に咲く花

◎踊のお浚ひ……萬壽子

◎若き婦人の旅行談……數十項

◎水平線…河井酔茗

◎追はれし人…横瀬夜雨

◎小園より……窪田空穂

◎夏の野路……水野仙子

◎お蝶……兒玉花外

其他依例豐富

口繪　石版畫及寫眞版十頁美麗　◉定價拾五錢　郵税[illegible]錢五厘

女子文壇增刊

地方の婦人

▲八月十日發行

紙數二百餘頁。表紙太田三郎。口畫宮崎與平外美

▲定價貳拾錢　郵税壹錢五厘

二卷八號　八月一日發刊　口繪挿畫美麗

▲定價拾錢　郵税壹錢

少女

(少女小說)●女間諜　萍水

●暗い心　犬麻呂

(冒險小說)●女人禁制　都その子

(實話小說)●暑中休暇から勉強家となった少女　千とせ

(少女史談)●勾當の内侍　夢守人

(讀者小說)●うたがひ…紅香

(お伽話)●蝶の宮殿　曲琴　其他

(教訓)●休暇中の心得…(其他)面白い繪探しや有益の讀み物が澤山です

女(との二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人世界

八月一日發行　第九號　一冊拾五錢　郵稅一錢　五冊

◎海水浴で愛兒を失つた實驗……博士夫人　高根雪子

◎無一物の貧家より成功した婦人の實歷談……龜井まき子

▼趣味多き名流令孃のお稽古しらべ

▼印度王殿下の御前で花を活けた實驗……

▼露國女學生を我家に宿泊させた實驗……

一松齋素朝
村松銀次郎

◎玄米有効論（米飯を食する人の一大警告）……村井弦齋

◎貧乏時代に於ける我妻の内助……男爵　後藤新平

▼小兒の入浴には斯くの如き注意を要す……

▼警視廳に拘引されて取調べを受けた實驗……

▼西瓜は腎臟病の大妙藥（弦齋夫人料理談）

加藤博士
小久保まさ子

◎八十歲で富士登山した老女の實話　齋藤峰子

◎一人で水泳を稽古した實驗……男爵夫人　目賀田逸子

實業之日本社　東京京橋區南紺屋町十二（郵便振替口座三二六番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

飲む丈血になる

ボビナイン

病者は藥を飲む前に先づボビナインを飲め

▲總ての病者は藥物的療法を行ふと同時に滋養療法を行はざるべからず、然らざれば如何なる名藥も其効甚だ尠なかるべし

▲ボビナインは以上の目的に最も適合せる滋養品にして歐米にては廿餘年前より貴重なる滋養品として賞用せらる

▲血と肉とを構成するボビナインは生牛肉中に含蓄せる總ての滋養分を最も嶄新なる方法に依り其性質を變ずることなく抽出したる理想的滋養品なり

▲ボビナインが幾多滋養品中傑出せる所以は消化吸收力の速かなることにして如何に胃腸の惡しき人又弱き人にも直に消化せらるべきを以て幼兒の滋養品として牛乳に滴下し用ふる時は其効最も著るしかるべし



大瓶 二圓十五錢
小瓶 九十五錢
送料一本 八錢

▲適症 貧血、神經衰弱、產前產後、小兒の發育不良、食慾消失、肺結核
服用法 はサイダー、牛乳等に混和して用ふる時は尤も妙なり
各地 到る處の藥舖、洋酒店にあり ●說明書御報次第進呈

ボビナインは飲むだけ血になる滋養品なり

日本總代理店
横濱市境町二丁目
藥種貿易商 合資會社 友田商店 振替口座 東京一九三八番

（その四）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

令嬢かゞみ







右　西川ちか子（西川忠亮氏令嬢）
中　大野靜子（大野金太郎氏令嬢）
左　村井加壽榮子（村井貞之助氏令嬢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

星光氏の家庭



右より當主光氏、母堂綱子、令姉かほる子、母堂令妹野澤氏

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

於內外諸博覽會名譽賞牌各種受領

專賣特許 連働蓄音器

新案 重函蓄音器

各種

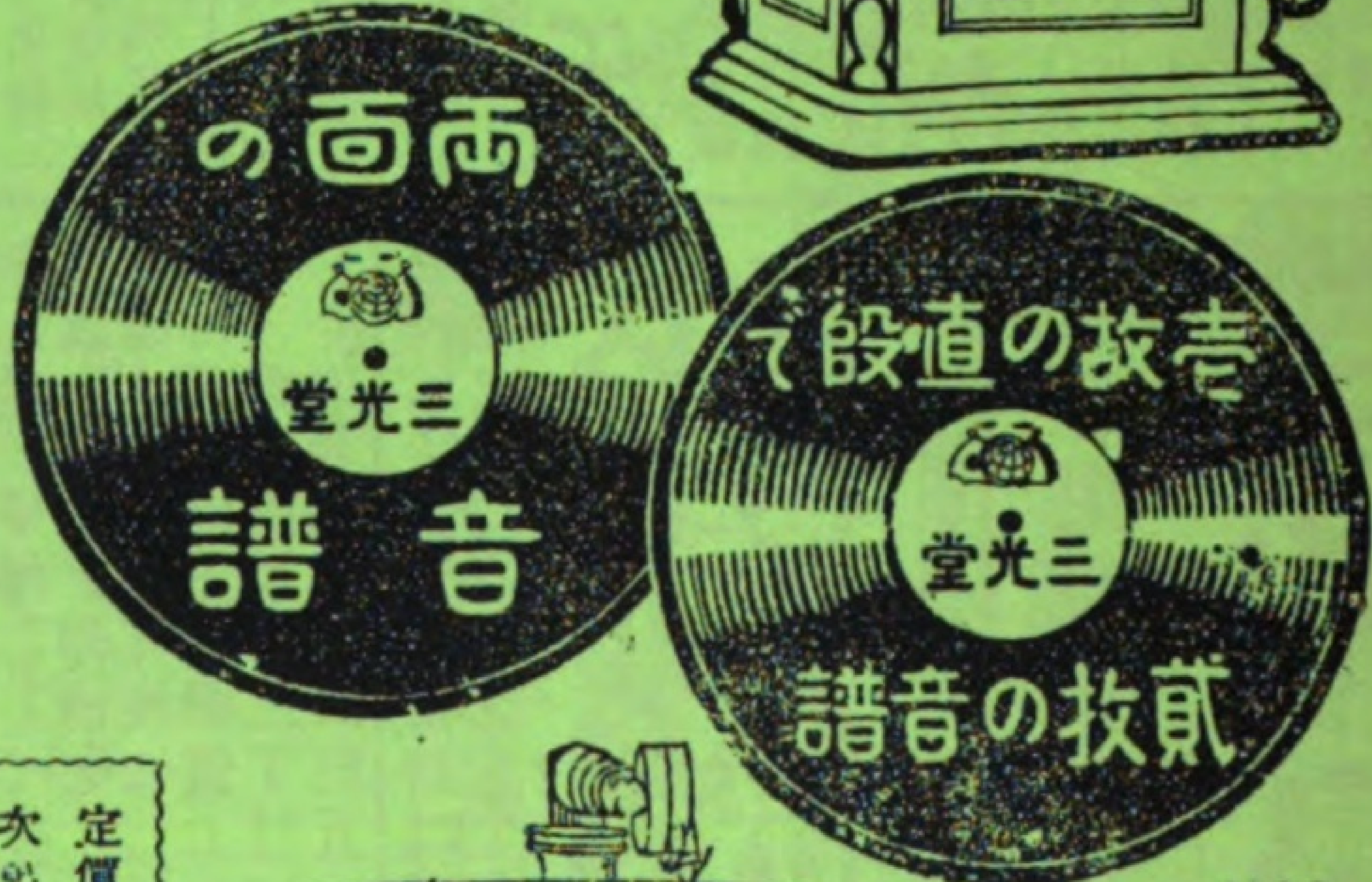


獨逸國ライロホーン、ウエルケ會社東洋一手販賣

ライロホーン兩面音譜多數着荷

ライロホーン新曲譜歌集 實費金參拾五錢 送料金四錢

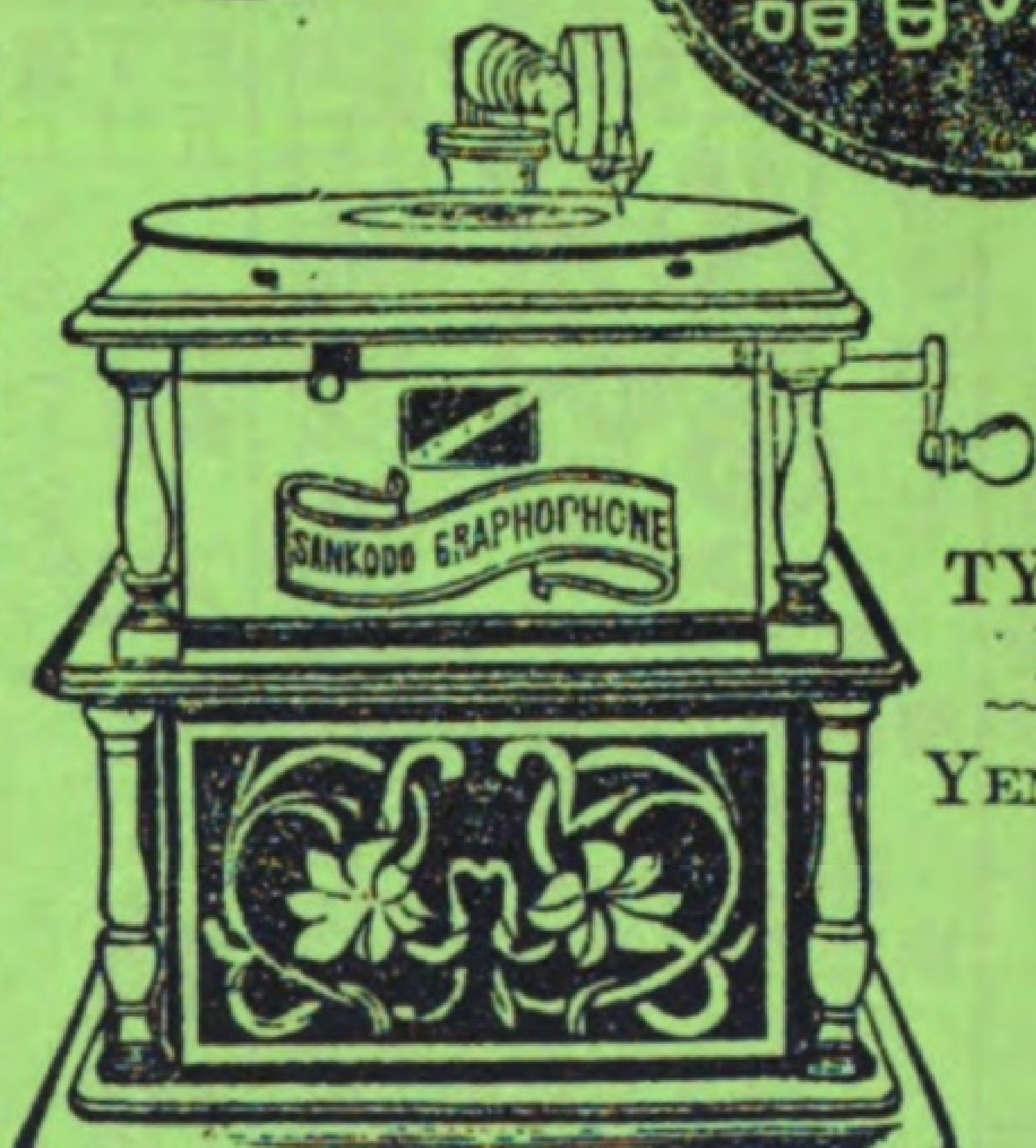
○御不用の蠟管有之候へば便宜御引取可申候



新案特許 喇叭無し重函蓄音器

TYPE MN

YEN85.



定價表歌目錄御一報次第無料送呈可仕候

東京市銀座一丁目 長電話新橋九七九 四二〇四九 振替口座東京六四二五

東京市淺草區並木町 長電話下谷九八八 振替口座一九八八四

大阪、博多、小樽

三光堂

女(ちの一)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



東京神田裏猿樂町

東洋音樂學校

本科、特別科、及
夏期音樂講習會
八月一日より三週間

生徒募集

ピアノ、オルガン
バイオリン、唱歌
其他樂器及理論

入學志願者は直接本校へ照會あれ

醫科大學藥學專攻　藥學得業士金澤[illegible]著

肺病患者の福音

著者肺病全快の經驗と最近の學說に基き親切叮嚀に根治の法を詳述せし物也●郵劵二錢封入申込者に無代施本

●東京市下谷區上根岸町

衞生書院



●佛國土產の最新白色新劑

色黑き、にきび、そばかす等にて困悶の士女よ本院獨得の文明的新秘法により速に圓滿なる幸福を得られよ如何に其効能の神秘なる論より證據郵劵二錢送れ美容のしるべ呈して敎ゆ

愛隣藥院

東京市東兩國小泉町二八

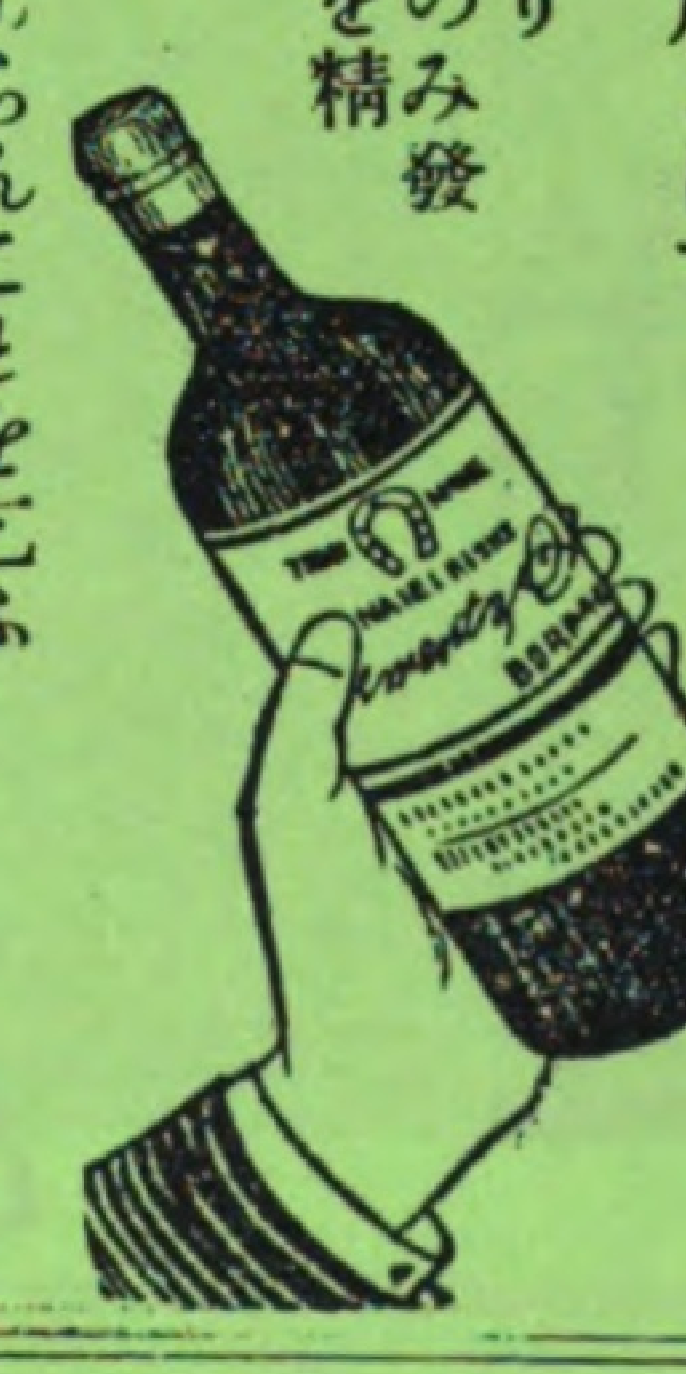
蹄鐵印シャターリヨン白赤葡萄酒

は藥用飲料並に食卓用として御進物に最も妙なり

●至る處取次店あり

本品は從來の葡萄酒のみ發賣の處今回更に品質を精撰し最も純粹にして善良なる白葡萄酒をも輸入發賣仕り候に付御愛飲の上御稱賛あらんことを乞ふ

東京市本町三丁目
電本局長一四三五



鈴木洋酒店

●本法は

女髪結師安部歌子女史

ちゞれもくせ毛も　はへうけあい

二大奇方劑

●東京市麴町區三番町六十七

多年の實驗を經たる證明秘法劑にして是迄の使用者を悉く滿足せしめたる奇劑なり往復端書紹介詳報す

濟世園

隆鼻術（はなたかくするほう）

東京市九段下
神田今川小路
二丁目十一番地

午後
夜間

和田耳鼻咽喉醫院

女(ちの二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

造花原料

吉

東京九段坂（東京九段局私書函十番）

吉住商店

振替…東京六六七九番
特長電話番町二〇五六番

營業科目

（造花器具、造花材料、造花半製品、造花用籠類、造花用染料、造花標本、摘ミ細工材料、）

新發賣品御披露

◎生花自在器

四九四一九號 特許出願中

伊藤暲雲齋正雄先生發明

本品ハ金屬製、配木、當リ金、受金ノ三樣ヨリ成リ配木ハ花器ノ大小ヲ論ゼズ自由ニ箝メ込ムヲ得。此當金、受金ヲ使用スル時ハ如何ニ初心ノ者ト雖モ其技ヲ希望ノ位置及ビ姿勢ニ保タシ得ルノ仕掛ヲナシタルモノナリ

◎造花應用生花標本

實物ヲ以テ生花ヲ研究セムトスル時ハ其季節ヲ待タザルベカラザルハ勿論、場合ニヨリテ其期ヲ逸シ鬼ニ笑ハレツヽモ來年ヲ待タザルベカラザルガ如キヿ有ルベシ又繪畵ニ就キ獨習セムトスル時ハ其遠近前後長短疎密ヲ知ルニ苦ムト雖モ本品ニ就キ稽古スル時ハ是レ等ノ缺點ナクシテ遺憾ナク習得シ得ラルルガ故上達ノ捷徑ナリ又斯界ニテハ秘シテ公ニセザル水揚法等ノ秘傳書ヲモ添付シアルモノナリ・其流派ニ至リテハ何流ニテモ御求メニ應ズベシ……定價表ハ無代進呈可仕候

◎營業目錄御入用の方は二錢切手と此切取を添へ東京九段吉住商店宛申込まるべし（女學世界八月號）

（女、ちの三）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN





女（ちの四）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

クラスメート





Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

湖のほとり





夏の夕暮

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

化粧香水

プラチナ



八方美人の香水

世に香水の數は山々あれど悉く一品一効で人の鼻を衝くだけの効能さい持つて居ないが此のプラチナ香水は

◉ハンカチーフに一二滴たらして持てば終日香氣を保ち
◉微溫湯に滴らせば乳白の化粧水と變じ
◉顔を洗へばニキビ、ソバカス、吹出物を全治し
◉頭髮に塗抹すれば毛髮を養ひ香氣馥郁香油の代用をするのみならず髮のくせを直し赤毛白髮を防ぎます

故に人は本品を「八方美人香水」と云ふは尤なる次第である

定價壹瓶三十錢▼郵劵代用一割增遞送無料

發賣元　東京日本橋横山町一丁目　近江屋　天野源七
電話浪花八六三番　振替口座五九三三番

宮內省御用達

天下一品

萬

釀造元　千葉縣野田町　茂木佐平治

賣捌所は各地とも有名なる酒醤油店に有之候

(其の一)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

模範は一家の主人細君女子弟婢僕にも讀べく眞に家庭の和樂雜誌なり

毎月一回定期雜誌

第壹號 九月一日發行

模範

▲本誌は毎號 九重に關する記事を掲げ奉りて聖徳の無量を仰佩す▲名流談話には社會の各方面の名士を網羅して時事、風敎、文藝、學術、産業等に關する清新なる説話を紹介するに努め▲全國模範町村、青年會、産業組合、慈善會等は其の發達の經過より現在の狀態まで詳らかに報導すべく▲若し夫れ模範人物の詳傳に到りては時に在野の遺賢を捉へ來りて詳細なる月旦を試み、時代人物を擧げて忌憚なき論評を加へむ▲模範會社、工場の紹介は其の創立、組織、事業經過、社の幹部其將來等に分て一々明細なる記事を載すべく▲模範學校の紹介は敎育家、一般父兄の精讀に價すべく ▲模範家庭 は家庭の和樂を希望せらるゝ士女の指針たるべし▲此他社會萬般に亘りて苟くも世の耳目を動すに足るものは盡く收め材料の豐富、記事の精確、讀者をして卷頭より以て卷尾に到るまで手を措くる遑なからしめんとす

定價 一册郵稅共金十六錢五厘〇半年六册九十三錢〇一ケ年分金壹圓七十三錢

模範は一般の社會を通じて總ての人に趣味及智識奮勵を與ふ

女(りの二)

發行所 東京神田旅籠町一 文光堂 振替口座東京二一九五五番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

都新聞記者平山武者所著

再版

艶艸紙

▲亞米利加の黒人女郎果報者と持て囃る軍人哈爾賓の百鬼暗行等艶ぽい書　價廿五錢

發賣　東京神田美土代町二の一　振替口座東京二〇四一六

博文書院

▲新宮藥館五大賣藥

美容散　やせる藥

天下一品

美身術

●血ぶとり、あぶらぶとり、酒ぶとり、顔赤く、のぼせ症等總て消肥胖質の人用ゐて害なく身體美容となる有効保證藥なり

●定價（一週）七十錢（三週）二圓（五週）三圓廿錢　送費八錢



◀にせ物あり乞御注意▶

男女

生殖器科

●梅毒　痲毒　●生殖器障害　神經衰弱　●婦人科一般　ヒステリー　月經障害

●診察　午前午後　●入院隨時●

●東京淺草七軒町二●

明治療院

中風

全治保証藥

（ヘミプレギー丸）

此藥は大學院各博士が協力發明の方劑にして効驗拔群禮狀山の如き一大保證藥也

價（一分）●十五日分一圓廿錢●卅日分二圓廿五錢●六十日分四圓廿錢●百日分七圓五十錢●小包送料八錢

らい病

根治新藥

レプラ丸

本劑は獨逸國醫學博士ボルマルセイ氏が癩病の病源より探究し多年の辛苦と數萬の患者に施藥實驗を經て終に成功したる靈藥にして如何なる難症と雖も本劑に依て全治するを得る一大奇藥也●にせ物注意あれ

價一劑廿五日用三圓二劑五圓五十錢四劑十圓小包料八錢

毛のはへる藥

多年實施の毛生劑にして特効驚くべき奇藥

一圓●一圓半●濃厚二圓半●三圓▲送料八錢

にせもの注意

肺病根治劑

本劑は肺結核の特効藥にして世上諸病殊に肺結核雜多の肺病藥と其類を異にし專賣の大奇藥なり輕症卅日以内數年の大患も五十日分にて必ず全治を確信す

●價二週一圓卅日二圓五十日三圓送料八錢

（りの三）

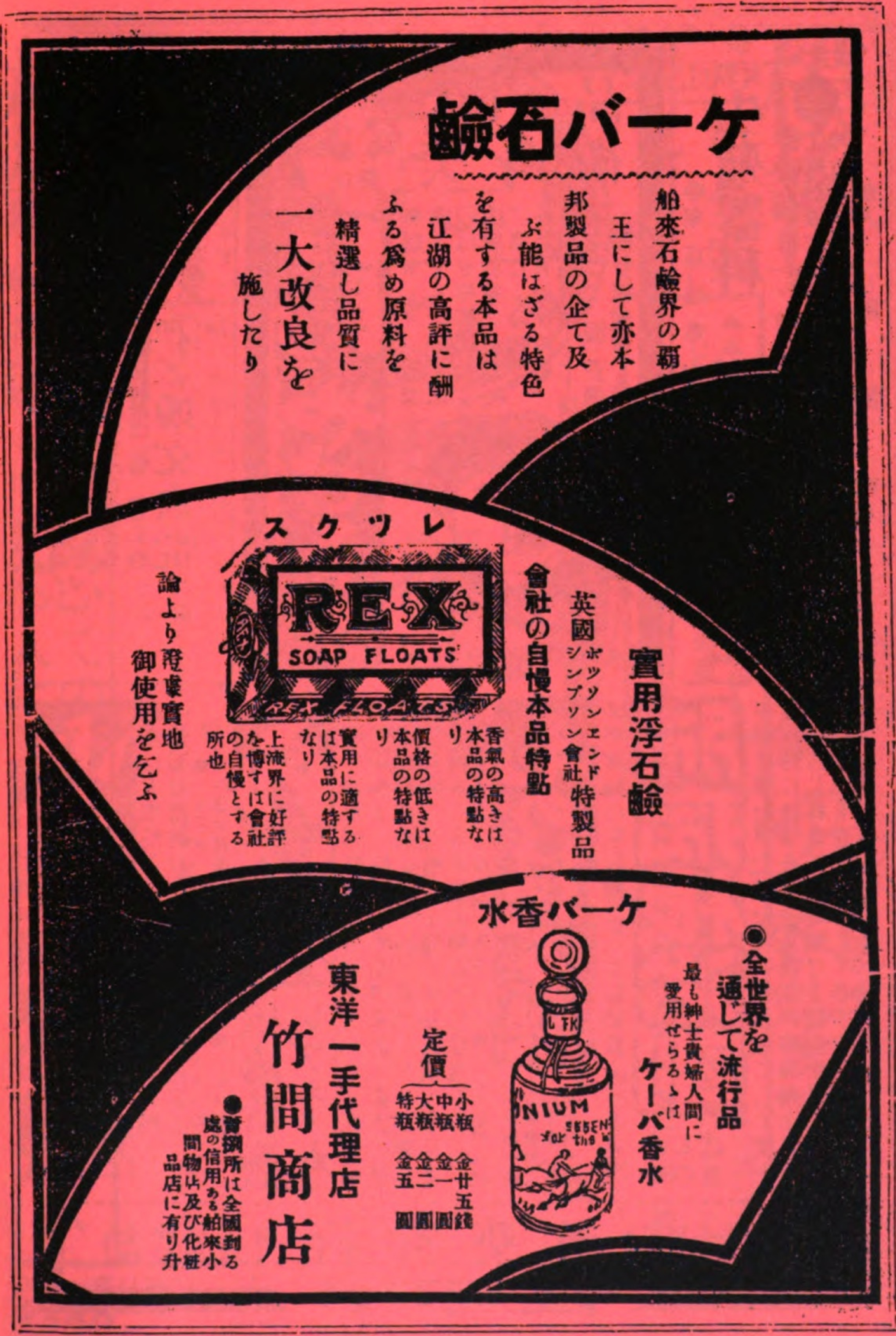
（全快禮狀店内に保存す）

新宮藥館

（振替東京一二五八四　東京本郷三丁目）

電話下谷二二一九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界

八月號

第拾卷第拾號



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

內親王殿下鎌倉御滯在中の御慰み

跡見玉枝

朝香宮鳩彥王殿下と御成婚あらせられました富美宮允子內親王殿下は泰宮聰子內親王殿下と御一緒に跡見玉枝女史を師として繪畫を御學びになりましたので、先頭御成婚の節は畏きあたりより三組の銀盃を玉枝女史に下賜されました。それで女史は近親を三井集會所に招じて祝宴を開かれしのみならず、此度の如き無上の天恩に浴し得ることは、偏に勤王の志厚かりし先考の冥護であると感謝して先考の畫像へ恩賜の銀盃を供へ朝夕禮拜して居られるのでございます。記者が御尋ね致しました折も、女史は昔を偲び今を感謝し、涼しい瞼に露を湛えつゝ左のお話しを爲さいました。（婦人記者）

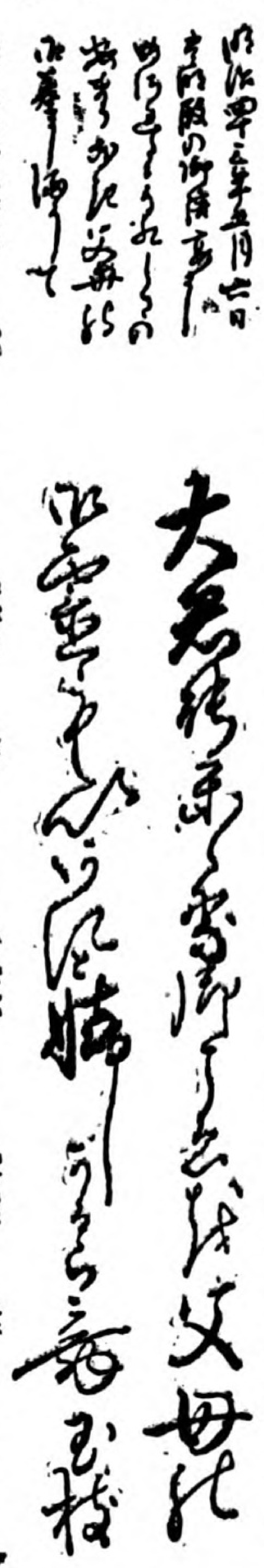
▲畫贊の御慰み

ハイ麻布の御殿へ伺ひますのは、一週に一度でございますが、其間に臨時の御召を辱うして伺ひ奉ることがございます。畏れ多いことでございますが、この度御成婚遊ばされました朝香宮妃殿下には御趣味が豐富にあらせられまして、繪畫の方もお見事に遊ばす上に應用が誠に御巧みであらせられます。妃殿下には折々お慰みに畫贊を遊ばされるのでございますが、其際は每時供奉の方々を私の宅へお差向けに成り短冊や色紙に樣々な畫をものするやうに私に御命じ下さいます。多い時には百枚位御用仰せ付かるのでございますが、菜の花に蝶とか雲雀に紫雲英とか申す風な取り合せものをアッサリと認めて差上げますと、泰宮殿下と御一緒に供奉の女官方を御相手に遊ばして、畫に因んだ御歌を御詠みに成り御短冊や御色紙に御認め遊ばすのでございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲行啓中の御催し

御避暑御避寒に鎌倉へ成らせられますと、徒然の御慰みに度々前申し上げました樣な畫賛を遊ばしましたその折は、北白川宮の姫宮樣を始め雲上方をお招きに成り、私共までお相手に召されることが御座いまして、その御催しの際は、私の認めました短冊や色紙を抽籤で皆樣へお分けに成り



妃殿下を始め奉り皆樣はお當りになつたお短冊やお色紙の書に就いて當座を御詠み遊ばすのでございます。私は成るべく御歌に遊ばし易いものと存じて認めますけれども、多くの中には隨分お詠み遊ばし難い圖柄もございますが、妃殿下は左樣なのをお抽き遊ばすと「これは困つた」とお仰せられながら、お詠み遊ばしますが、畏れながら毎時御秀逸が多いので、供奉の方々も感じ入り奉る次第でございます。而して御詠をお短冊やお色紙へ御認め遊ばす際には「跡見が折角丹精して認めた書を汚してはならぬ」と仰せられて幾度も〳〵御下書遊ばされて後お認め遊ばしますので、私は勿體なさに涙のこぼれることが毎度ございました。御妹宮樣には流石御幼年の事とて御姉宮樣ほど御心づかひもあらせられず、お短冊を御手に遊ばすと直にすら〳〵と御認め遊ばしますので、妃殿下には「泰樣には困りますネ」と微笑遊ばす事がございました。泰宮樣には本當の天才で、サラサラと遊ばした御和歌に當意即妙の名歌を拜見申し上げることが毎度ございます。

▲鎌倉の民草に有難き思召

一昨年の二月でございました。鎌倉に御避寒中の妃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

殿下から御召しがございまして、早速伺ひました處、妃殿下には『今日は跡見に少しむづかしい繪を頼む』と仰せられ、狐が袴を穿いて坐つて居る畫を短冊に認めるやうにとお命じに成りました。これは毎年初午の日、御庭内の稲荷神社へ鎌倉人民の參詣をお許しに成りますので、その砌お短冊を御下賜になると漏れ承りましたのでございます。九重の雲深くお育ち遊ばされし宮様の斯くまで下々を憐み給ふ御心の尊き、只だ〳〵恐れ入る外はございません。尚ほ妃殿下には御幼少の頃より水彩畫をお好事に遊ばされましたさうで、私が御用仰せ付りましてからも、御高殿より由井が濱邊、富士の姿など折々にお寫生遊ばしましたが、毎時お見事な御手並を拝見申し上げました。



妃殿下御成婚御祝意の折御招待を賜はりし時の女史

▲御考案の御襟留

此度の御成婚に付きまして、御近侍の方々を始め數ならぬ私共にまでも御紀念として下賜されました御襟留の意匠は御附の方々も存じ上げぬ間に妃殿下御自身で考案あらせられたのでございますが、御製の意味を小やかな御襟留にお現はし遊ばされた綿密な工夫には何人も恐れ入り奉るのでございます。

△亡き父も定めし喜びませう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不肖の私が此度の如き有り難き御思召に預りまして限りなき天恩に感泣いたしますに付きまして、先づ思ひ出しますのは、亡父の事でございます。父は熱心な勤王家で大村益次郎さんと一緒に國事に奔走いたし、故有栖川宮殿下にお伴いたして陣羽織を拜領いたしたことなどもございましたが、時機が到りません爲めに父の名は世間に知られませんでした、父は私に非常な望を屬し跡兒の家名の爲めに私の出世を祈つて居て呉れましたので、今日私の光榮も恐らく亡父が草葉の陰で守つて呉れた爲めであらう、



書室に於ける玉枝女史

今日父の靈は如何程喜んで居られるであらうなぞと一層懷しさが増すのでございまして御覽の通り恩賜の盃を亡父の肖像に供へて禮拜いたして居ります。

▲支那人の嬰兒養育法

分娩當時の嬰兒は一切産婆が引き受け三日目に親戚朋友を招いて誕生の祝宴を開く、此日初て嬰兒を綺麗に洗ひ衣裳を着せて、觀音菩薩にお供物をなし、長らく胎内の間庇護された恩惠を感謝すると云ふ、それから一ヶ月經つて滿月の祝宴を行ひ、頭髮を剃り、可愛らしい唐子形の頭に仕立てる、滿一箇年を周祭と云つて前の通り親戚朋友を招いて祝宴を催し神前の卓子の上に書籍、筆、紙、錢、算盤等を排べ其の中から小兒に勝手に何れかを選ばせる若し小兒が書籍を取れば學問を好むと云つて儒學を敎ふるの方針を取り又金錢算盤を取ると商賣人に適するとしてある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭の注意

大山公爵夫人

△娘を育てた時の經驗

單に敎育と申しますと、直ぐ學校敎育ばかりが胸に浮ぶやうな習慣になつて居りますが、智育即ち學術を授ける意味から云へば、成程學校は唯一の敎育機關に相違ありませんが、然し人間として社會に立つには、只學術ばかりが廣いからとて、決して完全なるものとは申されません。特に女子は其性質や職分上、德育と情育との二方面が大切でありますが、之を學校敎育のみに依つと云ふ事は如何かと思ひます。學校に於て敎授せらるゝ時間は、一日僅に五六時間に過ぎません其中に休日などがありますから、之を一ヶ年に平均して見ると、一日の敎授時數は僅か二時半位になつてしまひます。隨て感化力は到底十分とは申されません。それゆゑ智育は學校に任せるとしても、德育、情育はどうしても家庭で力めなければならないのです。私が娘を育てました時は、學校より歸れば、前日學校にて敎へられた事項を應用せしめたり、又其の間に考が起れば日本の例を引き、或は西洋の家庭實話などをして聞かせたり、色々工夫致しましたが、結果はなか〲良かつたやうに思ひます。之を學校にばかり一任して置くやうな事では、如何に立派な學校で、立派な敎育を受けさせても、母としては十分娘を敎育したものとは申されぬと思ひます。

△理想の培養と指導

そして特に注意して居らねばならぬ事は、子供の思想の傾向でございます。理想は固より高遠でなければなりませんが、到底達し得られぬ事を思ふのは即ち空想といふもので、之が爲めに厭世病を起し、不測の不幸に陷る例はよく世間にあります。しかも男子でも女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子でも、年若き時は、兎角空想々々と申して、徒らに高尚な事を考へるのが普通ですから、學校でも家庭でも十分こゝに注意して、多少之を制限もし、又出來る事なら達せしめてやる方便を講ずるのが必要であります。人といふものは、やゝもすると感情に趨つて自己を忘るゝ爲めに、遂に一生を誤ることがよくあります。日本でも西洋でも、高等の學校を卒業し、何を聞いてもよく知つて居る婦人でありながら、立派な理想を描いて、生涯それを達し得ず、遂には見るも氣の毒な有様で世を終る人が少くありません。どうか本人は勿論學校でも家庭でも十分注意し、斯かる弊に陷らないやうに勉めて戴きたいと思ひます。

△經濟で趣味多き園藝

次に家庭教育の一方法として奬勵いたしたいのは園藝でございます。精神修養の手段としてこれ程よいものは多くありません。これは近頃非常に盛になつて參つて、大抵の家庭では多少植物の培養をして居りますが、之を歐米各國と比較して見ると、まだ／＼幼稚なものでございます。そして唯今は園藝は、概ね主人が責任となつて栽培し、婦人は其名稱さへも知らぬと云ふ人が多いのですが、けれども男子は概して忙はしいものですから、之れは比較的閑散な女子が主になつていたしたいと思ひます。と申しても、何も大金をかけて珍らしい植物ばかりを植ゑるには及びません。普通ありふれたものでも多趣味のものを數多く栽培し、手入、施肥等も自らするやうにいたせば、金をかけずに樂しむ事ができます。そして裝飾用の花などは自家の庭園で栽培したものを用ゐることにし、果實も色々出來ますし、散歩も吾が庭園に於てするやうにすれば、益々栽培上の興味を得又經濟ともなります。私は庭園の一隅にイチゴを栽培してをりますが、其の實は年中自家使用のヂャムを製して尙餘る程であります。花なども、自ら栽培すれば、自分の望む通りに咲かせられるし、枝ぶり光澤などもよくて、裝飾にしても、高い金を出して買つたものよりはずつと勝れて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△美しき家庭の精神

尚其の外の利益を申せば、園藝を致せば自然運動にもなり、又清らかな空氣の呼吸も出來て、衞生上にもよろしいのです。殊に婦人は他出が少ないから、運動の不足より種々の病氣を引き起したり、精神がふさいだりして家庭に不快を招く事がありますが、園藝は慥かに、之を救濟することが出來ます。

斯樣にして、吾が手によつて自由に植物を栽培し、豫期する色澤の花を咲かせ、或は時には變種のものを作つて見たり、種類の改良を行つたりする其間の樂しみは實に譬へやうがありません。そして一年行ひ、二年作りするうちに、自然の巧妙な事が知れて參つて、愈々面白くなつて來ますが、又一方では此の自然を樂しむといふ無邪氣な精神が、知らず識らずの間に家庭に充ち滿つるのであります。

夕顔に風呂の湯あふる月夜哉　とよ子

富士岳神社の富士



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我家の旅行法

目賀田男爵夫人

▲着のみ着の儘

私は旅行道樂で隨分方々へ出掛ますが、何處へ往くにも着のみ着のまゝですから、支度の世話もなければ手荷物の厄介もありません。夏は肌襦袢と腰卷の掛がへ位持で往きますけれども、時候の良い折なら幾日でも着たなりで通します。昨年の秋は二十歳になる娘と兩人連で江州から生野の方まで參つて十六日ばかり方々の宿屋へごろねいたしましたが、虱一つ沸しませんでした。携帶品は紐付袋へ入れ、歸りの土産物もこれへ收めて參ります。唯この袋一つぶら下げさへすれば澤山ですからそこらへ買物に出るのと易りはございません。

▲金の仕舞どころ

お金の入れ場所ですか、いゝえ胴卷なんてバンカラな處へは入れません、ハイカラに帶の間へ挾むのです。私は帶巾の狹いのが流行ても最初から巾をつめると切の山がいたんで勿體なうございますから、巾を廣く爲てありますので、旅行の時はその巾廣のをしめて内側の折目の中へ入れます。而して必らず旅費を二分して左右へしつかりと藏め、小出は別に帶の中央へ入れて帶留をキチンとしめ、兩袖を前へ合せて居ります。斯うして居れば大丈夫で、未だ一遍もすりにあつたことはございません。

▲旅費の使ひ方

始終往きつけた處は馴染の宿屋へ泊りますが、初ての土地なら何處へでも構はず泊ります。わざ〳〵紹介なんぞ爲て貰つて、御大層に取扱れたりすると面倒臭くて厭ですから——。但し餘り下等ですと寢道具が汚うございますから、良い方を撰びますが、下等より割合が廉くつて安心だけが利でございます。茶代廢止

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は極賛成で、私も通一遍の宿屋へは茶代を置ぬ主義でございますけれども、舊式の宿屋などはお茶代を縁喜物に爲て居るのがありますから、そんな風らしい宿屋へほ一寸心付けいたします。給仕の女には必らず心付いたしますが、忠實で可愛氣のある者に五十錢、嫌に澄して小憎らしいものには三十錢と相場を定て置きます。唯今の旅は昔と違つて無駄金の要らぬやうな組織になつては居りますが、それでも少しハイカラにいたすと方外もなく掛りますから、何でも赤毛布に腹を定て踏出さなければなりません。その位で丁度良い加減に掛つて了ひます。

▲私は男爵夫人でなし

宿屋の帳簿へは唯目賀田逸子とかいて置くだけですから、大抵化の皮が現はれずに居ますが、餘り類の少ない苗字ですから西の方ではどうかすると感付くものがあると見えまして、昨年彦根から木の崎温泉へ參ります時に、宿屋の亭主が行先の旅店への紹介狀を呉れましたので、何心なく貰ひましたが、途中でふと心付き披いて見ましたら韓國統監府云々と片書をつけて鄭重に取扱はれ度旨を認めてありましたから、これは大變だと思つて懐へ藏ひ込みました。男爵夫人とか何とか肩書をされるのは有がたい次第ではございますが男爵と云ふのは主人の肩書で、私は男爵でも何でもない。お三どんと同じ資格なので、私は未だ男爵を頂く功勞を國家に對して致した覺えはないのですから、肩書は平に御免蒙むると毎度どなたにでも申上て居るのでございます。

▲寄附金の効能書

旅行先で寄附金を申込れることがありますが、大抵一圓づゝと定て置きます。一圓では僅か過ませうが、湖の水も一滴ですから私だけの志として献じて置きます。奈良へ參つた時も丁度大佛の普請で寺僧から請求されましたから、矢張前例にならつて置きましたところ、歸京後大佛の僧が私方へ改めて寄附金勸誘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に參り、何圓以上は名譽員とか何とか云ふ例の効能書の規則を見せましたから、私の名前で寄附するのは私の金でなければならぬ筈で、主人の働いたお金を出して自分が名譽員になることは私には出來ない。私が草むしりを爲たつて月に三十錢か五十錢の働しか出來ないのだからお金は持つて居ないが、折角だから幾分かのものは差上やう。少くて不足ならお斷する」と申して歸しました

▲車夫に對する態度



唯今では地方の人力車賃も停車場に規定が張出してありますから、昔のやうに不當な賃金や酒手を強請るれる心配もございませんが、それでも不案内の女連と足元を見透されますと、馬鹿な目に遇はぬとも限りませんので、私は最初から彼等を呑でかゝります。停車場へ着きました時バラ〲と寄て來る車夫の中から、篤實らしい人相のものを選び、少し曳き出した時初めての土地でも幾度も來たことのある振を爲て「此處らも大分變つたね」などと申しますと、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

車夫は「へえ悉皆變りました。彼處の何屋も代が變り何々新道が出來ました」なぞと答へますから、「左樣左樣暫らく來なかつた內に見違へるやうになつたね」と抽象的なことを云てパッを合せて居ます。すると車夫は、「御晝食のお馴染はどちら樣で」と聞きますから「馴染もあるが餘り暫らく來なかつたから、「どうなつたか。まあ何でも良からよさゝうなところへつけておくれ」位のことに誤魔化し、大きな聲で快活に話しかけますと、彼等は一歩を讓り、晝食や宿屋も丁寧な家へ曳き込むものでございます。晝食の際は酒は添へませんが相當のもので車夫にも食べさせ、私共は夏なぞ知らぬところの生物を決して頂きませんので刺身は皆車夫へ遞し、吸物も種に依つては遣はして了ひますから、うつかりして居る所へ襖を開けて「大きに――」と大聲で禮を言はれ吃驚することなどがございまして大悅びでございます。こんな風に仕向けますと不法な酒手なぞは決してねだりません。

▲工藝家の好材料

旅行は實に面白いものでございます。名所舊跡に杖を曳くのも結構ですが、都會の人達の足を入れるのに臆劫な幽寂な境に遊んで珍らしい風景や風俗を探るのは一しほ興もあり益もあるやうでございます。私のやうな無能なものは唯美い面白いと感ずるばかりで文にも畫にも捉へられず實に惜しいと存じますが、それでも何かしら修養を得られるやうに思はれます。昨秋參りました但馬の玄武洞なぞは、生野銀山へ往く人が杖を曳く位なものださうですが、彫刻したやうな岩が縱橫に積重つた雄大の趣は、鬼斧神工とでも申すのでせう。岩間の錦が溪流に映ずる風情なぞ實に仙境に在る思ひがいたしました。私は歸路京都の西村さんに、この景色を話し、日光だとか嵐山だとかいつも紋切形の景色ばかりを材料と爲ないで、追々こんな處を織出したら如何ですと注告したのでした。玄武洞は但馬の木の崎溫泉から人力車で約一日の里程で、車を下りる場所も隨分ありました。私は山を步くのは、平氣ですが、徐々步くと却つて疲れ下駄がけで、早足に步るく方が得意でございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千古の英傑星亨と其内助者

遭難當時に於ける綱子夫人の談

河岡潮風

▲電話が懸つた刹那の感想

『まづ先生御遭難當日の模様から承りませう』と僕は云つた。六月十三日午後五時、麻布仲の町の星邸の洋風應接室に、僕は今、明治年代唯一の怪傑、星亨氏未亡人と、令息光氏と三人卓を挾んで椅子に倚つてゐるのだ。美しき三十疊の廣間、故人在世時代の片身たる油繪の額や、椅子など、美くししく飾られ、正面の楣間には、米國公使として出發當時下賜の兩陛下の御眞影、その左右に皇太子殿下の御寫眞を恭しく掲げてあつた。庭に築山あり、菖蒲池あり、一石一木皆數奇を凝らされてある。夕立前の風蒸しあつく、三人は團扇を操り乍ら語るのである。

未亡人は低けれども張のある、キッパリした聲で話される。

『早いものでもう十年になります。三十四年の六月の二十一日が凶難の日でした。私は六月に入つてから非常に不快で、主人の世話も怠り勝ちで、十七日から十九日まで宇都宮の別莊へ參つた位でした。

その日は蒸し暑く〳〵て、主人は始めて夏服を着て行くと申すのです。それまではフロックコートばかりであつたのを、脊廣服を持つて來いと云つたのでした私は捨てゝおく事も出來ず、無理に起きて行きますと、何、よろしい、乃公一人で着ると大半自分で仕度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して帽子も新らしいのをかぶつて、出かけました。それが、別れにならうとは夢にも思ひませんが、何とも知らず胸が騒いで、馬車の音がなくなるまで立つて居りました」

　未亡人は顧みて、ストーブの上に置かれたる故人の大肖像を見入つた。生けるが如き眼光は、キッと一座を見おろして居る。

「四時頃の事でした。宅には渡邊勘十郎さんの奥さんが見えてお話をしてゐると、書生が、コツ〳〵と應接室の扉を叩いて、

「奥さんちよいと」と云ふのです。

「何かへ」

「ちよいとゐらして下さい」

「いゝからお前入つておいでな」

　それでも頻りに「ちよいと」を繰り返すのでせう。何だらうと思つて扉口まで立つて行きますと、

「先生が市會で大怪我をなすつたと電話がかゝりました」

　藪から棒で少なからず驚かされたのです口早やに一言二言押問答しながら電話口へ出ますと、大混線で何が何やらわかりません。取り敢へず馬車の仕度を命じましたが、生憎殘つてゐるのは二頭立の方で朝主人が二頭つけて出たので、一頭より殘つて居ない、と云ふのです。それではと二人曳きを云ひ附けて出やうとしますと、又々電話です。着物の帶を締め乍ら廊下を急いで、受話器を耳にあてゝ聞きました。

「星の傷は自分で失錯したのですか。それとも他人から害されたのですか」

「他人に斬られなすつたのです」

「傷口は」

「胸――」

　とまでより耳に入りませんでした。胸！　と聞いてア、これは大變だ！、どうしたか殆ど覺えぬ位。後押までつけて、一足飛びに飛ばせて參りますると、日比谷公園の横、都新聞社の前は黒山の樣な人だかりです――今でもなほこの邊を過ぎると昔を想ひ起しますが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

——私は思ひました。どうやら非常の變事があつたらしい。主人の身の上でなければよいが、歸りにはこの心配が無駄になつて、笑談——ですめばよいがと、揺られ乍ら考へました。後で聞けば、凶報の號外が張り出してあつたので、東京中の新聞で第一に出した號外だつたさうです」

往時を追懐してか未亡人の語尾は慄へた。慄へながらも續く、令息は身を固くして腕組みをしたまゝである。

▲泣くにはあまり大事件

「宙を飛ぶ如く驅けつけた俥は、ガラリと梶棒を玄關へおろしました。いち早く來てゐた舍弟と、門下生の顔の表情、私は一目見るより、ア、これはいけない！と思ひました。それともなほ一縷の望をつないで轉ぶ樣におりてどう案内を求めたか、通されたのは百疊敷あまりの大廣間です。お茶が一杯出たつきり、給仕は去つて仕舞ひました。シーンとして、何だか、かう氷室へでも入つた樣に冷たう御座いますの。五分と經ち十分と過ぎるけれども誰も來ません。私の胸の中は湧きかへりもつれかへる思ひは、申上樣もありませんでした。傷、傷——胸の傷、輕くはあるまいが、まさかに別條は——と、思ひました。また萬一の事あつた時にはどうするか。電報はどう打つたものであらうか。と、そこで袂から鉛筆をとり出して、懐紙に下書きを書き始めましたが、いや〳〵かうしては居られぬ。宅から蒲團や毛布を取り寄せておかねばならない。先づ馬車を還へして——と立ち上つたり。いや〳〵それにしても、かう二十分經つたのに誰も出て來て呉れないのはどうしたものだらう。此の方を尋ねやうか、などゝ、とつおいつ、うか〳〵わく〳〵、マア御察し下さい。此時の十分は一日にも當る思ひでした。彼是三十分の餘も待ちましたらう。門下の山崎林太郎——さうですあの東京市の助役で、今ロンドンに滯留中の——がヒヨツコリ現はれたのです。地獄で佛にあふた心地。傷の模樣は？と、すがりつく樣に問ひかけま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

した。
是も後に聞きましたが、此様に手間取つたのは、一つは血を消め、洋服を浴衣に着換へさせてゐたのと、一つには、誰行け、郷ゆけと、私に第一に凶報を知らすのを氣の毒がつて、押問答をしてゐたのださうです
「傷はどうです」と私は疊みかけて申しました、
「まあこちらへお出で下さいませ」
「それは參りますが、傷は」
「さあその傷が……」
「もうホントウニ駄目なのですか」
「誠に早や何とも」
私の胸は早鐘を撞く様に亂れました。眼でもまわしはせぬかと皆様御心配になつたさうですが、それどころか、此の始末をどうつければいゝでせう。
遺骸は清げなる白布に掩はれて、静かに横へられてありました。人造呼吸も些しの甲斐なく、もう萬事終つて居りました。
僕は此の時の狀を想はざるを得ない。シトザー刺されし、魔の金曜日に、一代の英傑は、同じ様に議堂に鮮血を注いだ。立ちならぶ幾十百の髭男の中に紅一點泣くにも泣かれぬ立つ夫人が立つて居るではないか。重き愁の雲は室に滿ちて居るのだ。
「それから？」と僕は膝を乘り出さゞるを得なかつた。

▲五日間食はず眠らず

「一」と口に申せば夢心地で御座います。二脚の椅子をこわして、臺だけにし、その上に遺骸を載せて、一臺の方の馬車に乘せ、私は主人の指輪――檢印刻んだ――と時計と、帽子とステツキを持つて次なる馬車へ。これも片身となつたかと、胸は搔きむしられる様でした。知友や門下の人たちは腕車で、悲しい思ひを積んだ一行は新坂の邸に着きました。時刻は丁度今時分。灯がつくかつかぬ位で、戸外はまだ暮れ切らず、樹の葉が青黑く淋しくなりました。
私はこゝでもう一つ悲まねばならぬ事になりましたそれは、光も、姉娘も、まさか主人がいけなくなつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とは思つて居りせんので、白毛布に包まつて居るのを見て、どこの傷であらうかと疑つてゐたらしかつたのです。それで縁切れたと知つては、泣きはらした眼をなほ押へて泣く事だらうと、何より心苦しう御座いましたよ」

「どんなにお感じでした？」と令息に問ふ。

「これは氣づかつた程でもありませんでした。何しろ十一のヤンチャ坊ですもの」

令息は頭をかゝへて笑つた。されど淋しい笑であつた。未亡人は語をつゞけて、

「私共の居間は三階や二階でありましたから、椅子も寢臺も階下におろさして、體裁よくする間に、號外で見た、人づてに聞いたと、お寄り下すた方が幾十人ありましたが……」

「新聞記者などもウルさく來た事で御座いませうな」

「それは來たでせうとも、けれども私會ひませんでした。新聞や雜誌の方には一切會はない事にして居るんですから――尤も貴郎は特別ですが」

「ハアゝ成程！」と今度は僕が頭をかゝへた。

「其晩は無論おやすみにならなかつたでせう」

「えゝ、その晩どころか、二十七日の葬式までと云ふものは、殆んど食べず寢ずでした。よくあれで身體が續いたものです」

話はしばしとだえる。市のどよみ微かに聞えて、闇は築山の影から、池のあやめを呑んで軒の盆栽に及んだ。

蟲が鳴く、心細げに蟲が鳴く。

令息がつと立つた。電氣のスウキッチをねぢつた。忽ち燦として花形の中に灯がついた。

一座は稍々陽氣にかへる。

▲伊庭想太郎について

僕は冷えた茶を啜つて問ひかけた。

「兇行者伊庭想太郎については、ドウお考へになりますか」

たとへがたき色ありて未亡人の眉宇の間に閃いた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「別にどうつて事も――けれども私、懸念でならないのは、伊庭は主人に一度も會つた事がなかつた事です何でも最初は宅でやつゝけやうとしたらしう御座いました。二三度尋ねて參つたさうです。主人は四時に起きますが、七時が朝食で、八時から外出致します。その以前でなければ誰にも面會はせぬときめてありました。そこで折角來ても待ち遠がつて歸つたり、何かしたらしいのです。お仕舞ひの時には、光が取次に出たのです。いたいけな子供を見て、自分も家に同年の子があるのを思ひ浮べて決心が鈍り、門に待つてゐる者があるから一寸、とか何んか言とつて出たなり歸つて仕舞ひました」

「オーさうですか、では貴郎がお會ひなすたの」令息の方を見て云つた。

「エ、僕が取りつがうとしたのです――無論六月に入つてからです」

「ですからね、私」と、未亡人が云ふ。

「主人は成程澤山の政敵を持つて居りました。けれども只の一度でも會つた人は、思つた以外に話せると云つたり、またそれでなくとも、或る點を買つて呉れたのです、もし伊庭が主人と一度でも話をして居たならば――とも思ふのです。それがこちらの運の盡きとでも申しませうか。兇變當日だつて、あの嚴重な人目の關を安々とくゞりぬけて近づくとは、よく〳〵の事であります」

僕は尤も至極の説と聞いた。諺にも人には添つて見よ、馬には乘つて見よと云ふ。中傷を是能事とする反對派の新聞の無責任なる記事を信じて、公憤などゝ力み出すのは大早計である。

悲劇はかくの如くして過ぎぬ。春秋の筆法を用ふれば「新聞紙星亭を刺す」と書いて差支ないわけだ。よい加減に筆を振つた記者先生達、定めて寢ざめが惡い事だらう。

▲蟲が知らせる胸騒ぎ

「何にしても國家の一大損害でありました。處で、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の凶變以前に前兆とか、何とか云ふ風のものはありませんでしたか」

「前兆と云つてはありません。しかし世によく云ふ蟲が知らすとは此事でせう。凶變のあつた六月に入つてから主人も私も、何かゝう不安でたまらなくつて――惡魔の手が背後に廻つた樣な氣がして、前申した通り私は　病氣で、一時は帶も一人で締められないと云ふ不自由であつたにかゝはらず、暇さへあれば簞笥や手文庫を整理して、必要な書類と不必要な書類とを分類しました。所有の邸や田畑の明細書や、知友門下生との關係や何かについて詳しく話をして下さいと主人に催促したのです。それまでは放任主義であつた主人も此時ばかりは、急に眞面目になつて私の計畫を斥けもせず、色々物語つて與れました。確かに蟲が知らせたのです。凶難の數日前になると、私は益々妙に胸騷ぎがしてならないのです。是迄手もつけなかつた辭令類を一束にして見たり、世間の噂が氣にかゝつたり、或る大きなものがだん／＼近づいて來る樣に感せられてならなかつたのです。

二日前の晝食の折、光が變な質問をしました。

「とうさま死んだら葬式に兵隊つくの」

「ウンつくだらう」

一寸した會話ですが未だに耳の底に殘つて居ります

その前晩――一體主人は外で招待される事がなければ、必ず宅で夜食しましたので、遲くなる時にはその旨電話をかけるのでした。處がその晩に限つて八時過ぎまでも何とも云つてよこしません。一同待つて居りますと、歸つて參りまして、俺はもう濟んだ。シカシ皆なと一しよにテーブルに着かう。水菓子とコーヒーもらはうと、機嫌よく椅子を占めて、洋食を手づから切つて私と、娘と伜に分けました。ユックリ話したのはこれがお仕舞ひであつたのです！」

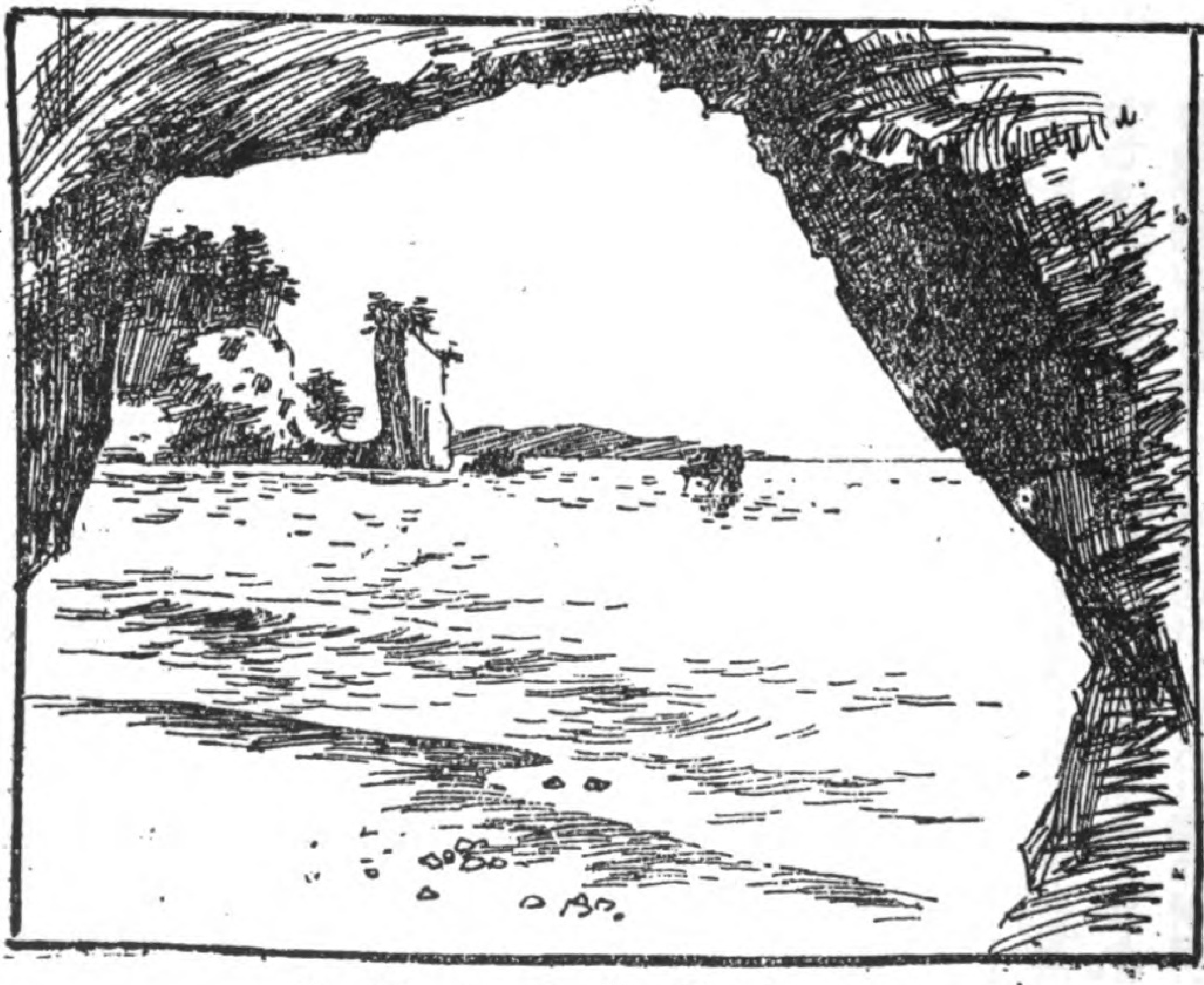
僕は或る感慨電の如く脊柱を走るをおぼえた。ああ何たる悲劇ぞ。總べての人は死を弔ふ。けれども凡俗の死何かあらん。惜んでも惜まれるのは偉人の死ではないか。英傑逝いて寂寞十年、世の波は幾重の紀念

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を未亡人の額にとゞめて居る。喟然として云つた。
「隨分御苦勞、御心配をなさつた事でせうねェ」
「私の生涯は心配の生涯です」
「先生の御在生中、內助者としての御心配はどんなものがありましたか」
「お話し仕切れぬ位ありますよ。政治の奇禍で牢へ二度入り、保安條令もありましたし……」
「內助の御苦心を承はりたいものです」
「御ゆつくりなさいまし一通り申しませう」
未亡人は銀煙管をまさぐり乍ら答へられた。談はこれから佳境に入るのだ。

△英傑と多感少年

當代の奇侠男兒河岡潮風。彼れ政界に向つて野心を包藏し、夙に天下三分の志を抱く。今回雄辯誌上星亨を月旦す、星は明治の英傑、潮風は時世に憤るの多感少年也。英雄の事功を一管に欠ぐや、多感少年是を做して措く能はず、文辭光彩あり、萬象を吞吐す見るべし。



伊豆名勝桂島の洞穴

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

書は幾歳でも上達する

▲習字と云ふものは矢張り無邪氣、無意識の時分には手が上らないものである。自分のことを例に引くのも如何ですが、私共の小さい時分には眞の寺小屋同樣の處に稽古に參つて、朝から晩まで手習をさせられたもので大層手習をしたやうであるが、習ふのが嫌で〳〵手習草紙を匆々と水に濡らし、習つたやうな風をして先生の處に持つて往き、それで其日の役目が濟んだやうに思つて居つたことを今でも忘れない、處が明治二十年の頃、御歌所に出ることになつた、さて爾うなつて見れば、此所で取扱ふ歌は畏くも至上の御覽に入れるのであるから、餘り醜い書振では恐れ入ると思ふて少しばかり手習をした、それとても自分の心では眞の嗜みに過ぎなかつたのである。

▲然るに其後華族女學校に勤めることになつた、此時も私は習字の方には關係しなかつたのですが、其中に內親王方が御成長遊ばすにつけ、畏れ多いことですが手が上手と云ふ方の側ではなく資格の上の關係から私が御教授申上げるやうになつたのです、自分は甚だ恐縮に存じたが、內親王の御習字を拜見するのには自分の修養が大切だと思つて、それから少し身を入れて習ひ始めたやうな譯で、私の習字を習ひ出したのは三十一二歳の時と申しても宜しいのです、書に對して私のやうな晩學でも少しは書くことが出來るやうになつたのですから、幾歳になつたから最う稽古をしても駄目だなど〻申す道理はないと信じます、加之此習字と云ふ技術は、先づ申せば裝飾といふやうなものですから、餘り年の往かない所謂何うでも好いと云ふやうな中は上手にはなれないものであらうと思ひます。婦人で申せば紅粉を粧うて身を飾ることに心を配ると云ふ年頃にならなければ眞個に文字に艶が出て上手と言はる〻やうには書けません、書を學ぶと云ふことに就ての心得と云ふやうなものは、古くから澤山あるけれども、要するに「能く習ふ」と云ふことが一番大切のことで、上手になるのには此外に秘術はあるまいと思ひます。（阪正臣氏）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜記帳

與謝野晶子

×

二つの聲が聞える。

初の聲、もし、もし、お前さんは何だね。

次の聲、どなたです。大層低い嗄れたお聲ですこと。お聲ばかりで一向お姿が見えませんのね。

初の聲、一寸表から覗いてゐるのぢや。わしにもお前さんの姿がよく見えない。

次の聲、何處からおいでに成りました。貴方の様に元氣の無い、調子の低い、亡靈の様な聲で物を被仰る方は此界限にゐない筈ですが。

初の聲。遠い遠い涯から歸ッて來たのぢや。

次の聲、世界にある種々の古い物の名代として歸戻つて入らしッたのでせう。

初の聲、まあそんなものぢや。お前は何だね。何を此薄暗い中で考へてゐるのだね。わし等の仲間が正義の燈火を掲げて此邊に住んでゐた頃には、もッと明るくッて物の辨別がよく付いたものぢやが。一體お前は男か、女か。

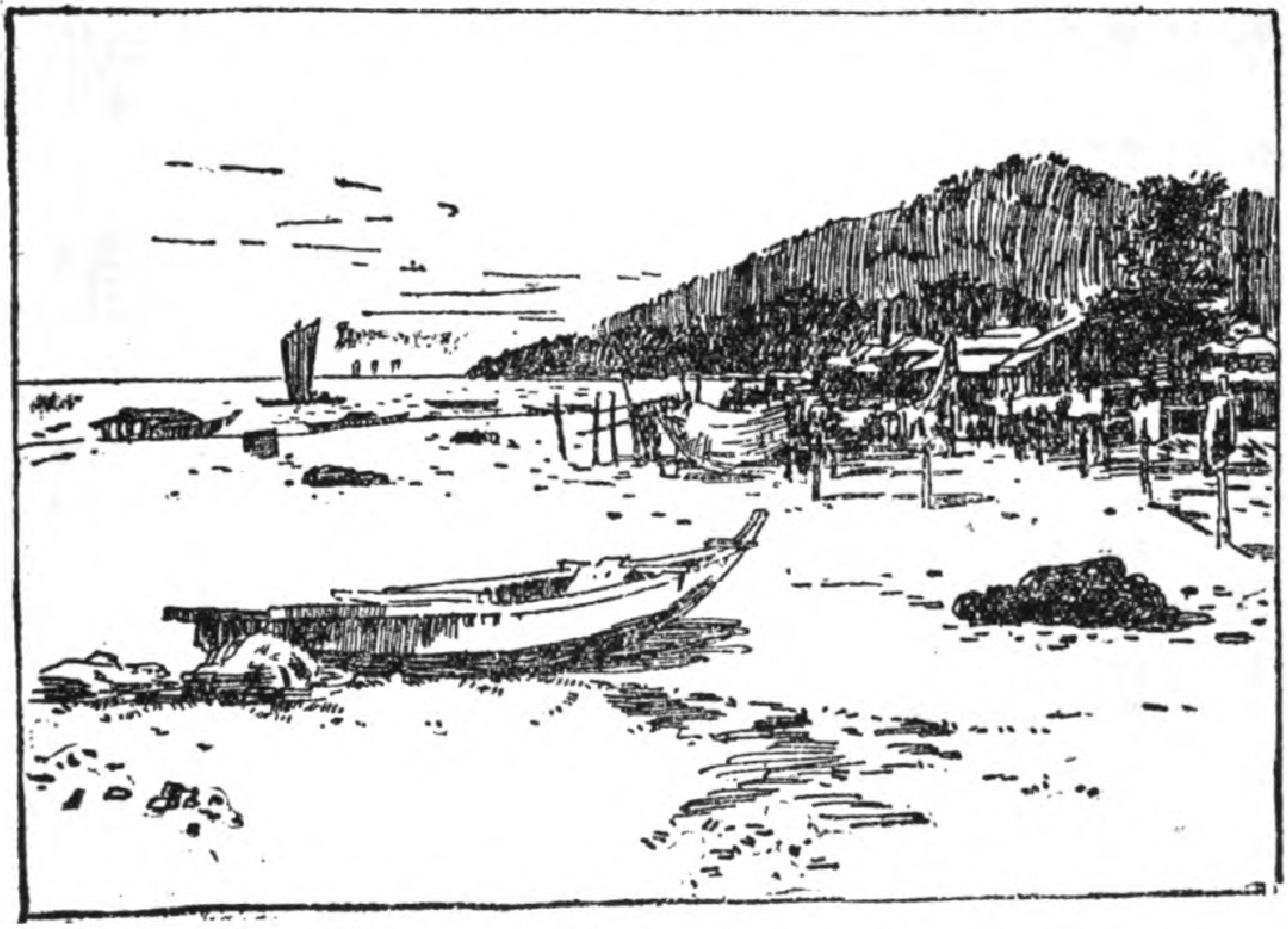
次の聲、當てゝ御覽遊ばせとでも申し度い所ですけれども、わたし共に、もうそんな區別は無くなッて居ります。

初の聲、はあて。では中性ぢやね。

次の聲、おゝ厭なこと。そんな色艶の無い象皮の様な詞を遣はんで置いて下さい。わたし共の間では生生した派手な張り切ッた詞ばかりを遣ッてゐるのですから。貴方は只今此處を薄暗い所だと被仰いましたねそれは全く貴方のお目が弱くなッて入ッしやるのですよ。わたし共の世界ほど明るい所は無いのです。貴方が支配して入らしッた昔には、宗教とか國法とか習慣とか便宜とか道德とか武士道とか云ふ様々な燈火が要ッたぢやありませんか。只今では國家とか家族制とか云ふ窮屈な戸障子を撤して仕舞ッた跡ですから何處で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

須磨海濱鉢伏山



も此様に不斷に明るいのですよ。貴方は表から覗いてゐると被仰るけれど、四方を明け擴げた此住ひには裏も表も御座いません。どちらからでも這入ッて來た方が入口です。貴方には其處にある紅い心臟を畫布の上に投げつけて出來てゐる畫が見えますか。緑の色をした太陽を象牙の弓で彈き潰してゐる音樂が聽えますか。此燦めく孔雀石と腐ッた椿の赤とで出來た詩集は。〜此わたしの乳色をした裸は。垂蓮の銀の鉢は。撒き散した向日葵の花は。

初の聲、　わしには何も見えない。瓶の底の澱を覗く樣に薄暗く纖くるしい所ぢや。唯お前さんの亂した前髮が戰ぐのと其間に貝の樣に光る額だけが見える計りぢやお前さんにはわしの姿も見えまいな。

次の聲、　さうですね。あ、やッと目ッかりましたわ。なんと云ふ小いお姿でせう。高木神の手俣から行方が知れなくなッたと云ふ少名彥よりも小い。貴方こそまるで明るい空氣の中の一點の澱ですこと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

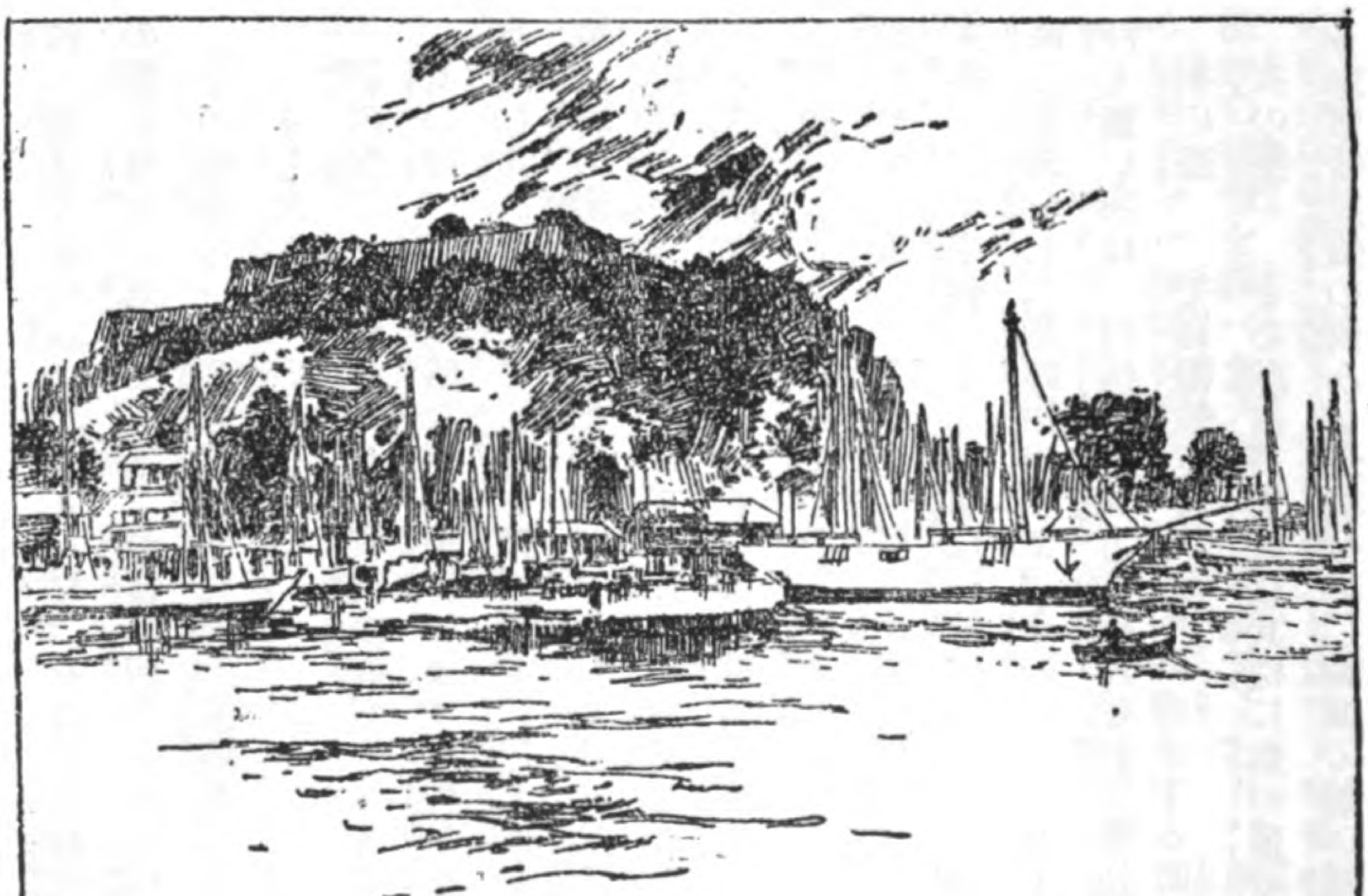
初の聲、　年老ッたわしの前で隨分づけ〳〵と物を言ひなさる。

次の聲、　わたし共も貴方に支配せられて貴方の子だの奴隷だので通ッた時代もありました。あの時代のわたし共と云ッたら從順でなくてはなりませなんだのね。只今は何れ丈幸福でせう。誰にも屬せずに、てんでに自分で生きてゐるんですもの。貴方の御支配なすッた頃は、國家と個人、貴族と平民、教會と信者、親と子、男と女、主人と奴隷、勞作と快樂、是等の懸隔が大層嚴しかッたものですが。

初の聲、　その樣な事を聞くと身慄がする。お前さんも無理想主義や無神論、非愛國などを考へてゐなさるのぢやらう。

次の聲、　迷惑な事を被仰います。神樣、貴方は總ての古い物を代表して入らしッた丈あッて、以前何處やらの未開國の官憲や教育者が遣ッた口吻を其儘お出しに成りますのね。貴方はまだ無の字だの非の字だのを蛇の樣に怖れて入らッしやるの。可笑し

鳥羽港舊城址



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いちやありませんか。其末開國では文明國の新しい思潮が這入ッてから初めて高峯の上に懐疑が起り破壊思想が生じた様に慌てだして大層危險がりましたのね。古役に立たなくなッた古い物を排斥する。害のある黴びた組織を破壞する。さう云ふ事は永い歴史の上で屢繰返された事ですわ。無の字は歡迎するとも怖れるべき物では無いのです。趙州の無字なんかと云ッて、一切を撥無して掛かる事は昔の禪坊さんでも致した事ですよ。勇猛精進の人は誰でも一度は此過程を經て參ります。わたし共もね、一頃は隨分苦い味を嘗めましたよ。それは一切の物事に總て無の字を冠らせて考へたのでした。眞面目に、眞剣に非常の勇氣でね。わたし共の仲間で意志の弱い手合は煩悶して自殺した者もありましたよ。

初の聲、惡魔のわざぢや。勵々しい。

次の聲、勿論わたし共は貴方の無を一番に破壞しました。神權を認められない以上、貴方は一日も居たたまらないで、わたし共と交渉の無い遠い〳〵世界の涯へ逃げてお仕舞に成りました。それから頑強な一切の物を撥無し終りますと、最後に何うしても破壞することの出來ない金剛力を持ッた者が儼然として突立ッてゐましたよ。

初の聲、惡魔が化身の個人主義ぢやらう。

次の聲、又迷惑な事を被仰います。神を撥無したわたし共が何うして惡魔を撥無せずに居りませう。惡魔は神の影ではありませんか。わたし共には善惡と云ふ様な古い考へは無いのです。從ッて善惡なんかと云ふ詞を遣ふ機會も無くなりました。又個人主義などゝ云ふ窮屈なぎこちない詞でわたしの今申さうとする物を豫想せずに置いて下さい。個人主義、社會主義、自然主義、何々主義、そんな事は以前何處かの半開國で少時の間流行した飜譯語ですよ。今のわたし共と何の交渉も無い所は、神樣丁度貴方とおんなしですわ。

初の聲、では獸性と言はう。

次の聲、まあ厭な。貴方は其様に影が薄くなッても未だ昔氣質の僻みを失はない、論據の無い臆斷をな

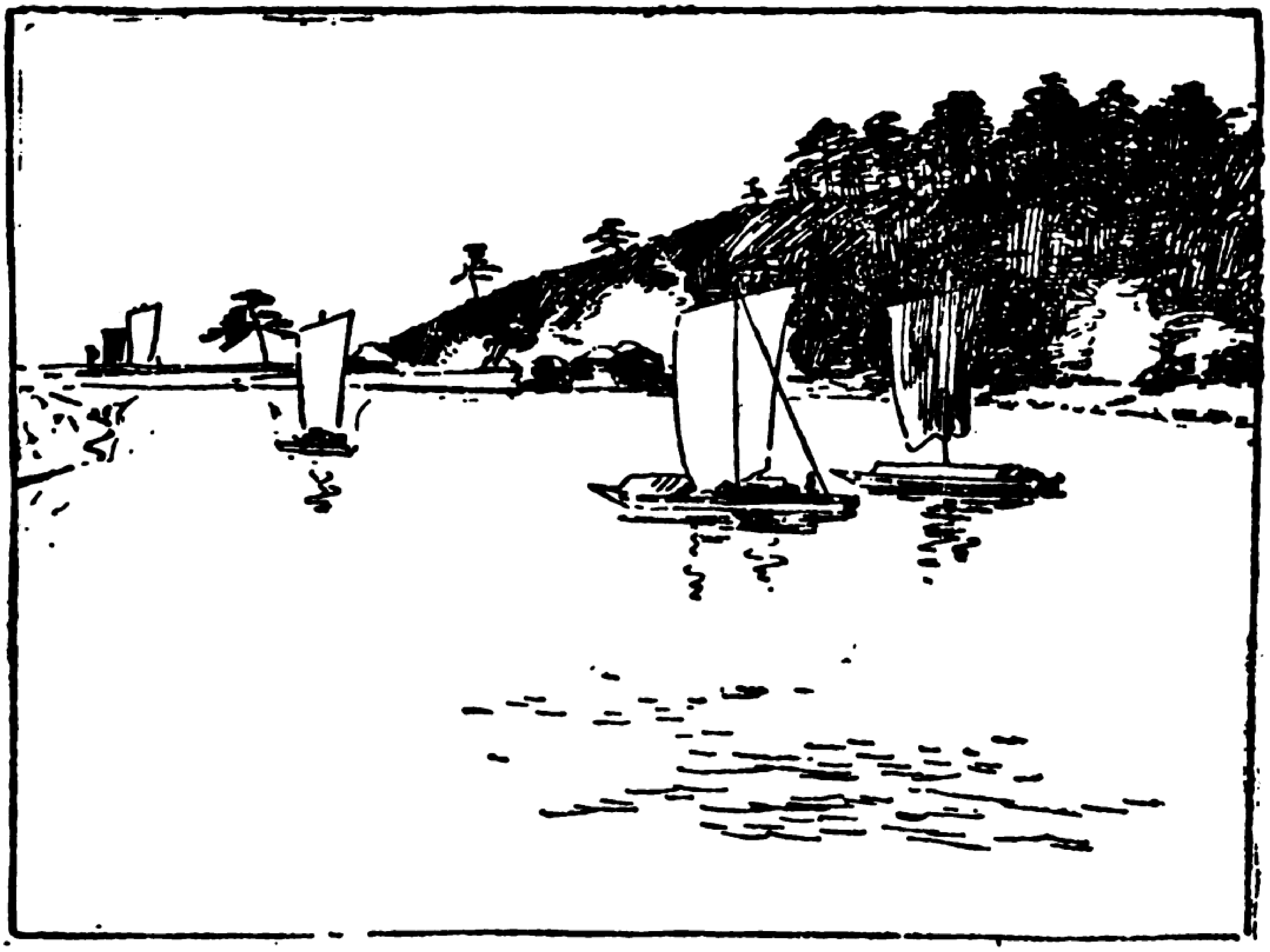
Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さいますのね。其詞もわたし共の仲間では通用を失ッて居ります。わたし共は獸性などゝ云ふ粗雑な詞で表現せねば成らぬ様な事實の存在を認めませんもの。大昔貴方が御創造なすッたと云ふ世界には然う云ふ事實が有ッたと貴方が御斷定になるのは勝手ですが、わたし共の現在の世界には不用な詞ですから御返し致します。で最後に殘ッてゐた唯一の物を何かと云ふと、すべての物を脱ぎ去ッた美しい、若々しい此の裸のわたしでした。

初の聲、（嘆息して）あゝ。

次の聲、御尤です、貴方にお解りに成らないのは。其時ほれ〲と自分の裸を眺めて、ミユウズが水鏡に見恍れる様に、どれ位わたしが喜んだかは御想像も付かないでせう。わたしは此裸の自分を何と云ッて形容しやう。物質と精神、そんな目の粗い詞では、わたし自身の一筋の髪の毛でも説明出來るもので無かッた。わたしは無數の感覺、無數の神經、無數の情緒、無限の智慧、無限の感情、無限の慾望、無限の意志を備へて、自己生存の爲に要する最大精力を出す大發働機、最大微妙の諧音を調べる大樂器と見立てました。神樣、蠅の羽ですら一秒間に四百回以上の顫動をする種類があります。況してわたし自身の微妙な活動と音樂とが何うして貴方の耳目に入りませう。又どうして二三の粗雑な詞でわたし自身の總てを掩はれませう。若詞で表さうとするなら、一つの感覺、一つの情緒にも念の入ッた名詞を新しく造らねば成りませんでせう。貴方が前に男か女かッてお聞きに成ッた時、そんな區別は今のわたし共に無いと申上げたのも之が爲ですよ。わたし自身の端嚴微妙な性質は、そんな男とか女とか云ふ呑氣な詞で區別が付くでせうか。併し名も時には必要ですから、差障りの無い「人」と云ふ詞で假にわたし全體を表して置きませう。大分お喋りをしましたね。どうせ貴方にはお解りに成らないでせうが、序にも少し申しませう。わたしは善惡と云ふ詞を用ゐません。其代り、適不適、要不要、快不快と云ふ様な詞を何事にも用ゐるのです。「人」としてのわたしの生存を續け

下總名勝鴻の臺



る爲に適當で、必要で、愉快である事なら、どの樣な事でも採用しやうと思ッてゐます。わたしと云ふ大發働機の燃料として宇宙の總てを自由に驅使し、わたしと云ふ大樂器を調ぶる樂堂の用具として地上の物一切を適宜に排置したいと思ふのですよ。わたし一人ではありません。「人」としての生活に適した斯う云ふ新しい社會組織は、此世界の人が誰彼となく考へてゐる所なんです。

初の聲。　あゝ。

次の聲、　又歎息を遊ばしますのね。遠い遠いあの寂しい涯へは再び行き度く無いし、と云ッて戀しく成ッて歸ッて來た此地上の世界には身の置所も無いし、とお歎きになるのでせう。えゝ、そのお歎きには及びません。只今のわたし共は何んな物でも排斥は致しませんよ。其代り神樣、わたし共の言ひなりにお成りなさい。さあ此香水の瓶の中へ漬ッて入らッしやい。蓋をしますよ。お友達が來たら瓶を振ッて蟲眼鏡で神樣の顏を覗かせて遣りませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

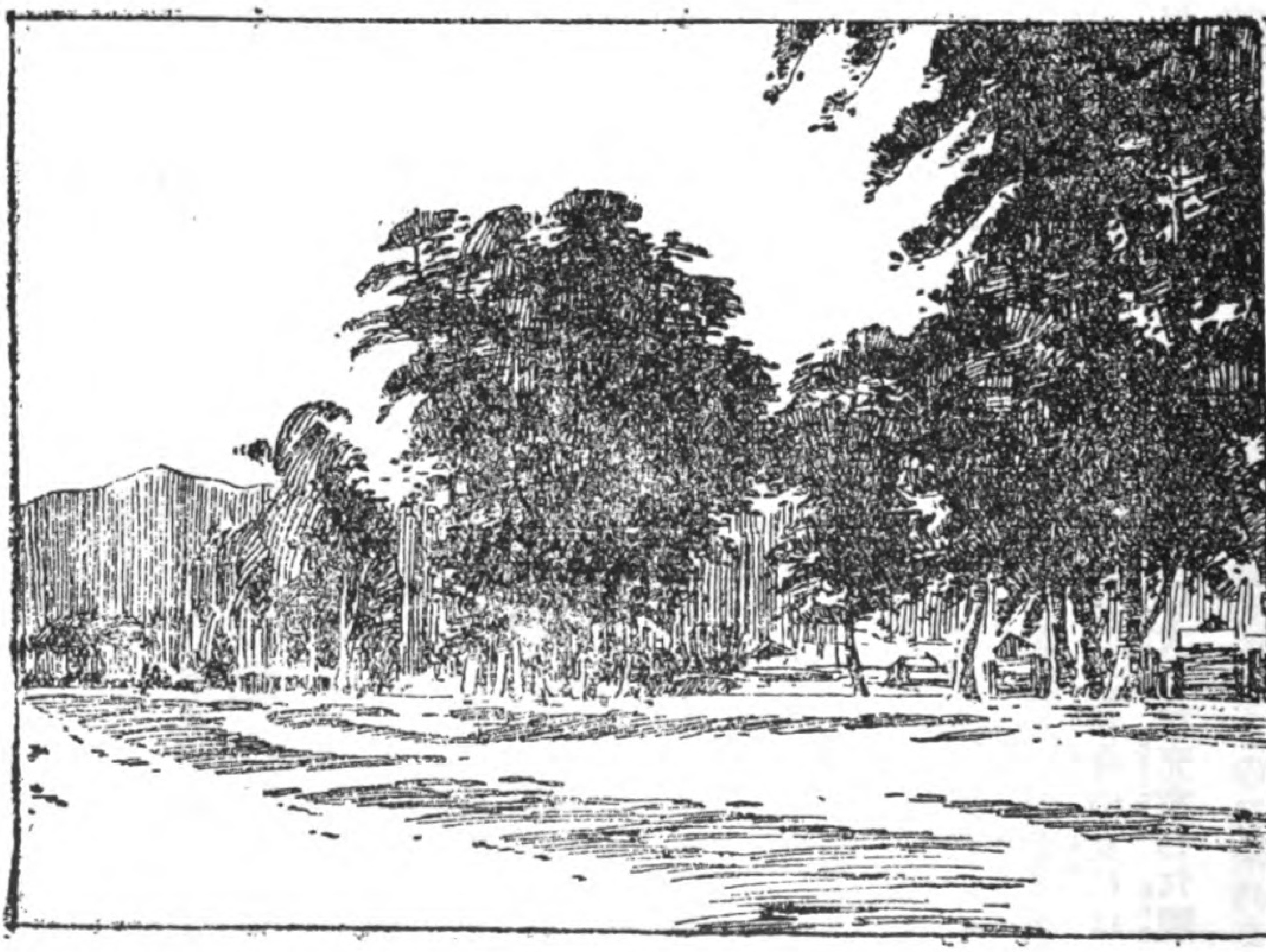
×

昔の扇の展覽會が松屋吳服店にあると聞いて、雨の降る日に不斷著の儘で子供を一人伴れて出掛けた。展覽會のある一室へ這入らうとすると、入口に控へた小僧さんが、わたし等親子の服裝を上から下へ見下して厭な表情を目に現はした。ずッと這入ッて行くと、室內に居た番頭さんも小僧さんと同じ目付をしてわたし等を眺めた。お前さん達の這入る室ではないと云ふ目付である。咄嗟に起ッたわたしの反感は、わたしが見ないで此室の扇の良否が誰に解らうと、心の中で呟いた。而して室內にはわたし等以外に誰一人見物人は居なかッた。

×

わたしは扇が好きです。どなたか新しい美術家に大形な扇を工夫して戴いて、實用よりは裝飾用の持物とし、平安朝の貴婦人がした樣に、それで顏を掩

攝津名勝湊川遊園



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うて物を貰ッたり、手まさぐり物にもし度いと考へてゐます。

×

女の裝飾品は唯年頃や容貌や顏の色との調和計りを考へたのでなく、其上に髪の艶、髷の形、脊丈との調和、又襦袢・下着・襟、上着、帶、帶留、髪飾、洋傘、下駄などの互の色合の調和、是等を考へて撰擇するのが大切です。斯う云ふ自分を本位にした撰擇をせずに、唯値段が高く、若くは廉く、而して美しい品であればよいと云ふのを土臺にした混雜な裝飾は厭ですね。併し餘りに整然と調和し過ぎたのも面白くない。一寸どこかに調和を破ッた調和が欲しいと思ふのです。

わたしは二人の娘に、地の薄い白い羽二重の袷を三四枚下に襲ねて、其上に地紋のある淡い青か淡い紫の綾か綸子かの袷を着せて見たら何うかなど丶考へてゐます。

×

日本の着物は直線計りで出來てゐるので變化が無い。上に着る物丈でも何處かに曲線を應用して調和を新たにしたい。

袴の海老茶は決してなつかしい色でない。殊に地方の小學校の女生徒の用ゐてゐる色は厭です。京都あたりで黒い袴の女學生を見受けるのは氣の毒な位に思ひます。又東京で灰の中から出た樣な上被を着て袖口を括ッてゐる女學生の服裝は、鎧の上に法衣を着けた淸盛を見る氣が致します。

×

庇髪の大きなのは美い形ですけれど、まだ何處かに輕浮ついてゐる所がある。髪の形が惡いのでは無くて人柄が髪に負けてゐるせいであらう。まだ今の女にはあの大きな髪で覆はねばならぬ程の大きな充實した頭が無いのである。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三越の陳列棚が歩いて行く、大きな畫形が歩いて行。

×

婦人の言葉を粗雜にする一因は婦人記者の書いた物にある。逢ッて見れば其れ程で無い人でも、書いた物を見ると大抵氣障な不作法な文章を綴ッてゐる。何を書いたか意味の通じない物も少くない。文章は自分も拙いのを愧ぢてゐますが、せめて詞遣ひ丈でも自ら愧ぢない樣にと心掛けてゐます。或婦人記者が貴婦人の批評を「良人登爵は何々」と云ッた口調で書てあッたのなんかは、他人に對する普通の禮儀を心得ない計でなく、自らを辱めてゐるものだと淺ましく思ひました。

去年公爵伊藤氏の凶報が傳ッた時、公爵夫人を大磯へ見舞に行かれた曾根子爵夫人の談話が新聞に出た中に、伊藤夫人の悲歎を見た場合を「憐を催してね」と云ッた口調で話してありました。之が自分の良人の先輩の亡くなられた場合に、其先輩の未亡人に對して用ゐる詞でせうか。婦人記者計りでなく謂ゆる貴婦人の一部にも斯うした人柄の下劣な女性のあるのに呆れました。

新しく出た森鷗外先生の御夫人の小說「あだ花」を一般の御婦人にお薦めしたい。あのゆッたりと上品な態度、氣の利いた觀察、型に累せられない一種大膽な新思想、絹を鋏で斷つ樣な文章、どれも在來の日本婦人の作物に見なかッた所です。若し批評家が婦人の作だと云ふので之を看過するなら「綿の五百貫目は輕い」と速斷するのと同じである。實質を見よと言ひたい。

わたしは今猶一葉女史を實質以上に買被ッて天才などと稱する批評家のあるのを氣の毒に思ッてゐる。

「人」として生き甲斐のある充實した生活を營むには何うすれば宜しいか。之に答へて、先づ上田敏先生の新著「渦卷」を御覽になる樣にとお勸め致します。「人生の渦卷に身を投じ拔手を切ッて泳がう」と云ふ皆さんに。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小供の學資金

△私は家庭に於て或種の教育制度を行つて居ります、其制度は、各自に各自のものを規則正しく行はせるので、子供等に要する一切の學資や小遣を、初めに豫算を立てゝ其額だけ支給すると、子供等は其れ丈けで學資から小遣を支辨するので御座います、それは子供等が自分のものを自分で處理する傍ら多少經濟上の智識を得はせぬかと云ふ所からです、此豫算は子供等の內中學程度以上の學校に居る者が學校の程度學校の遠近月謝衣服等に就て協議して立てます、それを私が檢査しまして、若し不審の點があれば再協議と云ふ事にします、豫算は九月初めに立てるので、翌年六月に至る十ケ月間の豫算であります。

此豫算で食料を除く他の一切の費用は全部子供自身の手から支辨するので、一々各自の會計帳に載せまして、餘裕がある場合には貯蓄させ、不足の場合には翌月分を前借りさせると云ふ次第ですが、子供等自身にも注意しますから大概足ります、それから不時の支出の有つた場合には後を注意して補充するやうに注意させます、七八の兩月は暑中休暇で御座いますから、此時は旅行するとか避暑するとか云ふ事に定めまして是は豫算以外に其時々々相當に支給します。

豫算は學校の位置程度等に依つて變化がありますが大學が先づ二百圓、高等學校二百圓、中學程度百圓內外で大學の方は少しは苦しいかも知れません、小學校は只今六年に居る者に二圓五十錢、一年の者に五十錢宛一ケ月に與へます、尤も年々多少の差はありますが大體に於て斯んな風で厶いますから、男の子一人を小學校から大學まで卒業さするには先づザッと計算して見ても二千百十六圓許り要る譯で厶います。

△此樣に豫算を立て始めたのは昨年九月からですが、一家經濟の上から見ましても、各自の規律の上から見ましても、經濟上の智識から申しましても、餘程効果があります。（金森通倫氏夫人）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

姑に虐待されつゝある氣の毒な嫁の告白

柳田富美子

▲空腹を抱て働らく六時間

一たい私の良人は早く父上に別れ、母上の手一つで成長せられたのですから、御苦勞も隨分は察し申升が夫だけ又姑樣の權力も大したもので、まあ今でも良人を十代の子供か何ぞの樣に思つて被在るので御座い升而して何か御氣に召さぬ事でも有ると、幼さい子を叱る樣にズゲ〱と小言を仰いますの。でも良人は只笑つて居られる許り、傍で聞て居てもお氣の毒でたまりません。

宴會などで夜分お歸りが遲いと、私は家内で御座いますもの十二時が一時でも御待ち申て居り升が、姑樣は宵からお寢みに成つてお歸りの頃には御目覺めでせう。さあ夫から色々御小言やら私に當付けの厭味やら、かれこれ一二時間は談義を承ひますの、他家の奥樣等旦那樣のお歸りがお遲いと、お胸を取らぬ許りの御立腹で、お恨みの數々、旦那樣をお困らせ遊すとか私など夫どころか眠いのを辛抱して、漸々お小言も濟み床へ這入ると時計が三つ打ちました。

夫で朝は御承知の出勤が早う御座い升から、冬でも五時に起て、良人だけ御飯を上げて、御出勤成つてから姑樣の潔癖で、家中の拭き掃除まで濟まなければ御飯を上らないのでせう。え。朝御飯？　はあ大抵十時ですよ、姑樣は七時過ぎお床をお離れに成つて、直くでは御飯が美味く無いつて上らないのに私許り食べるわけにも行かず、妹の樣に良人が朝寢で、十一時に朝御飯食べる迄お腹が空くから牛乳にカステーラを食べて置くなんて、其樣なわけにも行ませんわ。五時がら十時迄空き腹をかゝへて働きますの、隨分辛う御座いますわ。えゝ。夫れは前から氣難しい姑樣とは承つて居りましたが、新婚披露の時、手傳に參りました出入

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の老婆が、
「あなた隨分お骨が折れますよ、御隱居樣は評判の方ですからしつかり遊ばせ、旦那樣は眞實によい方ですが、隱居樣がやり手で前のお嫁樣も皆いぢめ出して御仕舞ひ成すつたつて、」
と深切めかして申されました時「あゝ私の樣な氣儘に育つたものに辛抱が出來やうかしらとつく〴〵思ひました。
だが怎麼氣難しいお姑樣とて、こちらが誠意誠心で御仕へ申たら、豈夫可愛い息子の嫁、お惡しみにも成るまい、緣有つて嫁入つたもの、身を粉に碎いても必ず姑樣の御氣に入る樣にと、覺悟いたしましたが、私の眞心が足り無いので御座いませう、未だに毎日叱られて許り居り升よおほゝゝゝ、
はあ。嫁りました當座は針の蓮とでも申ましよか、毎日泣て許り居りました。其頃の事で御座い升、或日良人の退省を迎へて居間で衣服替へを手傳つて、之からゆる〳〵お話でもと思つて居り升と、隱居所で「お富美〳〵とお呼びに成り升から何か急の御用かと伺へば姑樣は、澤山な白髮まじりの御髮を切り下げに成つて丹精遊した名仙のお羽織に、二巾の前掛をお締めに成つて脊中を丸くしてせつせと縫物をして被在いましたが私を御覽に成ると、急にお手をお止めに成つて、
「この羽織ねえお天氣がよかつたら昨日張つて貰ひ度いが
と仰りますの、わざ〳〵御呼びになる程の御用でも無いと思ひ乍ら「ハイ」と承つて、立かけると
「ちよいと此手紙の返事を賴み度いから此處で書ておくれ」と仰る。居間は洋服を散らした儘、而してお茶を入れ樣と思つてゐるのに氣が氣で無い
「鳥渡旦那樣にお茶を差上て參りますから」と御樣子を伺ひ乍ら、オズ〳〵申上ても聞え無い振りをして彼方を向いて被在る。
其處へ良人が「只今」と御挨拶に被在つて、鳥渡私の方を御覽に成つて直ぐお居間へお引返しに成つた、すると姑樣は上目で私をお睨みに成つて手紙をグイと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

引摺つて、針箱の抽斗しへ入れてお仕舞なさつた。ああお怒りに成つた樣だ什麼したらよからう。おやお居間でお手が鳴つた。思はず立上つて緣側へ出ると姑樣は癇高い聞えがしの御聲で

「さかりの付た猫の樣に跡許り追たがるチョッ」

といま〳〵し想に舌打ちを成さる。私は障子の外に立萎縮で口惜淚に咽びました。

▲事毎に良人との仲を堰かれる



新月の眉匂ほやかに、若葉をわたる風も心地よい夕ぐれ緣先の椅子に倚つて新聞を見て被在つた良人が「オイ運動に行かう」と仰る。

終日姑樣のお傍で御機嫌を伺ひ乍ら縫物許りして居りますので氣も結ばれて仕舞ふほんとに〳〵嬉しくつていそ〳〵と衣服を着替へ「鳥渡旦那樣と通りまで行て參り升と姑樣のお部屋の入口で申上ると。急に顏をお顰めに成つて「前刻から腰が痛んで困りましたよ、松に揉で貰はふと思つてたが勝手元が忙がし想だから遠慮

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

して居ました、大層おめかしで何方へ御出だ」とちと白過ぎたと氣が咎める襟元から、華美な鴨川お召の肩のあたりを篤と御覽に成るのでせう。ねえ。左樣仰るのに其儘行て參り升とも云ひかねて「いえ別に用では御座いません早く仰つて下されば宜しう御座いましたのにさあお擦り申しませうと心は殘り乍ら松に其よし良人へ申させお部屋へ這入る

「夫では賴みませう、折角お樂しみの邪魔をしては氣の毒だねえ」

と、口では仰り乍ら、ニヤリと氣味の惡い笑ひ方を成つて橫に御成りなさる。

「もつと其處を堅强と何を考へて居なさる。大きな體して一向力が入らないねえ、私は若い時氣難しいリウウマチスの姑を持つて夜通按摩をしましたよ、今の若い者は學問は有るだらうが、姑の腰を揉むすべも知らぬ、而して外へ許り出たがる私等若い時夫婦で外へ出るなんて、祖先の法事より外に無い、今時の若い者は面の皮が厚いねえ。」

なんて厭な事許り仰り乍ら二時間餘り、腕は拔けるうで、肩のあたりまでぴり／＼と痛く、自分の手とも思はれぬ樣に草臥れても、宜いと仰らぬ內はやめる譯にも行かず。忍ぶが岡の、新樹を吹き越して來る上野の鐘が、十時を告ぐる頃やう／＼お許が出て、

「之から御出かけかへ、まあゆつくり行つといでなさい。」と勝鬨をあげた樣な面に、冷笑を浮べて仰いますのねえ。あなた。姑樣も餘りなされ方では御座いませんか、勿體無いが其時許りは恨めしいとも口惜しいとも塞ぐる淚をやう／＼おさへ、居間へ這入ると泣き倒れて仕舞ひましたわ。

其年の秋で御座いました、良人が八ヶ月の豫定の出張で不在に成りましたら、姑樣は、無駄だからつて、下女を下げてお仕舞に成るのでせう、私が「此頃の樣に奉公人拂底の折柄あの位氣立のよいものを惜しいと申しましたら

「お前さんのお里の樣な御大家とは違ひ升よ、働くのが厭なら私が仕舞」つて御自身襷がけに御成りなさつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、グン〳〵用事を遊すのですもの、私眞實にたまりませんわ、里に居た頃は下女が三人書生に車夫も居りましたから、お休の日には壽司を調へるとか、學校で習つたお菓子をこしらへるなんていふ時外、臺所へ出た事は無かつたのに、朝は暗い内から起きて水汲みから御飯焚き。ある夕べ豆腐やも澤山通るのに其時は何も仰らず、跡に成つて「晩に玉子豆腐が食べ度から、お豆腐壹丁とつて來ておくれつて」



マアいぢめるに事を欠いで豆腐買せとは什麼でせう。まあ私ほんとに呆れて仕舞ました、どうも恥かしくて足が出ませんの、でも行かなければ叱られる什麼しやう、豆腐やの歸りでも通れかしと、當も無く外を見てゐると、釣瓶落しの秋の日ははや斜いて夕ぐれ迫る片町を御納戸の替り縞のお召に、今春式の帶を締めて、クリーム色の洋傘を持つた若奥樣や、洋裝の可愛らしい令

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

房を伴れた紳士が、紅葉の枝や菊の造花を持つて通る大方瀧の川か團子坂の歸りであらう、私も去年の今頃は両親に伴はれて、日光の紅葉を探ね樂しい秋を送つたのにと、過去を思ひ出て、行過る人の後姿を恍惚見送つて居り升と。

「お富美〳〵何をぐず〳〵して居なさる、日が暮れるでは無いか」と仰る御聲に愕然、思ひきつて、小さい笊を風呂敷に包み悪い事でもする樣に、コソ〳〵とお豆腐を買つて行來の多い夕暮の町を時計屋の角まで來ると、同窓の芳子樣、何處の御歸りやら、ゴム輪の人力車を走らして被在るのとバッタリ出會つた、ハッと思つて消えも入り度く、急いで角を曲つて氣が付けばまあ私、周章てゝ御挨拶も致しませんでしたわ。

▲僻みと嫉みと皮肉な言ひ懸り

人の心を浮かれさせた、上野隅田の花も雪と散り、世は初夏の青葉のよそほひ清々しく、此處暫らくは、暑からず、寒からず、藤牡丹と遊山によい時候を私は相替らず姑樣のお傍で裁縫をいそしむ。

姑樣は他家の仕立物遊します、えゝ、立派に仕立代をお取りに成り升とも。いつぞやお隣の奥樣が御隱居樣に代金で上るのは、失禮だつて纔々風月堂の御菓子を御遣こしに成つたら、姑樣は

「ずるい人だねえ、有合の菓子折なんかよこして」て御立腹の樣でしたわ。左樣で御座い升とも。良人も左樣な事成つては不可ないつて、度々御止めに成り升が私の好きでする事關渉てくれるなと奈何しても御聽入れになりませんでした。

はあ御自慢だけに御上手でございますよ。だが私は辛う御座いますわ、いつぞやも主人の羽織を仕立升時襟のまち針をうつて、如何で御座いませうと承べば『なんのお前なんか學校を卒業したえらい人だ、私の樣な何も知らない昔者に用事は無いつて、」てんで取合つて下さいませんから、まあ自己流に仕上て仕舞ひますと。「どれお見せ。」と袖口を玩つたり、襟を引張つて見たりさん〳〵御覧に成つた上句どうも御立派に出來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ましたねえと、例のニヤリと御笑ひに成つて「いゝさお前の旦那のだから私は恁麼仕立は眞平御免だ、殿達が人中へ着て出る羽織、恥をかゝない樣に氣をお付け。」と怎うで御座いませう、私口惜しくつて其場で羽織を引裂て仕舞と思ひましたわ、私だつて萬更人中へ着て出られない樣な仕立方は爲ないつもりで御座いますわ。

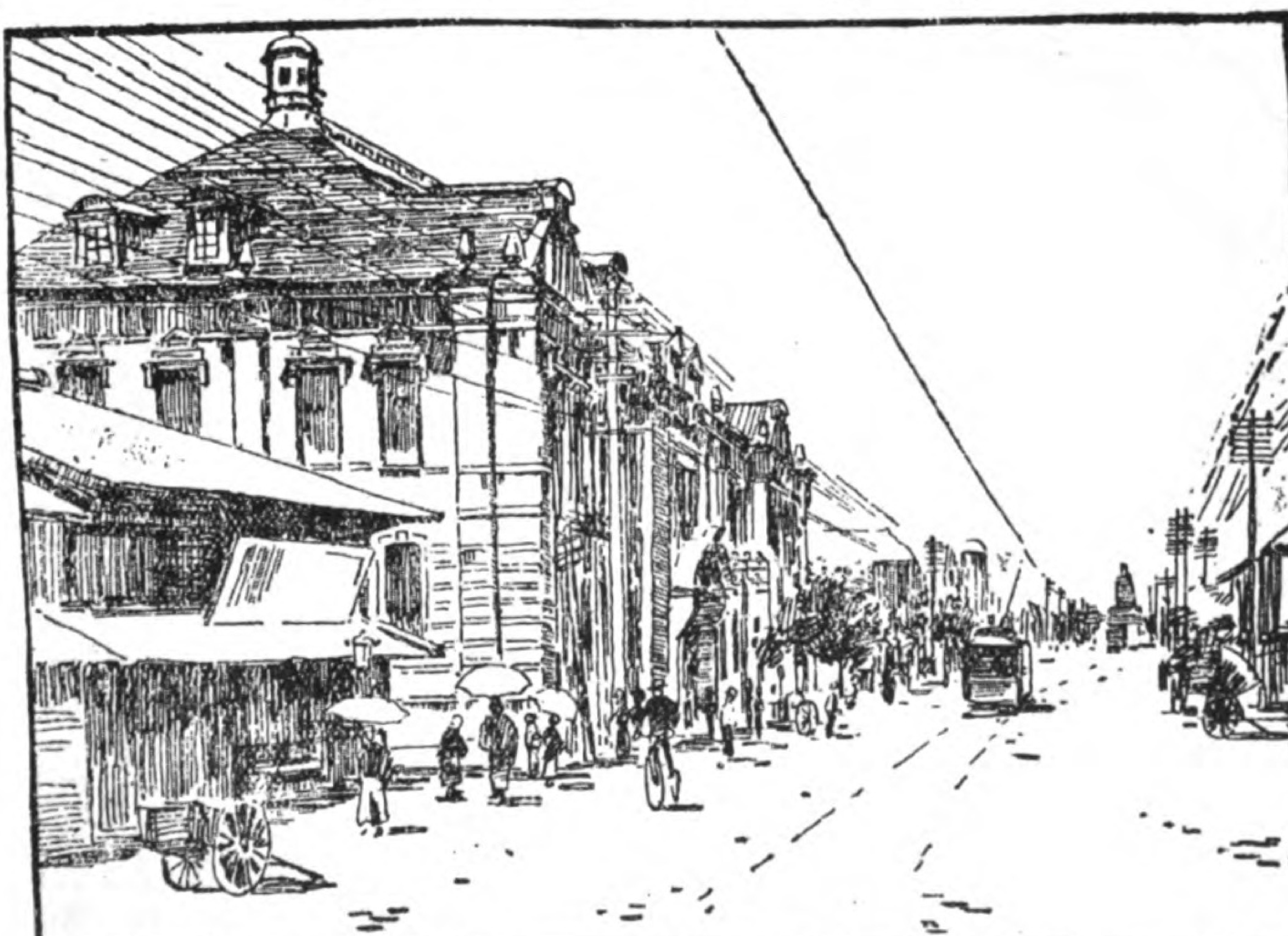
其後自分の衣服を縫ましたから褄を御覧になつて、まあ厭な格合だねえ、私がよく爲て上やう」と火熨斗をかけて下さつて「まあ〳〵大層善く成つた、火熨斗の伯母さんと云ふが眞實だねえ、之で見られる樣に成つた。何處へ着て行つも笑



はれないよ。だがお前の親類なんか、裁縫の善惡の分る人は有まいねえ、」といつもの調子で私許りか、親類の者まで輕蔑なさるのですもの、たまりませんわ出産の時でも眞實にをかしうございました、姑樣は舊式一點張り、枕を高くして、可成坐つて居た方がよいと仰るので、蒲團を積んで坐つて居り升と、良人が歸ッて、一週間も經たぬに坐るなんて、夫は不可ん枕を低くして寢て居ろと申升ので、夫も尤と存じまして、蒲團を片付て寢みました處へ、姑樣が被入つて、私の云ふ事を聞ぬ老人を馬鹿にすると、御立腹に成るので又蒲團を積で坐る、實に白

分乍ら、をかしいやら、情無いやら。
え丶。子供で御座いますか、あれは昨年の秋死去りました、はあの時とても左樣で御座い升、始めての子供を失したので御座いますもの、良人も私も非常に落膽いたしまして、顏を合せ升と、つひ生前の噂を致して悲歎きますと、姑樣は不機嫌で
「眞實にお氣の毒ですねえ、私が替ればよかつた、大切な人が死んで、居なくともよい人が跡へ殘つて嘸迷惑だらう、だが壽命が有るものは仕方が無い早く亡夫さんからお迎が來ればいゝ
「年を取つて邪魔にされるあゝあゝ」なんて、わざと大きな聲で仰るので御座い升もの、私等は最愛の子をなくしても、口へだして愁傷する事も出來ないので御座い升よ。
併しまアこんな事はいはゞ唯内端のごた〳〵で、大きく考へて見りや何でも無い事です……が、私の身に取つてもつと〳〵大切な事があるのですよ。それは次號へ詳しく述べませう。

名古屋榮町通



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

泣て暮した女子大學の寮舍の二年間

野上貞子

△虚榮七分に目的三分

私は、名のみゆかしい寮に、丁度大學部三年と云ふ時に。移寮して來たのでした。今考へて見ると、淡い淡い經驗に外ならぬのですが、それでも當時のページをくり返すと、餘りいゝ氣持ちは致しません。

寮監と云ふと、えらく嚴めしく聞えますが、此の寮の寮監は、私共の先輩、つまり云へば、相談相手に外ならぬのでしたが、私が泣いて暮らした抑の導火線は此の寮監との間からなのでした。

夢二式の目の大きな、すつきりと肩の邊の格好のいい、現代的分子の滿身に漲つた寮監の下に、同胞廿三人……其中には遙々九州の果てから社會改良と云ふ樣な大目的を持つてやつて來た孤兒も居りました。北海道の豪商の娘も居りました、知事、辯護士、醫師、官吏とそれ〲大切に育てられたお孃さん達が、只もう憧憬七分目的三分と云ふ有樣で、名のみ聞いて嬉しがつた、學府の寮舍に入れられたのでした。

私は、三年と云ふ名のもとに、重い身に餘つた責任を負はされて、丁度蛾が大きな塵埃を負はされた時の樣に、首も廻らぬ苦しさを甘じてせねばならぬ事になつたのでした。△△科の方には同じ三年生が二人。それも、此寮舍設立以來寮監殿の股肱と頼まれた强の者裏は如何でも、表面は相應に人をきり廻して行く、つまり怜悧な性な人達許りでした。其二人と、私と、一緒に寮舍を導いて行かねばならぬ……私は、寮監室に呼び入れられて、△△科の二人に紹介された時は「あゝ氣の弱い我が如何して一緒にやつて行く事が……」と頭を下げて居乍ら、只々胸の動悸を懸命に數へた位でした。

感情家……惡く云へばスヒテリカル……な寮監とは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全校一致の定評、それに思ひきつて派手作りな、胸に掛つたいぶし銀の鎖、兩手の藥指にはめられたルビー入りの指環廿七の老孃とは誰様の目にも映りません。

△在學當時の評判

何んとか云ふ、有名な政治家の伯父様の御宅から、朝夕、女乘りの自轉車で江戸川堤を通學した時は、行き通ふ若い學生に時ならぬ花を咲かせたとやら、女名前の柔しき封筒の郵便が、机の抽斗しに、堆く積つたのを見ても其御交際ぶりが知れてよと口惡るな友人の話。兎に角、惡口を云はれるだけ、又一方に活動して居た事は、確かでした。其感情家な、社交家な、そして何事にも抜け目なしな、パーテイの多い寮監の下に寮舍の經濟は勿論、寮風とか、交際とか、つまり一家の總てを、科の異ふ二人と私とがする。

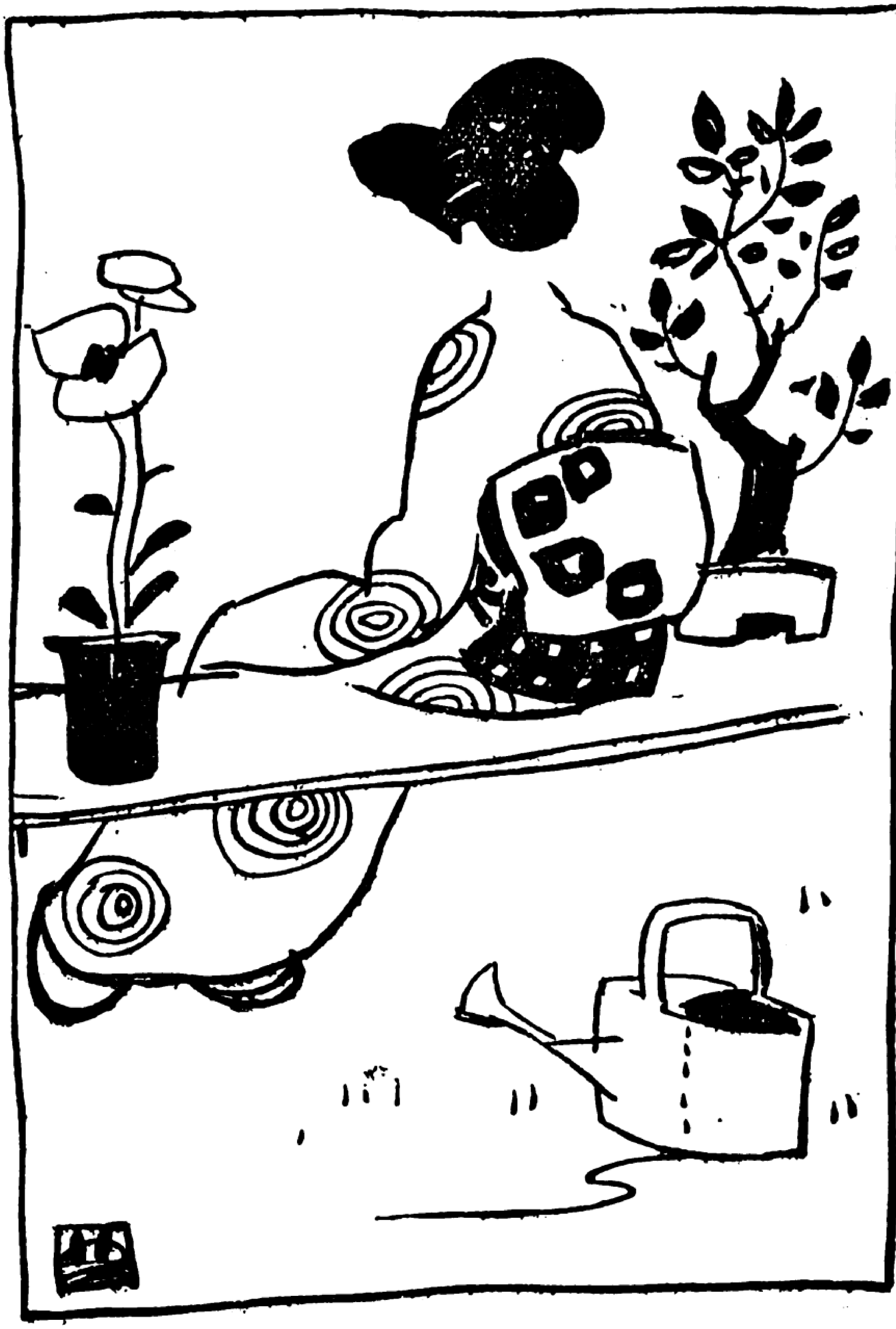
一家に主婦が三人ですもの、圓滿く行く事の出來ぬのは、當然來る可き運命です。其運命の手に捕へられて、私の生涯の歴史の一頁を黒く／＼塗り消したかと思へは、お互に不幸な一年を送つたのでした。

全體私共の科は、昔から餘り振はない、つまり變人肌な、センチメタルな人間の多く這入る科なのでした其くせ數の少ないと云ふ理由も有つたからでせうが、一致した、共力した、いざ鎌倉と云ふ時は、科全體が赤い血を流さねば止まぬ、それ程、又、平常は變人が多かつたのでした。で私の寮舍にも同じ科の生徒が二人、私共で三人と云ふ極く心細い。寮舍に居ても、私達の科は、有るかなしの姿で、又、餘りさう一緒になつて、騷ぎ廻らうともしない、△△科から見ればイゴイズチックな、極く非生產的な消極者として厄介視される、折りも少なくなかつたのです。其上に寮には其年初めて△△科以外に私共が入寮たものですから全體が白い色の處に、丁度其の幾部分かを赤い色の私共が色彩た意味になるのですもの自然傾向が二派に別れるのです。

△家庭の分離

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私はしいて、此場合さう云ひたい……程、恐ろしいものは、有りません。何んの障害もなく、思ふまゝ東西に蔓びて行かねばならぬ。蔓草の樣な子供にまで其影響が及ぶ、いぢけた、ちゞれた、まがりくねつた、莖も葉も出る樣になつてしまいます。女學校一年の子供から、私達三年まで、廿三の人間は皆色々な苗が植ゑ付けられました猜疑、泣く、陰口を云ふ處女としてあらゆる道徳上の惡癖は不知不識の間に培養されてノーブルなインノセントな分子はいつか其影を隠してしまいました學校に行つて一生懸命に哲學史や倫理學のお講義を伺つた處で、只それはほ



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んの夕立の降つた樣に只一時を洗ひ流すに過ぎなかつたのでした。それでも最初の一學期の間は襤褸も出さずに表面は美しい顏をして、つまり冷たい笑ひとでも云ひませうか「來學期はお早くいらしやいね！」「お待ちしてゐますわ」「お手紙乾度よ」と、お互に形式一遍の挨拶だけでもして別れたのでしたが、あゝ人の心程妙なものは有りません、つまり云ふと寮監と△△科二人との間には見事に妥協が成立されて暑中休日後と云ふものは一歩一歩悲劇の幕明きに近づいて來る許りでした。

△あやつり人形

換言すれば私共同胞の大部分は寮監と云ふあやつり師につられ乍ら毎日日を送らねばならぬ。それ程憐れな悲慘な運命に陷つたのです。自己を沒却した上に同じいがたで、鑄ぬかれたバネ仕掛の動物の樣に意義もなく精神もなく空々寂々、ひたすら、手足のみを動かして寮監殿へ、バツを合せる、ある意味から云つたならば、私共は寮監殿の、バニチーを滿足させる爲めに、見事に犧牲にされかゝつたのです。自動生活、自治敎育と、いくら叫んだ處で、矢張り舊い頭から生れたお互は、幾百年來流れて來た習慣に束縛されて、身も心も共に其色に染まなければ止まなくなつたのでした。

若い女、殊に幾分でも新らしい敎育を受けた女が如何して、それが默言て居られませう、弱い乍ら多少の自覺を持つた女が…然し私共には悲しい事には斷然それに反抗して一生面を開く程の勇氣を持つて居りませんでした。さればとてそれに全々服從して只々奴隷の樣に手足のみ働かすか、それも私共には難づかしい注文でした。

神經過敏な虛榮心の強い寮監は猫の目のそれよりも激しく氣分が變る、同僚から皮肉くられたと云つては歸つて來て、小言を云ふ、寮監會議で發表が巧く出來なかつたと云つては、生徒にあたりちらす。それ許りか、氣に喰はぬ生徒の病氣の時などには、聞えよがしにあてつけを云ふ、堪えきれなくなつて寢臺からとん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で下りてヒヨロつく足を踏みしめ乍らあへぎ〳〵學校に行つた事も度々でした。

△強　迫　的

食堂での食事中が、私共にはどれだけ禁物だつたか交際振りの稽古と云ふ名目のもとに、怪しげな發音の英語交りの能辯を、表情的とやら印象的とやら云つて殆舞臺にでも登つた氣で喋べりたてる、三年と云ふ名の附いて居る限りは、其お相手もせねばならず、御機嫌の善い時はまだしもですが一朝風雲おだやかならざるや忽ち變じて何んとやら殆ど手も足も付けられない始末、默然て放棄置けば何も知らぬ子供に食つてかゝる「親にでも打たれた事のない頭を」と云つて泣いた可憐な少女も御座いました。

丁度それは二月の半頃、極く〳〵寒い晩だつたと思ひます、豫科の生徒……八人許り居た……が顔面を眞赤にして、プッ〳〵云ひ乍ら這入つて來るぢやありませんか、何事かと思つて聞いて見ると、寮監殿が例の通り豫科の生徒を呼んで、御自分の出身した科に是非入科する樣に、若し他の科にでも入學する樣なら全々退寮を命ずると、殆ど強迫的に申渡しされたあげく其中の二人が、丁度私の科に這入る事になつて居たものでしたから「貞子さんの樣な人になるを承知ならお這りなさい」と、それから品性が如何の、學力が如何のとあらゆる誣言を以て、私達の科を陥しめた、氣の弱い二人はとう〳〵泣き出してしまつたので、寮監は室を飛び出したが、寮監にあるまじき行爲を取る人を、上に戴いて居るのは如何にも口惜しい、是非反省をしていたゝきたい、若しそれで聞いて下さらねば仕方がない、私共豫科の八人の身は棄てゝも校長にせまる心組みだ、と血氣な、感情の烈げしい十七八の人達許りの事ですからどう無鐵砲さ加減たらないのです、こんな事が有る程、猶更、寮監と私との間は離れて來る許りつまり何事も私が敎唆へてゞもさせる樣に寮監の方では誤解してしまう。尤も私共も、反抗的に一つ困らしてなどゝとんだ謀反氣を起して、壓迫から免れ樣〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

として居るのですから、如何方かゞ折れない以上、如何しても圓滿くおさまる道理はないのです。こんな風で學校から歸れば、絶えず、苦しい壓迫に圍まれて、翼を挫かれた鳥の樣に、徒らに寮舍の隅でパタリ〳〵羽ばたきをするのみでした。

日曜日の外出には、一週間分の菓子から水菓子から嫌と云ふ程買ひ込んで、そつと寢臺の抽斗しに忍ばせては同志者と食飲會を開く半分は自棄、半分は面あて位に心得る、不心得者許り多くなつたのでした。

△雨水の樣なお汁

不穩な形勢を見て取つた寮監は益々壓迫する△△科の二人は其下について私と他の生徒との分離策をめぐらす、當時の私は、寮監の目からは、恰度コレラ菌位に嫌厭れて居た事は事實でした。高等の敎育を受けたの何んのつて云つた處で、矢張り女は女です。小さな感情が基になつて、寮舍の全體は只暗雲漲る修羅道と化して行つたのです。

八圓五十錢の宿料で出來樣筈のない贅澤をと云つても知れたものですが……する寮監の檢閲を經ないうちは、注文の出來ない獻立も、終ひには出すや出さずにどし〳〵注文してしまい、あげくはお定りの借金とうとう五六ヶ月の間に、八十幾圓と云ふ穴が出來てしまつたのです。それをある會議で公然發表された時の寮監の驚き方……寮舍に歸るや否や、先づ、第一に怒鳴れたのが△△科の二人、私には勿論、面と向つて怒つた事は一度もない、眞綿で頸とでも云ひませうか、それだけ私も心よくなかつたのです。

翌日からの獻立の粗末さ、雨水の樣なお汁にきんぴら位が晝のお料理の最上……甚しい時は鰍の煮付け二つなどの事も御ざいました。衛生上や、生理上から云ふ蛋白質幾ガラム、澱粉質幾ガラム等夢にも要求されませんでした。

纎弱な生徒は、榮養不足、果ては神經衰弱……と一時は病人寮と云ふ、忌はしい名を取つた。

私共生徒が勉强をするには第一の要素たる食物の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不足、面やつれした顔を兩親が見たならばと、そゞろに涙のぢむのを、夜着の衿でそつと拭つた夜半も幾度でした。淋しい陰氣な暗い影を宿した人間の、集合所の様な寮は笑聲一つせずに一年と云ふ者を送りました。卒業して寮舍を出た以來、手紙一本來るではなし、私の方からも出さうと思ふ程のなつかしみも湧いて來ませんので、其まゝにして置きますが、漸時人は少なくなる許りとやら、同じ寮舍生活をするにしてもこんな辛い經驗を無邪氣な罪のない白百合の様なお孃さんが繰返して行くのかと、沁々後から入寮する人を可愛さうに思ひます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

飯の炊き樣と保存法

▲飯は炊き樣一つで左程良くない米でも美味に出來るから、上手に炊いた温かい飯では、其米の良否を區別することは素人には容易に出來ぬが、冷飯となつたとき湯を掛けて見て、其時一粒〱に分れ、湯が濁らぬ米なら屹度上米である、若し塊りが解けず、湯が白く濁るやうなら、それは下米である、又海苔卷鮨として庖丁を入れ、切口が綺麗になるのは上米で、切口の不整なのは下米である又最初酢を掛けた時刷毛で酢を引いたやうになるのは上米で、酢を吸收して潤けるのは下米である、大抵こんな風だから、下米は夏になると決して鮨米とならぬが、上米なら、四季とも鮨米となる、

▲冬季は二日三日經つても飯の腐ることはないが、五月雨頃からは兎もすると、朝炊いた飯が夕方プンと臭ふことがある、世間では之を米と水が惡い爲と云つて居るが、自分の經驗では原因は保存方にあると思ふ、保存の方法は實に簡單なもので、先づ飯櫃の事から云へば、飯櫃は一軒の家で少なくとも二つを用意し、一つ塞がつて居る間に、一つを乾かしておくと云ふ風に、交替に使用し、飯が無くなれば直ぐ[illegible]で内部の底の隅々迄丁寧に洗ひ、乾いた布巾で能く拭き取り陰干にする、火に掛けて急に乾してはならぬ、それは火乾は外面のみで、木地の濕氣が取れず、それへ飯を移せば直き惡くなるからである、又漆で塗つた飯櫃は保存によくない、客の前に出すには體裁がよいけれど、用が濟んだら直ぐ別の飯櫃に移すやうにしなければならぬ、それから釜の飯を飯櫃に移すときには乾いた杓子で飯を能くほごし、飯櫃の下方から漸次平らに入れて飯の塊りの出來ないやうに注意しなければならぬ、

▲飯櫃に釜の飯を移して蓋をすると、飯から發する蒸發氣は非常なもので、忽ち櫃の内部、蓋の裏等一面に凝着する、之を拭き取らないと、折角上等に出來た飯も、粒形が崩れて、俗に云ふ花が咲いて麹のやうになる、從つて味も變れば腐敗も速くなる、それを防ぐには暫時くの間此の水蒸氣を乾いた布巾で五六分間おきに拭き取るのである、注意さへすれば、入梅や土用の中を翌日に持越しても臭氣を發するやうな事はない、（山崎寅次郎氏）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



(195)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

兒童訓話の絕好資料

四十七士譚は少年少女諸君
武士的精神修養の寶典たり

巖谷小波先生校閲　沼田笠峰先生編述

大好評

兒童教訓 赤穗四十七士譚

洋装頗美本
舶來紙刷美
麗寫眞版六
拾餘個挿入
定價六拾五錢
郵送料八錢

少年少女に讀ませる目的で四十七士の傳を委しく述べた書物は未だ發行された事がない。本書は少年少女の教養に經驗ある編者が元祿義擧の顚末を平易なる文章で述べると共に六十餘の鮮明なる繪畫を加へて四十七士の個々の行動をも詳細にあらはし、少年文學の泰斗たる小波先生が校閲したるもの少年少女の士氣を養ふに最も適當なる讀みものと信ず。

大好評
大歡迎
續編發行

西川三五郎編

學校家庭 續兒童百話

新刊

洋装全壹冊
正價卅錢
郵税四錢

學校家庭 兒童百話

拾版

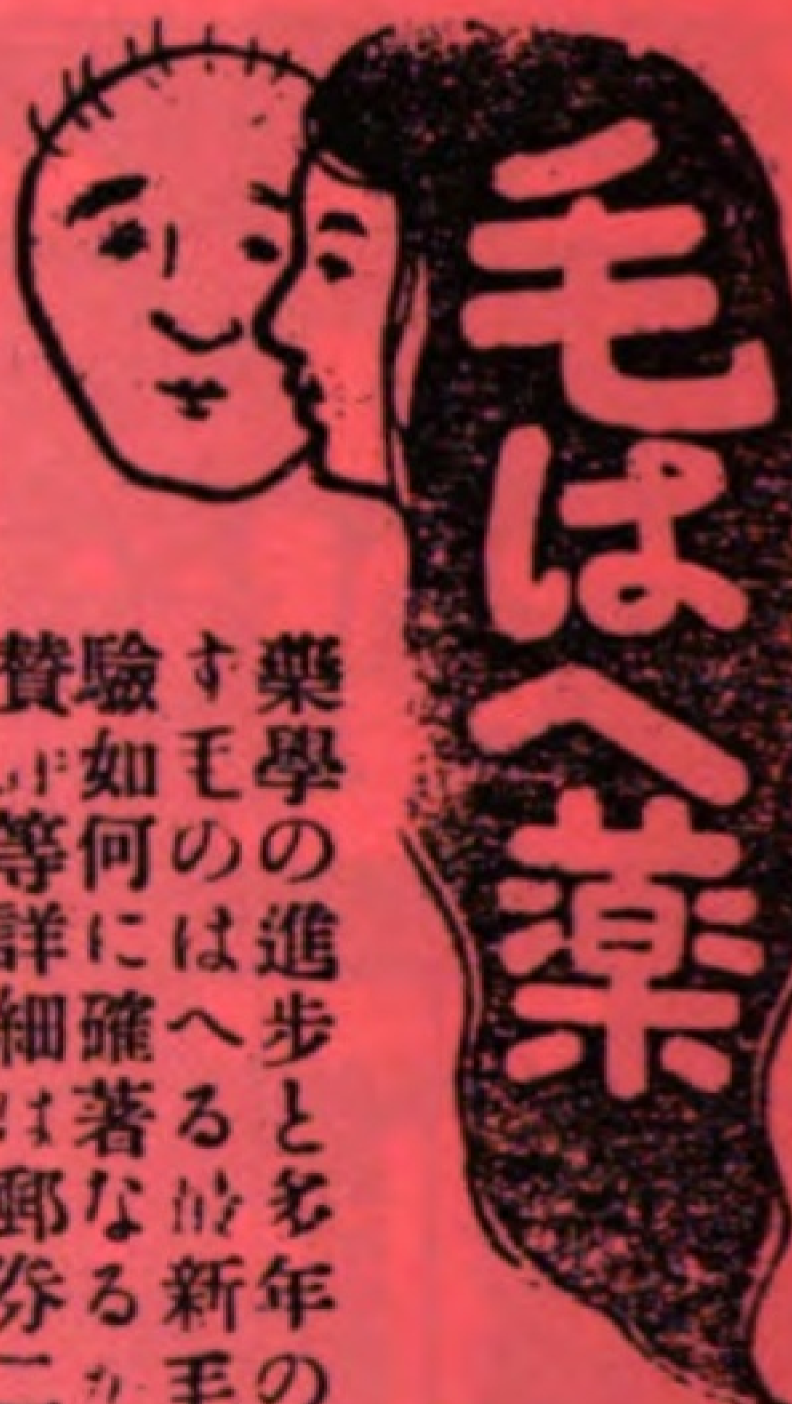
洋装全壹冊
正價廿八錢
郵税四錢

今回更に最も嶄新にして趣味ある童話百餘種を蒐めて續編を刊行せり乞ふ一讀あらん事を。

發行　東京神田松下町　文盛館 ●　東京神田美土代町　振替東京二〇一四一六　博文書院

(其の二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



最新發明

●奏効確實 ●使用簡便

藥學の進歩と多年の專門研究により必ず毛のはへる新毛生法發見す 其効驗如何に確著なるか諸大家の實見報告賛辭等詳細は郵券二錢封入照會あれ

東京日本橋通四丁目四番地 公仁藥院

肥滿病の人◎やせる藥

多血症●脂肪過多●中氣●酒ぶとり●便秘凡てふとりすぎて御困りの方 やせて中肉 美容となる奇藥二錢切手送れば詳報す

東京市小石川區第六天町十七番 池田製藥部

第九回

會長 陸軍二等軍醫正 正六位勳四等 ドクトル 渡邊鼎

通信教授會員募集 產婆學講義錄

規則要郵券二錢

產婆科六ヶ月卒業 看護科四ヶ月卒業

東京市四谷區内藤町一ほの部 東京產婆看護婦講習會

美術造花材料

卸小賣

▼室内高等裝飾品 ▼牛製品、錢打拔類一式 ▼光線モール

三國屋 關口商店

東京淺草區駒形町十四番地 振替貯金…一六四二番 電話…下谷二八三五番

（御一報次第定價表進呈）

美術造花果實

（案内書だけは二錢）

電燈花簪 一組一圓七十錢

通信教授

二ヶ月卒業 遠國在ても誰にも和洋造花◆花かんざし果實標本等は美麗に出來ること保證す 卒業後は就職に便なり 案内書見本は造花でも果實でも郵券二錢送れば直に送呈す

東京市四谷區麴町十二の九 美術造花傳習所

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

圖書と雜誌

▲陳列場、各種類新刊物等、數多蒐集有之候間御來觀願上候
△圖書の配達、東京市内の御注文は多少に不拘御屆け可仕候
▲地方讀書家諸賢には懇切を旨とし迅速便利に御取扱可仕候
△特別割引、多數に取纏め御注文の節は卸同樣御取扱可仕候
▲御照會は郵券封入、又は往復端書にて詳細、明瞭に願上候

何れの出版を不問

勉強販賣

東京神田區表神保町

東京堂書店

電話本局 二五五二番 一二三番 二四八番
振替東京口座 二七〇番

▲御注文は總て前金の事、郵券代用は必ず一割增にて願上候
△圖書切手、御便利の爲め御進物用として美麗に調進可仕候
▲地方御同業者の取引は薄利に發送は非常の敏速に勉勵可仕候
△書籍雜誌の委托一手販賣は獨特の擴張法を以て勉强可仕候
▲圖書出版發賣等に就き御相談の節は御便利に御取扱可仕候

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人界に於ける新智識の涵養を努むは本講義也

女子大學講義

日本女子大學校櫻楓會編輯

本講義の内容を讀め

御申込次第規則書進呈

△實踐倫理 人生の眞相倫理の原則を初め婦人が生活の目的及處世の覺悟並に修養の方針を指示する羅針盤なり

△教育學 日常の自修と家庭敎育に切要のものを實用的に講じ學校敎師にのみ必要とする狹義のものにあらず

△心理學 精神生活の法則樣式を講ずる敎育家の基礎科學に自修上、交際上及び社會學の參考學科たり

△家庭物理 家庭生活、殊に料理洗濯衞生等の方面につき知らざる可からざる一般の學理を平易に講述せるもの

△生理學 婦人には殊に必要なる衣食住に就き研究を講じ尙衞生・敎育心理家事料理等の基礎學科たるなり

△經濟學 吾國の歸人には最も缺乏せる所にして然かも今後の社會に立ち家政を整理するに甚だ必要のもの也

△文學研究 趣味を養ひ感情を美くし品性を高め生活を高尙にする爲殊に子女の家庭敎育上に必要の物を講ず

△農藝 簡單なる蔬菜果樹花卉の栽培牧畜等を說く之れ家庭生活の趣味と實益を併せ自然の研究の一助たり

△和歌作法 初學者の作歌心得古歌の講話等を揭げ會員の詠草は添削し其優美なるものは之れを雜誌に揭ぐべし

△家事 最も進歩せる諸學說を參酌し實際的に組立てられたる必須要學科にして料理裁縫と共に櫻楓會の調査研究せる物也

此他應用兒童研究、衞生學、法制大要、應用社會學、料理、裁縫、科外講話等何れも必要なる學科也

發行所 東京小石川區久堅町百〇八 精美堂 振替口座二八三八

女(ぬの五)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



文藝倶樂部

第拾六巻 第拾壹號

八月一日發行

菊判本文三百廿頁 口絵精巧木版數十度刷錦繪 婉麗なる三色版其他寫眞版數頁

正價二十五錢 郵税二錢五厘

明治文壇の耆宿として、盛名赫々たる鷗外氏本誌の爲め特にエドガア、アルラン ポウの傑作を譯す。題して『うづしほ』といふ。其名の示す如く、互に相ひ愛する兄弟が一朝見るも恐ろしげなる渦巻に捲き込まるゝ、いとも面白き物語なり。巻頭此の雄篇を得て光彩陸離たらむ。若し其れ次ぎに載する三昧氏の『新一つ家』及び醉夢氏の『養子』に至りては、其の奈何に波瀾に富み、其の如何に讀者の感興を惹くやは、茲に贅するまでもなし。最後に田村俊子女史作の寫眞劇『やきもち』をあぐ。舞臺の經驗ある女史が新作の脚本は、劇界の渇を癒さん！活社會、演藝界、長廣舌其の他全紙の活躍凄じからむ殊に

文藝倶樂部が毎號掲載する講談は、從來餘白に乏しきより勢ひ充分に掲載する能はず、看客をして常に蛟龍の片鱗を見るの憾みありしが本號より面白き長講談を掲載する事に決し、第一番に讀切新講談『夕立勘五郎』を收む、夕立と呼ぶ力士が任侠の知友の爲に讐を復する、血あり涙ある物語、其の間に現はるゝ各人物、悉く是れ講談界の第一流たる伯山氏の舌端に上りて、活躍せん。其如何に面白きか、希くは購讀の勞を吝み賜ふ勿れ。



東京本町

博文館發行

女（ぬの六）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



第十卷 第拾一號 八月一日發行

菊判本文百廿八頁
口繪 寫眞版澤山
正價拾錢 郵税一錢

（口繪）

▼お月見（表紙） 小泉 蕭堂
▼湖畔（口繪） 鏑木 清方
▼涼しき眺め（口繪） 河合 新藏
（寫眞版）
▼仙台少女會▼湖上のながめ
▼誌友の面影▼女學校寫眞

（記事）

●少女の歌●お伽小説 鶯塚（巖谷小波）●高輪だより（巖谷小波）●少女小説 故郷（沼田笠峰）●靴のかゝと（佐倉桃子）●少女小説 午後二時（はぎ女）●夏休み（永富小翠）●赤船の少女（松美佐雄）●柿本人麿の歌（佐々木信綱）●少女小説 宿の畫（松井ゆり子）●少女小説 幼馴染（西村猪山）●ねむの花（高橋淡水）●厄介娘（竹貫佳水）◎少女會館



東京本町 博文館 振替口座東京二四〇番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

櫻友會內 手藝普及會編

共立女子職業學校

女子手藝講義錄

會員募集

壹ヶ年修了

壹ヶ月會費 僅に金參拾錢（一ヶ年）金參圓廿四錢（半ヶ年）金壹圓七十錢

今や入會の最好機

今日只今速に入會あれ

婦人の家庭に於ける理想的講義錄

毎號鮮明なる圖解入

毎月一回發行

講義課目

裁縫科（和服洋服）編物科（各種）

組糸科（各種）刺繡科（和洋各種）

袋物科（各種）造花科（花卉果實）

割烹科（和洋料理菓子製造）細工物科（撮細工、綿細工、

瓶細工、裁縫細工、押繪細工、接物細工、）手藝用圖畫科（用器畫、配合、運筆、

寫生、圖案）手藝教授法（各種）其他課外講義

東伏見宮妃殿下の御愛讀を賜ふ

內容見本 無代進呈 入會規定

入會申込所 東京日本橋區 大倉書店 振替東京二三八番 電話本局四一四番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女店員評判記

川瀬涙子

此頃方々でよくクラスメート評判記が出ますのね、何の？　私にもですつて？　眞平よ文子さん、みいんな何々令孃、何の誰令夫人だなんて爵位だの學位だのと長い肩書付の人達ですもの落ぶれた今の身には癪ですの、それに皆御得意様なのでせう、お客様の評判なんかしては失禮ですわ、……アラ眞面目な顔してつてお笑ひなさるのホヽヽヽですから矢張り今は今づれで朋輩の者の事でも申ませうよ、先づ一番古株の

○古川おまつさん

文子さんも御存じでせう？　○○賣場に居る三十位の人を、……さうよ餘り美しい方ではないけれど……彼の方が抑々女店員の元祖なのよ、始めて此の店で女を傭ふやうに成つた時一つ橋の女子職業學校校長の紹介でお入りなすつたが此の古川さん、あともう二人ありましたけれど中途でやめてしまつたのですつて私なんかも其人達は知りません、今日までゝ十二三年になるとかよ、そんなに永く勤め續けておゐでなさる位ですもの、第一忍耐が强く惡お世辭なんか仰いませんがお客扱ひも叮嚀で私共にも大變優しくして下さいます、何處までも親切な方、商賣の事にも明くてヤレ早稻田出身で御ざいの、慶應を出ましたのと云つてる昨日今日のホヤ／＼さんなんかとても及びませんわ、理窟ばかり巧者でも矢張り經驗が大事ですもの、珠算の達者な事は店内でも評判唯、今迄に他人から指一本さゝせなかつた程あつて、男店員とは笑談一つ話さないものですから其方の人が餘り善く申しませんわ、ホヽヽヽ但し若い人達の事よ「あのお婆さんか」なんて云ふのですもの、重役の信用の有るとは勿論です、

○伊藤おしげさん

生粹の江戸ッ子肌、口先では隨分思切つた惡口なんかもキビ／＼仰るけれど腹のない人よ蔭口なんて卑怯な事は一切なし、お顏も一寸垢ぬけて眉が目立つてい格好、そしてお髮なんかの意氣ですこと、エ、無論

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

束髪ですわ、日本髪は許されないのですもの帶の結びが大變お自慢なので私なんかも時々結んで頂きますの三筋の横縞に白献上の帶の時なんかよく似合ひますよ素的ですわ、…今度御來店の時數へて上げませうね私のすぐ隣りの賣場ですもの、…オヤ私が此頃大變意氣になつたのは屹度其人にかぶれたのだつて？…文子さんも餘程お口が惡くおなり遊ばしてね…マア喧嘩は止しませうね、…それで此の人は食べる事と芝居とが道樂で梅園や梅村の上得意ですつてネ、、、さう云ふ私も廿六日の晩（月給日の翌日）なんかはお供いたしますの、芝居は重に舊派の方で歌舞伎と市村座は毎月大抵缺かさぬよし自分で云つてゐますわ、『私は芝居が見度いからかうして勤めてゐるのよ』つてお年は二十三、

○井上お八重さん

三階の方にお居でゞす、未だ半年にも成らない位な新らしい人、二十六とかで何でも夫があるらしいの、でもしきりに隱してるのよ、可笑な方ね、思切り派手づくり二十歳位の方といつもお揃ひの着物や帶、だつてちつとも似合はないの、何しろ色が黑くていやに眼ばかり光つてゐるのですもの、ですから一寸見は如何にも底意地がありさうな御面相ですのしかし案外氣立は優しいやう、餘程方々歩いたやう新聞の婦人記者もしたと云ふし、先年の博覽會當時には○○館で見たと云ふ人もありますの、此店へ入る前には家庭教師をしてゐたのですつて、文學に餘程趣味があるらしく自分も一寸筆がたつやうです朝夕往復の電車の中でも屹度袖珍の詩集か何かを開いて途中で人が挨拶しても氣が付かない位、夕方に成て仕事が終るのを待ちかねた樣に緣のカーテンの蔭から上半身を出してぢいつと日の入る方を眺めて詩を思つてなさるの、も少し美人だつたら…とは下から見た或る口惡い人の評

○村田おつねさん

女子商業學校卒業、肥えて丈の小さい人、稍々赤いし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かし多い毛を油氣なく束ねて、四六時中髪ばかり氣にしてる割に、いつもモシャモシャしてるのよ、眼が小さくて前歯が少々出るので誰が奉つた御名かモンキーさんと申上ます……エ、御當人もよく御承知、モンキーさんと呼べば御返事なさるのですもの、本當に意地のない人、だから子供達にまで馬鹿にされてゝすわ…御年は……二十五とかですけれど其の通り無邪氣な位ですもの二十一か二にしか見えません、……ホヽ德な方だつて仰るの？　ホヽ全くですわね……それで理



松島蓬萊島

想が高いのよ、學士か實業家ですつて、小商人なんかいやと云ふですわ、ホヽ、蟲がいゝつて？……ですから未だに老嬢ぢやありませんかホヽ、尤も其れ許りでもないのでせうお父様はなし御兄弟が多いものですから他の人達のやうには身の廻りも派手になさらずかうして勤めてゐらつしやるのも御母様の手助けですわ、人の家つて本當に種々な都合のあるものですからね、マア餘計な人様の御世話に頭痛を病むのは止めませう、御當人は割に呑氣よいつもにこ〳〵して心配な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んてちつともなさらなさう、文子さんぢやあ無いけれど本當にとくな人ですわ、

○沖津おいくさん、

陸軍大尉未亡人、日露戰役の折旅順で討死なされし由またうら若いに御氣の毒ですわ、二十二の時お死別なされたのですつて、おつくりと云ひ御樣子といひ極く地味な品のいゝ奥樣らしい方、男の子が二人おありなさいますのよ、時々店へ遊びにおいでゝすけれどお母樣似の愛くるしいお子さま、少しも高ぶらないで淡白とした氣質いつも面白い事ばかり云ふては皆を笑はせなさるの、横濱のフエーリス出なので外人向の賣場に御ゐでゝす上の人にも下の者にも一樣に公平な方お身體が弱いので缺勤が多いため上役の受けがお惡いのは殘念、しかし無理をなさらぬやうお二人の子が成人なさる迄は大事なお身よと私はいつも申て居ります。

○深田お靜さん

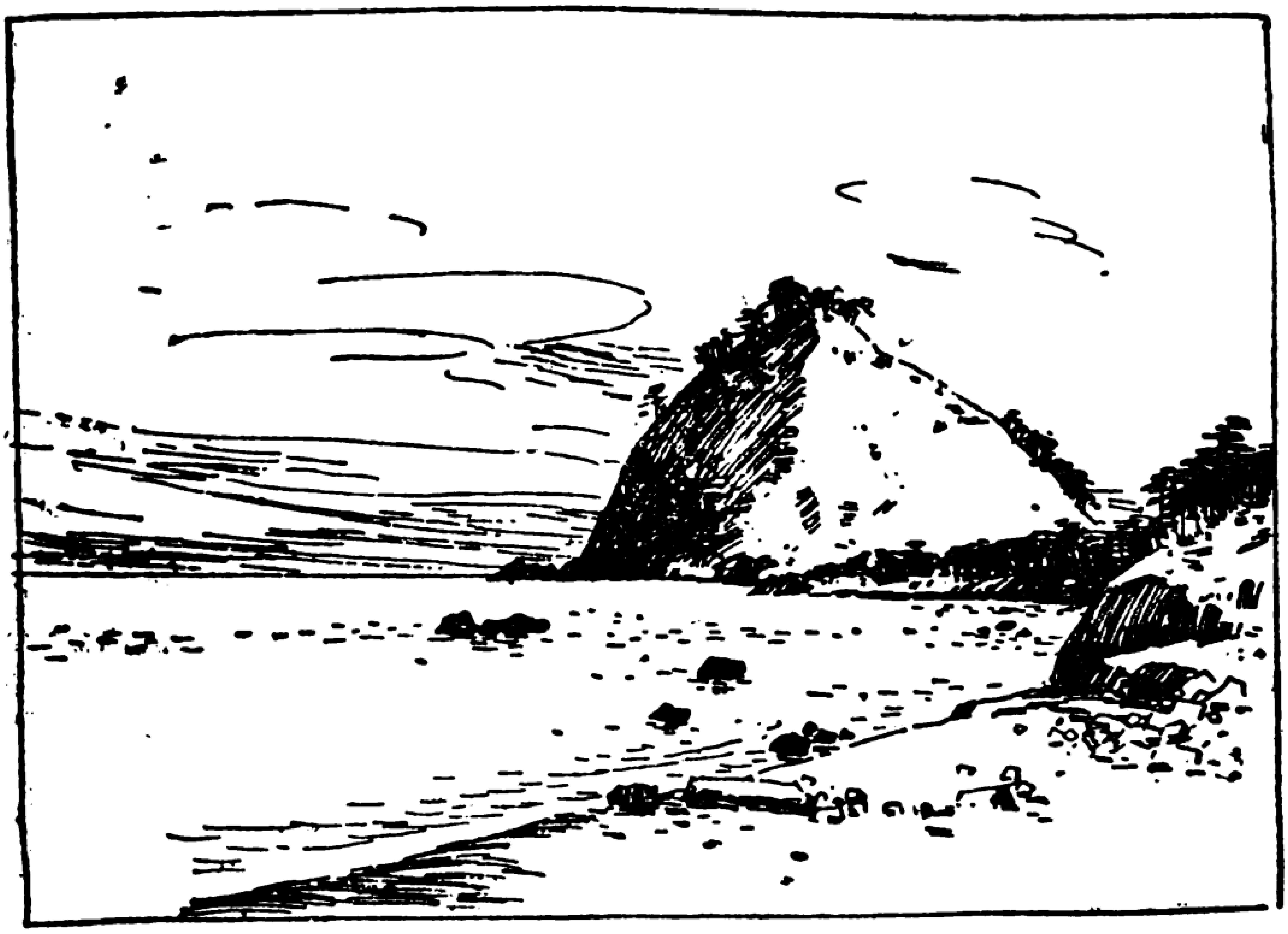
乙女十九の花盛り、すらりとした撫で肩の後姿も亦一しほよ、店内一と聞えた美人ですわ、瓜種子顔の鼻筋通つて睫毛の長い張りのある眼を伏目勝ちにした落付いた方、文金の高島田がさぞと偲ばれます、しかしおしい事には愛嬌に乏しいため、お客樣の中には「あんまりつんとしてゐるわ」なんて仰ることがあります、でもまた若い殿方は不要なものでも一寸買つて見度くなるんですつてホヽヽ世の中つてよくしたものですわね、……係長さんも少なからず思召しがあるらしいのよ、……イヽエ御當人は一向平氣なもの、誰にも同じにお交りなさる當り障りのない人、内氣なしとやかな十九世紀式の娘さんですわ、

○齋藤芳江さん

此の方は前のお靜さんに比べて全く當世式ですわ、比較的順境に悲しみと云ふ事を餘り知らずに育つた淸い心と美しい姿をそなへた人、丸顔の少し癖のある眉とパツチリとした眼、此人は星のやうな瞳を常に稍ゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上の方に胡坐らせるのと頬肉と口元との間に泣いてるやうな又笑つてるやうな一種の表情が深く人をチャームしますの、若し店内美人の番付を作なら私はお静さんと此人とを兩方の横綱に致します、尤も眞の美人と云ふのではないのですけれど又お静さんの及ばない宜いところが有るのですもの人の好みですわ、丁度菊と薔薇のやうとでも申ませう何と云つても二十歳前後が花ですわ、小柄のせいか十八位にしか見えませんけれど本當は二十歳ですつて、快活で人なつこくて私



伊豆名勝砂吹島

のやうな者でも姉さん〳〵つて慕つて下さるのよ、可愛いゝ方、某官立女學校を卒業して間もなくお入りなすつたのが一昨年、其頃から些とも變らないのくせのない毛を例の上原さんのルイザ卷とか云ふのにしてそれは〳〵額ひつき度樣ないい格かう、リボンや花かんざしは大嫌ひ、時々金屬製の横ものなぞをあつさりとお召物は思切た派手な好みでも其れがよく似合ふのですもの、お納戸地の矢絣に濃紅色の山吹織を上の方に大きくふつくりと結びなど總て品のいゝ高樣風ですの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不斷にはおくびにもお出しなさいませんが、必要にせまれば會話も一寸なさいます涼しい聲で

○高橋おときさん

容貌十人並、旦那樣が文學士なのを鼻の先でぶらぶらとぶら下げて矢鱈に學士夫人風を吹かせる人、其れ程お威らい方の御臺樣なら何も女の身ではお勤めなんかなさらずともお宅に居て下婢を相手にマダム振つて御出でなさる方がいゝわ、ねえ文子さん、さうして眞實に見え坊つたらないの、着物なんかも毎日のやうに取りかへて、それだつて切りがありますわ、一週間目位には又舊のに歸ります、人目を引くおつくりが好きで舊式に庇をつき出し眞紅か眞白の造花を左にさして、眉もかいて御ゐでゝすの、麹町の某女學校出、なか〳〵世才に長けて上役の人に取り入るのは手腕は一寸眞似が出來ません係長なんかの前では顔の雑作のくづれるほどにこついてかゆい所へ手のとゞく程の取扱ひ、それと客を外らさぬのとは妙……エヽもう其れは隨分橫柄な客なんかに會ひましては私なんか未だ苦勞が足らないからでせうがこんな事してゐればこそ、かうも侮辱されるのかと腹立たしいより一層悲くなるのです其所へ行つては此方なんかの如才なさ些つともふくれず……但し頬の邊りは常から肉體たつぷりの方……うまく機嫌を取て御出でゝすわ、其の變り陰へ廻つてはお客樣であらうが何であらうが隨分烈しく惡口をなさいます、係長の信用は大したもの、吩咐口されるのを恐れて我々一同敬遠主義よ、

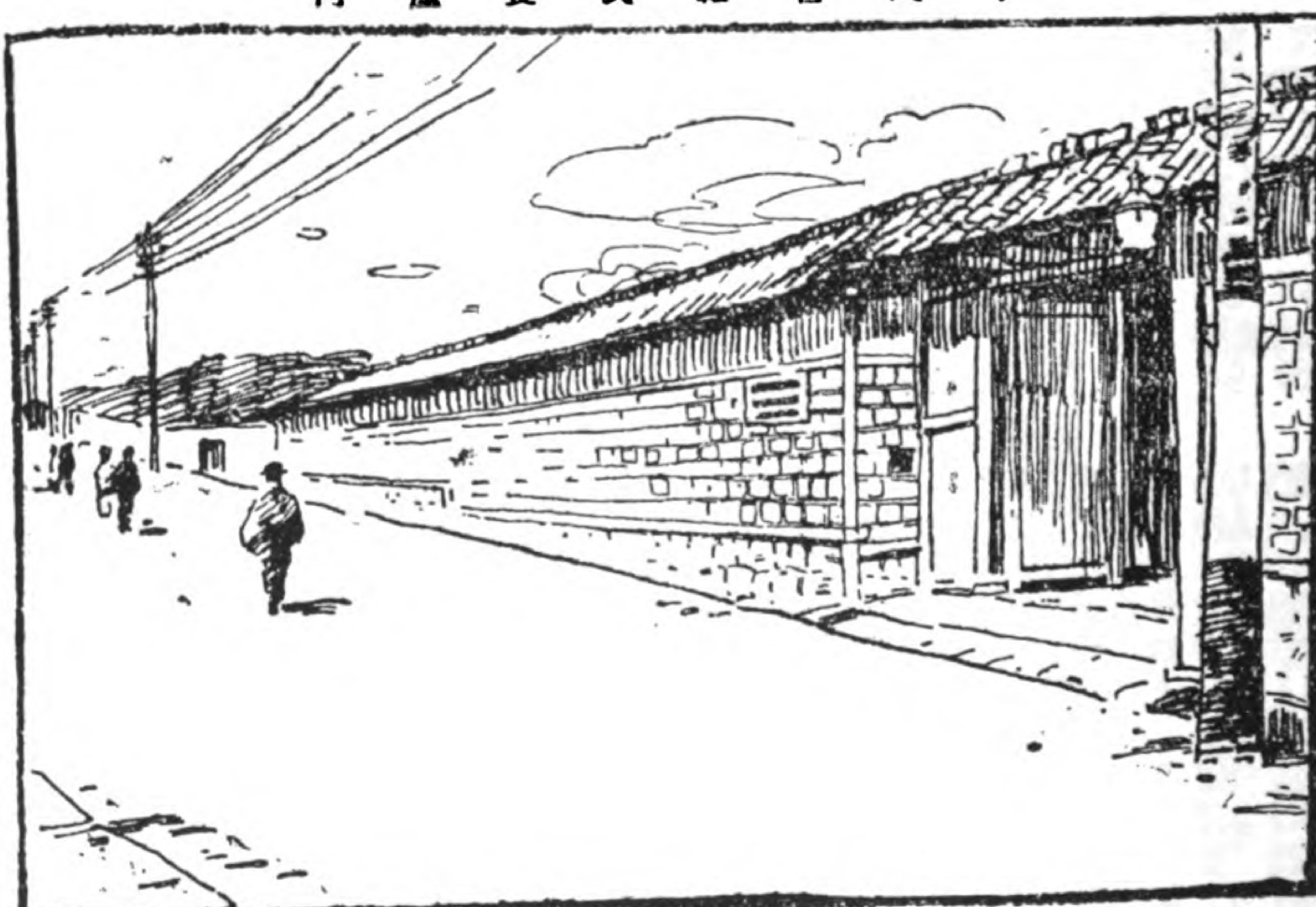
○藤田おすみさん

何れか弱い女の身で勤めでもしやうと云ふ人達は大抵逆境の人でせうけれど私は何故か此の人が非常に憐れに思はれてなりませんのよ、痩せた〳〵血氣の惡い私の此の赤い頬肉を少し分けて上げたいやう、身體の弱いのを無理して御ゐでなのかお家の事で御心配なのか何時も沈み勝ちで夕方なぞ仕事をすませて後私共の三々伍々こゝかしこに登つては高聲に笑ひ興じてゐる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時にも此の人は唯一人小暗い蔭で何考へてか涙ぐんでお出でなさる事さへ有りますのよ幼い時父様に死別れ、今は母様と妹さんと三人切りの淋しい暮し兄様が有つたさうですけれど五六年前から行衛知れずになり母様は長年の心労に今は病の人となり妹さんが日日看護やら家事向やらを一切一人でなさるゝお澄さんは朝割引の電車に間に合ふ様に出お歸りは八時過ぎますとか、其筈よ、歸途は電車にも乘らないのですもの、お宅が赤坂ですから一時間半もかゝると云つてますわ、朧に霞む月かげ踏んで齒の曲つた妻下駄を

十八世紀式長屋門



重想に一日の勞働に勞かれた足を引きずつて濠端の薄暗い道をたど〳〵と行く様子のいたいたしさ、私は時々電車の上からお見舞申しつゝ云ひしらぬ、悲痛を感じますのね、文子さん此の方はね、光明にかゞやくべき花の盛りにこゝに五年雨の日にも風の日にもよくこの御辛抱が續きましたのね、大抵の方が月給日の翌日は反物や小切れを屹度買ふ事のやうにしておゐでゞすの……エヽあなたからして勤めてるのは自分の着物の一枚もふやし度と思へばこそですわ中にはさうでもない人も有りませうけれど私なんかは全く

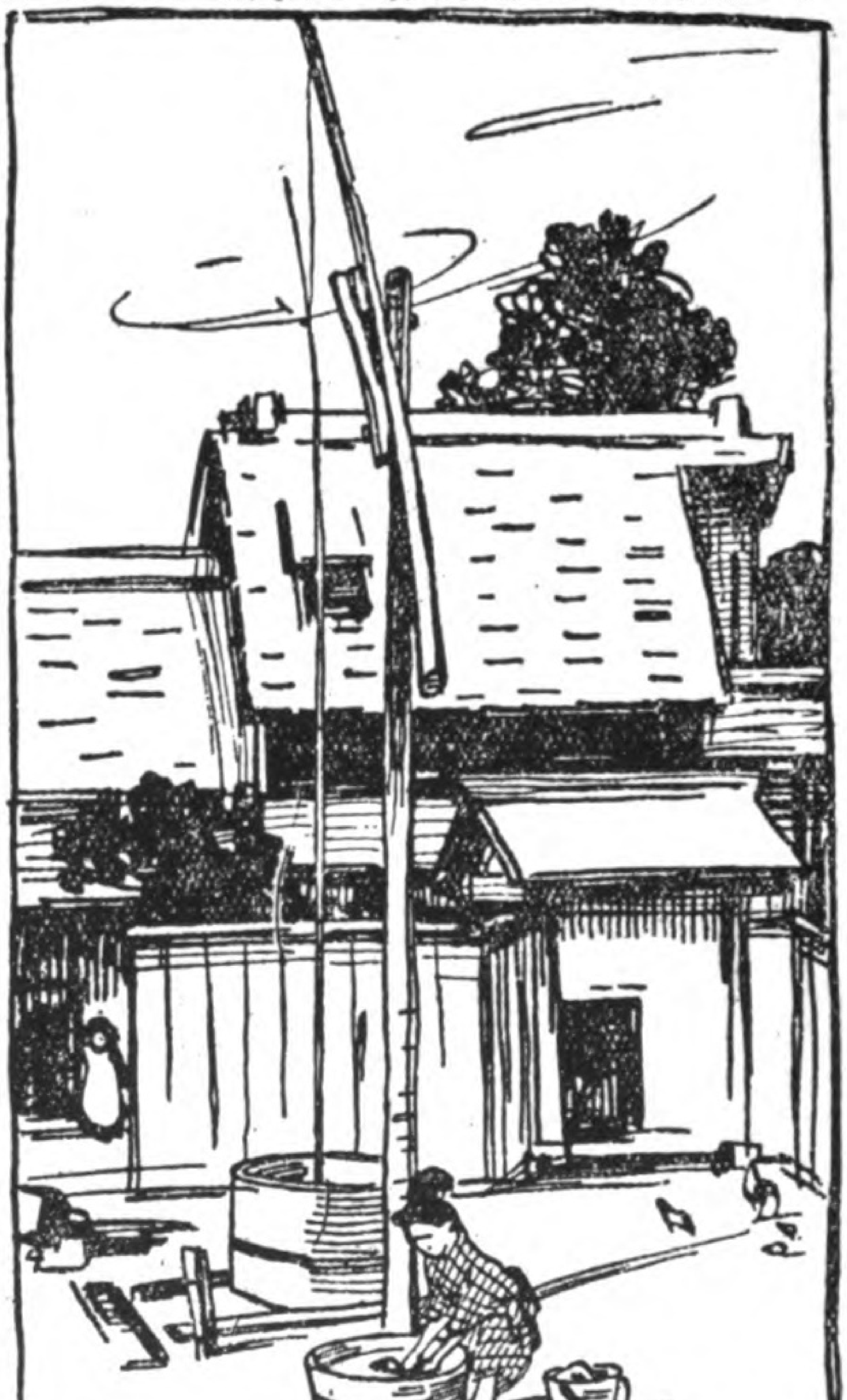
それよ、ホヽヽ、ですから係長さんがい「女の人は折角汗水流して得た金を又店の奉公に仕ふのだなあ」つてよく仰る本當にそんなものですわ、ホヽヽ、でもお澄さんばかりはさうでないのよ、一枚の着物でも丹精して幾度でも召すのですもの、そして人の上は決してうらやまない丈猶更いぢらしくてなりませんの―　餘り鬱いでおゐでの時等何處かお惡いのと伺つても、いゝえとばかりでも屹度無理してお出なさるのよ、お顏色なんか全く惡いし若い人のやうな生々した元氣は藥にしたくもないのですもの、……何處の賣場に居るかつての……賣場ではないの、帳簿の方をしておゐでなさいます云ふまでもなく事務には忠實で年々出世してお居でゝす、私は此の方の爲に何卒行末榮えあるやう切にいのります、

○河原お柳さん

くつきりとした色白の、黒目勝ちの眼に何時も變らぬ微笑をたゝへていゝ人、お客樣は、何て可愛いゝ顏でせうつて見とれて行かれます、けれども文子さん、外面如菩薩内心如夜叉よ、自分から打とけてそれはそれは優しい猫なで聲で人をなつける魔力を持つてるのよ今でこそ皆が此の一種の怪聲……ホヽ、怪聲が可笑しいつての……だつて全く怪聲ですもの、……恐ろしいもとして誰一人しみ〲語る者も有りませんけれどうつかりつり込まれて打明けた話しでもしやうものなら根に葉におかざり付けて云ひふらされますの、此の人の爲には隨分泣かされる人がありますわ、其れで未だ入つてから一年とはならないのですよ末が案じられますわホヽヽ、先達も此の人のため退かされた方がありますの、本當にお氣の毒でしたわ、全く寃罪だつたのでしたけれど一時あんまり評判が高まつたので遂に女の身には忌はしい汚名のもとに退かれました……エヽ、無論例の怪聲が云ひふらしたのですわ、それだのに表面では自分はどこまでもいゝ子になつて其人と別れる時なんか空々しい半巾を顏に當てゝ泣きながらさぞ口惜しいでせうの、同情するのつて、そしていつまでも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二人は姉妹でゐませう、ですつて、ホヽヽ……よくもそんな事がね、……其方の……お秋さんつてね之れも内氣な優しい人でしたわ、今は青山邊に母樣と二人で辛い浮世を蔭のやうにさまよふて御出のよし、二三日前に古川さんがお尋ねなすつたら大層喜びなすつて終日語り暮したと云はれました、其時母樣はもうめつた人の中には出されません恐ろしい世の中ですつて、本當ですわ、で此頃はお宅でお針をしてなさいますつてお可愛想ぢやありませんか、其後のお柳さんは我々の間に全く信用がなくなりましたの、しかし上にはへつらつてずん／＼昇級しますの、今時は此の樣な人が返つて成功するのでせうか、宛然朝日の勢、近頃は重役にまで取り入つて信用を得、係長の腰巾着、何でもお柳さんでなくては夜も日も明けぬといふ有樣、……アヲいやだ私嫉んでそんな惡口云ふのぢやないわ、文子さんも隨分ね、……然し此の樣に憎まれ口きいては矢張り損ね、いゝ加減にして置きませう、缺點だらけの自分の事は半兵衞さんきめ込んで矢鱈と人の棚卸しお柳さんにでもこんな事聞かれたらそれこそ一大事ォ、恐ろしい、桑原桑原

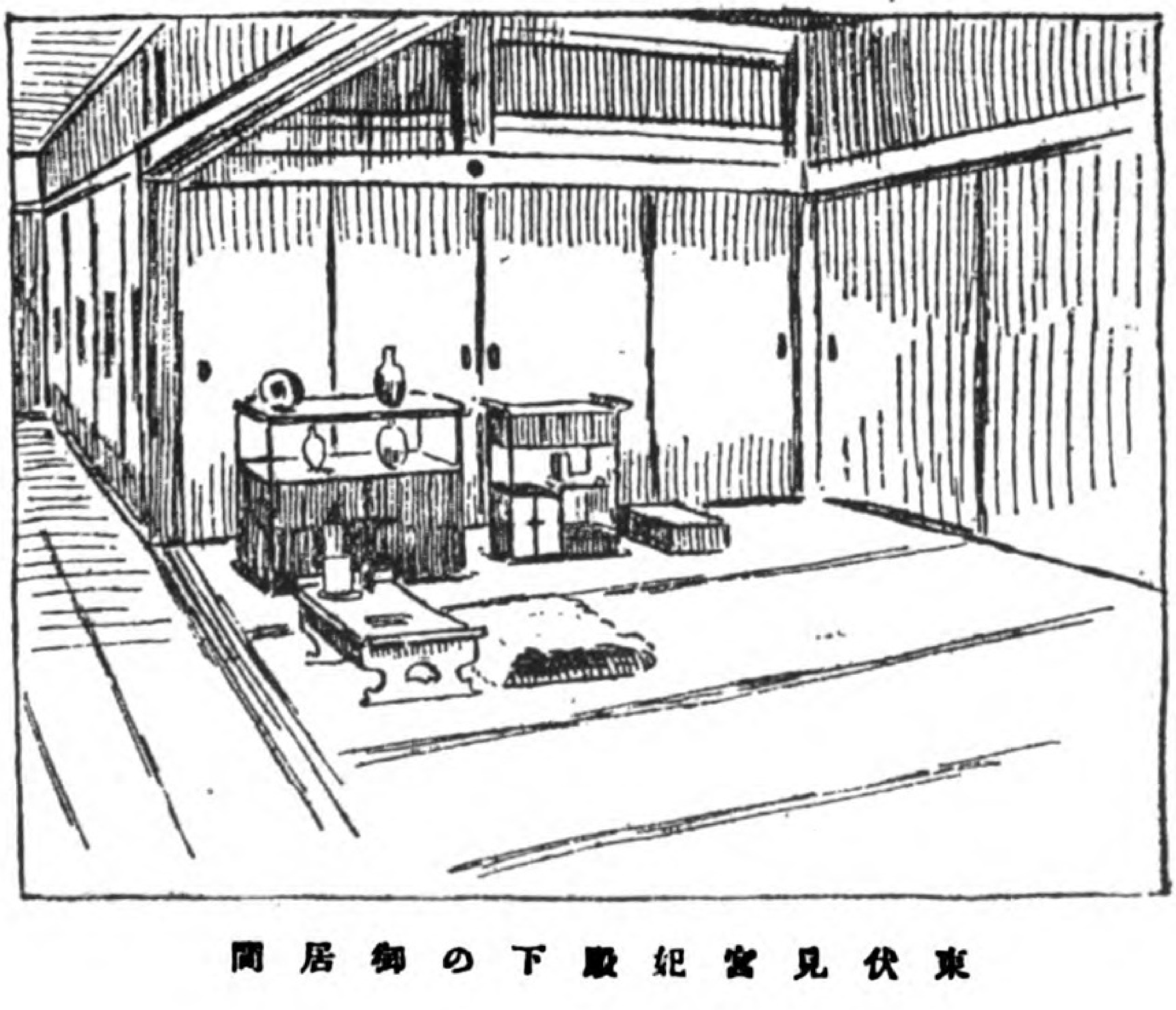


終りに臨んで此の人達を監督してる方を一寸御紹介

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いたしませうアラ演説口調ですつての、ホヽヽ、何でもいゝわ、

やがて五十歳になん〳〵としたお婆さん、頭の頂天に蝸牛殼をのせたやうな束髪、御自身に眞似が出來ないものですから、ヤレ白粉を着けるなの庇を出すなのつて八釜敷つてないの、……尤も重役からの命令ではありませうけれど……だつて虚榮の夢にあこがれる年盛りの私達、増して綾や錦をまばゆく飾つた中で花のやうな御客様を見てるのですもの薄化粧位ほどこして七難とまでは行かずともせめて二難三難でも隱し度う御座いますわ、今時は學校通ひの修業中でさへ眞白いお顔ぢやありませんか、アレ文子さん怒つたの貴女は別物よあなたの學校の方はさうではないけれどそんな學校もあると云ふのですわ、ホヽヽ……あなたも未だお若いわ、それは兎に角だからお婆さんの話せないかつて云ふんだわ、でも此の人に嫌はれた處で少しも困りませんの、たゞもう重役からの命令やお小言の取つぎ人に過ぎないのでもの、白髪の交つた鼻の赤い可愛いゝお婆さんと思召せ、オホヽヽ、又しても憎まれ口、それでは餘り人様の事ばかりを申されませんのね、私も此節隨分人が惡くなつたでせう、ホヽヽ、元は良い人でしたわね文子さん、ホヽヽ……



東伏見宮妃殿下の御居間

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鵠沼の半日

花散里

「何も御座いませんがどうぞ彼室で御飯を……、」

御母樣の御言葉に痛み入つてまたもとの御座敷へ戻ればいつの間にやら端近う御膳立が整つてお心づくしの御馳走のかずかず。

濱風がサツと松をかすめて通ふ。

松葉で炊いた御飯ですつて、さうさういつか鎌倉からゐらしつた伯母樣もガスのなんかとは味が違ふつておつしやつたのね。

「なぐさみに鷄を飼つてますの。今朝うみたての玉子ですわこれも嫂さんにさし上げたいと思つて自分で畑から摘んで來たのよまあどうぞ。」

再びまあと御母樣の御口添へに御遠慮なく御箸をとり上げた私は今日を待ちわぶ嬉しさに、二三日前から御飯がのどへ通らなかつた反動と、御加減上手な御料理との爲めに久々ぶりで胃の腑の栓おとし、お恥しいまでおきよさんを煩はせた。

えツ何杯いたゞいたかつて？ホヽヽそれはつかりは云はぬが花、アレ萩香さん密告なんぞ遊はしちやいや!!!



「海岸へ行つてみませうか。」

「えゝお供まして頂きたい、ぢやアおば樣、一寸遊んで參ります。」

連れ立つて出た二人はレース張りの日傘に光線をよけて、空氣草履の爪音ゆるく、一丁ばかりも歩いた頃萩香さんは足を停めて、

「あの煙草店ね、お優ちやんの家よ。」

なる程、はぎ、ピーコツクなどゝ和洋煙草の看板がかゝつて小綺麗なお店さき、私はいつも萩香さんのお作を通して得た鵠沼美人の面影を胸に浮べながらとほりがゝりに一寸内をうかゞふと店の室と奥との堺にその人らしい姿が見えたが再び見返る目にはもう映らなかつた。

あの評判の「松風」の舞臺、對江館の横手の細路へかゝればもう濵音が手にとる樣、磯の香にこがれる私の胸はたかくをどつた。

「妙さんや千賀さんはあの三階にゐらしつたのねえ。」

「あんなものいやですこと……、細谷先生ね、今此家にゐらつしやるの、もう學校は免の字ですけど」

穴賢、細谷大人、萩香さんの御正月日記にアンダア、ラインして赤インクのあとくどくどと、口はゞつたいこと書きなぐつたる報酬はテキメン、でも免の字とはチツトお氣の毒樣みた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いな……オヤまあ私とんだこと書いて、今度はこつちへ御鉢がまはりさうだ、口は禍の門、筆は禍の玄關、恐ろしや〳〵。

寄せてはかへす、波がしら波のゆくえのどう〳〵と、潮の香りが鼻をうつ。

兩人は今ししつとりと、汐にぬれた砂を踏んで立つた。此處名にし負ふ相模灘、をちこちの山にはさながら墨繪の名畫を見る如く、濱の午さがりに糸遊もえて、呼べば應へん沖の浮島、アレ〳〵島かげを白帆が走る。

「なつかしい磯のかをり。あゝ私ヴアヰオリン持つて來ればよかつた……」

「ほんとにねえ、ぢや兩人で何か……」

「夕陽うすづく春の夕べ
　磯邊に立ちて物を想へば……」

うたひ出づるパーカーの名曲、萩香さんのアルトに私のソプラノ、白波がゆる〳〵ベースを奏して。

仰げばほゝ笑みがほの美姫富士姫は、雪のころもに雲の帶、秀麗無比のその姿にはおぼえず崇高の感にうたれました。

瞳を移せばかなた江の島の、岩屋路、棧橋をゆきかふ人まばらに、片瀨の里も手にとる樣、あゝ片瀨、なつかしの名よ、

「私の從兄は片瀨の濱で逝きました。」

「え？　どうなすつたの？」



萩さんは瞳をあげてさも驚いた樣な御聲、私の言ひ樣が拙かつたもんで浪に呑まれたかとでもお思ひになつたのであらう。

　興わきて胸も痛まぬ一日あらば
　　春の浦曲を繪にして賜へ

こんなことを云つてやつたのをおぼえてますが、蕾筆もとらぬうちに亡くなりましたの、やつぱり胸の病でね……」

「まあまだお若いのに惜しいことをなすつたねえ、あの濱萱顏がお好きだつたといふのは其のかた……？」

いたましげにまつげをぬらしておきゝになる。

よする荒波雪と散つて白砂に印するゴム草履の跡を女浪、男波があらつてしまつた。

別れて歸るのが惜しい樣ねえ、さらばよ、海よ、さらばよ、濱よ!!!　海面わたる潮風をうなぢに浴びつゝつばな亂るゝ細路づたひ、瞳をめぐらした足許に、濱もゝいろの濱ひるがほが一輪。

　おもひでにまたよみがへる面影の
　　笑みか淋しき野のかへり花

丁度縫子さんも學校から歸つてゐらしつた。御年の割には稍小柄な、なるほど先生がたが引つぱり合つて、いゝオハナに遊ばすも無理ならぬ……。

「オヤ〳〵もう行つてゐらしつたの？　さアお茶でもめし上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御母様がうづたかく盛り上げた御煎餅の鉢を、お手づから寄せておすゝめになる。

「綾さんこれね、お優ちやんが燒きますのよ、さア御一緒に食べませう。」

鵠沼美人の御煎餅、道理こそ味がまた格別、爪の垢よりやゝ、きゝめも多からうと慾張りな私は思ひ切つて澤山いたゞきました。

萩香さんは私の持つて行つた二葉亭全集の中の「平凡」を一心に讀んでゐらつしやる。

「どうも何かよみはじめますと際限が御座いませんでれえ、」親類などへ伴れて參つても戸棚の中に古新聞でもはつてあらうものなら、最初は遠くからそつとのぞいて居りますがおしまひになると戸棚の中へ、首まで突込んでしまふので御座いますよ。」

「母樣いやアよ、そんなことなんか。」

「ホヽヽ、ですからあなた、女學世界が屆りましてもね、裁縫にかゝつて居ります時には、默つてとり上げて置くので御座いますよホヽヽヽ。」

「もう澤山ですつてば、母樣….。あ、綾さん好いとのおめにかけませうか。」



しとやかに立ち上つて、やがて御居間から抱へてゐらしつたのは先刻にらんで置いた蒔繪の手文庫。

君の御作に憧れて、どうぞ御交際が願ひ度いなどゝ讀者諸嬢からの月並なのは別として、あの評判の柳田樣、沼川樣、さては松村樣やら元祿姉さんなどの御文がらが山と積まるゝ。三保の松原、清見寺、清見潟のあけくれに詩想ねります花輪樣とやらの長い御ふみ、それも水いろ封筒に入つて交つて見ました。

縫子さんは御寫眞の入つた手箱を抱いてゐらしつた。

「これが石内の富枝さん、今度女子美術學校へ入學なすつたのよ。」

御召の袷に白衿かされて、まあお美しいかたね。

「これはどなた？」

磯馴の松に身をよせて紋羽二重の羽織に結綿島田、意氣なカビネを手にとつてうかゞふと、

「鵠沼美人」とたゞ一言、縫子さんが笑つてゐらつしやる。ほんとにお優ちやんて目元の可愛いかたよ、あまりの御もてなし上手に遂うつかりと長坐したのを悔いつゝ、惜しき御暇告げまゐらすればしきりと皆さんで御止めになる。

おゝ私とても決して歸京たくは御座いませぬ、ならば此のまゝいつまでも、君の御側に百とせまでも….と御名殘惜しさは

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

胸一ぱいながら、儘にならぬが浮世のならひ、あゝそれも叶はじ……。

「ではまたどうぞ御越し遊ばして下さいましね、御目にはかかりませんが御嬢樣にもどうぞよろしう。」

名物の御煎餅を澤山紙包にして下さりながら御母樣がおつしやる。萩香さんは藤澤まで送ると云つて小鬢のほつれをかき上げつゝ……。

私は云ひしれぬ泪が瞳をぬらして御禮の言葉も咽喉を出ず、默したまゝに洋傘とつて下り立つた。

見おくる人かげ、見かへるふたり「さまよひ人」を口ずさみながら夕映美しき野路をいそぐ。

江の島からの歸途であらう來合せた電車は人で滿員で有つた。

「まあ〳〵好い風景だことねえ、丁度芝居の書割みたいぢやありませんか。」

意氣がつた總髮の御内儀さんらしいのが一人舞臺。菊五郎よか羽左エ門の方がどうしても人氣があるわ、とか何とか得意らしく話すのを默つて聞いて居るうちに早くも藤澤へ吐き出された。

切符を切つてプラットホームへ出ると上り列車が此驛へ着くまでに丁度七分、今更ならねどお別れのもの悲しさに胸ふさがるゝ。



萩香さんも同じ想ひか瞳を伏せて力なさゝう、あゝ迫り來る時刻の鐘よ、いかなれば斯く我等をむごく裂かんとはする…?

かくて此の身獨り遂に列車内へ自由な捕虜、窓から半身乘出して、

「いろ〳〵御世話で御座いました、ではなるたけ早く御上京なさる樣にね。」

「え、その内屹度伺ひます、御手紙を直ぐね……。」

かたみに交はすかたき握手、其處に君を殘したまゝ列車はしづかにゆるぎ出でた。

さらば君!!!　いざさらば君!!!

あまりに果敢なき別れかな。

君や在すらむ彼方の山陰、胸にたゝみしかず〳〵の、半ばをさへも語り得で本意無くも袂わかちしうら悲しさよ、待つ間は永く、など今日の日の……。

おめもじ叶ひし嬉しさよりも、別れし人のたゞなつかしき。

入日を浴びし木立つゞきは、いつしか夕闇にこめられて、耳に殘るは濤の聲、君がさゝやき。

永久に、まさきく在はせ、なつかしき君よ……!!!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

割烹夏期講習會に這入つて見た記

覆面記者

△始業前の十分間

半分は講義室半分は實習場となつてゐる廣い料理科教室、光線のよくは入る新築の快い二階である。

講義室の正面黒板の上にかゝつてゐる時計は今し方午前八時を報じた。當方の人が始業前にするお掃除も先刻に濟んだ。定刻は來たのに先生はまだお見えにならない。講習生は大方もう揃つて只先生のお出でを待つ計り、一團づゝかたまつては談笑に耽つて居る。

ずつと並んだ机の横手、煽風器の乘つてる臺の上へ皆一樣に兩手を投出して同じ年比の方が五六人、本校の寄宿生の雲嶽女史（これは口惡の森さんがつけた渾名）もKさんも其中に交つて居る。

「隨分氣樂ですよ、試驗といつた處が四つしか無いんでせう……圖畫にや一番閉口しますよ。」

とKさん例の地藏眉の美しい瞳を動かし乍ら頻りに寄宿生活を話して居る。

隅つこの方に腰かけを三つばかり壁に押寄せて了つて、佐賀の私立高女の教師だと云ふ山田さんと本校の料理科卒業の田邊さんと安川さんと三人が低い話聲、物品置の棚に倚りかゝつて新聞見てゐながら聞くともなしにきくと西洋科の○○先生の教授法批評だ。また少し離れて實習場の方の窓際に三つ並んだ七輪の前の腰掛へ腰かけた方では

「レーセンズが四半斤、水洗ひしてゝすね。」

「カルロット、カルロットつて何でしたつけか？」

と二三人熱心に昨日の西洋科の筆記の復習を遣つてる

八時がもう八分も過ぎた。晩れたと思つたらしい態度で包みを小脇にそゝくさは入つて來た中山さん、まあ色白の頬に幾つも可愛い水晶の珠をくつゝけて。

「お早う、あゝ可かつた。遲れたかと思つて大急ぎで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遣つてきたんですよ」と私に聲かける。

「さうでせう。道理でお顔に澤山表標が出てゐますよ暑いでせう。」

「えゝ暑くつて〳〵。」

と例の仰山らしい調子で棚の上に置いた包みを解きはじめたが突然に

「白木さん昨日三好屋がワップルの燒型持て來て？」

と私に訊く。

「どうでしたか氣がつきませんでした。あゝ貴女昨日午後はお休みで被居つたわね。」

「えゝ三好屋と約束したんですけれど自宅から電話でもつて歸つて了つたでせう……今日持つて來るかしら？……」

中山さんはいつでも活々した調子の人だ山の手の奥樣にしては馬鹿に華奢で粹な處の見える、と最初の日から目についたのが日本橋の方に店があるといふので日本橋から通つてる私には何だか訊いてみたくなり、お店は何處？と尋ねたら兜町なんですよと云はれて成程と始めて合點がいつた。株屋の奥樣、年はまだ若い。二十五とはならないでせう。根津に近い櫻木町に立派な新築だとのこと、テキパキした江戸つ子的の人懐きのいゝ性質、此春の本校の料理科の出だつたとかで、講習會での大立物である。實習の經驗ある人が頭となり六七人づゝ一組となつて、板方、鍋方、洗方、盛方と一日づゝ交代してゆく中で、中山さんは丁度私の組の先導者なのだ。私等は此人によつて動く陣笠連に外ならない。

梯子段をバタ〳〵馳上る足音がしたので振返つて見ると、講習生の中で一番年のゆかないお勝さんをはじめ階下へいつてた三四人がどか〳〵と。

「いらしつてよ〳〵、さあ〳〵。」

とお勝さんが頓狂な聲を立てる後から

「先生がいらしつたのよ、今門をはいつてらしつたわ」

とこれも年の若い内田さんが大きな聲で、

聞くとあつちの隅にゐたのもこつちの端にかたまつてたのもどや〳〵と立つて、ノートと鉛筆を手に〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

足の高い机の前に立つた。机の前に並びきれない人は盤臺や物品置の棚が机がはりだ。

△氏名點呼

徐かな草履の跫音が梯子段を上りきつて了ふと室の入口に、俗に振付といふ年寄によく見る頭にされた××先生の逞ましいお姿が現はれた。女性乍ら現今割烹界の泰斗と仰がれて烏帽子つけて執る庖丁の何とかやら云ふ六か敷い式のそれから、俗に下つて煮出汁殻のでんぶの廢物利用法に至るまで、料理の一切奥儀秘傳あの



豐かなお胸に蔵めていらつしやるのだと思ふと自ら畏敬の念に搏たれるけれどこの先生中々如才がない。年功は有繋にと感心される教授ぶり、お高く止まつて先生ですよと澄ました處は毫末も無い。

入口に見えた先生の温顔は正面の黒板の前に表はれて、

「皆様お早うございます、遲刻いたしました。」

と叮嚀なご挨拶、皆一様に首を下げる。先生の後から從いて來た車夫はお肴のはいつてる桶を實習場の眞中の流しへ置くとすぐ出ていつて了つた。

「今日は擬拍したものを拵らへませう。」

と先生はチョークを把つて黒板に對はれる。

八月七日

さしみ皿
　ゐなだ
　　椿作り
しめあじ　　塩酢
みやうが
もどしのり
わさび
小皿
合しやうゆ　　しやうゆ　だし
深皿
魚がんもどき　　ごま油
とうふ
きくらげ　　ゆで
人じん　　ゆで
　ふくめ煮　　だし
　　おろし生が　　しやうゆ砂糖
わんもり
みじんどうふ　　だし　しやうゆ
　山かけ
　　もみのり
菓子
　ちう花　　玉子、さたう、水　メリケン粉、あん
あらこらくがん　　あらこ百目　さたう二百五十目

書出される傍から皆は鉛筆とつて寫出す。

「しめあじの下、鹽何てかいてあるの、烏渡あの方の頭で分らないわ。」

鹽酢よ。酢つて字よ。」と何處かで聞える。寫してると何時の間に這入つて被居つたのか、本校の舎監の小原先生が隅つこの例の机に對つて××先生の書かれるチョークの跡を見ていらしつたが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「出席の方をあらためます。河内さん、本田さん……」

と氏名點呼がはじまつた。



けて出てゆかれた。煽風器はくるくる廻り出した。×

×先生チヨークの手についたのをこすり落しながら、

△鉛筆の音

氏名點呼も終つて小原先生は教壇の上の煽風器をか

「おうつしになりましたら講義を初めます。まづお刺身はゐなだの薄作りですが、ゐなだは大きくなると名が變つてわらさとなります。わらさが又大きくなつて

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鰤、ですから極小さい時から順に申しますと、一番最初の小さい時は「わか」その次が「わかし」と云ひます。それから「ゐなだ」「わらさ」「ぶり」と恁う五種に變つて參ります。

夫れでお刺身に作りますには、いなだを三枚に下し片身になつたのを背と腹と分けて骨をとり、薄身に作るのでムいますが、總て白い肉のお肴は薄く作り紅い肉は厚作りにするのが法なのですから、是は皆樣お忘れにならないやうお書きとめに成つておいて下さい。」

鉛筆を握つて講習生は先生の一句も落すまいと一生懸命だ。先生はよく解るやうにはつきり〳〵云つて下さる。それでも筆記に慣れない人は大騷ぎで時々解り切つた事の質問なんかゞ起る。

「鰺は三枚におろして薄身に作ります。そして小骨を毛拔か何かで拔き鹽を淡然と振り、十分も經つたらば其鹽を洗ひ落しまして布巾で其水氣をとり、酢をあつさりとした中へ漬けておきます。これはゐなだの付合になるのでございます。

それから茗荷は小口から切つて水に冷しておき、海苔は燒いてあらまし揉んでおきまして、パラ〳〵としめす位に水を振ります。それと山葵が付合でお刺身の褄になります。

小皿の合醤油は、醤油八分にさめた煮出汁二分の割合で小皿に入れて出します。白い魚のお刺身は大根下しを用ひません故煮出汁を使ひます。又紅い魚には山葵はつけなくとも大根おろしは必とつけるものなのです……」

實習場の方の開放した窓から射込んでる日が段々に熱して來た。校庭の高い梢で蟬が鳴出す。靜まり返つた室内の一時はノートを走る鉛筆の音のみサラ〳〵と高い。

△お菓子の調製

深皿、椀盛のお講義もすんでおしまひのお菓子のに移る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「いつもお菓子は一種でムいますが、今日はお負けをして二種拵らへます。お菓子の餘計なのは皆様も贊成で被居るでせう……」

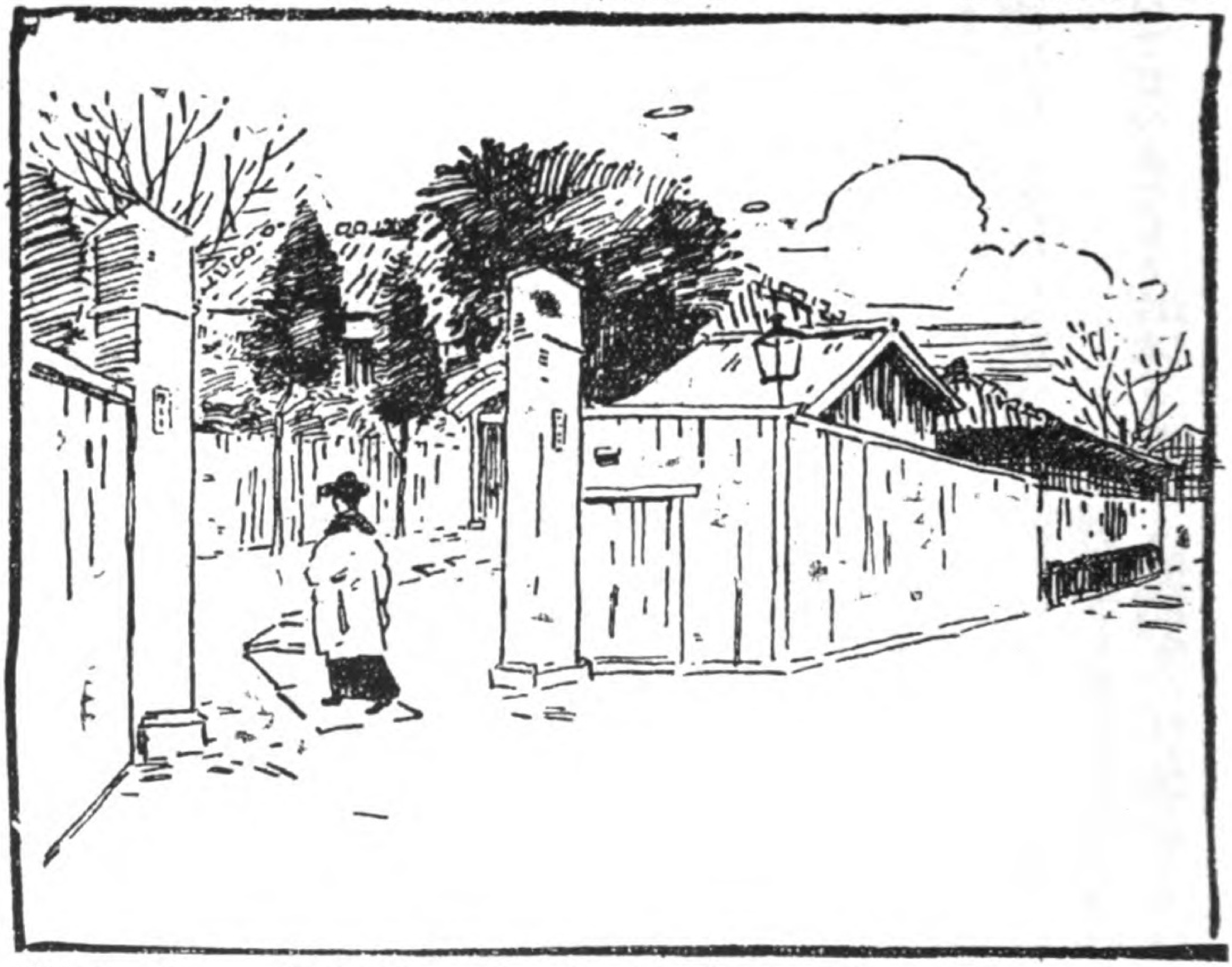
と先生笑ひ乍ら仰有ると、

「そら、前田さん……」

と大きな聲が中程の机に居た中山さんから出ると、皆は一時に笑つた。若い人達の甘い物好きは誰れしもだが、前田さんのは特別に許されてゐるからなので。

「ではお菓子の番は前田さんに願ひませうかね……」

と先生も溫和な笑顔をなさりながら、



「ちう花は小豆を五合程よく煮ましてから當り鉢であたり、大きなお鍋でも持出して裏漉にかけ上から水をかけて水漉に致します。さうして鍋にはいつた小豆の漉せたのを袋で絞り是が餡となるのでございまして、砂糖二百五十匁を百五十匁だけ先へ入れ能く煮ましてから又あとの砂糖百目を入れて餡に拵らへます。」

「先生さきへ砂糖幾らだけ入れますんですか？」と質問が出る。

「百五十匁でございます。それであとからのが百匁……皮を拵らへますには、砂糖百目玉子百目を擂鉢でよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

くすりましてから葛粉を八十目計り入れ杓子で搔廻し交せます。それから交つたらば燒板の上で圓く燒きまして其中へ餡を裹んで柏餅のやうに折返します……これがちう花でございます。」

時計がチン〳〵と九時をうつた。

「その次は荒粉落雁でございますが荒粉は種菓子屋へいらつしやれば何處にでもあります。初め砂糖を篩にかけましたら手水をうつて砂糖をゆるめ、色をつけるのならば此時砂糖へ紅を入れます。荒粉を交てよく捏てから型に入れておせば宜しいのでムいます。若し型をはづしてから濕り氣がありますなら焙爐か火鉢の助炭の中へ入れて乾かせばようムいます」

「お書けになりましたら早速かゝつて頂きませう……爼板の方、洗方、鍋方、盛方と皆樣今日のご自分の受持をお忘れになつちや不可ませんよ……」

と先生の聲を聞きすてに皆ぞろ〳〵とざわめき立つて實習場へゆく。

△三　好屋

實習場の眞中の大きい流しへ棚から幾つも爼板を卸して來て魚を作り初める者、水道の栓を捻つて小豆を洗つてるもの、拵らへてる魚を見てゐる者、ながしの周圍のその混雜してゐること。

校庭を見下す窓際の大きな爼板を圍んだ四五人は若布を刻んだり山葵を卸したり、人參やきくらげに手をつけてる人もあり、又遠く離れて盛臺の方へいつてる前田さんなんかのお菓子の連中は擂鉢を控へてちう花の皮にする砂糖と玉子を交せたのを交る〳〵擂つてゐる。

瓦斯七輪を捻つて鍋に湯を沸かし初めるものもあれば三つ並んだ大七輪の其一つをバタ〳〵煽出す人もある。皆が皆さう自分の受持の場處におつとしてゐる者は無い。尤も方々出者張つて見る方がよく覺えられるからでもあるからだが。

「中山さん何しませう?」と私がきくと、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「さうね、まだお鰹節がかいてないんでせう白木さん掻いて頂戴な――」

先生お一人では中々廻切れないので恁うして上にたつた人にきくと何かしら用を云付てくれる。

はいと早速鰹節をかき出した。

流しでゐなだを先生が作つて被居るので皆人の肩越に覗いて居る私もおかゝ掻き作ら時時鰹節持つたなり覗きに行つてみる。

此ゐなだの頭や骨は茹でゝこれについてゐる肉をとり魚鬆もどきの中へいれるのですから洗つて其方へ別にしておいて下さい」と先生が仰有つてる。



恁那忙がしい中でノートを持つちや彼方へブラ〳〵此方へブラ〳〵何もせず只覗廻つて烏鷺〳〵してゐる人もある。雖然何しろ二十四人と云ふ人數が働くのだから隨分賑やかだ。

暫くは雜然騒然として順序も何もなく小さな活動が續けられる。其とき室の入口に立つて

「今日は如何樣でムいますか。出刄に庖丁、唐饅頭の燒型――」と一とつきり立てつゞけに淀みなく持つて來た商賣物を竝べたてる聲がする。

例の三好屋だ。

「中山さん三好屋が來てよ」と頻りに働いてる中山さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んを呼んであげると「ハア有難う」と返辭だけで中々遣つて來ない。

「三好屋さん庖丁あるの」

「唐饅頭の燒型つて幾干？」

と二三人三好屋の處へいつた。

△盛り方

軈てお刺身も作れて了つたので流しの周圍の混雜が無くなると、洗方の人は白い割烹着を濡らし乍らどんどん汚れた物を片附てゆく。俎板の方がきまりがついて今は鍋方の人計りが暑さうに火の傍に番をしてる。手の透いた人は窓際の腰掛やなんかに吻と息をついてゐるが、扇子遣ふもの、笑ふもの、喋るもの、誰の顔にも汗が浮いて涼しい風欲し相な興奮した態である。瓦斯の方でちう花の皮を燒くのが初まつてるので交る交る見にゆく。前田さんは引詰めた束髪の生際を汗に泌ませ乍ら燒いてゐる。暑い火の傍に尚一層暑い人集り。

「今日のお菓子容易いのね、家でも直き出來るわね是れなら。」

と講習生の中に只一人純日本式の娘風した辻さんが云ふと、

「えゝ、だから二種なんでせう」とませた口吻でお勝さん。

先生は盛臺の上へ新聞紙を敷いて型につめた紅白の荒粉落雁を型から外して被居る。型の柄の方を持つて片方の手でとん〳〵と其柄を叩くと、ちやんと型の通りに出來た落雁が新聞紙の上に並ぶ。

「餘り酷く叩くと崩れますから、それに型につめるのを餘程よくつめないと崩れて了ひますよ。」と敎へていらつしやる。たゞ粉をつめて叩けば可いんだから容易いことだ私も手を出してみる。じきに幾らもできて了ふ。

「私にもさせてみて下さいな」と傍から手が出る三つ計りある型が手から手へと渡る。

「盛方の人は來て下さいな、お皿や何か出すんですか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら。」と中山さんが私のゐる盛臺の下の戸を開けてお皿だのお椀だの出す。あゝさう盛方だつたと氣がついて私も手傳ふ日本料と西洋料との器具を入れる盛臺は違つてゐる。煽風器の乘つてるのが西洋料の方だ。

「お刺身のお皿は彼方の俎板の上へ持つてつた方が可いでせう」と中山さんの言葉に窓際の大俎板の上へお皿を運ぶ、お椀や深皿は盛臺の上へ並べる。並べる傍から片方では布巾で切せと拭く。

刺身皿が一枚々々ずつと並んだ俎板の端には大皿に作られたお刺身が盛つてある。盛方の人はそれを銘々に箸持つて來て平等に皿にとりわける。ゐなだとあじをいい工合に盛つて褄を傍へ附合せる。綺麗な刺身皿が出來た。



片方魚雁もときの煮上つたのを大皿にあけて盛臺の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

方へ運ぶ。お菓子もできて來る。飯がんもときは深皿に、お菓子は淺い皿に、皆それ〴〵體裁よくとりわける、盛方の瞬時は中々忙がしい。やがてお豆腐の山かけがお椀に盛られてしまふと、これで盛方の役はすんだのである。

△實費金〇十〇錢也

で盛つたものを盛臺の上へ正しく列べて、

「どうぞ皆さんお取り下さいまし」と盛方の人が云ふと、大きい盛臺二つの上一杯に擴げられたお皿やお椀が、二つ減り三つ減り、見る〳〵一つも殘らなくなつてしまふ、そして此皆樣おとり下さいと云ふ前に出來上つた總ての一品づゝを「お加減」と稱して別に取除けておくので、初めの內何だらうと思つてたが、之は當校の主事の吉野先生といふ方に上げるのだと云ふことだ。

××先生は皆がお皿やお椀を運んでしまふと脫いでおいた羽織を召して、何時か又いらしつてた小原先生と例の机に對合つて腰かけて實費の計算がはじまる。小原先生がパチパチと算盤を彈く。

「アヲツ。」と云ふ聲で吃驚してみると、一人がお刺身の合醬油の小皿を傾けて白い割烹服の胸から膝へかけてかゝつたお醬油の汚染、講習生は運んで來た料理を各自携帶の器具へ移し入れて空いた皿椀を流しへ持つてゆくと洗方の人が又一頻り忙がしい目をする。水を扱つて涼しい代りには一番忙しいのが洗方だ。ノートも料理も藏ひ込んで直ぐ歸り仕度する人もあれば、お午のお行厨に使はふと、料理をお椀やお皿に入れたまま隅つこへ遣つておく人もある。かういふ人は午後、から、西洋科を兼修する人達だ。

實費の計算が出來ると××先生は挨拶して出てゆかれた。

小原先生は實費を黑板に書出される。××先生のかかれた獻立表の後の方へもつてつてチョークの字を濃く、實費金〇十〇錢也

洗方の人は一通り室內を掃除して雜巾をかける。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小原先生の處へ實費を拂つてかへる。人はずん／＼歸つて行く。午後の西洋科を兼修する人は殘るものもゐるけれど大抵は又午後出直して來ると云ふのが多い、私は家が遠いから滅多に出直しはしないが、歸る人を見れば時々羨やましくもなる。

時計を見れば十一時がまだ十二分許り前だ。今日は手がかゝらない料理だつたので割合にはやく濟んだ。

△正午のしづけさ

「今日の西洋科は何するんでせうね、手がかゝると又歸りが晩くなつて困るんですけれど。」と旋風器の前に陣どつた一人が傍の盛臺の上へ肘をのせて本をよんでた一人に話かける。

廣い室內に私とも四人しか居ない。先刻の混雜に引かへて寥々としたものだ。外出は自由だけれどこの日盛りに何處を歩いたとて面白いものでもない。午後一時迄の間がつくづく長いものに思はれる。

まだ十二時には二十分ほど間があるけれど、お晝食はもう少し前すまして了つた。讀書にも倦きたので窓際へいつてみる。

蟬時雨が降るやうにきこえて校庭の地は正午の日に烈しくやかれてゐる。三階建の校舍の窓硝子は眩しく輝いて、屋根の瓦でも鎧張の壁でも白いそれは强い光がクル／＼旋つてゐるやうだ。風が又些少もないので堪まらなく暑い、割烹服は脫いだけれども單衣が氣味惡く肌にまとひつく。

振向てみると、旋風器の前にゐる人は何時か新聞の上へ突伏してしまつた。寂しい程な白日の靜けさが大方夢を誘ふたのであらう。新聞の端が煽風器から起る生ぬるい風に煽られてパタ／＼してゐる。

本郷菊坂町の眞晝は日本橋の喧騷な濁つた空氣の中にゐる私の胸にしみ／＼した思を與へるほどの靜寂だ。階下へいつてる二三人がピンポンでもしてゐると見えて、笑ふ聲がしんとした校內にひゞいて聞えて來る。

今日も半日は恁うして講習會で終つたのだ。午後の西洋科は眞個にどんな事を今日はするのだらう・・・。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

コレラの樣な小兒病

◎此病氣は重に哺乳兒にはやつて、風も引かせず何とも爲ないのに急に子供が乳を吐いて來ます、夫が却々止りません、夫から下痢をして來ます、或は下痢が先へ來て後で乳を吐いて來るのもあります、其下痢の便は並々ならぬ臭氣を放ちますから、注意して居れば直解ります、或は乳を吐くと同時に下痢をするのもあります、兎に角非常に急に來て、性の宜いのは四五日も其儘にして居ますが性の惡いのになると病氣が發して程なく非常に子供が衰弱して笑ひもせねば物を遣つても取らずむづかり通しと云ふ有樣で、五六日で死んで了ひます、熱の出るのもありますが熱は出ないで酷いのもありますから油斷が出來ません、早く手當さへすれば宜いのですが、少し手後れになるとマアいかに手を盡しても駄目です、四五日も放つて置いては普通モウ迚も助かりませんから、鳥渡でも乳を吐き續けるか臭い下痢でもする樣でしたら、直ぐに醫者に見て貰はれるのが安全です、

◎此病氣の原因は多分氣候の爲だらうと思ひますが、未だよくは解りません、併しお乳を飲ませ過ぎて胃腸を害すると云ふ事が重なる一つの原因と思はれますから、哺乳兒を持たれる方々は此際充分に注意して乳を飲ませ過ぎない樣に、チヤンと時間を定めて與へる乳の分量を定める事が極く大切で、殊に夜分は出來るだけ乳を呑ませない樣にする事が唯一の豫防法です、母乳を呑んで居る兒よりも牛乳で育てゝ居る幼兒の方が餘計に此病氣に取附かれる樣だから、牛乳は充分に煮沸してよく消毒して少な過ぎるとも多過ぎない樣よく注意して與へる樣にして貰ひたいのです、

◎若し不幸にして愛兒が此病氣に罹つたら、兩親は殊に氣を附けて乳は平素の半分位しか與へぬ樣にし、粥汁などを與へて夫も極めて少量にする必要があります、吐瀉が甚ければ可愛想だなど〻云ふ念は我慢して全く乳を斷つて了つて其他何物も成るべく與へず唯藥で早く治療する樣に力を盡さなければなりません、（瀬川醫學博士）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氷に關する百般の智識

製氷技師　池内鹿三

あつい、あつい夏の日盛り、一杯の氷水に渇き切つた咽喉を潤す時は、忽ち冷味骨に徹して、玉なす汗も何處へやら、蘇生の思ひあらしむるのであります。ああ、この時の快、何物にか譬へん、吾等人類の爲めに夏の苦熱を緩和げて與れる所の天與の靈藥の樣に思はれます。時今ま酷暑の砌で、吾人共に氷を渇望する時期でありますから、いさゝかこゝに私の技術に關する氷の御話をいたして、讀者と共に涼味を頒つことに致しませう。

△氷の區別

氷の倉庫から搬び出さるゝ四角形の氷塊が、問屋の手を經て、玉簾涼しき氷店に配達され、そこで鉋の上に載せられ、細末に掻き削られて、コップに白妙の雪を積み上げることとは、諸君も知らるゝ如くであるが、この食用氷に二つの種類があります、即ち山間の湖水や河水の凍結して出來たものと、人工的に藥品を用ゐて製造したものとの二通りあります、前者を天然氷といひ、後者を人造氷と呼びます。併し此兩者の區別は素人目には一寸分らぬ、勿論喰べ味で分るものでありません。何處で見別けるかといふに、人造氷は泡が無くて、硝子の樣に透明ですが、天然氷は泡澤山で、理が粗い、だから少し注意して見さへすれば、容易に鑑別けることが出來ます。

△人造氷と天然氷

人造氷の製造元は東京では本所と、深川の日本製氷會社と、築地の帝國冷藏倉庫會社の三ケ所であります此等の會社で製造する人造氷は、水道の水を蒸餾して用ふるのが規則でありますから、飲用して害になる樣な不良の氷は無い筈です。人造氷は藥品を用ゐて製造するから、害になると思ふ人もあれど、藥品のアムモ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ニヤは直接水と化合するものでもなければ、氷に觸れるものでもない、唯アムモニヤは鐵管の中を流れる丈で、管の外の水を凍らせるに過ぎないから、人造氷は毫も有毒でない許りでなく、天然氷に比ぶれば其品質に於いて遙かに上等なのであります。

天然氷の主要なる産地は函館、諏訪湖、輕井澤等で此等の産地から東京始め各地へ送り出す量は莫大なものであります。就中、函館の龍紋氷といへば有名なもので、消費高の六七分は殆ど是で占めて居ります。東京附近の産地は多摩川、青梅、五日市、手賀沼等であります。そして此等の産地では冬季嚴寒の候、湖水、池水、河水の凍結したものを採集して倉庫に貯へ置き夏になつて賣出すのであります。

△天然氷の原料水

天然氷は前述の如く湖水や池水、河水の凍つたものですから、其原料たる水の質の不良なことは言ふまでもありません、湖水や池水は無論溜り水です、河水とても水の流れる所には氷が張らぬから矢張り溜水です其上この溜り水が烈しい寒氣に遭つて、厚さ三四寸に凍るまでには一週間乃至一ヶ月かゝります。其間に水は段々に惡くなる、尤も河水や池水は任意に水を入れ替へることも出來るが、湖水となつては其が出來ない何時でも一つ水です。天然氷に醜惡の品の多い譯は此にあるので、詰り原料たる水が惡いからです。

△天然氷には何故雜物があるか

天然氷の原料はいづれも溜り水であるので、採氷地の附近には日光の直射を遮るために林を設け、又は簾を張つて、氷の溶解するのを防ぎます、けれど氷の表面は別に覆もせず、全く開放してあるから、風が吹けば木の葉や朽木は申すに及ばず、道路の塵埃、田圃の土砂、烟突の煤煙までが、夥しく水面に落ち込むのです。で、此水が凍つて天然氷となるのですから、純良の物が出來やう譯がありません。

△塵芥の入つた氷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

池の溜り水が強い寒氣に引續いて逢つて凍結する度合は場所によつて異ひますが、東京附近では初日に一寸二分、二日目に八分、三日目に五分、都合三日間で二寸五分位の厚味に凍ります。稀には一週間以上も引續いて凍らせることもあるが、長い日數の中には暖氣が來ること多く、爲めに折角凍つたものが溶けることがあるので、厚さ二三寸に達すれば、直ぐに二尺角か三尺角に切り取り、倉庫に運び入れ、積み重ねて貯へて置くのです。一體氷の表面には前述の如く木の葉。塵芥、土砂等が絶えず積るもので、試に指頭で氷の表面を摩擦つて見ると、指頭が眞黒になるのが、不潔物のある何よりの證據です尤も此の不潔物を倉庫に積み込む前に洗ひ落せば何の仔細もないのですが、氷の仕事をする日は、冬季中で



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も殊に寒い日ですから、人夫は成るべく手數を省いて掃除なども叮嚀にしては居ません、之が爲に氷の表面には必ず雜物が附着してゐます。其を其儘、倉庫に運び入れ、數百枚積み重ねて、夏まで貯藏する、其間に氷は十枚でも百枚でも一塊に凍り付いて了ふ、そして雜物が氷と氷との間に挾つて了ふ、ですから單に上面を洗つても之を除くことは出來ません、其を思ふと隨分不潔な譯で、うつかり喰べられたものではありません。

△冷藏庫の構造

氷の倉庫は普通二重壁で、壁と壁との間には鋸屑を詰めます。倉庫の底及び壁に接した所は、氷が溶け易いから、そこには下等の氷を置き、上等の物を中央に積みます。而して乾いた鋸屑を隙間なく詰め、氷が段段溶けて隙間が出來れば、幾度でも更に鋸屑を詰めて空氣の入らないやうにします。斯うして溶解を防いでも、夏頃になると氷の量が餘程少くなります。併し素人の考ふる程解け易いものではありません。

冷藏庫の室内はアムモニヤの鐵管が幾筋も通つて居て、常に攝氏零度内外の溫度を保ち、人が入る時は電氣燈がパッと光つて、明るくなり、葡萄や林檎や梨子や蜜柑などの累々と積み重ねられたのが如何にも美事です、なほ又他の室には蠶の卵紙、又別の室には魚類や牛肉が生々と貯へありて、却々綺麗でありますが、其に引きかへ氷の倉庫内は人の思ふ程寒くもなく、且つ暗黑で、人の出入する時だけ、小さな蠟燭を用ゐる位ですから、餘り氣味の好いものではありません。

△氷の良否を試驗する法

氷を碎いて雪とか霰とかにしたもの、殊に砂糖や小豆などを混じたものになつては、却々その良否を試驗することが出來ません、氷の良否を試驗するには塊に限ります。その法は先づ氷の塊を能く水で洗つて、鋸屑を除き、清潔な皿か俎板などの上に載せ置き、それから其氷を横からと上からと透して觀るのです。純

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

良の氷は泡が殆ど無く、假し有つても極めて少しで、透明なること硝子の如くであります。之に反して悪い氷は芥子粒大、又は粟粒大の黒點、或は鋸屑が諸所に挾り居り、甚しきは木の葉や藁や蟲などの混入して居るやうなこともあります。それに不良の氷になると、泡が多くて、十分透明でなくて、間間泡の爲に雪を散らした樣に見える、ものがあります。かういふ不良の氷はコップの中に溶して、少らく放つて置くと、コップの底に滓が沈みます。



△冷し氷

魚類や牛肉や果實等の腐敗を防ぐ爲め、或は病人の頭を冷す爲めに用ふるものを冷し氷とも雜用氷とも云ひます。是には人造氷を使はないでもないが、大抵は天然氷の下等品を用ゐます。冷氷の消費高は莫大なもので、東京の魚河岸邊では盛に用ゐて居ります。歐米諸國では戸毎に冷藏函と云ふ物を備へて置き、之に冷氷を入れ、牛乳、鷄卵、果實、魚肉等を腐敗らせぬやうに貯へるのですが、日本では築地の帝國冷藏庫會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

から、此種の冷藏函を賣出して居ります。全體冷氷なるものは唯だ冷やすのが目的でありますから、飲食物に直接觸れることは少いのです。例へば鷄卵、牛乳果實の如き物に對しても、只だ其外側丈に氷が觸れる丈で、内部には接しないのです。故に冷氷は飲食用氷よりも品質が劣等でも、販賣を許可されます。

△最も危險な氷

飲食用の氷を販賣する店では、冷氷を賣ることが出來ない規則になつて居りますけれど、もと〳〵冷氷は飲食用氷よりも直段が安いので、時々冷氷を買入れて、飲食用氷と僞つて賣り付ける奸商もあるさうですから、さういふ危險な氷をうつかり欺されて買はぬやうに、又た召上らぬやうに注意することが肝要です。

△コップと匙

氷を盛る所のコップは硝子ですから、能く洗ひさへすれば何の害もありませんが、洗ひやうが足りないと病毒傳染の恐があります。故に路傍の一杯賣りなどの様に洗ひもしないコップで飲むことは甚だ危險です。それから氷店の匙には鉛のがあるが是は有害です。ニツケル、アルミ、ブリキ燒付等は無害であるが、アルミの匙には往々柄が管状になつて、其中に食物が入り込み腐敗してゐることがありますから、是亦た注意が肝要です。

△安全な喰べ方

氷は身體の毒になればとて、藥になる食料ではありませんから、可成く口に入れない様にするが宜しい。併し暑さ凌に止むを得ず食する時は、塊の儘買ひ求め前に述べた試驗をなし、良好と認めた上で小さく碎くか、削るかして、砂糖を加へ、悉く溶かして水にして飲むのが一番宜しいのです。斯うすれば大層安價でもあり、且つ安心して飲めます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本銀行の女事務員

月下日本銀行で使用して居る女工(事務員)の數は三百三十八人で、是等の女工を使用して居るのは同行の發行及び國債の二局で、前者は百八十名、後者は百五十名で、何れも國債の引換濟みの利札及び損傷紙幣の整理等をして居る、以前は兩局共に男子を使用してゐたが、男子には不適當な仕事で過失が多かつたのと仕事が捗らないので、日清戰爭後女子を使用する事になつたのだが、其成績は頗るよいさうである。今損傷兌換券を整理する模樣を記して見れば、先づ中央から裂けかゝつたのは勿論、少しでも汚損した紙幣は日本銀行本支店出張所等で何れも損傷兌換券として回收し、本店へ送つて來るので、其高は非常なものである、本店以外で回收した紙幣は、其支店出張店で中央に三ヶ所の圓い孔を穿け、千枚づゝ一束にして本店に送つて來る、其の送くつて來た損傷兌換券を整理する仕事は監査仕分の二ツに分かれて居て、何れも前記の女工が執務して居る。監査は損傷兌換券を一枚々々檢査して其の眞僞を鑑別し、若し疑はしい紙幣を發見した時は其主任は勿論局長までも立會つて檢査する、檢査の濟んだ損傷紙幣は仕分に廻し、仕分は其記號及び番號順に一々仕分して發行の際に記載した臺帳を消してゆく、斯くて汚損した紙幣は絶えず新らしい紙幣と引換へられて我々の手に渡るのである、此仕事は頗る無趣味の仕事であるが、女工は終日營々として倦む所なく忠實に働いて居る、同行では此兌換券の整理は到底男子の企て及ぶべからざるものとして居る、其女工の教育程度は高等小學校卒業以上としてあるが、國民教育の普及と共に近頃は一般に進歩して高等女學校卒業生若しくは同等の學校に入學した者も尠くないさうである、給料は最初は日給十七錢位で、六ヶ月間は見習として採用され、夫れから雇となつて廿錢を給與され、最高額は六十八錢から七十三錢迄で、平均すれば廿錢位である、平均三年位は勤續して居るさうである、執務時間は午前九時から午後四時までの短時間で、時間から云つて見ると給料は安い方ではない、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の草花

△グラヂオラス

夏の草花には、美麗なるものが多い中に、殊にグラヂオラスは瀟洒として好い所があります。これは、日本在來の花菖蒲に似た草花ですが、色の變化に富んだ所と、其の種類の多い所はずつと勝れて居ります。

この中には、米人チナイルツに依つて改良せられたチナイルザーといふ種類があります。高さ四五尺位もあつて、直徑六七寸もある大輪の花を開き、純白色のものもあれば、濃紅色のものもあり、紅と白との縞もあれば、白と紫との絞りもあります或は淡紅色に黄金色をあしらつたのもあれば、橙紅色に黄色を加へたものもあります。

又カーヂナリスといふ種類があつて、長さ一寸五分もある花瓣の先に鉾の様な形の三枚の花瓣を着け、尚其の下部にある三枚の花瓣と重つて、燃ゆるが如き鮮紅色を呈して居ります。

ガンダベンスと云ふ種類も亦世間に名高いもので、一百餘種の變種が出來て居るのです。

この植物は、球根植物であるから、根を分けて繁殖させるのですが、又、種を播いて繁殖させることもあります。根の價は一玉三錢、百玉二圓五十錢、種は一袋五錢位の相場ですから、



格別高價なものでもありません。

花の開くのは、早咲種が六七月で、晩咲種は八月頃です。

今年結實した種は、來年の春播くのですが、やがて芽を出して成長すると、根に豌豆の粒位ある球が出來るから、其の秋莖が枯れたらば、球根だけ採つて置いて乾いた沙の中に貯へ、翌年の春になつて栽ゑ込むのです。

根を栽ゑる期節は、三月中旬頃がよいでせう。これを栽ゑ込むには、前以て土地を充分に耕して置き、又充分腐熟した肥料を施して置くべきです。

さうして、愈々栽ゑ込む時には、一旦土地を均して置いて、深さ四寸位の畝を作り、その畝に五寸位づゝ隔てゝ球根を植ゑ付けて、各球根の周圍には、少しばかりの砂を蒔き、土を被せて其上を平らかにして置くのです。

これは切花としても、又は庭園の裝飾としても鉢栽にしても善い花ですから、近來非常な勢で人に賞美されてゐます。

△朝顔

朝顔は實に種類の多いもので、瑠璃色があり、紫があり、白があり、紅があり、其他黄色、柿色、茶色、樺色、鼠色、緑、鳩羽色等いろ〳〵あります。

或はこの色が樣々に配合せられて、覆輪となり、二重覆輪と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なり、村雲となり、花笠、絞、絣となり、染別、咲別剛目等無數の種類となつて居ます。

　又形に丸咲といふのがある、普通の朝顔で五つの花瓣が互に連續して、漏斗の如く丸く咲くのをいふのです。この五枚の花瓣が皆別々に切れて咲くのを切咲といひ、更に花瓣が幾つにも切れて茶筌の様に咲くのを茶筌咲といひ、其の花瓣が獅子の毛の様に縮れて捲いて居るのを獅子咲といひ、雌蕊雄蕊が花瓣に變化し牡丹の様な花の形に咲くのを牡丹咲といひ、雄蕊が變じて花瓣となり、花底から細長い花瓣が出て居るのを孔雀咲といひ、花瓣が分れて五つとなり桔梗の花の様になつたのを桔梗咲といひます。

　朝顔に新奇な變種をこしらへて見たいと思ふならば、人工媒助法を行ふのです。其の方法は甲の花の雄蕊を取て乙の花の雌蕊の柱頭を磨すつて置くので、かうして花粉を雌蕊の柱頭につけて置けば、翌年其の種を蒔くと甲と乙との兩性を具へた變種が出來ます。

　但し其前に、蜂や風の自然媒助が行はれると、折角の人工媒助が無駄になるから、朝まだ蕾の開かぬ中から待受けて居て、花の開くと同時に之を行ひます。そして媒助が濟んだならば、紙の袋をかぶせて、他から花粉の侵入することを防いで置くのです。



　種を播くには、八十八夜、即ち五月二三日頃がよい。先づ一尺位の深さに土を掘り起して苗床を作り、能く耕して十分に篩を以て土を漉し、少しも土の塊りの無い様にして、之を均らしそれから種を播いて、又六七分の厚さに土を篩ひかけるのです苗床には肥料は要りません。只其の位置が南向で終日日光の直射する所なれば宜い。そして床を乾燥させない様に注意するので、大抵一日一回位は水を灌けてやらればなりません。

　又朝顔が芽を出した後に、霖雨に逢うと根が腐敗することがあるから、床の周圍に深い溝を掘つて排水を良くして置かなければなりません。

　さうして、苗が少し大きくなつたら、庭に栽替へるか、鉢に移植するかして、永く苗床に置かぬがよい。この栽替の時に肥料が始めて必要になります。

　肥料には、乾鰯、油粕などを粉にしたのがよい。そして苗が定着したら、右の粉末一合を一升の水に浸して半月も置き、十分腐熟した後に、これに三倍の水を加へて、薄い水肥にして、それを十日か十五日目毎に與へるのです。

　又毎日水を灌けてやらればならぬが、水は井戸から汲立のものを與へずに、少くとも數日前からの汲置きの水でなければならぬ。それも、午前か朝の中には決してやらぬ様にしなければなりません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

情に囚はれし人

藤田いさを

△

南國の夏は今まつさかりなのです。海の色空の色は一様に澄んで居ります。牽牛花は垣根に、紫陽花は庭の片隅に咲き出ました。荒んで枯れて冷え果てた私の胸にも亦いさゝか鼓動の高まるを覺えます。しかし私はもう駄目。毎日只無意味に潮の滿ちあふれた海の面を望み、青あらしすがくしい新緑の杜を見て居るばかりです。

久しき間音づれを缺きまして今この様なことを申上げては突然におぼしめすでせうが、其の後の事は筆にするに忍びません。只この私はある動機によつてこんな無意味な其の日くの生路を辿らねばならなくなつたと云ふ事だけを御承知置き下さい。私の恐しい過去は茲に一言も云ひません。また思ひ出しても身顫ひがしてぞつとします。私はもう過去に對しては勿論現在未來に對しても目を瞑つて生きて居るのです。

昔思へばなつかしい友もありました。戀しい人もありました。ある時は武藏野の杜、青葉多い宿に共にかたり、懽樂しい故郷の家にしのび、逢ふ時、別るゝ時其の情趣のゆかしさは忘るゝ時もなからうと思つて居りましたが私の今は、七彩美しい虹の消え去つた跡のやうに思ひ起さうと思つても、人の目を眩ませる力はきえ去つて只漠然とこんがらがつた色が浮んで來るだけなのです。

熱したものは冷めると云ふ。しかし私にとつては熱して冷めたのではなく、熱して放散してしまつたのでせう。情趣の泉はかれて私の心は萬年雨の降らない砂漠の砂の様になつて了ひました、で今一度どうかして温かな友情其の他のゆかしい感想に醉うて見たいと思ひましても情ない事にはどうしても駄目なのです。轉覆した私の心は只淋しく只悲しい。どうする事も出來ません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なつかしかつた昔の友、東西南北の其の人かの人、この樣にみじめなもの丶罪は許して下さい。今暫らくこの靜な空に殘して置いて下さい。私はこのま丶只ひとり運命の極まる所まで參ります。

あなたのねらつしやる所も今は夏、紅山花を點じてさぞ御心ゆく朝夕でせう。そこであなたはあなたの運命を幸おほく靜かにたどつて下さいまし。（紫藍子樣へ）

△

私は運命の蔭に、なす術もしらず孤獨の子が母の國を慕ふやうに只なつかしい故郷に歸つてからもう半歳春を送り夏を迎へました。磯の春それもよろしい。磯の夏それもよろしい。果てしもない世をあてもなくさまよはんより靜かなこの空と水との天地に止まつて靜思を樂しむのは、よしや胸をかゝへて涙の盡きるまで泣くにしても私にはうれしいのです。すでに人と云ひ神の子と云ふ資格を失つて了つた私は人の香はいやでたまりません。私の友は水あり山あり鳥あり花あり去來する雲、輝く日月星の淡然としてうちかゝれる此の大自然より外にありません。この中にこもつた情は小さな且つ汚れた人間の胸にわく情とちがつて少しもゆるぎがありません。或人には喜びとなるでせうまた或人には悲しみとなるでせう。私の最もなつかしいのはこの悲しみなのです。天地自然の動かすべからざる大悲愁にふれて泣くのは私にとつて何よりも樂しいのです。さる友の批評通り一方ならぬすねもの、しかし私はこれを悔しいとも何とも思ひません。私の開拓する天地は私にとつて絶對でなければなりません。云はゞ社會人生の底に沈澱してしまつたのでせう。二十年世路の經驗は私をかう云ふ境遇につきおとして了つたので自然の進路は私の意志ではどうする事も出來なかつたのです。人からは笑はれてもよろしい。世の人などから同情してほしいとは思ひません。また同情して呉れる筈はないのです。私は同情の涙に富んだ大自然と云ふ友を持つて居ります。此の慈母の暖い懷に私は私の一身を委ねて些の遺憾もありません。自

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然の音調と色彩とは私の心を動す唯一の存在なのです
　私は折々思ひます、風死して大海音もなく、萬象うなだれて自然の吐息に深い／＼悲しみのあるくらがりの夜半、磯邊にさく月見草を枕に、身にしむ悲愁に堪へ得で涙つき胸ふたがつて息絶え寂滅の境に消え入りたい。

△

　人は泣いても笑つても只かりそめのゑそらごとで其の奥に何の根底もありますまい。これに反して大自然の寛容に向へば悲喜皆永久の命をそなへて居ります。情想の節操はこれより外に求めることは出來ないのに何ぞ人はこの永久を願はないのでせう。愚な私もかりそめの人の情に醉うて外道に迷ひ、この運命の窮陰と云ふ悲惨な報酬を得たのも皆其の自業自得なのでせうやう／＼覺めた今はもうおそく、暗い淋しい影を求めてかつ／＼に咲く月見草のやうな沈んだ弱い淋しいものとなつてしまひました。



　私はふるさとの此の松かげで泣くのが樂しみで歸つて來たのです。暫らく此の磯にかくれてじつとして居りませう生の潮が徐々に引き去つて、血しほが涸れて息の波打たずなつたなら私はそれで死にませう。そして月見草の數多咲いたあの岡に葬つて貰へば泣いてくれるものなど一人もなくつても私は滿足なのです。暗憺たる磯の夜半の松ふく風や波の音は痛切な眞摯な挽歌ではあるまいか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

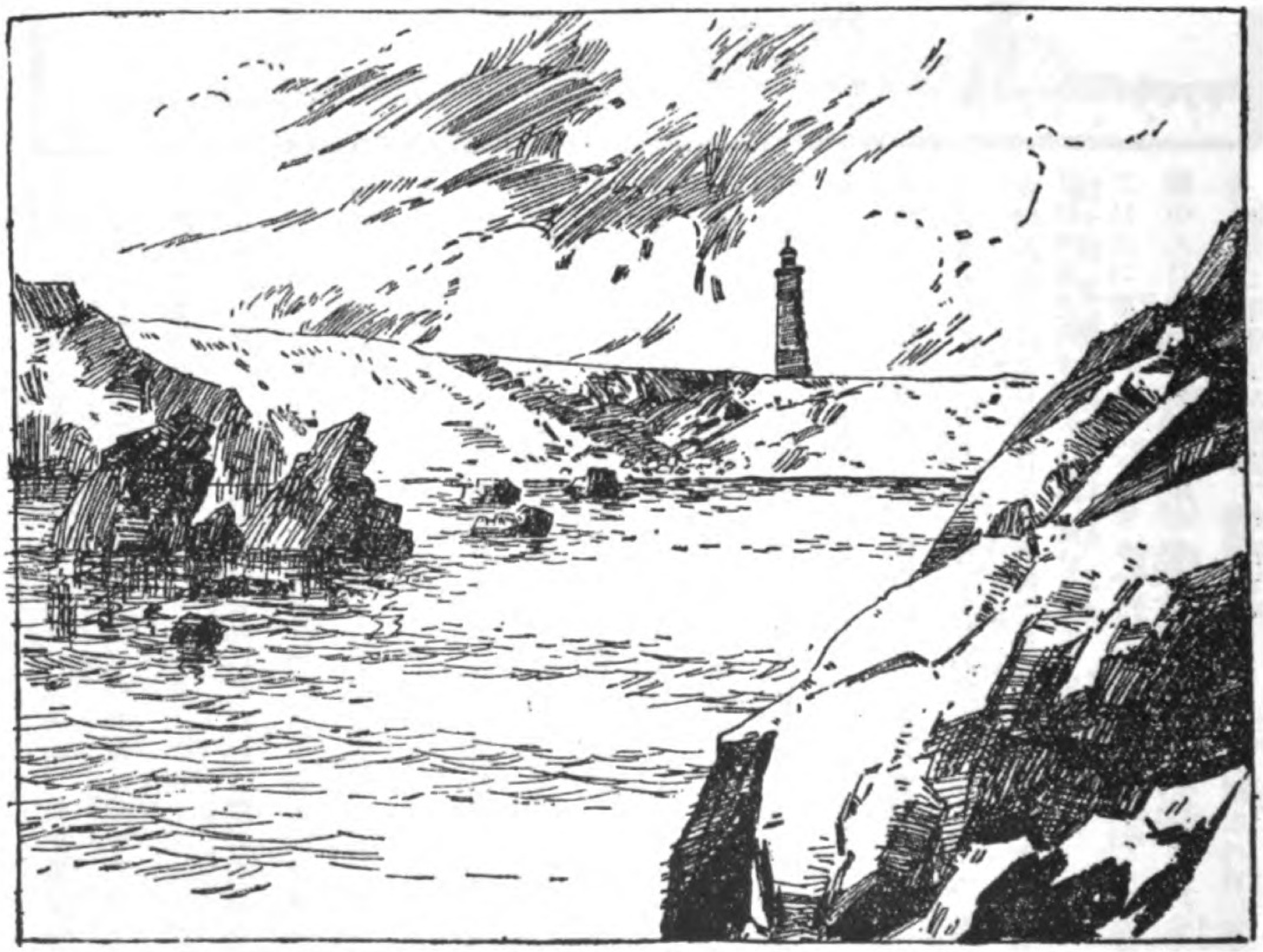
悲哀の高潮、是は死ぬ迄續けて行きたいと思ひます。

入江に沿うて町にかよふ松並木みち、さゝ波の水はしづかな夕ぐれの色をうかべて西の方外海は空の夕ばえを反映して白く光つて、みちの兩側の草むらには、月見草の花が點々咲いた涼しい夏の夕ぐれなのです。

もう昔となりましたが毎日この道を通つて町の學校へかよひました。只わけもなく樂しく面白く、朝はすが〳〵した風におくられて元氣よく行き、歸途はまた外海の淡路島根に日の落つる頃、松原の我が家をのぞみながら辿つた其の頃の心はまアどうしたのでせう。

今私はこの樣な樂しい追懷に富んだ美しいこのみちを歩んでも、自然に對する落漠の心と人生に對する畏怖の念が消えないでともすれば立ち止まつて考へたくなつてしまひます。

入江の渡頭に急がはしげに船をよぶこゑ、對岸の燈は水にうつゝて居ります。熊野がよひの汽船におくれまいと港をさして急ぐ旅人の幾むれは私を追ひ越して行きました。



銚子犬吠岬

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歐米奇聞

前田越嶺

◎女の頭髪の力

普通の太さの髪毛は百七十「グラム」の重量を支ふるに足ると云ふ。

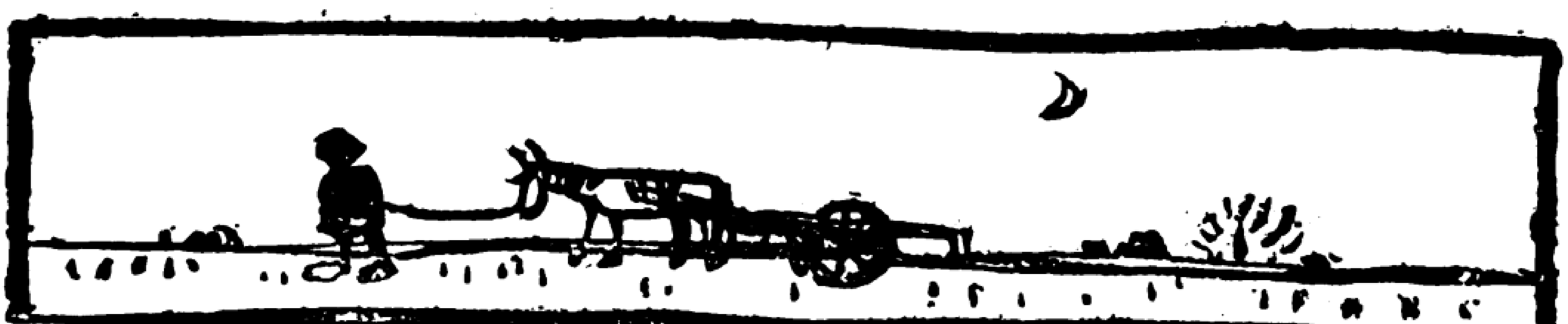
然るに人の頭髪は三萬本ありと云へば、女の頭髪は五噸以上の力を支ふる譯なるが、若之を編むときは更らに三分の一だけ強くなるとのことなり。

女の頭髪力も亦馬鹿に出來ぬもの故、昔の人は女の頭髪力を大に利用したり、例へば羅馬に於ては奴隷の頭髪を以て彈機の綱を製造せりと云ふ、是を以て彼の有名なるカルタゴ城を攻圍む時、婦人は國家の爲なりと男々したる緑髪を惜気もなく切捨てゝ之を献げたりと云ふ。

◎女船長

二十世紀の婦人は萬能の資格を具せりと云ふ、既に女辯護士あり、女醫者あり、女御者あり、女大工ある世の中、爭で女船長なからんや。

果然米國には妙齢女船長なるもの出でたり、市俄古にフート夫人と稱するあり、代數學、地理、山岳誌、天文學等の試驗を受けて目出度及第し、遠洋航海船長の免状を受けたりとぞ。



流石米國の試驗官も猶未だフート夫人に對しては多少の懸念を抱きたれば、婦人の身には容易に行ひ難き實地問題を提出したるが、フート夫人はこゝぞ手腕の示し處と、暗礁多き岬を物の見事に迴航して、天晴見上げたる航海者の技倆を示したりと云ふ。

フート夫人今や船長の資格を持ちて、某富豪より其船を托せられ、是より大に其の手腕を揮ふべしとのことなるが、先づ其の手始として遊船季節の到來を待ち、渺茫たる湖上に一大快艇を操縦すべしと云へば、サゾ見物なるべし。

夫人の良人は機關師なれば、良人が機關室に在りて機關を運轉しつゝある間に、夫人は船長室に在りて萬事を指揮すべし、どこまでも亞米利加式也。

我國には女醫まで運びをつけたれども、未だ女辯護士もなく、女御者らなく（尤も女車力はあり）、又女大工もなし、若夫れ女船長などに至りては何時之を見るを得べきかを知らず、況や遠洋航海の船長に於てをや。

◎歌女の喉笛五十萬法

米國は奇怪なる趣味の問屋なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

是れも米國にありし事なるが、有名なる歌姫パチは自分の咽喉を米國人に賣渡せりと云ふ、其價五十萬弗。之を買受けたる米國人はパチの死せる後其の喉笛を受取り、之を玻璃の器に入れて、博物館に陳列すると云ふ。

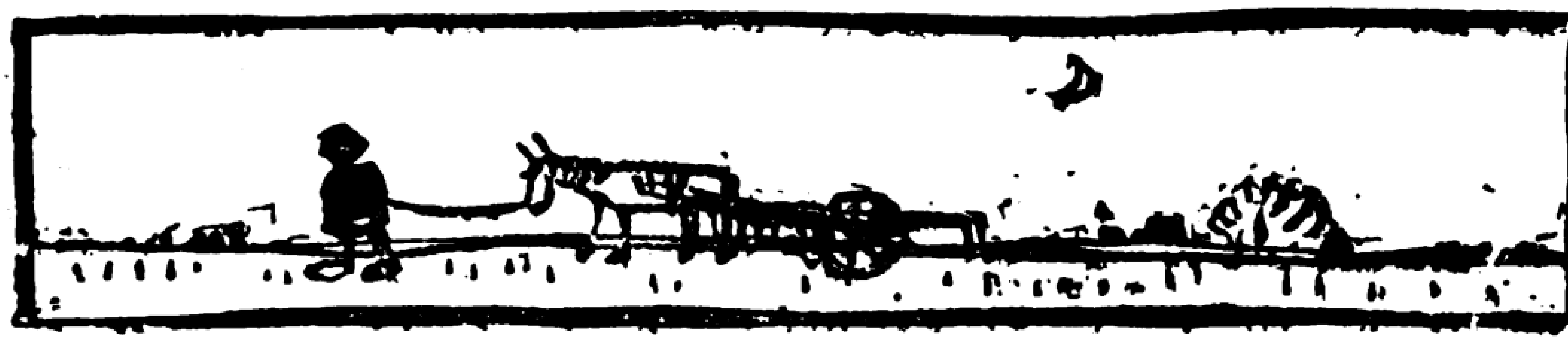
◎偉人の出生と老父母

和蘭アムステルダムに於ける某學會の報告に據れば天才は若夫婦より生れずと云ふ、日本にも總領の甚六と云ふことあり。同學會の調査に據れば、長子にして偉人となる者殆んど皆無の姿なりとぞ。詩人、文士、音樂家、政治家等の偉人七十四人の中長子にして偉人となりし者僅に十人、餘は皆多く末子に當れり、少くも末子に近き方なりと云ふ。

コペルニクスは十二人兄弟の中第十一番目に當り、バルザックは三人兄弟の中の末子、ナポレオンは八番目の子、フランクリンは十七人兄弟の中での末子、レンブランは兄弟六人ありしが六人目の末子に當れり、ワグネルは第七子、モザアルトも同樣シューマンは第五子、シュベルトは兄弟十四人の中十三番目の子なりと云ふ。

是を以て觀るに、偉人の父母が偉人を擧げたるときは、大抵皆老齢の年齢に在り。

英國の醫師の説に據れば、人は四十の齢を越ゆれば、價値なき人となると謂へども、統計表によりて之を調ぶれば、四十以後の人は己れ自身は價値なき人となるか知らざれども、父としては大に價値ありと云はざるべからず、何となれば人文史上に貢獻する偉人となるに適當なる子を生めばなり。



◎ハンケチの由來

ハンケチの初めて歐洲に行はれしは、距今三百六十一年前なり。今やハンケチの需用ほど多きものはあらざるが、此の流行の本源とも云ふべきは、伊太利ヴェニスの美人にして、此の美人の所持せる「ファゾレット」と稱せるものこそ、ハンケチの鼻祖なれ。

さればハンケチの本家本元は伊太利にして、それが間もなくアルプス山を越えて佛蘭西に流行するに至りしと云ふ、當時佛王アンリ第二世の宮中に於ては繡箔を施して美しく飾れるハンケチを使用し、アンリ第三世の御宇にはハンケチに香氣を帶はしむるに至れりとぞ。

ハンケチの獨逸に入りたるは、漸く一千五百八十年の頃にして、當時獨逸にては伊太利語の「ファゾレット」に因みて「ファチレッチン」といへり、其の時分には貴顯紳士及び富豪社會に於てのみ用ゐられたり、名家の許婚者間に於ける結納品の如くに用ゐられしより、非常の贅澤品となり、一時は平民に之を使用することを禁止するに至れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

螢の話

夕闇

「螢來い螢來い宅の水は榎の下の冷水」と、可愛らしい銀鈴を振る樣な聲で幾人かの子供衆が螢求めて走り歩く時となりました。天上の星の天降つたかとばかり其美しさは夜光の玉をも偲ばしめます。螢は火垂か、火照からか轉じた言葉でありませう。甲蟲類で皮膚は硬く、頭胸腹の三部が互に密接し頭は赤く全體は黒味を帶びて複眼と觸角とを具へてゐます。口は咀嚼性で鋭く臀部に發光器があります。晝見ると淡綠がゝつた白色の樣に見えますが夜になると鮮に青綠色の光を放ちます。支那の晉の代に車胤といふ人が螢を集めて勉強したのは名高い話であります。此螢の光は前にも述べた樣に青綠色で他の燈火の人間の目を害するに反して何等の害も與へません。けれども未だ螢の光を一般に利用するまでには至りませぬ。併し科學の進歩は已に空中を飛び廻り無線電話で話が出來るといふ位になりましたから、軈てその發明も出來るでありませう。

　呼ぶ聲は絶えて螢の盛哉

といふのは丈草の句であります。螢狩の連中の歸つたあと、左樣、十一時頃が尤も其全盛時だといふとであります。それから一二時頃になりますとあそこゝに飛び交うてゐた群螢は皆樹上に宿つて眞の闇の如くなります。螢狩の名所として知られてゐるのは山城の宇治川、近江の石山などださうです。一體螢の光は一種の酸化作用に基づくので其發光機關と申しますのは無數の細胞から成立して細胞内には或る可燃物があるさうです。が其可燃物は世間の人の想像してゐる燐ではなくて一種の脂油ださうです。

　支那では螢は草の腐れより出ると云ふてありました禮記に「季夏之月腐草爲螢」とあります。日本でも左樣思つてゐたらしく、僧契冲の歌に、

　海人のかる藻にすむ蟲の思ひ草

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

　　朽ちてや燃ゆる螢なるらむ

といふのがあります。けれども決して腐草が化して螢と爲るのではありませぬ。螢は雌雄各々形を異にしゐますが、卵生で完全なる變態を經過します。卵は罌粟粒大で黄色で水邊の草の根等に産附られ一月後は孵化して蛆となります。其體の兩側には多く叉狀防禦器を具へ物に犯さるゝ時は忽ち之を左右に突出し松脂と薄荷の交つたやうな臭氣を發して其敵を辟易せしめます。五月頃脱皮して蛹となり、それから二週間を經て始めて地上を飛ぶのであります。この蛹時代には成蟲よりもなかなかに美光を放ちます。螢の種類は地方によつて違ひますが日本には源氏螢平家螢といふのが最も多いさうです。螢の歌も澤山ありますが土御門院の御製

に。



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏草の深きおもひもあるものを
おのればかりとゝぶ螢かな

といふのがあります。又加茂眞淵の歌に、

ふる里のみかきか原の夏草に
夜は燃えつゝとぶ螢哉

といふのもあります。

琉球の螢は全身黃茶色で、臺灣、呂宋、新嘉坡あたりのは茶褐色であります。メキシコの產は長さ一寸餘にも達したのがあつて黑に茶褐色を交へた色の、發光器を二種程具へてゐます。一は頭に近く胸脊の兩端に一は腹部に、前者は晝はたゞ二個の黃色の點のやうで夜は鮮明、後者は其發光器より盛な大光輝を發しますが常には前垂の樣なもので之を藏し、必要な場合に開きます。土人がそれを提灯の代りにするので如何に大なる光を放つかの判斷が出來ますでせう。婦人はまた往々之を首飾にするさうであります。この種類の螢は中央アメリカ、キユーバ、ジヤメイカ邊にも居るとのことで、キユーバ島では甘蔗畑に砂糖汁を吸うて生息してゐるさうです。

英吉利のは長さ三四分、雌には翅がなく鼠色の蛆で夜美くしい光を放つて雄を呼びます。雄には翅はありますが光はありませぬ。アメリカ產の螢は雌は黃色の細長い蛆で體は多くの關節より成り立ち夜、麗はしい光を頭から尾まで節の悉くより放ちます。雄は翅の外に別にふさ／＼した鬚を有してゐます。

螢が澤山集合しますと其見事さは正にイルミネーションも以上でありませう。昔驕奢を極めた有名な隋の煬帝（天津楊子江間に運河を開鑿した人）は其大業十二年夏五月、景華宮で螢を集めて未曾有の豪遊を試みたさうであります。隋書に「徵求螢數百斛、夜出遊山、放之如火、光遍巖谷」とあります。

さもあつたでせう。所は天下の奇卉珍木を以て數寄を凝した景華宮、宮女は三千花の如く金殿に滿ち、綠酒は湛えて池の如く、肉は懸つて林をなし螢光焯灼として晝をも欺く。其壯觀、美觀の程も誠に察せらるるではありませんか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日光山奥の別天地

眞壁一郎

△山嶺婦人の生活狀態

日光を見て結構を知つた序次に、更に此山奥深く踏み入つて、自然の工匠の作りなせる山水の結構をも眺めばやと思ひ立ち、結束を整へて、川又温泉と云ふ湯の宿のある處まで行つて見ました。

中禪寺から約八里の山坂を越して、鬼怒川の奔湍が不斷の雪を吐き散らす所に出ると、柿葺の一軒屋が屹然と屹立つた崖の上に建つてゐます。是が即ち川又の湯の宿で、日光の奥の栗山の其又奥の川又の本村から更に二里の峠を隔てた山奥であります。三十五年の洪水で、日光澤が潰れてからは、こゝが鬼怒川上流での最後の人家となつてゐます。

夏の日盛りは山の中でも流石に暑い、磧の石は強い日光を照返して眩きばかりに白く光る。然し石の間を走る水の音と空を壓する山の緑とは、こゝならでは味ひ得ざる一種の爽快を感ぜしめます。宿の二階には夫婦連の客や婦人の泊り客が十組ばかり居ました。川又の温泉は兒の無い人に特効があるといふので、いづれも八里の山坂を汗を搾つて來た人々なのです。私は此附近を探檢する爲めに此家に逗留すること都合四日間、其間に栗山の女に就いて多少の智識を得ました。

△俵の運搬

湯の宿に着いた日の午後でした。若い女が三人共俵を脊負つて宿の背後の坂を降りて來ました。丁度小供をオンブした樣に俵を竪に脊負つて、木の皮で編んだ小さな笠を冠つて、格好の惡い股引を穿いた風俗が頗る振つてゐる。女どもは總て此家の前に來て俵を卸し一寸休みましたが、二俵は米で一俵は野菜だと話して居ました。川又の本村迄は馬が利きますが、川又から此地までは總て人の肩で運ぶのださうです。それにしても二斗五升入の米俵を脊負つて、二里の峠を越す栗

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山の女は豪いと思ひました。

女どもの脊中には肩袋とて、山葡萄の皮で肩の幅丈に編んだ筵の樣な物を背けてゐます。二斗五升入の米俵も十貫目あるといふ野菜の俵も、皆細引で以て此筵の上に結ひ付けられるのです。女どもの穿いてゐる不格好の股引は、「モタレ」と云ふもので、此邊では男も女も老人も小供も皆な之を穿いてゐます。結仕に出る宿の娘までがそれを穿いて、勞働者然たる扮裝であるには些か驚きました。尤も下には「ツブ」といふ筒袖の襦袢を着て、帯の上から、この「モタレ」を穿いてゐるのです。

この夜、宿の老爺は「ヤマメ」(川魚)を燒きながら栗山の女に就いて、次の樣な事を長々と話して呉れました。

△女の馬方

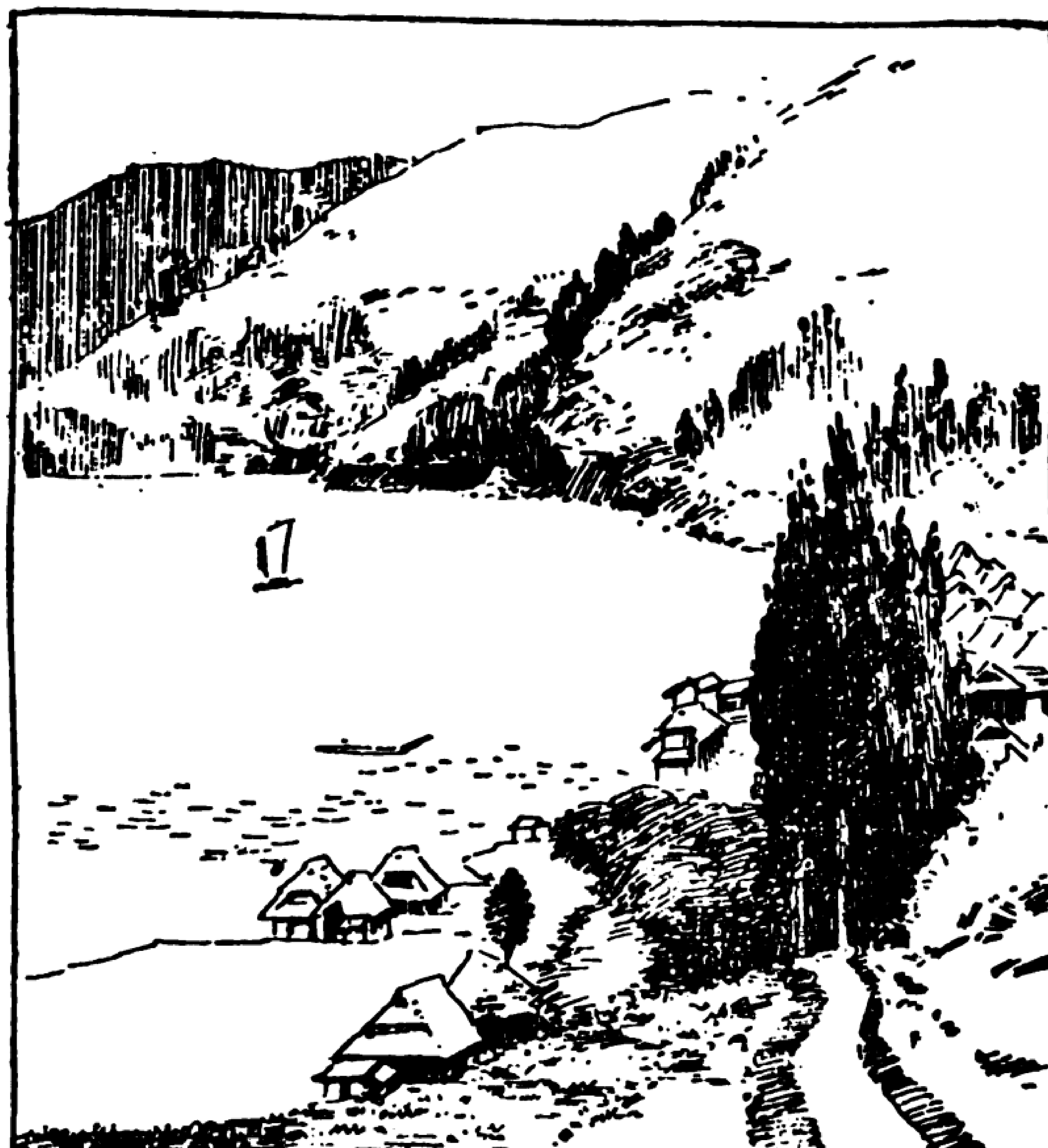
老爺の話によると、栗山は山又山の間に介在する山村で、日向、日蔭、黒部、上栗山、湯西川、西川、野門、川又等の部落から成立ち、延長十三里に亙る間に三百餘戸の人家が散ばつてるとの事です。斯う云ふ土地ですから、峠を越さねば隣邑へも行けぬ位交通が不便である上に、米の實る木が出來ない。掌程の山畑から麥、稗、蕎麥位は取れたにしても、其丈では生計が立たぬ所から、村民は十三里の邑々を圍繞む五萬町歩の大森林を生活上の實庫と恃んで、或者は日光細工の原料を伐り出し、或者は下駄の臺などを拵らへて、何うやら年中の生活を立てゝ行くとのことです。上栗山から日光の今市に出る大笹越と云ふ所は、栗山の咽喉とも云ふべき要所で、糧米を始め都ての日用品は悉く此山路を經て栗山に運び込まれるのですが、是が皆な女の肩で搬ばれると聞いては驚いて了ひます。

栗山の女は十二三になると、二斗五升入の米俵位は平氣で脊負つて歩き、働き盛りの女になると二俵位は苦もなく脊負ふのもあるとか。「まるで馬の樣だね」と笑ふと、「下手な馬はかなひやせん」と老爺は言ひました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

で、こゝの男は大抵職人です。多くは山小舍に籠つてゐるから、畑の仕事も女の手でやります。中には女で馬方をするのもあります。渠等は朝暗いうちに起きて「チャナコ」と云ふ麥粉の團子を懐にしたまゝ、里から一里も離れた山野まで、馬を牽いて草刈に出掛けます。そして朝飯前の仕事に、シットリ露に濡れた山草を六把程刈つて、四把丈は馬に着け、二把程は自分の肩に脊負つて降りて來ます。それから朝飯を濟まして駄賃牽に出るのですが、一頭ばかりの馬では駄賃の取れ高が少いといふので、一人で二三頭も引張つて行くのださうです。

富士山麓精進湖



△緣組の習慣

二日目の晩、私は復た宿の老爺から栗山の風俗話を聞きました。川又の區長さんだと云ふ老人が居合せて老爺の話の足らぬ所を種々と語り足して吳れました。

「栗山では今も大抵大字だけで緣組をします。昔から然ういふ習慣だつたから身內同志の結婚は永い間繰返されてる譯でね、能く詮索して見る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、大字だけは大抵皆續き合ひなんでがすよ。それに此邊は昔、平家の落人が籠つたといふ丈あつて、今も平とか小松とかいふ苗字が殘つてゐやすだ」と宿の老爺が自慢氣に語り出すと。

「血族の緣組は宜しくない樣に聞いて居ますが、こゝには不具や白痴は一人もありません」と區長さんは辯解する、「尙ほ區長の話によると同じ栗山の中なら、隣村との緣組も支障ない筈だが、僅か山一つでも隔たると、其間の風俗習慣が異ふので緣組を許さぬ、一寸した仕事にしても、川又の女は物を脊負ふことは達者だが、馬を使ふ事は不得手だ、その反對の野門から上栗山邊の女は子供の時から馬子をしてゐるから、三頭位の馬は平氣で使ひこなすが、脊負ふ方にかけては、迚も川又の女には敵はぬ。こんな事が影響して血族結婚の習慣を改めずに居るのだといふことです。

この談話最中に昨日俵を脊負つて通つた女がやつて來ました。十町餘りの山坂を越えて入浴のために來るのださうです。

「何うだい、今日は飲めたらう」と、老爺が腰をかけると、女はともして來た提灯を吹き消しながら「阿母達は隨分飲んだぜ」と元氣よく答へました。どうも此邊の女は大抵酒を飲むものと見えますね、此日は川又から西澤金山迄の新道が出來上つたので、其慰勞として金山から酒を貰つたので、今し方酒宴があつたのですと區長さんは説明して呉れました。

入浴に來た女は「モクタレ」を穿いた腰を一寸店先に卸したが、老爺は「お客樣、此子は川又一の標緻佳なんでさ、お秋さアと云つてね」と揶揄ひ始めた。女は「父さま又始まつた、湯でも貰ひませう」と言つて出て行きました、色の白い顔立の整つた可愛らしい十七八の娘です。

區長さんはハツヽと笑ひながら、その後姿を見送つて「本統に好い娘つ子になつた、西澤のとやらは未だ來ますかい」と訊ねる。老爺は「來るともさ、昨日も見えたやうだ、然し此方の親が頑固だから、秋さアも可哀想だ」と、事由ありげな事を語り出しました。山

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の中にも戀はある。今の女も西澤とやらに戀人があるのだが、他村との縁組を許さぬといふ柵を越えかねて小さな心を千々に砕いてることが推察されました。更に栗山の人の娯樂と云ふ樣な事を訊いて見ました。

△年中のたのしみ

區長さんは私の爲めに親切に話して呉れました「栗山では男も女も正月と盆と秋の祭とを年中の樂しみにして居ます。特に面白いのは秋の祭で、此時だけは皆な仕事を休み、綺麗な着物を着飾つて、腹一杯酒を飲んで、村中の者が夫々藝盡しをやります。何處の村にも若い衆の庫と云ふのがあるが、其處には神樂の道具や芝居の衣裳などが仕舞つてあります。役者は何れも土地の人で、役割の如きも平素からチャンと定めてあります」と。而して十歳から四十歳までの男は徴兵に出て居る場合の外、何處に出て居つても、お祭りの時には必ず歸村せねばならぬ約束が出來て居るさうです。

「では、區長さんのお役は」と訊くと、「俺は忠臣藏の九太夫で、こゝの老爺は定九郎になるのだ」と言ふ。それから秋の祭にやる神樂には、

　千早振る神の鳥居をくゞるとき
　　よろづのけがれ散り失せにけり
　昨日までは谷をへだてゝ音ばかり
　　今日は嬉しや笠の端そろひ

などゝ云ふ歌を、笛と太鼓と鼓との囃子に合せて、村中を謠ひながら繰り歩き、其が濟むと區長の宅に村の衆が集つて、大酒宴が始まり、いろんな藝盡しを演る又盆には別に踊る譯でもないが、夜の明けるまでワイワイと騷ぎ廻るとかで「他に娯樂のない這麼山の中ですから、この三度の休日には皆な夢中になつて浮かれますよ」と、老爺の話は如何にも面白さう。

やがて、お秋さんも湯から出て來たので、老爺は、「なア、お秋さ、盆が一番面白かんべ」と訊きましたと、女は愛くるしい眼を圓くして「お盆も好いが、暑くつて……」と輕く答へて、愛想よく笑つて見せまし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た。山の女は體格がよい。肩の邊に異常の發育を認めらるゝのは、二斗五升入の米俵を脊負ひ歩く爲めだと思はれます。

△道案内とモクタレ

三日目の朝、私は栗山を一巡しやうと思つて湯の宿を出ました。お秋さんの從妹だといふ女を道案内にして、秋草の山を越え、雜木の谷を渡つて、川又の本村さして辿つて行きました。谷には空色の山紫陽花が鮮かに咲いて居て、朗かな老鶯の聲が聞えます。



谷を越すと又裸山になり、山の半面には所々畑が出來て居て、痩せた馬鈴薯が作つてあります。

「こゝは二宮樣が開いたのだ」と、女は説明した。二宮樣と云ふのは例の尊德翁の事です。栗山は昔、日光の神領地であつたので、翁は今市から此邊まで來られて、斯る山畑をも開墾されたものと見えます。

女は例の「モクタレ」を穿いて、肩簑を着けて其上に岩菅で編んだ「イチッコ」と云ふ袋を脊負つてゐます。其の歩き方と云つたら、登り坂にかゝつた時などは後から續くのに骨が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

折れる位早い。そして遙々いろ〳〵と栗山の話を聞かして與れました。栗山には何の大字にも學校があるが、女は餘り手習ひをしないといふ事や、其代り女の方が餘計に働くといふ事、又仕事の辛い時は、寧そ里の方に出たいと思ふこともあれど、馴れぬ土地で苦勞するのは猶ほ辛からうと考へ直して辛い仕事をやつてるのだと述懐めいた事も交つて居ました。終にはお秋さんの噂なども出て、「氣性の勝つてる子だから、西澤へ嫁けなければ乾度逃げ出して了ふた」と、戀物語の行末を豫言しました。



やがて川又の本村に出やうとする所で稗畑を耕してゐる婆さんを見ました。拇指程の繩の鉢卷をしてゐるのが、既に奇妙であるのに、其繩の先には火がついて居て、繩がフラ〳〵と揺れるたんびに、靑い煙がパッと揚るのです。道案内の女は「二番切りけ」と言葉を掛けた。婆さんは腰を伸しながら「二番切りだ川又までけ」と挨拶しました。少し行き過ぎてから、「一體、あの火のついた繩は何だ」と訊くと、「彼れは「ブト」（蚋蝣の事）をよけるためです」と、教へて與

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れました。

川又からは更に別の案内者を賴みました。今度のも元氣な婆さんで、口元から泡を飛しながら能く喋舌る。野門の脊戸合と云ふ景色の好い所で暫らく腰を卸して眺めて居ると、婆さんは眩し相に瞬きしながら、「景色は夏よりも秋がえい、あの松の間が皆な紅葉に化つて、その上に初雪が降ると、山が急に明るくなつた樣で、それは實に綺麗で、あんた方に見せたい樣だ」と自慢して居ました。川又の邊では百合の蕾が未だ固かつたが、野門のあたりのは今を盛りと咲き誇つてゐます山干瓢にする「ウルイ」などの咲き亂れた所は、實に何ともいへぬ美しい眺めです。婆さんは此所でも「栗山に來るなら、秋が一番でさア、小鳥はとれる、茸は出る、十三里の山々が一面の紅葉に飜るんですもの」と說明して聞かすのでした。

更に行き行きて、大津川と云ふ所を過り、上栗山に入らうとするところで、馬に騎つた女の一隊に會ひました。何だか分らぬことを聲高に言ひ交しながら、蹄の音輕く、青葉に蔽れた坂路を下つて來ます、上栗山の馬子が割木をつけに行くのだと婆さんは敎へて吳れた。「栗山には馬子唄の面白いのは無いか」と尋ねると婆さんは「仕事に骨が折れるので唄も出ないのさ」と力無氣に答へました。鬼怒の大河は山の綠を浸して、涼しき瀨の音を奏でゝ居ます。

△獨歩全集（國木田獨歩著）

眉目淸秀の好男子にして而かも一種の奇人、熾烈なる名譽心と自負の念强く、直情徑行の駿見にして而して多感多情の好才子、その異性に好かる、一種の性情と活々とした容貌とを以て遂に三十五年の生涯を滅茶くにしたる國木田獨歩は確かに造物主傑作中の出來損ひなりしなり。彼れの生涯は一面好笑の生涯にして又悲傷の生涯なりし、花に風雨多し彼れは花なりき、晴天に颶風起る。彼れは颶風の來るを知らずして身を出し見事に覆沒せり、彼れは年少にして無垢の少女を擁へり、少女は彼れに甘かりき逗子の濱邊のわび住ひ、埴生の小屋のスヰートホーム、青春の樂は遺憾なく極めつくされたり。されど、その所作はあまりに天國的なりしかば獰猛なる人類の嫉むところとなりて忽ちの間に失墜せり、一夜暴風猛雨を冒ひ、少女は風を喰ふて出奔し、多感多情の彼れは秋の荒野に獨り彷ふ牡鹿の如く鳴き狂めり、斯の如くして彼れは身に終生癒ゆべからざる大傷痍を蒙り煩悶して死せり。獨歩全集十數篇の文字就中第三者は彼れが不治の傷痍より迸り出でし鮮血の紀念にあらずや、牛肉と馬鈴薯、運命論者、富岡先生、女難、鎌倉夫人、多くは皆その數奇多難なる生涯の形身なり。（貳圓・博文館發行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今様　枕の草紙

磯千鳥

幼き折、田舍に育ちし我身は思ひ出いと多し。名にし負ふ丹波の山中なれば食物もいと不自由にて、其頃は豆腐買ふにも二里ばかり隔たりし町へ行く位なりしかば、いつも朝は胡瓜などきざみ込みし味噌汁に澤庵のみなるに、そがまたなく辛くて喞ち言へば、母は叱りて「まさなき事を言ふよ。大臣參議にても朝は澤庵と味噌汁食べ給ふものを」と云ひきかせつ、其後は朝飯不味しと思ひたる折は何時も、大臣〱と心の中に繰り返し思ひしが、さるにても偶〱、町に使の行く日には蒟蒻、油揚など賴むに、そが子供心にまたなく嬉しくて「われ、嫁に行き料理等己が心のまゝとならば、蒟蒻を心ゆく許り食べんとこそ思ひ憧憬れしが。されど今は都に住めばさる事は夢の樣に忘れ果て、妹弟などのいたく好むをば「そは多くは食べぬものぞ。不消化なれば」など叱り嗜むるこそ可笑しけれ。我子供の頃は明治も三十幾年なりしかばさしたる事もあらざりしが我母の其處に育ちし頃は餡こうらふとて砂糖の代りに澁柿の干皮碎き入れて甘味つけ、それにてたゞ、赤兒の頭程もあるお萩おどろ〱しう造り、ひたぶるに貪り食ひしとなむ。況して砂糖などはいかで使はん今の赤砂糖を白砂糖と呼び、小さき壺に入れて家の寶の樣に藏ひ置きたりとぞ。さても世は變りしことよ。

◎無精げに見ゆるもの

灰吹の掃除あしき。朝起きて直ぐ床上げぬ、よし床疊むとも枕元なりし昨夜の洋燈、燐寸、小說本などの其まゝにて座敷に居殘りたるは無精氣なり。

讀みさしの洋裝の本の間に、枝折の代りとて、妻楊枝、燃えさしの燐寸など挾みたる」洋燈の掃除あしきも無精氣なり、晝の程、何かと事に紛れて、忘れてありしに、夕暮ふと燈點さむとすれど油なし、薄暗に油さすに見えねば、さとさし過して手元にこぼれ出た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る、漸う火つくれば拭きたるほやの指届かぬ處は煤殘り、届きし處も縞の樣なりてつき居たるこそいみじき無精の祟なれ」あるは書留など來たる折、印形の處打忘れ此處其處の抽斗など、ひしめき開けて搜し居たる身だしなみせぬ女も無精げに見ゆ、髮はおどろに、振り亂し、ひつぱりとか云ふ汚きもの着て人前に出るも恥とせず、齒も汚れ、暇さへあらば、眠ぶたし、眠ぶたしと言ひたるはわろし。稅金何時も納め忘れたる。

◎大なるもの

蚤の腹、九月の腹、間食する子の腹、いづれも大なり、仁王の眼、女の眼は黑眼勝ならば大なる方よし、されどおどろ〳〵しく大なる眼の白き處多くて鯛の眼の樣なるは恐ろしげなり。田舍娘の廂髮。

糸まきと湯沸とは大きなるこそよけれ。

◎心急ぎせらるゝもの

停車場にて氣長き知人に長々と話しかけられたる折物忘れし人を追ひ行くに姿は其處に見え乍ら、却々追つくべくもあらぬ時、心許りあせりて息も切るゝ心地す。試驗場等にて思ひも依らぬ問題出て、いかにしても出來べくもあらぬに、前なる誰彼はいと易々と答認め、出で行き給ふに、軈て殘る人の數も少なになりぬれば顏ほてり、頭唯わく〳〵として、物も見えず、ひたぶるに急ぎに急ぐよ。

一人居の折、來客ありて火起すに炭の濕りたる。漸く之にて起るならむと、そを打置きて客の相手等するに再び行き見れば、こはいかにぞ、火はまた消えて、木の葉のふす〳〵と燻り、鐵瓶の外側未だ水に濡れ居たる。團扇にて煽げば、はた〳〵と音するに、客なる人きゝつけて、「御暇せん」など言ふに、先々と押し止むるも實に忙しき事の限也。

○心なき業は

二人住の家にて長居する。戸開き我出でゝ後閉めぬ

されど若き男等の無作法に立ちたるまゝ障子、襖押し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あけ、あと閉めぬは咎むべきかは。
葬式に立ち合ひて、笑ふもいみじく心なき業なり弔の口さる四十男などの、つゝましげに悔み言云ひ、香奠持ち來りしは殊勝げなれど、軈て休息所に入り知り合の人見出でゝ日頃の無沙汰詫、終には話の興にのりて大聲立てゝ打笑ひ、さては此頃の不景氣などうち喞ち、「誰々は畑を賣りたり、誰が買ひしぞ」など語り、さては商業上の打合せ等して別るるは、いとゞ憎き業なり。後妻の前にて、みまかりし先妻の事良く言ふ事あるは、食客にてあり乍ら大聲に噫などするこそ、共に心なき業の限なり。

◎うるさげなるもの

顏にとまる蠅。乞食、新聞雜誌よみ、興の餘り我を忘れ居たるに「誰々の呼び給ふ」など言ふ、或はさる折我子のしつこく物ねだり、我帶袂にまつはりつきたる見す〳〵追從と知れたる稱め言葉を我前にて幾度も繰返し言ふ人。停車場降りし折群がり來る

伊豆下田の海岸



車夫。

我病むとて見舞に來し人の口數多く、枕元にて話し何時々々何處へ行きし折は花が良かりし、或は今月の歌舞伎の外題は面白しなど喋舌たるは蒼蠅さまして、たゞ憎くし悲しき心地ぞする。

男は煙草と言ふもの、などてさばかり好むらむと怪し。なにしても暇さへあらば饑ゑたるものゝ樣にして貪り喫ふよ。圍碁などしても己が方敗けかくれば、其もどかしさを煙草に晴し、煙も荒々しく、膝の上に灰の落つるをも關はざるも可笑し。

若き女の卷煙草くはへたるは、げに憎き物の内に數ふべかりける。

また年端ゆかぬ男子の學校等にて物置などの後に隱れ、密に喫ひたがるは見附かる事もあるやと側に見る者さへ胸ときめくらむ。

なべて烟草喫ふ人は我煙の傍の女等の方へ行くを心にかけざるに、女は「なあ、厭はし」等言ひて眉ひそめ袂にて、はた／＼と追ひ。或は誤りて煙吸ひ、咽せ返りなどするに、男は手うちて笑ひ、興にのりて引捕へ悶く女の顔にふと煙吹きかけたるなどいと苦々し下司男の富士吹かせたるも似つかはしからねど、身分ある人の勤儉なりと言ひて、麥飯食べ、朝日吸ひたるも體裁よきものにはあらず。

また日頃、煙草持たぬ男の友の袋を見て、一寸一本など言ひて我物顔に燻らせたるは見る目も憎し。夏の夕まぐれ、街行く人の姿は朧にて只煙草の火のちか／＼と赤き螢の樣にて行くは涼しげにも亦あはれなり。

◎縋り處なきもの

振り棄てられたる戀。禿げたる頭。

◎誇らかなるもの

試驗場にて人より先に答書き終りし折、碁將棋にて敵を苦しむる折。またざる人の我身に戀し給ふ等、ききたる時は、いとゞ恥しく顔打紅むれども、何となく誇らかにまた心丈夫なる心地するも可笑しや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

駿洲靜浦の海岸



東女は上方の事とし言へばいみじく惡樣に云ふよ住みつべき處は我生れ所より外になしと思へるにや「京大阪は家のたゝずまひよりして惡し、河は隅田に增す美しき川やはある。此處の鮓はまづし、鰻丼もまぶしと云へば氣味あしゝて食ぶる氣にならじなど」只管に打けなし、上方言葉のきゝにくさよとて憎さげに眞似したる。あるは鱧と云ふ魚見て、「あな東にては見たる事もなき姿醜き魚なり。嘸味も惡しかりなむとて打怯えたるよ。

◎飽かるゝもの

若き男壻にとりたる後家。隣より聞ゆるオルガンの音の昨日も一昨日も何時も同じ譜ひきたる。

ふかしパンも飽かるゝもの也。さる人の初めて家持ちたる時理想の家庭造らむとて勇み、何か常の慣に變りし事せむと思せし折、ふと、ふかしパンの廣告を見、いかで我家にてもと、造りし初は三度の食事にそを代へ、人にもすゝめて、いと西洋めきてあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りしが、十日と經たぬ間に夫の君も妻の君も飽きはて、其後いゝふかしパンとし言へば頭痛する程樣になり給ひるも笑止なれ。

◎久しくなりにしもの

華厳の自殺。舊弊なる伯母の肩掛など、何時の昔の流行とも知れぬものを、今年もかけたるは凄まじ、我見ても久しくなりし、と歌にもよみたき心地ぞする。

知れぬまゝなる二本榎の犯人。

若き男の先生は恥かしがり給ふもの哉。三十路越したるはいと厚かましけれど。

さる若き君の學校出でゝ初めて、さる女學校に教へ給ふ折教壇に立ちても極り惡しげに雙の手の置き處にもまどひ、白墨などいぢり、あるは額撫で、況して並居る生徒の顔などはいかで見給ふべき、ひたすら伏目勝にせらるもいみじ。さる程に組の一人、伏目の內に先生の時々右の前なる机見遣り給ふ事あるを見出でゝ、あな怪し等言ひ出し、そは先生の御癖なりと打消すものもあれど、其時間となれば言ひ合したらむ樣に皆々其方に目を注ぐ樣なりしかば、右の机の君はいとゞ恥しさに顔もえ擧げず消えも入りたき振し給ふも可笑し

さるに其事自然先生の耳にも達きしにや、其後は其方には目もはなたず、生徒の質問せし折さへ、ひたすら天井仰ぎて答へ給しこそ、をかしかりしか。

△日用化學講義

近藤耕藏著

日常の生活が進歩して來ると化學の智識は各方面に於て必要のものとなつて來る。而かし化學は文藝其他趣味を主とするものに比べて往々人に嫌はる學科となつてゐる、それといふのがつまり面白く說かれて居ないからである。少くも婦人の頭腦に解らせる樣に說かれなかつたからである、然るに本書は從來の弊を破つてなるべく分り易く、普通の讀書眼に訴へてよく意味を咀嚼せしむる樣に說いたところは此種の書物としては一段の進步である。一例をいふと燃燒に關する化學の中に火の燃ゆるわけを說いてその實驗を示し、石炭と薪、瓦斯の理由を說明してある、又洗滌に關する化學の中に、水と油と石鹼との關係が說いてある。食物に關する化學の中には食物の原素と胃腸の消化關係が說いてある。其他防腐に關する事醱酵に關する事、化粧に關する事空氣、水に關する事、金屬、陶器に關する事、いづれも皆吾人の日常の生活に觸れて起る百般の事柄を化學上から說明し解剖し、實驗の例を示して分類的に詳しく記述したものである。家政を取るものゝ心得べき良書である。價一圓八十錢神田神保町光風館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

諸國名物料理

東　涙　女

○ボウブラ蒸

この間田舎の知合から、今年の初生だといつて、南瓜を送つて下されたが、初物とはいひながら、此様南瓜船が着かれても、その始末に困つて仕舞ふ。如何したものだらうと、フト思ひついた、長崎のボウブラ蒸し、丁度今日四五人のお客様もお出になる筈だから、さて彼地には南瓜の事をボウブラといひます。これは和蘭陀語を訛つたのださうです。でそれをこしらへる具は、牛蒡、人参、木耳、いづれも五分位の長さに細く短冊に刻んで、チヨツト水に放しておいて、アクを抜くのです。それから南瓜の溝を立てたまゝ、綺麗に皮を剝いて、蔕附にして、ぐるりと切取りその内部の種を、匙でくり抜いて置く。丁度肉屋が挽き肉を持つて来れたから、ソロ／＼煮附けに取掛りませう。

水に放して置いた牛蒡、人参、木耳を笊に上げて、水を切り、大きい鍋で松魚節の煮汁を引いておく。先に挽肉に米利堅粉を少し加へて、程好き大さに圓め、酒、醤油、味醂で味をつけ、その殘り汁に一番煮汁を注して量を増し、牛蒡その外の具で煮て味をつける。これはザツト煮ておくのです。それから以前の南瓜の中に、牛肉と具を詰める。蔕附のところを蓋にし、竹皮を細く裂いて、四つに縛り、蓋のとれない様にして、其儘大鍋に入れ、二番煮汁と、酒、醤油、味醂を加へた汁を注して南瓜の八分目かぶる位にして煮附ける。これは好く味の通る様に文火で緩々と煮た方が滋味いです。

煮上つたなら、一つ宛竹皮をはづし、平皿に全部盛つて出す。お客様は各自お箸でちぎつてお食りになる。外のものは兎に角として、チヨツト目先が變つてゐるから、キツトお會食の興を添へるだらうと思ひます。

○精進落ち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今東京などでは精進落といふ語さへ知らなくなつた樣ですが、關西地方へまゐりますと、盂蘭盆の十六日には調理いたします。別に珍しいものでもありませんが、この名がチヨット面白い。お總菜向には、それ程手がかゝりませんから、時節柄取合によろしうございます。

で此料理の材料は、冬瓜と鷄で、冬瓜は、皮を剝いてそぎ身なり賽形なりに一寸位に切つておき、鷄は骨と身とを離さないで、骨附の儘五分から一寸位に横に切つて、まづ冬瓜を大な鍋に移し、水をヒタ〳〵に滿して、湯煮るのです。悉皆湯煮つたと思つたら、すぐ鷄の肉を入れて、湯煮汁を棄てずに、其儘醬油、酒、砂糖少量を加へて味をつける。味醂があらば砂糖は要りません。お汁の量は具がかくれる位で、サッパリとした味になる樣、お加減をなされればよろしい。して之は時間を多く煮る程、お滋味くなるもので、煮上げたまゝ文火にかけておいた方が、お膳につけ合せるにも便利です。

この精進落といふのは、丁度露西亞のパスカ祭の斷食開の時の樣で、何處でも必ずいたす樣です。東京でも今時分冬瓜が出ると、チヨット車蝦でもあしらつて淡泊としたお汁を拵へますが、あれと同格で、蝦の代に鷄を使ふのです。處柄とて名稱の違ふのが、おもしろいのです。

○長州名物鯛のお茶漬

このお茶漬は彼地ではなか〳〵の珍味として、如何な賓客樣にもさしあげますが、結構なもので極お滋味いものです。

これは極新鮮しい、目の下一尺から一尺二三寸位までの鯛を撰みまして、三枚におろし、皮をはいて、刺身に造つておき、別に湯煮玉子の黄身と、紫蘇の穗を洗つて、チヨット鹽で揉んだのとを、刺身と一所に鉢に入れて、煮詰た醬油に漬て、生姜汁を搾り入れておき、客に出す三時間前から漬けておくのです。

お客に侑める時には、炊立の御飯を薄く茶碗にうつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し、前の醤油に漬けた刺身をならべ、又一層御飯を盛りましては、刺身を添へして、三層位つけますと、茶碗に盛加減になりますから、これに番茶を好く焙じて、香ばしく煎じ立てたのを、御飯にタップリかけ、蓋をして出すのです。仕方は別に變りませんし、此方でも紅鮪か何か、輕いお刺身の時は、お好の方は、好いお茶をかけて食る方もあります先づあれと同樣な事で、チョット手數をかける丈おいしくもあり會席の御飯などに應用したら、面白からうと思はれます。



○桑名の時雨豆腐

伊勢の桑名で申します時雨豆腐は、まことに異な、雅美のあるものです。

元來時雨蛤を彼地で製しますには剝いた蛤を大釜に入れて、水で十分に煮込で湯煮上てから、是を、別の鍋に移して、溜醤油に生薑を加へて煮上げるのです。時雨豆腐はこの蛤の剝身を湯煮た汁で豆腐を煮まして、湯豆腐といたし、これに蛤を煮上げた溜醤油の濃いのをつけて食べますので、その味は又別なものです。

そこでこれを家庭向のお惣菜にいたさうとするには同じ樣な筆法で仕組ますので、先づ大振の蛤の剝身を、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

剝かせまして、板昆布を鍋に敷いて、水を一杯に滿し、剝身を人數相應に入れ、酒鹽を酒盞一二杯位注して、文火で煮立ます。一度煮立ちましたら、用意の豆腐を入れて煮ながら召食る樣に、焜爐の儘出しまして、別のお皿に鰹魚の煮トリを添へておきます。この煮トリは豆腐につけて食べますと、なか／＼風味のよろしいものです。此樣いたせば桑名で召食るのより、却つて結構で、上品でございます。煮トリの持合せのないときには、鰹魚節を味醂、醤油で煮詰め、水嚢で滓を漉して使へば、味もよろしく戴けますし、煮トリの樣な臭はいたしませんで、輕うございます。

　只今の樣にお暑い時節には、焜爐を出しかけるのも蒸苦しい譯ですから、前の樣にして湯煮上げた豆腐を、悉皆冷しておいて、皿に盛り、煮トリか、トロリとした濃い煮汁をかけ、花鰹魚を振りかけ、擦生姜を添へて出す。チヨツト お客樣が豆腐位と思つて、それ程にも思はず箸をお附けになると、全然あぢはひが違ひますから飛んだ賞賛を受けるもので、他人の知れないところに、苦心のしてある事が知れるわけで、心の入れ方ばかりでそれ程になきものも、おいしく食べられるものです。

　名物にはうまいものなしとは、好く申すことですから土氣臭いところで名高くても、味の上向になつた方が、口にされるものではありません。諸國皆それ／＼の國風の料理がありますから、それを此方の口に適ふ樣に改良しなければいけません。この時雨豆腐とて、彼地で實際召食つたら、チヨトおよろしい樣でも、直ぐ鼻について仕舞ひますから、それに似通つた樣に、おいしく拵へ直して、各自のお口に適ふ樣にいたせば、その材料の高下次第で、お客向にも、お惣菜向にもなるものかと思はれます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦女界

八月號出來　一冊十五錢

◎日露戰役中危險の任務を番深く滿州に入り遂に永住の計を定めて成功した苦心…伊藤稻子

▼身体を太切にすべし…下田次郎

▼女に教育は要らぬと云愚論…阪谷男爵

▲女子の職業としての銀行雇員…黑崎日銀課長

▲二條九條兩公爵夫人の交際振…本誌記者

▼女子は文藝家として適當なりや…坪內博士

▼何が一家の團欒を破るか…上田博士

▼大阪の婦人と京都の婦人

▼撫子と文藝

▼夏の瑞西

▼名流婦人の食物

▼夏の鎌倉

▼虫のこゑ〴〵

▼金魚の話

▼海水浴は斯の如くすべし

◎雜貨行商までして良人の地位を作らしめた十年間の苦辛…佐々木たつ子

▼命を賭して三度強盜と鬪つた實驗…上村年子

▼清少納言の性格…戸川殘花

▲夏季看護は如何にすべきか…荻原竹子

▲流行界に於ける最近の傾向…本誌記者

▼姿を美しくするには斯くすべし…田邊學士

▼斯る不注意から子供を弱くす…瀨川博士

▼土產物及び贈物出し方

▼話のたね

▼八月の料理

▼婦女講壇

▼八月の園藝

▼讀者文藝

▼八月に於ける一週間の獻立

▲懸賞募集

◎女灸點師となつて良人に後顧の憂をなからしめ國事に盡さしめた苦辛…岩崎八重

東京神田表保町　振替東京一三五番

同文館

六冊前金九十錢　十二冊一圓七十五錢

女(その一)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第壹卷以下數版を重ぬ

名家小

（裝釘……洋裝菊判總

明治 世、新文學ありてより、僅に未だ三十餘星霜を閲すに過ぎずと雖も、其間思想の起伏、文運の變遷一にして足らず、大家相踵いで出で、雄編傑作また少しとせず。或は艶麗に、或は崇高に、或は平淡に或は怪奇、皆な競うて其特色を發揮し、春花の爛熳、秋草の温雅、人情の機微を寫し、心理の複雜を描き、文章思想共に美を盡し粹を極む。まことに擧代の偉觀と稱すべき也。されど珠は聯珠の美しきに如かず、雄編傑作また時ありて散逸。本館此處に思ふところあり、名家小説文庫を發刊し、毎卷千頁の大冊子となし、諸大家の集中苟も錄すべきものは悉くこれを輯め、裝釘を美にし價を廉にし、逐次刊行して、以て讀書社會の渇を醫さんことを期す。竊に惟ふ、本書完成の曉は明治文學の偉觀燦然としてそれ讀者諸君の眼前に輝かん乎。

露伴叢書

前編（九百七十餘頁）正價金貳圓 小包料拾貳錢

後編（九百九十餘頁）正價金貳圓 小包料拾貳錢

前編目次 ▼自傳▼二日物語▼夜の雪▼僥倖▼縁の絲▼休暇傳▼毒朱唇▼ひげ男▼新學士▼迷霧▼和合樂▼川舟▼大珍話▼縁外縁▼夢がたり▼是は〱▼醉鄕記▼珍饌會▼獅子庵▼伊能忠敬▼まき筆日記▼客舍雜筆▼地獄谷日記▼將棋雜考▼將棋雜話▼元祿時代の雜劇▼折々草

後編目次 ▼椀久物語▼春の山▼當世外道の面▼封じ文▼鐵三鍛▼自縄自縛▼蹄鐵▼冷千氷▼箱根草▼銃獵孝行▼夢日記▼ひとよ草▼新浦島▼鄭成功▼日蓮上人▼二宮尊德▼突貫紀行▼醉興記▼易心後語▼春の一日▼文明の庫▼うつしゑ日記▼遊行雜記▼旅の心得▼知々夫記行

澁柿叢書

全一册（紙數壹千餘頁）

正價金貳圓

小包料拾貳錢

（その二）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

說文庫

東京本町 博文館發行

(クロース特製紙函入)

柳浪叢書

本編目次（▼釜煮▼妻の心▼猿冠者▼鐵火▼聚樂殿▼島勘左衛門▼是非もなき▼不老術▼新粧法▼夢と夢▼眞の武士▼親の面▼五月女坂▼三千石▼男の面▼油井正雪▼大石内藏の助▼碧玉盌▼大風乾之介▼他流試合▼脱走兵▼振武軍▼密告▼此の戀

前編（紙數壹千餘頁）正價金貳圓 小包料拾貳錢

後編（紙數壹千餘頁）正價金貳圓 小包料拾貳錢

前編目次（▼おもかげ橋▼昇降場▼骨ぬすみ▼妾▼今戸心中▼隅田の夜路▼罪の悶▼變目傳▼都の夢▼狂言娘▼畜生腹▼重づま▼貯金玉▼花ぐるひ▼幼時

後編目次（▼非國民▼松原饅頭▼歌歌留多▼黒蜴蜓▼兄の煩悶▼七騎落▼紫被布▼二人やもめ▼女夫心中▼八幡の狂女▼親こゝろ▼そまる糸▼座敷牢▼中川心中▼淺瀨の波

花袋叢書

全一冊（紙數壹千餘頁）正價金貳圓 小包料拾貳錢

本編目次（▼名張少女▼女敎師▼島の心中▼老夫婦▼新築の家▼春の別墅▼畫家の日記（アルフォンス・ドオデエ）▼令妹▼浪花節の名手▼寫生の花▼一家の妻▼初戀の人▼無辜（モウクス・メーテルリンク）▼不慮の出來事（フランソワ・コッペエ）▼二人▼山小屋▼憶梅記▼思ふどち▼澤山窮谷▼老僧▼小桃源▼みやま鶯▼悲劇▼孤島

（續刊）……▽水蔭叢書 ▽小波叢書

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現代文壇の最大產物
嚴肅なる人生の批評

坪内雄藏
内田貢
池邊吉太郎
編輯

東京朝日新聞社發行

菊判八百頁
コロタイプ肖像一面
挿畫五面入
正價金二圓三十錢
郵税金十二錢

二葉亭全集

第一卷 創作之卷 **浮雲、其面影、平凡**

此沈鬱なる聲を聞けよ、此痛酷なる描寫を味へよ、二葉亭の著作に由て初めて**人生の爲の文學**を見るを得、二十年前の『**浮雲**』が沈痛なる露國の文豪の音響を傳へて戲作の甘睡を破りたるが如く**文學史上永遠に輝く**の**此三傑作**は**今日**も**猶**ほ、**明日**も**亦、永久**に**渡**りて人生の教訓とすべきものなるべく、犀利峻嚴細さに到るの描寫に由て**人生のパノラマ的縮圖**を活躍し來る、眞に空前の大手筆也、座右一**二葉亭全集**あつて初めて嚴肅なる、森沈なる痛酷なる現代思潮を談ずるを得べき也

▽**發賣元** 東京本町 **博文館** 振替貯金口座東京二四〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故國木田獨歩君著

獨歩全集

（後編………近刊）

全二册

洋装菊判總洋布
特製函入美本
紙數各八百有餘頁

前編＝正價金貳圓
小包料十六錢

獨歩の作品は文壇覺醒の第一聲なりき。眞實にして熱誠なる内容はもとより言はず、その形式に於ても、その描寫に於ても、優に時流に超越せるは世既にこれを知れり。蓋し明治文壇に於て稀に見るの天才にして、其作品時に激越にして悲憤、時に閑雅にして瀟洒、或は清雋なるあり、或は奇峭なるあり、千態萬狀、眞に人をして人生活畫圖の眼前に迫り來れるを覺えしめずんばあらず。今、獨歩全集一卷成る座右の友として敢てこれを大方の諸君に薦む。

前編目次

後編目次

東京日本橋本町三丁目　博文館　振替口座東京二四〇番

女（るの五）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故川上眉山君著

巖谷小波君
石橋思案君
校訂

武内桂舟畫伯装釘

博文館發行

眉山全集

▶大好評◀

幽艶にして淸逈なる眉山氏の筆は、眞に明治の華文なり。況んや其想、おのづから當代に重きをなして、而も逌爾として迫らざる所、我文壇の重鎭たり。今や斯人亡くして、其著作單り金聲玉振の響を傳ふ。本書に收めたる諸篇は、孰れも當時文壇をして、眉山氏が絶倫の盛名を擅にせしめたるものの實に之れ我が讀書界に於ける珍壁にして、而してまた明治文壇の異彩ある大作家が面影なり

第一卷目次
▼雪折竹 ▼大盃 ▼奥様 ▼いさゝ川
▼風流狂言記 ▼書記官 ▼船橋 ▼碧水志
▼お駒 ▼絃聲 ▼うらおもて ▼柴栗 ▼逸樂篇
▼有明 ▼鹿の子絞 ▼うつせ貝 ▼黄昏
▼青葉 ▼島田くづし ▼寢覺 ▼塵影

第二卷目次
▼梅紅葉 ▼野人 ▼二重帯 ▼鶴澤橋
▼左巻 ▼行衞 ▼一軒百姓 ▼三銃士

第三卷目次
▼春宵 ▼虚僞の價 ▼爪木折 ▼絞小袖
▼落葉 ▼春潮 ▼片影 ▼滑稽相撲三人男
▼澪標 ▼萬平 ▼凡人男 ▼妖艶
▼弱氣質 ▼希望 ▼小妾記 ▼喜劇仙臺平
▼裏座敷 ▼明眸 ▼小町紅

第四卷目次
▼新家庭 ▼同胞 ▼魔道 ▼昔の戀
▼梅の寮 ▼一夜天下 ▼寶の山 ▼千紅萬紫

全四册洋裝菊判
總クロース上製頗美本
每巻紙數約八百五十頁
價各壹圓八拾錢
小包料各拾貳錢
全部價六圓廿錢
外に送料を要す

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 振替東京二百四十番 博文館

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

西村醉夢君著

和歌ト俳句

袖珍洋裝美本　紙數三百五十頁　正價四拾五錢　郵稅六錢

本書は和歌及び俳句に關する解說、歷史、批評、並びに修辭法を記載し、卷頭には『詩學梗概』と題し、それに就ての解說をしたもので一般家庭に讀まれる目的で編んだものであるから、極めて平易な、通俗なことのみを選び、修辭學、詩學の梗概が窺へ、また和歌と俳句との文學的價値をも分かるやうにしたものである

((內容))

【第一篇】詩學梗概＝●詩とは何ぞや●詩の內容●詩の律格●詩の種類●詩の用語●空想と寫生●詩の生命【第二篇】和歌＝●和歌とは何ぞや●和歌の種類●古歌の風格●現下の歌壇●和歌の書式【第三篇】俳句＝●俳句とは何ぞや●句の制約●俳句の特色●俳句の沿革●最近の俳壇【第四篇】修辭法＝●譬喻●對照●雜種の修辭

東京本町　振替口座東京二四〇

博文館

東京帝國大學講師　佐々木信綱君著

日本歌學史

全一册　洋裝菊判上製函入　紙數六百餘頁

近日發行

本書は、著者が、東京帝國大學文科大學に於ける講義を修正增補したるもの、平安朝以來、鎌倉足利時代を經て、明治以前にいたる**歌學の歷史**にして、歌論を中心として一般の和歌に關する研究の變遷發達を審かにせり。而して一方よりいへば**文學論**の歷史にして、また**和歌史**の一部たり、一事苟くもせざる著者が、精到なる研究の結果に成れるもの、我が國文學界に多大の貢献をなすべき好著なり。

東京本町

博文館

女(るの七)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(るの八)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の魚類

夏季は魚類が直に腐る夏季に魚類を長く保たせる事は却々六かしい併し水産學の方で種々調べた結果次の様な方法にすれば割合に保存が良いのである。

△早く屠れ

魚を漁つたら可哀想などゝ云つて居ないで直ぐ殺すことが肝腎である魚の急所は頸筋の所であるから魚が漁れたら直ぐ頸筋の所を尖端の尖つた物でグッと突刺すスルと魚は一跳跳ねて直に死んで了ふ普通の買人は何でも魚が活きてさへ居れば新らしく又旨い様に思つて魚屋に活きた魚をと所望する其處で魚屋も活きたのを仕入れ様とする魚市場でも漁師でも其爲に皆活きて居るのを珍重するが是は甚だ間違つて居る漁つた魚を其儘長く活かして置けば魚は苦んで體が非常に疲れる其爲に肉の締も無くなつて味も非常に落ちて了つて色も艶も無くなつて非常に悪くなり眼色も悪くなり又直ちに腐る漁つて直ぐ殺した魚は疲れて居ないから肉もよく締つて味も良くて色艶眼色もズッと宜い試に漁つて直ぐ殺した魚と長く活かして置いた魚とを並べて見ると一見して直ぐ見別が附く且直ぐ殺した方は却々保存も宜くて腐敗も遅い此事は漁師たると魚屋たると買人たるとを問はず誰でも充分に注意して貰ひたい事である。

△取扱の不注意

次に濱邊へ往くと漁つた魚を波打際へ山の様に積上げてあるのをよく見る事がある殊に夏向などはアレが實に宜しくない彼の爲に魚がイキレて腐敗を非常に早くする未だ魚屋の手に渡らぬ中既に濱邊で腐り始めるのである漁場などへ往くと毎度注意をするが漁師連中面倒がつて兎角積上げたがるので困るアレは世話でも積上げないで可成一つ並べにする様にしたい畢竟漁師にも腐れば損だから出來るだけ面倒を見て欲しいのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△運搬法の粗忽

夫から運搬法是が又却々大切な事で此運搬法の悪い爲に腐らせる事が度々ある鮭鱒など云ふ大きな魚を運ぶにも頭を下にし尾を上に立てゝギッシリ詰めて車へ載せて田舍路の石のゴロ〳〵した凸凹の道をガタリガタリと曳いて行くのを度々見受る事があるがアレが實に悪い、頭は固い所である夫が下になつて居るから車が飛び上つたり動いたりするのが非常に強く響く其響が肉へ響いて肉は其爲めに非常に疲れて締が無くなつて長く活した魚の肉と同じく味も落ち腐敗も早くなる同じ事が横並べに載せれば車の響が強く利かない此邊の事は大に注意して欲しいのである又魚を箱詰にして送る時船汽車等に積込み或は荷卸しする時甚だ手荒く扱ふのを見るアレも車に縦に載せるのが悪いと同様に頗る悪い矢張其爲めに肉が酷く疲れて味がまづくなつて早く腐る。

別段大して六かしい事はない唯親切に取扱へば魚は腐敗も遅くなり味もまづくならないのに一般に此事に注意しないので甚だ困る漁師諸君は勿論の事苟にも魚を取扱ふ人に以上の事だけでも注意して貰へばいかに夏でもさう早くは腐らず味も落なくて結局お互の德である恰度氣候も夏である何卒出來るだけ此邊の事に氣を附て貰ひたいものである。(以上岸上理學博士談)

△魚の一番新しい時

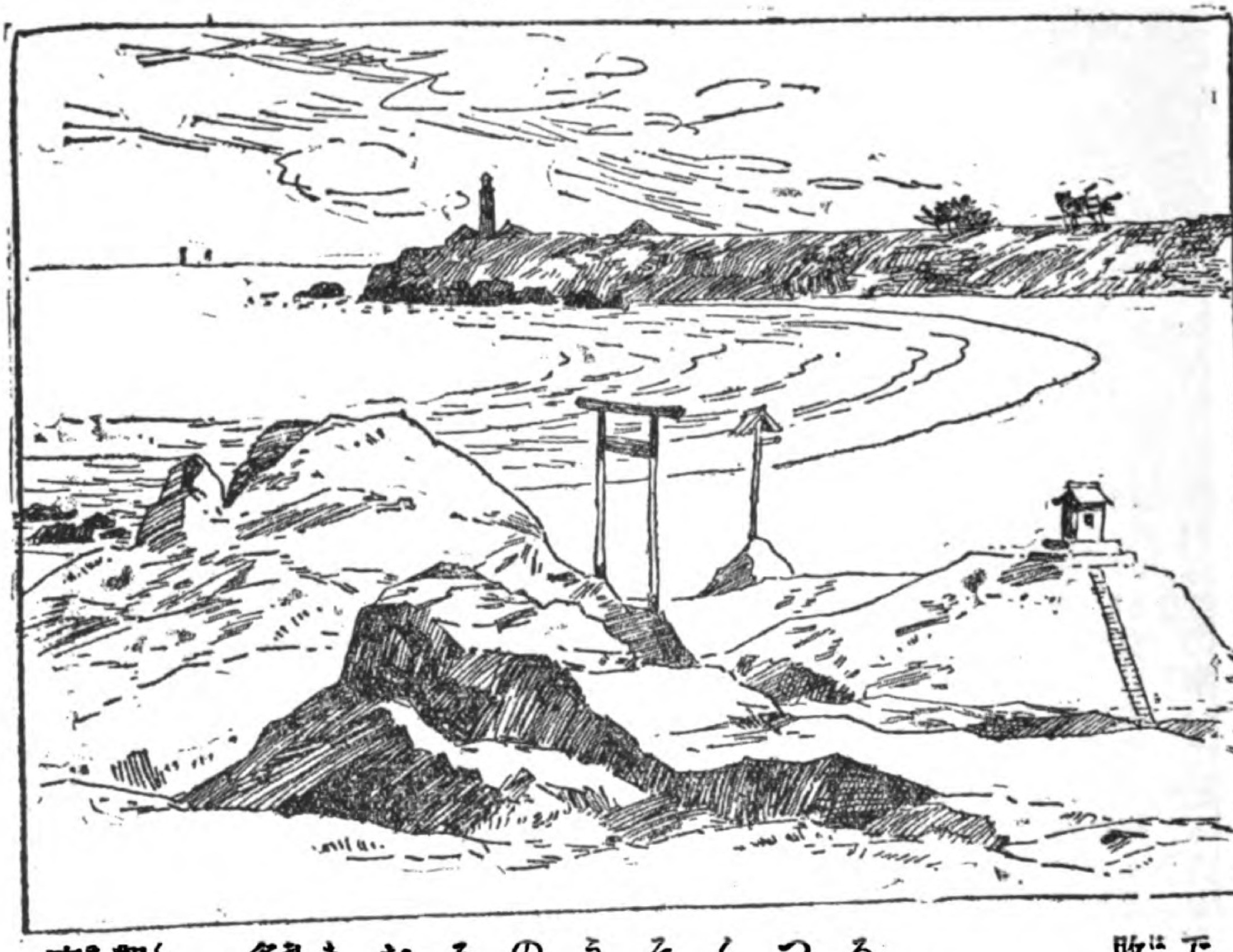
此頃は生魚も産地から東京へ送るにも、又それから出入りの魚屋の手に入るまでにも、随分保存に手を盡すから、めつたに腐敗したものなどに出逢ふ事はありませんが、それでも夏分などは充分注意を要します。

魚が新しいか、古いかを見分けるには、河や海から捕へてから腐敗するまでに、どんな經過があるかを知る事が肝腎です。それを細かに調べて見るに、水から取りあげた當時は、數十分間はね廻つて居りますが、血液の運動が止まると全く死んでしまひます。そこで此れに電氣を通じて見ると、また激しく動きますが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

暫くすると其電氣の反應も頭の方から尾の方に及んで段々と消えてしまひます。で此の時迄は魚體は柔かですが、尾の方が電氣に感應せぬ樣になると同時に、今度は尾の方から頭の方へ向けて肉が段々と硬くなつて來ます其魚體が硬くなつて居る時間は、魚の種類に依つて長短があります。それが又段々柔かになつて來て、終に體全部がぐたぐたになつてしまひます。それを過ぎると即ち腐敗し始めるのです。これは網で捕つたものよりは釣

銚子犬吠岬



で捕つたものゝ方が永く腐敗せずに居ります。

△鮮魚の外觀と色合

皆樣が魚類を御求めになるのは、多くは肉が硬くなつて居る時と、それが柔かくなりかける時でありますそれゆゑ新しいものを得やうとするには捕りたてゞ體の柔かい時は別として、成るべく肉の硬いのを選んでお買ひになれば間違ひありません。つまり肉に彈力が多くあれば大丈夫なのです新鮮の度合を又色合と外觀を以ても見分ける事が出來ます。先づ一尾の儘の魚

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ならば鮮の色澤に依て見分けます。魚類の色も様々で眞鯛は赤色で幾分の金色ある鮮が背部の方に少し交ざつて居り、鰹は背部は蒼黑色で、腹は銀白色、かさごの様な磯魚は褐色である等數限りもありませんが其色澤が鮮麗で光の有るのは新鮮な證據です。古い魚は其固有の色は褪せて曇りが在ります。それから眼球を見るのです。透明なれば新鮮な者ですが、濁て居れば古いのです。

次に鮪の様な大きい魚で、肉塊になつて居るものは表面の色澤で鑑別する事は出來ませんが、其肉の縱斷面を輕く壓して見て彈力の多少を試み、それから横斷面を見るのです。さうすると肉の組織が明かに分りますから、組織と組織との間にある薄い白い膜が延びて居るか縮つて居るかを見るのです。縮つて居れば新鮮なのです。

△鯛は頭の詰つたもの

それから鯛は同じ魚でも非常に味ひに甲乙のあるものですが、之を見分けるには下の様に致します。今鯛が三尾なり五尾なりあるとすれば、先づ成る可く肉の厚いのを選び、それから頭を見、眼球と口吻との間の成る可く短かいのを求めるのです。魚の大小に依て多少外見がちがひますが、頭の成る可く詰まつたものを求めれば必ず味がよいのです。

又鮑は岩付の處が蒼黑色の者が美味です。黄色のものもありますが、肉が薄くて味は前者に劣ります。

此の外一々申し上げれば澤山ありますが、生魚は右に述べた事だけで大概何魚にも應用が出來ます。

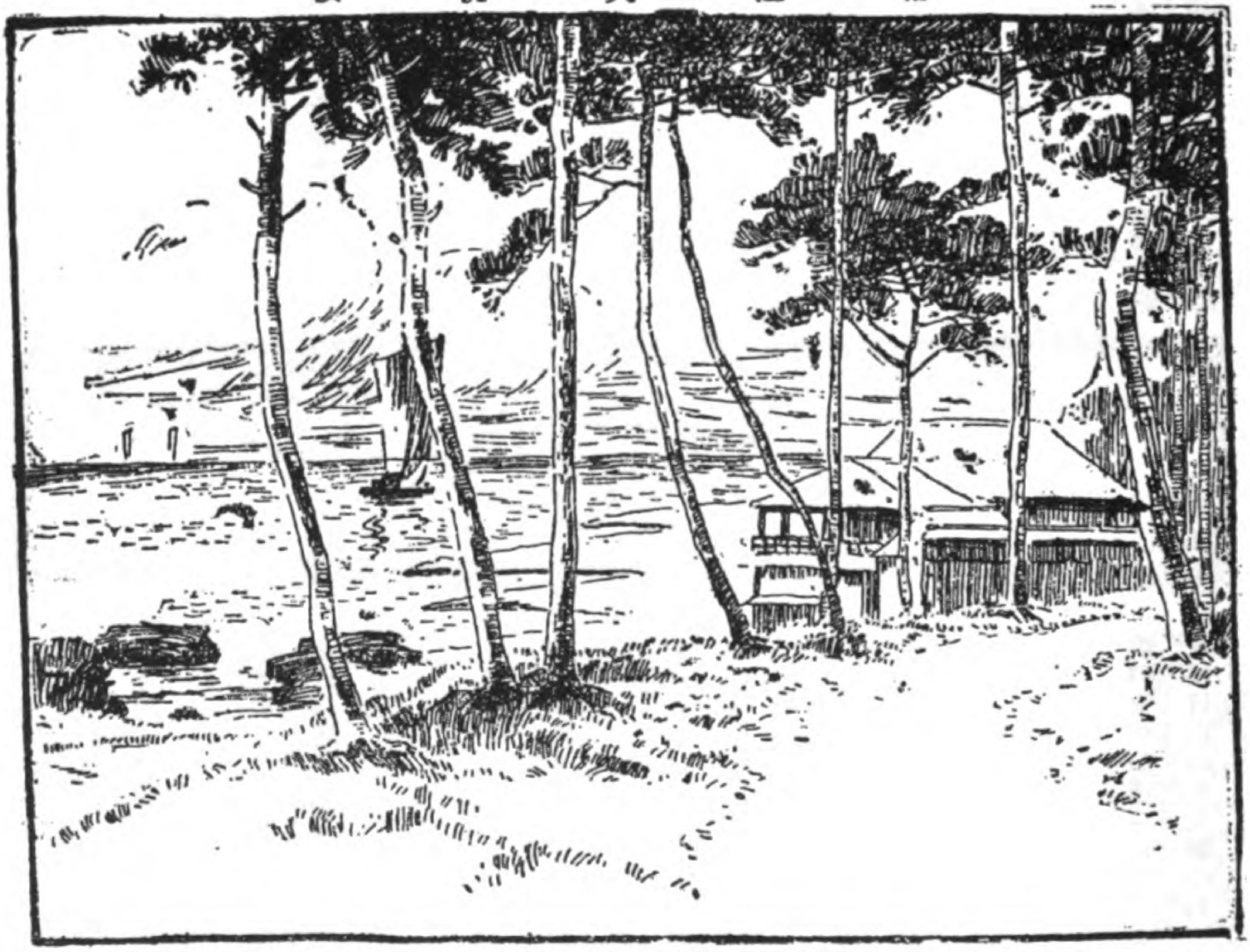
△蒲鉾は音で試めす

蒲鉾は白い肉の魚類二種以上を適當に配合して能くすり交せ、食鹽、味淋、砂糖などを少し宛配味して作るもので、外見上此の品は美味であるか不味であるかを知るのは却々困難ですが、此れも先づ肉に彈力のあるのが良いので、輕く壓して見ればわかります。それから板の附いて居る方を指の先きで稍々強く叩いて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

音を聞いて見るのです。其音に響があれば先づ宜しいのです。響のない音がするものだと、肉の表面は相應に彈力があつても、中は餅の樣ににちにちして、味は惡いのです。それからこれは左程需用のあるものでもないからどうかすると蒸し直した物を買ふ事がありますから、氣をつけなければなりません。肉の表面が滑らかで、どこともなく底光りのあるものなら大丈夫ですが、表面に光澤がなくて極く小さな氣胞のあるのは多くは蒸し直

常陸大洗濱



しの不味い品です。

◎茄子の蜜煮　一旦鹽押をして置き其を出して十分鹽を拔いて湯煮にし暫く經過してから僅に鹽を加へて砂糖蜜で煮詰めるのであるが初めの湯煮が足りなければ苦味がある。

◎茄子のしぎ燒　茄子の皮をとり二三分厚みの輪切にし其に串をさし胡麻の油をつけて焙り此を五六回も繰返した頃、味醂と砂糖とを加へ摺つた味噌を着け今一度燒いて串を離すのである此には芥子で香味をつける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

志なさだめ

浮舟

△澄江さん

土地で一と云つて二とは下らぬ呉服屋店の評判娘、お姉さんは意氣な仇つぽい方だのに此方は當世風。

やせぎすで色白の細面、きれ長な一重瞼、其表情の御上手な事と云つたら、黒い御髮をいつもローマに結んでいらつやいますの。

大柄の大島に臙紅色の中襟、綺麗なおくびへ卷きつけた樣にきつと合せて、それあ振ひつきたい樣よ。

年は十九ですがまだやつと十七位にしか見えません、昨年高女ん優等で卒業、澄江さんは目白を御志望だつたのですが昔氣質のお父さんが商人の娘に學問は不要だとてどうしてもおきき届けにならぬとか

江波さんと云ふ若い中尉と相思の間とか。

△薫さん

醫學士の妹さん、去年高女を卒業からは毎日お茶やお琴の稽古、どこと取り立てゝ云ふ程美しい所は無いのですが何と無く愛くるしい方。

色の白い肉置の豊な、笑ふと両ほゝにゑくぼのよる、いつも御髮はルイザ卷、黄八丈の御きものに同じ御被布がよく似合ふ。

氣質がしつかりして學問の方は何でもよくお出來の方。

學藝會の時演壇にお立ちなすつて臆せず滔々とお話なさる御様子眼に見える樣。



△妙さん

それはやさしい女らしい方、お母さんが継だからでもありませうがいつも淋しさうお父さんは中學の古い先生。

お母さんの御機嫌もとり、幼い妹さんや弟さんの御世話もさるゝので随分と御骨が折れませう。

お小さい時から苦勞なさつた丈あつて醜いも甘いもかみ分けて何誰にだつて美しく交際れますからみんな「妙さんは怜悧だ、今の若い人たちに似ずよく氣が付く」と申されますよ。

△夏江さん

裁判官のお嬢さんですゐ分活潑な方。

今は目白の英文科に御いでゝす、やせぎすでお背の高ひ切り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高いきつとしまつた御顔です眼元が涼しくて此方がにつこり御笑ひなさるとまつたく引き付けられてしまひますよ、近眼でとうから金ぶちの眼鏡かけてゐなさいますの。

極く淡白な方でどなたとでも御交際なさるから男の御友だちも多くありましたが一度でも他人から風評など立てられた事はありません運動好きでラケットは離した事無し。

△お艶さん

資産家の箱入娘、たれかゞ歌麿式の美人だつて云ひましたがまつたく、それもその筈、御母さんは京の祇園で全盛をうたはれた妓ですもの、小學きりで學校は御よしになつてお家へ師匠をよんで長唄や踊のお稽古。

御友達も少ないのでたまにあがゐとそれこそ下へも置かぬもてなし振り。

けれども此人の御話と云へば芝居の事や着物の話許り、これぢあまるで芝居やきもの〻爲に生きてゐるも同じ事、それで本人は御得意になつてゐるのですから御氣の毒れ。

美しいきもの着て面白いもの見て暮す許りが生の意義でも有りますまい。

お艶さんの上に兄さんがありますが此人が又中學時代から注意人物、もつともお顔は今業平とも云はれる程美しい方ですけれど品行はゼロ高等學校の入學試驗に三度もヘールしたと云ふ君です、蘭さんなど此人をつかまへて色魔よばはり・・・・



△富美子さん

この方よ、例のデカダン令孃と云ふのは。

御父さんは某役所の下級官吏、兄さんは中尉です、顔も御氣持の惡い位だからなか〱美しいし不斷にだつて木綿のおきものなんか召しなさらないから知らぬ人が見ればどこの令孃かと思ひます。

一寸夕方そこへらへ出なさゐにもモスリンの浴衣に絞り羽二重の帶白い素足に空氣草履ですよ、今日カシミヤの袴裾長くかゝとの高い靴で蹴つてゐらつしやると思へば明日はズット大輪の銀杏返し、縞のおきものに縞の御羽織、とても素人とは見えないやうな風ですの。

昨日ステーションで若い紳士と二等へ乘り込むのを見たと云へば、いや今日マントの青年と海岸を散歩してゐらしたとの噂とり〱。

兄さんの御友だちとも面白からぬ評が立つてゐます。

只今は多額納税者の御次男さんと鹽原にゐられるとか、御兩親はそんな事御ぞんじないかどうか、あは好くば嫁を玉の輿に乘せて自分たちは左團扇で世を送らうと云ふ人の多い世の中ですもの、まあ私とした事がべら〱と喋つてしまつてどうぞ皆さんに御内密にね、女は昔から執念の深い者と相場がきまつてますから、おゝ、こわい〱清姫の樣に蛇にでもなられると。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

失意の人と得意の人

荒木田　たけ女

どうせさみだれの頃、陰欝ながらも降りさへせねばと、なでしこ幼稚園に夫と推した、梅田未亡人たね子の君を訪ひぬ。

まだ保育中の十二時半、お邪魔なればお終ひまでお待ち申して……といひつゝ、名刺を取次の小婢に渡せば、時を移さず應接室に現はれたまひし切髪の御婦人ハタと視線の會ふや否、まあおなつかしい……。語尾はお互に顫へて、眼にサット露を宿し暫時無言の一刹那、妾が胸裡に閃く回顧。十八年の昔まだたね子の君は花の蕾のお十四五、○○檢事正と時めきたまふ御兩親の膝下にて、雨とは何？風とは何？、只少女の歡樂に酔ひて、いと快活に過されしかの頃を、浮世の波風斯うも御見替へ申すまで、飜弄せしかとそゞろ胸せまれるを、勇を鼓して一わたりの御挨拶する。

「先日幼稚園のお兒さん方お連れ遊ばして公園に御運動の折、よそながらお見上げ申てどちら様の未亡人でいらつしやるやらと存じて居りましたら、此間名古屋の妹から手紙をよこしまして、妾の一番仲よしだつたたね子様、梅田海軍大尉の奥さんにおなり遊ばしたが、日露の時に御戰死遊ばし、今は旦那様の御郷里なる御地で、保姆をお勤めだと風の便りに伺つたから、どうぞお取調べ被下つてほんとにたね子様でしたら、是非姉さんお尋ね申て、御様子を知らせて頂戴つてね、申て參りましたので考へて見ますれば……なる程さう聞いて見れば日外公園でお見上げ申た未亡人の先生、よく妹と一緒に小學校にお通ひの頃のたね子様のおちひさい時のおもざしが、おあり遊ばすから夫に相違ないと存じまして伺ひました譯……。」

「まあどうも御親切に……。實は昨年春新聞でお宅様にこちらへ御轉任の事は承知いたしましたから、誠におなつかしく存じまして、絶えて久しきふじ子様の御様子も、伺ひたいは山々で御座いましたが、何しろこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んな髮つた姿で…・（視線を落してホロリとなさる）、お伺ひ申すも何んとやら氣が進ます、其くせ振り返り勝に御門前をとほる事もございましたの…・。まあほんとに嬉うございます…・。」

端緒開けば夫から夫れと問ひつ問はれつ、いつはつべうもなき物語。

「まだ御授業中をお邪魔致しまして濟みませんから、私は參觀させて頂きます、どうぞお構ひなく又おひけになりましてから緩々お話し致しませう。」

「夫れでは一寸失禮致しますどうぞ御覧下さいまし。」

一先づ應接間を出でゝたね子樣はお受持の保育室へと急がれる。心持ちこゝみ勝なるお脊の邊り、お肩の痩せ、房々とせし漆の髮も無造作に束ね切られし其邊りに、無言の歴史を語つてゐる、打見しのみに半生の悲慘も察しられて…・。妾もお跡に從ひ保育室を參觀してゐる内に今日の日課の終れる、鈴の響に幾多のなでしこ、皆夫々暖かきホームに歸るべくお仕舞のお唱歌無邪氣にうたひて、お行厨袋お草履袋肩に銘々先生左樣なら…・。

跡はサット潮の引きし如く。たね子樣はサアドーゾと又々應接間へと誘はれた。

「御覧の通り毎々〳〵子供にあへられます事、最初の内は馬鹿々々しい樣な心も起りましたけれども、此節では馴れて先生〳〵と附きまとはれる子供が誠に可愛いうて、うるさいの草臥れたのと思つた事はございませんのよ、妾も今年漸く九歳になる女の兒一人を杖とも柱とも賴む計りに先を樂しんで暮しますのを思へば實に子供程世に寶はないと存じまして、是丈けの園兒は皆お寶だからと、私の及ぶ限り盡さうと考へまして若い保姆の中に立まじり一生懸命に働らいて居りますのでございますが、こんなに致して居りますと家にのみ引籠つて、くよ〳〵と過しますより遙かに年月が早う立つ樣で…・、何んだか良人が遠洋航海から、歸つて來る日が近づく樣な心が致しまして…・。」

嗚呼何んたる悲慘なお言葉ぞ。例へ蘭燈二八の春ならぬ姥櫻も中々に過ぎ行く際は惜しまるゝぞ、お兒樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の御成長とあらぬあこがれに心やり玉ふより外、絶えて希望も快樂もおはさぬ君がお心根いぢらしく、妾も同じ軍人の妻いかで他人事とのみ、思ひ過されんやと一しほ身にしみる。

「御無理はございません……、御察し申ます……。」

とのみ只暗涙を呑む計り。餘りに永居して過ぎし思ひ出さぐらんはいと罪深し、千萬無量の君が胸中……。」



さるにても軍人の常とはいへ、最愛の夫は國民の犠牲、殘りし妻子の寂寞を慰むべく餘りに世は冷淡ならずやと。

「早速妹の方へ今日お目に懸つた事、申遣はしましたらどんなに悦ぶでせう、私もなんだか失禮ながら妹に逢つた様な心地が致しまして……、どうぞ是からは宅へもちとお氣晴しに入らつして下さいまし。」

よき程にお暇して玄關を出つれば。霏々たる霖雨物

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

淋しく、砂利に刻せる少さき足跡たどりて門外に……。

ガラ〳〵ガラ。門前に止る車の音、威勢もよき格子戸あける響。御免下さいも晴々しいあのお聲は慥かに畑上の奥さんよと思つてゐたら、果して下女の取次、もう度々のお出に取次の間違ひもなからうに例の小形金縁のお名刺。

「まあようこそ……さあどうぞこちらへ。」

「大變御ぶさた致しましてね申わけございませんのよ。とうから伺ふ〳〵と思つても妾ね大病だつたのよ、陽氣のせゐで持病がひどく起つてね、もう先達から暫く温泉に計り通ふてゐますの、エ妾のは矢張り子宮でね痙攣の來る性質なのですもの、夫れは〳〵起つたら大變よ、苦しい時は迚も看護婦二人でも押へられないから宿の出勤も見合せてもらはないぢやならないの、餘りせつないから東京に居た時かゝりつけのお醫者と看護婦とを、此處へ呼ばうかと思つて宿が電報迄打つてくれたんですがね、一時打合ふたから又見合せましたけれど、一時はどうなるかと思ひましたのよ、エ？夫れ程妾病氣したのを御存じないつて、道理でお見舞にも來て下さらないと思つてよホヽヽヽヽ。」

一から十迄虚榮の結晶と評判の奥さん、御病氣といへば鼻感冒でも御持病でも、部下の奥さん連はいはずもがな旦那様迄御丁寧にもお見舞申さねば御機嫌斜なりとか聞けど、月の半分は病氣〳〵とおこぼしになつて、一々お見舞申て居たら殆んど日參、此頃は聞いても又かと聞かぬ振り、さればお見舞の御催促にお廻りと見えたり、そんなに遂二三日迄お惡かつたといふにも似ずいつも御血色は紅ゐに、流石積年の御研究とてお化粧のあでやかさ、是がどうして五十に近き旦那様のおつれ合と思はれやう、お娘さんといへば人も誠と思ふぞかしでもお年は三十路をこえたまふとか、お髮もけふは輕き廂の格好よさ、金蒔繪美しき三つ櫛に一きはお毛も引立ちて見ゆ、お襟のあたり女ながらも惚惚とする、縞お召の對袷に黒ちりのお袷羽織、お半襟帶止めの附屬品に至る迄、流行のお見本は妾でござい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とお示しになつてゐる。
「でもまあ早く御全快遊ばしてお結構でいらつしやいますわ。」
「イ、エどうして全快ぢやないのだけれども、餘り方々樣へ御ぶさたやらお見舞に入らつして下さつたお禮やらに、お義理を濟まさねばならないと思つて今日は押して出かけましたの、エ、全くよ車は惡いのこんな田舍には護謨輪はないし、がたついて仕樣がないから近い內、東京から取寄せ樣と思つてゐますの。」



「夫は結構で入らつしやいますのね、あなた樣方は御夫婦樣計り、どんな御自由でもお叶ひ遊ばしてほんとにお羨し、……。」
「なあにね是れで中々出費が多くて困るのよ、此間の温習會の時でも、手拭なんぞ持つて來られて見れば知らない顏は出來やしないし、爲る程なら吝な眞似して笑はれ度はなし、とう〳〵拾圓散財して仕舞つたわ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まあお宅へは來ないつて？。」

「宅などの樣に物にならない家へ持つて來て、何になるものですか先方が大いに明があるのですよ。オホヽヽ。」

「まさか…ね、ホヽ。」

心中御自分の御交際範圍の廣いのが、無上のお得意とよまれる。

「エヽ折角だからまあ往くには往つたんですよ、そしたら亦馬鹿を見てね、…ヤレ樂屋へおすしを遣るの何んのつて五圓ペロリよ、夫れで面白くでもある事か丸で成つちや居ませんわ、妾など藤間や若柳見た目には馬鹿臭くてね、でも土地の人は大さわぎで悦んで居るから可笑しいぢやありませんか、歸て其翌日から持病に障つて、とう〳〵昨日迄臥床て居たの…何時もまあいつまでもお饒舌して。」

素鼠鹽瀬に竹模樣の帶の間、かい探り玉ひて金側時計パチン。

「あらもう三時過ヱ、有難う、又伺ひますわ今日はまだ四五軒も伺ひたいのよ…、信切がありやあなたも度々入らつして頂戴な、日頃淋しいから持病も起るんですわ。」

御病氣ならお見舞に、御丈夫な時はお慰めに來いと仰つしやる、大風呂敷の間役もさて〳〵恐入る。此奥さん前身を伺へば何やら會社長のお妾。どうした機會か部下の社員と自然主義、夫れが今の旦那樣。共に不首尾で落延びた浪人も、世の荒波に拔き手を切つて、今ではこゝの某銀行に樞要の位置、權の守も今は天下晴れての令夫人多くの召使ひにかしづかれ、愛國、篤志の婦人幹事の風を切つての御交際振り、日毎のお勤めはお化粧と御交際と下女のお小言と…。何が御告勞と伺へば十日とゐつかぬ下女の出入と仰あるべし、其癖妾は女子大學の家政科卒業とお振れ込み、はてさて…。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭を愉快にする基

▲家庭を麗はしくするには何うしたら宜いか、何が一番大切であるかと云ふに、近頃諸所で家庭のことを研究し、料理を好くしなければならぬとか、裁縫を好くしなければならぬとか、洗濯は何うすれば宜い、髪は何う結ぶか、香水は何う云ふのが良いと云ふやうなことまで、いろ〳〵研究されて居ります、成程然う云ふことも必要でありませうが、家庭を愉快にする原理原則とも云ふべき根據となるものは、其麼ものではありませぬ、それは何かと云ふと、信仰であります、其信仰が働きとして現はるゝものは何であるかと云ふと、それは同情であります、基督が十字架に掛けられながら、尚ほ且つ惡人の爲めに祈禱をした、それは同情であつて、其感化の力の偉大な事は今更申すまでもありませぬ、婦人が家庭を整理し、家族をして愉快に暮し行かしめるのに大切なのは即ちその同情で、言ひ換へれば恕と云ふ事です、

▲同情と云ふことは社會學の方面から研究しても、非常に大きな力で、總ての社會の結合は同情が元になると說く學者もある位で、お互の間の家庭に於て思ひ遣りさへあれば、其間は麗はしく行きます、人と云ふものは思ひ遣りを一番自分自身に好く致します、例えば私のやうな不仕合なものはない、私のやうな詰らないものはない、私のやうな氣の毒なものはないと云つて、自ら同情する、その自分に對する同情を先づ人に及ぼして見るのが大切で、此點から云つて小說を讀むと云ふことは決して無益ではありませぬ、單に面白かつたと云ふばかりでなく、小說を讀むといろ〳〵なことが分つて來て、思ひ遣りをすることが出來ます、到底十八や十九の若い婦人では、日常の生活中に人情の機微のある處まで研究することは出來ませんが、小說には年取つた人も經驗の出來ない、所謂心の琴線に觸れた感情まで書いてあります、殊に英吉利の小說の中には然う云ふ麗はしい感情を濃かに美しく書いたものがあります、それを讀んで我々は心を動かし、人の上にもいろ〳〵と思ひ遣りをすることが出來ます、思ひ遣りの情が人を感化する力の強いことは世間に澤山の實例もありますが、彼の兇惡無類の針金强盜は藤澤奥獄の一言の溫情に感じ、遂に其罪惡を快く自白したと云ふことは、皆樣も當時の新聞で御承知でありませうと思ひます、さうして其力は、御互に皆持つて居りますから、皆樣は、舅姑が氣難かしくて困るとか、或は夫が放蕩をして困るとか、永い月日の間には一軒の家にはいろ〳〵の出來事が湧いて來ますが、其場合には先づ自分が苦みを訴へることを後にして、相對の人に思ひ遣りをすると、双方の間に蟠つて居る誤解は綻ちとけ、感情はうるはしく融和いたします、(高島平三郎氏)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の卒業論文

池田百合香

◎蟻の穴

胡蝶の羽、一枚、風なきにひら〳〵、地上に動くと思つたら、蟻が引いて、……あれ〳〵穴へ入つてしまつた。

自分の穴がよくわかる事だ、目標しがあるかしら。穴の中は、どんなになつて居るのだらう。幾曲り、幾曲りした道を通つて、廣い部屋の中央、高壇には女王が、兩側に戰蟻が居て、食蟻がもつて來た食物を、一々女王の御覧に入れ、冬まで貯ける物は倉に入れ、お砂糖なんか食べてしまふかしら、それともやはりお倉？小さい〳〵からだになつて、夢にでも中へはいつて見たい事、お話しをきゝたい。……私の見たきものゝ一つ。これは、私の小さい時からの願なのだ。

◎お湯屋で

夕かたお湯に行く、立川の奥さんが來て居られた。奥さんは私を何處の者か御存知ない。……三時頃、手拭もつて家の前を通られたのをちらと見たが。……今四時半、……まあ、長いお湯だ、あの方は一體なが湯よ。早くて一時間半、遲いと二時間？いゝえ、一時間と五十九分五十九秒……。オホ……まさかね……。鏡の前に獨り座を占めて、磨く磨く、まあ、ザー〳〵勿體ないわ、あんなにお湯を流してわ。……あらもうお上りかしら、……これからお化粧？襟を濃く、額を薄く、おでこが隱れます樣に、……お鼻をこく、高く、見える樣に……そばかすがわからなくなる樣に。オホ……、いくらおつくり遊ばしたつて、猫つ毛の、團子髷のおぐしではだめよ……。もう、お化粧はすつかりすんだんだらうに、……あれだれか見て居はしないかと、方々見廻して、なになさるんだらう――。だれも見てはいませんよ。私は、洗ひながら、時々見るだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けです——。あらまた白粉を、何に遊ばすの、まあ足、……手、……まあ、初めてみたわ。あきれてものが云へやしない。色賣る藝者役者ぢやあるまいし、おへつついの前にくすぶつて、おさんどんする人が、手足に白粉つけてさ？。なあに、……色が白く見え、七難隠す樣に……、良人に嫌はれない樣にだつて、オホ……。小町の手足ならまだしもの事、あの方の手足では、不運に、白粉が泣くわ……、オホ……。どなた？そんなにお口の惡い事おつしやるのは、……云ひつけますよ……。

◎別れ

　今宵S樣は、住みなれし都を去り、遠く九州へと、新橋を出發さる。「氣候や、言葉の違ふ地の、さぞ御不自由な事でございませう。ずゐ分おん身おんいとひ遊ばせ都には、時折の、君のおん音づれ待ちわびる、百合香のある事を、お忘れ下さいますな……。」今しも時計は九時……あゝ。殘る三十分……お話し仕樣と思つても胸が一杯になつて……一言も出ない。S樣は見送りの方に、一々あいさつして居られる。時計のセコンドは不遠慮にすぎて、半にも刻一刻にせまるので、プラットホームにゆく。

　車窓に立つ人、……見送る人……。見上げ見下ろす顏と顏……、信號旗は上げられ、汽笛は鳴る……、私の胸は、怪しく高う忙がしく波だつた。「御機嫌よう。」……「わざ〳〵有がたう」……。と互に一言、千萬無量の一言……。心なき汽車は、遠慮なく、戀しき君をのせて、一秒一秒毎に、西へ西へと進みゆく。嗚呼S樣……想ひは同じ二人の……身は遠く西に東に……はなれ〳〵に。

◎病氣見舞

　梅雨に珍らしく晴れた空、一點の雲さへなく、風もなし。燕は、大空をかけまはり、目白は籠に心地よくさへづる。人は洗濯に忙がしいと見えて、水汲む音の絶え間なく。昨日求めた、床しき花のマガレット一鉢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を、お見舞に、武田夫人を病床に訪ふ。八疊の一間、白き敷布の上に、力無く横はる、いたはしき姿、一目見るより先づ胸塞がり。

「御無沙汰致しましたが、如何で入らつしやいますか。」と云ふのも口のうち。

「まあよくね、御親切に、こんなきたない病人の處へ。」頭を少しあげて、目に涙たゝえて、お嬉びになつた。

二人は暫し無言、庭の桐の葉のそよぐ音のみ繁く、・・・：あゝ、臥床百何十日、衰弱のさまありくと、お顏の色こそ麗はしいが、昔の豊かな肉付きは跡もなく、骨と皮許りの様にやせて。・・・いたはしき姿に、限りなき哀愁と失望とを感じて、なんとお慰めしていゝやら言葉も出ない。も



う、御自分ではあきらめて、ぐちなど仰しやらず、遺物分けや、遺言も遊ばして、此間なんかお床の中で、大聲で唱歌うたつて居らしたとか。誰が自分の、死期の近づいたのを知つて、歌などうたはれやうか。けなげな覺悟に、良人の君も、一驚せられたさうだ。さすがは、故高山博士の令姪。

「毎日、御退屈で入らつしやいませうが、何か御らんになりますか、永い間の御臥床に、床づれ等が出來は致しませんか。」

「はあ、毎日退屈で、退屈で、雑誌等見ますが、・・・ちきに、目がつかれて、肩もはりますし、・・・毎度、お兄樣や、貴女から御親切にお見舞頂きまして、・・・お返事書かうと思つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、筆を執りますが、思ふ樣に手が動きませんで、……字が曲りますので、これではいけないと思つて失禮して、やめてしまひますの。……永いもので、床づれも出來まして。此前お出で下さいました時は、憚りには立ちましたが此頃は、もう臥つたぎりで、腰から下は動けませんで……。」

「精神ばかりはたしかで……。」力なくきれ〴〵に語らる。

「あの召し上り物は如何でございますか、やはりお粥で……。」

「はあ、お粥と牛乳とおつゆと、……柔らかな煮魚だけで、野菜や、玉子を食べますとすぐいけませんで……。」

まへには、大さう御丈夫だつたさうだが、産後の風邪が原因で、肺病にかゝり、其上、腸もお惡いとか、で召し上がり物迄ないとは……さぞ、お心細い事だらう……兄樣のお友達の奧樣で、私は今日五度目のおめもじ。まだ、あまり、親しくお話しをした事はないがなんとなく慕はしい方……今年廿七、まだお若いに……、お氣の毒な……。

「秀一さんは。御丈夫で入らつしやいますか。」

「有難う存じます……あれは丈夫で居りますが、肺病の人の子ですから、……肺病になる樣な事が、あるといけませんから、成るたけ、外で遊ばせて色黑く、丈夫に成長するやうに、致して居りますの……。」

と、幾度か苦しさうな咳遊ばす時、外に遊んで居られた、秀一さんが、元氣よく來て、おじぎをなさる。今年四ッで、丸顏の、眼のくりつとした可愛いざかりの丈夫さうなお子。

「何かごほん持つて來て、叔母さんに見せておあげなさい。」

と、奧さんがおつしやると、すぐに、カチ〴〵山や兎と龜、舌切雀の繪本、山の樣にもつて來て、

「これは兎で、兎が狸を海の中へ入れてしまつた。」

なんて、可愛らしく、繪本のおはなしをして下さる。

「先日頂きました金魚、四匹許り死でしまひました。死ぬ度に、私は死骸を手の上にのせて、水氣の乾いて

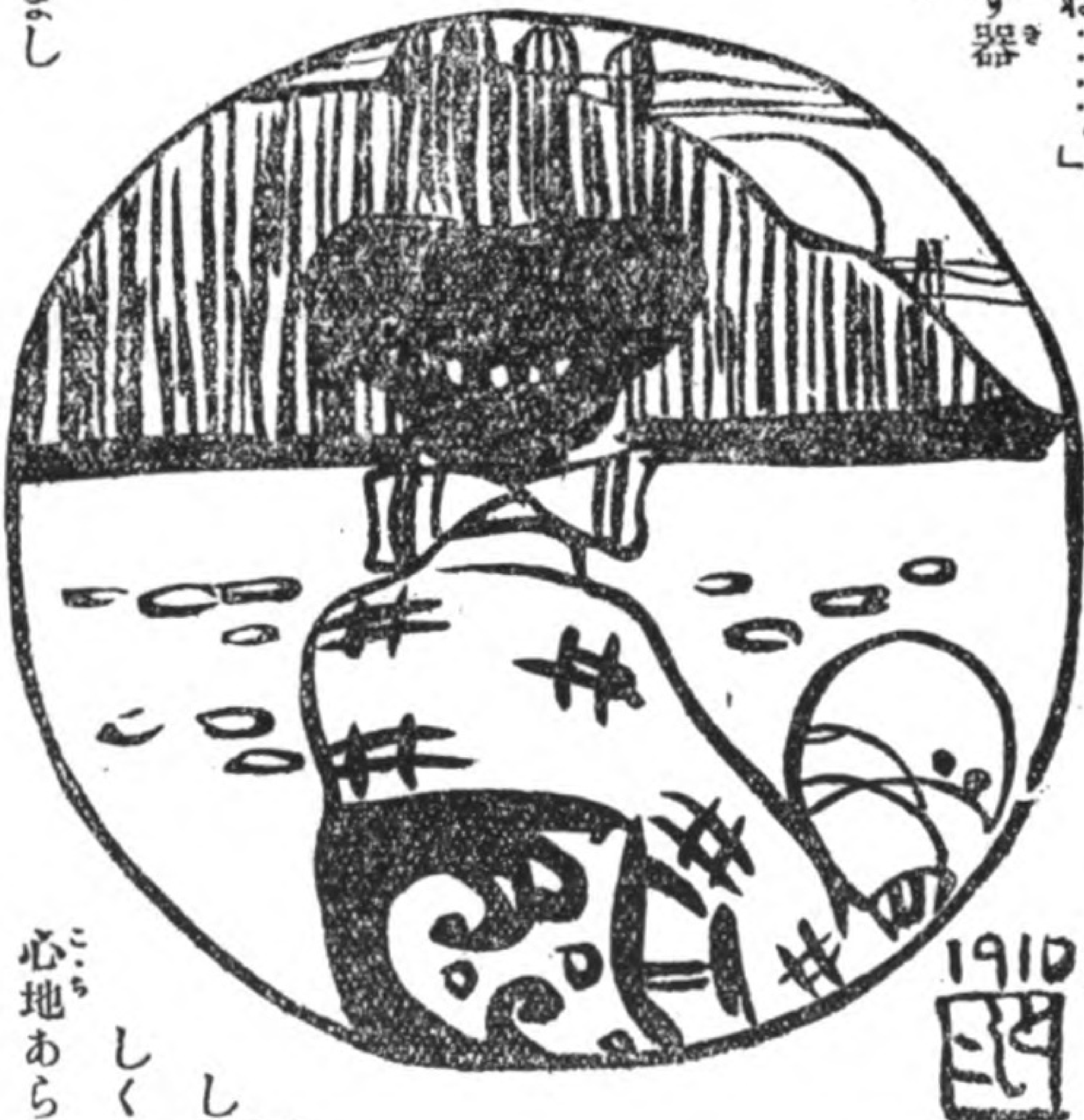
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しまふ迄チーと見つめて、……それから紙に包んで、埋めさせますので、良人が、……「馬鹿だなあ――」と申しますが、可憐さうでしてね……。」

床の間に置いてある、がらす器の中の殘つた金魚をみながら、淋しくお話しなさる。言葉の中によくこの方の人柄があらはれてゐます。あゝ優しき君が心、神あはれみ給はずや、ま心こめて、君の快癒を祈つた。

「あの高山博士は、貴女の叔父樣でいらつしやいましたさうですね。」

「えゝ叔父も肺病でなくなりました。…私も、早く海岸へ行けばよくなりましたか知れませんが、伯父の病氣などで……思ふやうになりませんで、……私がなくなりまして後は



妹に來てもらひたいのでございますが、……子供にはその方がよろしうございますけれど、……妹ですからもし又肺病にでもなられると、良人に氣の毒ですからやはり他人がいゝかと思ひますが……。」

むせぶ樣な咳をしながら心細さうに沁々とのおはなし。さすが親子の情愛は別で、如何に斷念したとは云へ、血を別けし、生ひ先永きいとしき我子の、母に別れし後を思へば、どんなにか心苦しく、斷腸の思ひ、後髮引かるゝ心地あらう、……曾て「お前の病氣はなほらないつて醫者が云つたよ。」と良人の君が奧さんに云はれたとか、恨んで居られた。まあ、お氣の毒な、優しく、慰めておあげになればいゝに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さつぱりした、構はない方だから、何んでも云つてお仕舞ひになるのだらうが。覺悟の上とは云へ、力と賴む夫から云はれゝば、死刑の宣告受けるより、なほつらい事であらう……。お話したい事はあつても、お慰めの言葉もろくに出ないので。……あまり長く居ては却てよくないからと、引き止められるのを辭して、もしやと、心に別れを惜みつゝ、見かへり勝に門を出ると、秀一さんが可愛いらしい聲で「叔母ちやんさようなら。」

嗚呼、優しき夫人よ、望み多き君よ、とく病いえてもとのすこやかなる身となられんことを神かけて祈る。いとしき秀一樣よ行く末に幸多からんことを。

◎荻香樣！綾子樣

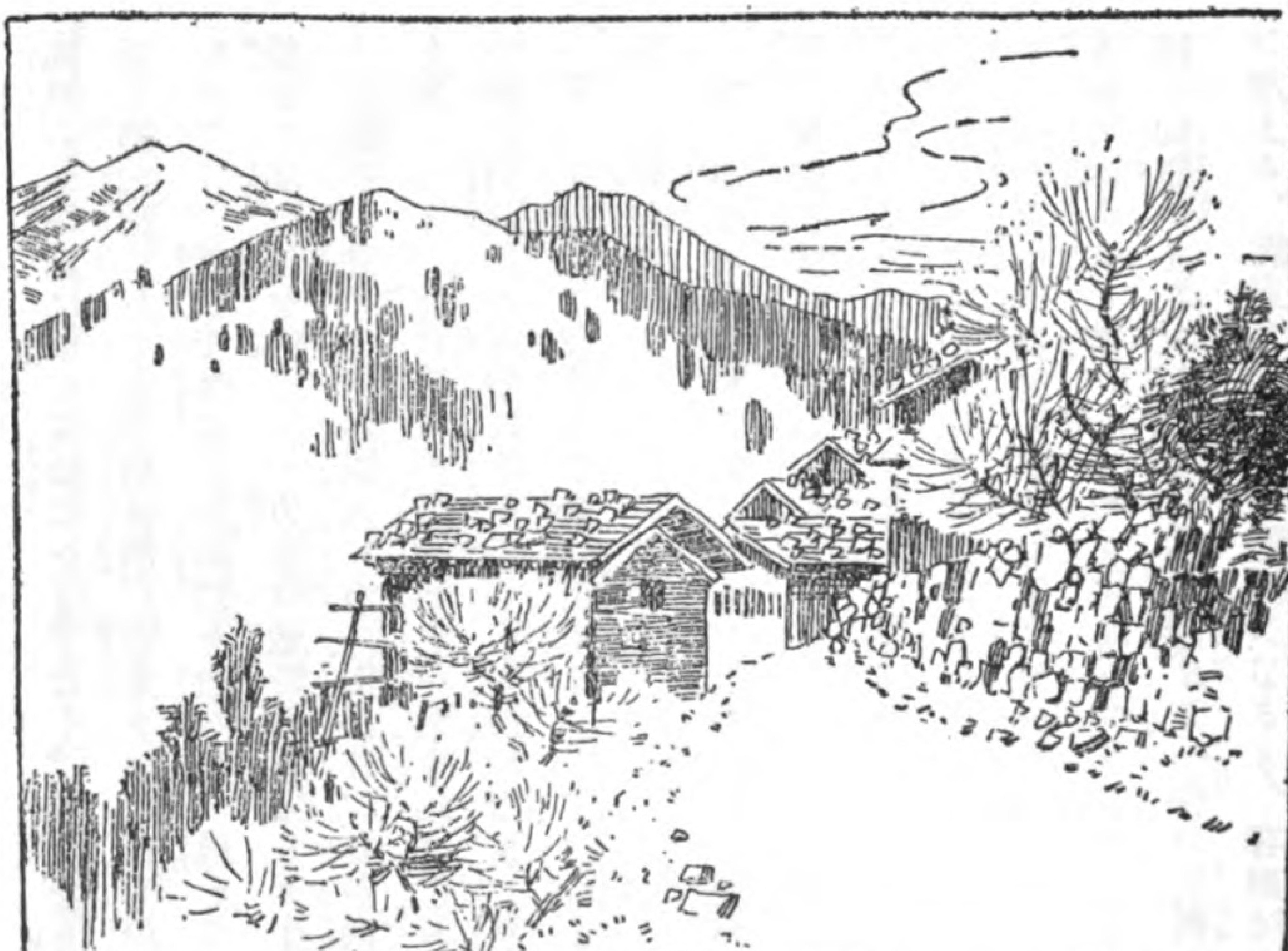
待ちわびし晦日となつた。女學世界ももう出版されたらう、と思ふと一秒の猶豫もならず、例の雜誌屋へ買ひに行く。曾ては、第一に口繪を見たが、此頃は第一に目次を見る、荻香樣のが出て居ないと、失望だが……、こわ〳〵見ると、あつたあつた。ハーモニカ、内藤千代子と、小さく、あら上原綾子樣のも。……嬉しくつてパラ〳〵と頁をくる。いつもながら荻香樣の御才筆……、どうしてこんなに御文才があるのかしらいつも一人で見て笑ふと「一人で何がおかしいんですか。」つて、母樣に聞かれる。たとへ何千圓の懸賞付だつて、笑はずによめないわ。いつも文金の高島田、銀の平打すらりと、肉付の豐かな、快活な方らしい。お目にかゝりたいわ。これで、なか〳〵、おいたを遊ばすやうね。從兄さんもなか〳〵面白い方のやうね、お羨ましいわ。私も、じようだん云つたりする樣な、從兄が欲しいわ。伯母樣の家へ行けば、四角ばつて話したり、食事の時なんか二人のお給仕に見られてきまりがわるくて。歸る時だつて、家扶書生女中の大勢に見送られて、ほんとうにきうくつで、だから伯父樣でも伯母樣でも、從兄姉妹だつて、話したい事も遠慮する樣になるから、自然、親しみも薄いわ。子爵夫人だの男爵だのつて、從姉妹等はお姫樣だけれど、……「伯母

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

様つて、すぐ上る様な家が一軒位ほしい。」つていつも姉様とのぐちよ。まあとんでもないぐちに、なつてしまつたオホ・・・・。

綾様の鵠沼の半日、佳人の奇遇、まあ、お羨しい、私も行つて見たいわ。お二方の樂しさうな様の、ありありと見えて・・・・、綾様は、花散里様つて仰しやるのだわ。

綾様は學習院の御出身よ。延枝さんや、従姉の○○さんの、在學中の滑稽談も、此方の御筆によつて、昨年十月の本誌に出て居た。なんとなくなつかしい方、おとなしいお上品な、脊のすらりと遊ばした。おぐしに束髪か、ウインなで、お年は廿か廿一位でいらつしやると思ふが、違ふかしら、落付いた御筆の跡の慕はれて・・・・。おつきあひ願ひ度いわ、あゝ、お懐しい綾様。萩香様・・・・。



秩父山中大瀧村

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各國料理の特色

◎お料理は米國が一番に進歩して居ります、即ち米國料理の特長は其科學的で家庭的で實用的なる處にあります、言葉を換へて申しますと米國の料理は上品でありません、世界中のお料理から申しますと先づ田舎料理といつたやうなものでせうが、學ぶべき處は唯其普遍的な科學的なところでせう、之から見まするど佛蘭西のお料理は非常に凝つてゐます、米國のを家庭向きにしますと、佛蘭西のは宴會向き即ちお客様向きでせう、また英國になりますと、一體に落着いて、國民の氣風がお料理の上に迄表はれてゐます、獨逸のお料理はつひ試みませんでしたけれど少し濃てり過ぎて居るさうです、又露西亞のになりますと脂肪質の分量が他より多いやうです。

◎何處の國のが一番よいとは申されませんが、兎に角分量の多い少々お粗末の拵へ法でも構はんといふ米國料理中に日本の學ぶべき點があると思ひます、且つ米國風のお料理は單に食物ばかりでなく、器具でも臺所でも調理法にしても皆科學的に研究されないものがないのです、學校で生徒にお料理を敎へるに致しても、併せて其作法を敎へ、一方には敎師が五人なり十人なりの生徒を連れて原料購入に市へ出掛け、其の撰擇法を敎へます、故に彼方の料理科を卒業すれば、お料理の事は勿論、臺所整理法を自づと習得が出來、隨つて一家の主婦たる資格が十分に出來るのです、つまり米國のお料理は形式的でないのです。

◎次に日本の魚類料理位進歩したものは私の視察した歐米諸國には先づないと申してもよいのです、天然の恩惠と申しませうか、人爲的の進歩と申しませうか、之丈けは日本人の誇りとすべきものでせう、しかし日本の料理は歐米諸國には少しも行はれてゐません、唯在留日本人間に聊か行はれてゐる位のもので、大變心細う御座いました。（手塚かね子女史）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

神代詩の解剖

古事記の歌

一面日本建國の史的研究

與謝野晶子

○須勢理姫傳作

其時物事の解つた情深い良人の歌に感激し、自分の執拗い嫉妬を愧ぢ、機嫌をさらりと直された嫡后須勢理姫は、大きな酒盃に豊御酒を滿し、手づから良人の神に献げ乍ら次の歌を歌はれました。斯うした盌杯に即興に歌を詠む事は何れの國の古代にも盛に行はれました。感情の昂つた時の言葉は自然に調子が付いて歌に成る。又さう云ふ特殊の感情は歌で無くては端的に適切に現せない。譬へば歌は金貨の樣な物です。日常の平板な感想の表現なら座談とか散文とかの銅貨の樣な言葉で徐々と小刻みに支拂が出來るのですが、刹那に燃える、強度な或特殊の感情になると、容積が少くて而も實質に富んだ金貨の樣な言葉で一時に支拂はねばなりません。凡庸な言葉を澤山に用ゐて徐々と小刻みに表現してゐては大層迂遠くなり、其内に切角緊張めた感情が弛んで氣が拔けて仕舞ふ。抒情詩の支拂は咄嗟の間に金貨で遣取する外、他の煩く細い補助貨でのろ〳〵と勘定してゐる餘裕が無い。之が詩歌と他の文學との根本の相違です。又金貨の音は彈力があつて清んでゐて、高い調子を出しますが、銅貨の音は頑硬で濁つてゐて調子が低いのと同じく、詩歌の言葉の調子は他の文學に比べて特別に音樂的ですから耳に聽いた丈でも快い。然るに最近の短歌や長詩には此等の區別が無視せられてゐる樣です。特殊な昂つた感想を出し得ない人若くは然う云ふ内面の經驗の無い人（即ち詩人の天分の無い人）が多勢詩壇に群を成して、わざと昂つた感情を模ね若くは本來詩になり相も無い日常平板の感想を主題とし、其上洗錬せられない粗雜な言

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

富士川の富士



語のみを用ゐて、其れを三十一字の形や横に行を分けた長詩の形に組立てたからと云つて、何うして其れが歌に成りませう。銅貨しか持合せない人が鍍金をして贋金を遣ふ様なものです。歌の作者も評家も讀者も亦一度自然に歸つて、古事記萬葉集などの詩人が或特殊な強度の感情を歌の根底とした態度を回顧する必要があると思ひます。

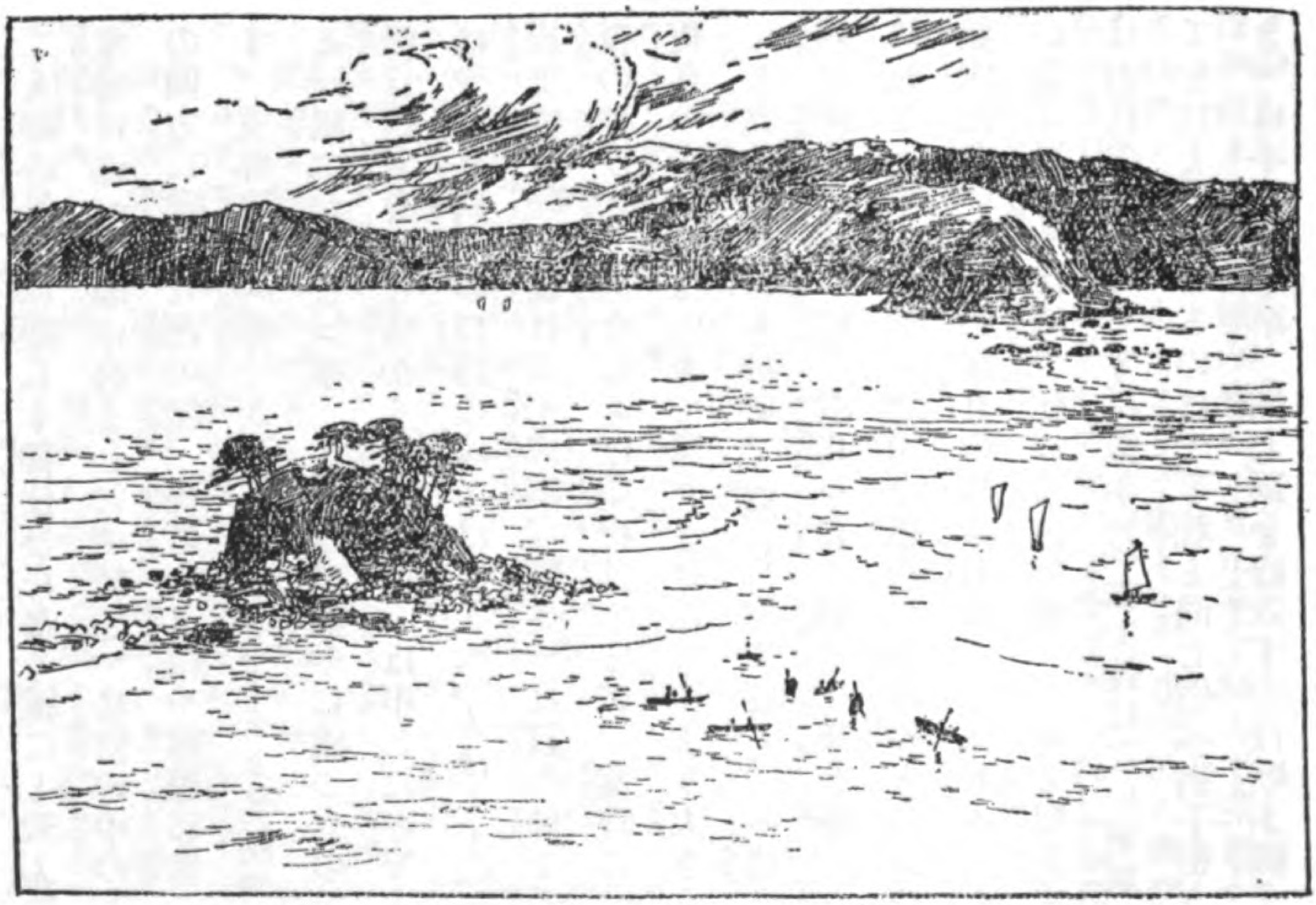
八千矛の神の尊や。
我が大國主こそは男に在せば、
うち見る島の埼々
かき見る磯の埼落ちず
嫩草の妻持たせらめ。
我はもよ女にしあれば
汝を(お)きて男は無し。
綾垣の輕搖が下に、
蠶衾柔やが下に、
栲衾清鳴ぐが下に、

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

沫雪の軟撓る胸を
栲綱の白き腕(を)
素手抱き手抱き拱り
眞玉手玉手さし枕き、
股長に寢をし爲せ。
豐御酒たてまつらせ。

第一聯八行は、如何にも私の賴りにする戀しい男は貴方お一人であると、優しい女性の素直な感情に歸つて今までの見苦しかつた嫉妬を詫入られたのです。『八千矛の神』は大國主の一名。『や』は『よ』と同意。古くは『我』を『あれ』、『あが』と云ひました。こゝの『大國主』は名で無く、帝、王、大君、などに當る詞。『島』は海の中の土地計りでなく總て海邊の土地を云ひます。只今の攝河泉を大昔は秋津島と云ひ、又志摩(島)國や攝津の須磨(島はもと洲間より轉じたる語。須磨は即ち洲間の借字。)など何れも海邊の土地の意です。『埼』は海や川に臨んで出つ張つた土地。『かき』も『うち』も語調を美くする爲に添へた接頭語。『落ちず』は



阿波鳴門

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

只今でも口語で「落ちなく通知を出す」などゝ遣つてゐる語の原であつて、餘さず、洩さず、などの意です「持たせらめ」は「持つらめ」を鄭重に云つた詞。「吾はもよ」は只今なら「私はね」と云ふ所です。「吾は」は澄んで讀むので「吾わ」と讀んではいけません。「汝をおきて」が省略せられて「汝をきて」と成りました。

八千矛の神よ。我がなつかしい大君は男で入らつしやいますもの、あの見える何の島の埼々、何の磯の埼々へお出でに成つても、自由に美しい、嫩草の樣に若い女を戀人に遊ばすでせう。貴方は私を後に遺して此國を去つて遠い旅にお出に成つても、行く處に幸福がおありなさるでせう。併し考へて見ますと私はね、かよわい女の身でした。貴方を外にして何處にいとしい良人がありませう。お詫び致します。と自らを反省悔悟して良人の旅行を思ひ止られる樣に哀願せられたのです。

第二聯九行は、更に良人の神の心を和げる爲に感じのよい美しい詞を用ゐて、永久に此出雲の宮に自分と二人御心長閑に樂しく御住ひになる樣にと云ふ事を具象的に述べて願はれました。「綾垣」は宮の中の御寢所の四方に垂した絹の帳。後世の几帳や暖簾に當る物です。支那語の「劃」が「かき」(垣)と云ふ名詞や「かぎる」(限)「かくむ」(圍)と云ふ動詞やに成つたのですが帳は四方を圍む所から綾垣と古くは申したのです。「ふはや」は只今の口語の「ふは〱」、「ふはりと」などの原で帳が輕く搖れる形容語、「蒸衾」は蠶の絲で織つた夜の被ひ物、只今ならば絹夜具ですが、當時には今の夜具の樣な物は出來て居りません。つまり大きく仕立てた衣物を幾枚も被いで寢たのでせう。「栲衾」の栲は楮の木の一種で其皮を白く晒して布を織つたり綱にしたりするのです。栲で織つた布は妙とも云ひます此處は白い栲布の夜具の事。「若やる」は若々しく軟かい意。「栲綱」は栲で作つた白い綱。「つぬ」と發音するのは古代の詞遣です。「素手」は衣で掩はない素肌の手。、、てをたと發音するのは、手枕と同じ例。「素手抱き手抱き」は手で抱く事。同じ詞を繰返すのは歌ふ調子の美

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い樣にするのです。「挟り」は二人の手を脊中へ廻し合ふ事。「眞玉手」は玉の樣に白い美しい手。「さし枕き」の「さし」は手紙を差出す、差當り、などと同じく語調の爲に添へる接頭語。「枕き」は枕にする事、此處では手枕をする意。「股長」には足を伸して寛ぐ事。「寢」は朝寢・熟寢などの寢で、睡ること。「豐御酒」は勝れた美い酒を讃へた名。「奉らせ」は聞召せ、召上れなどと同じ意味の敬語。

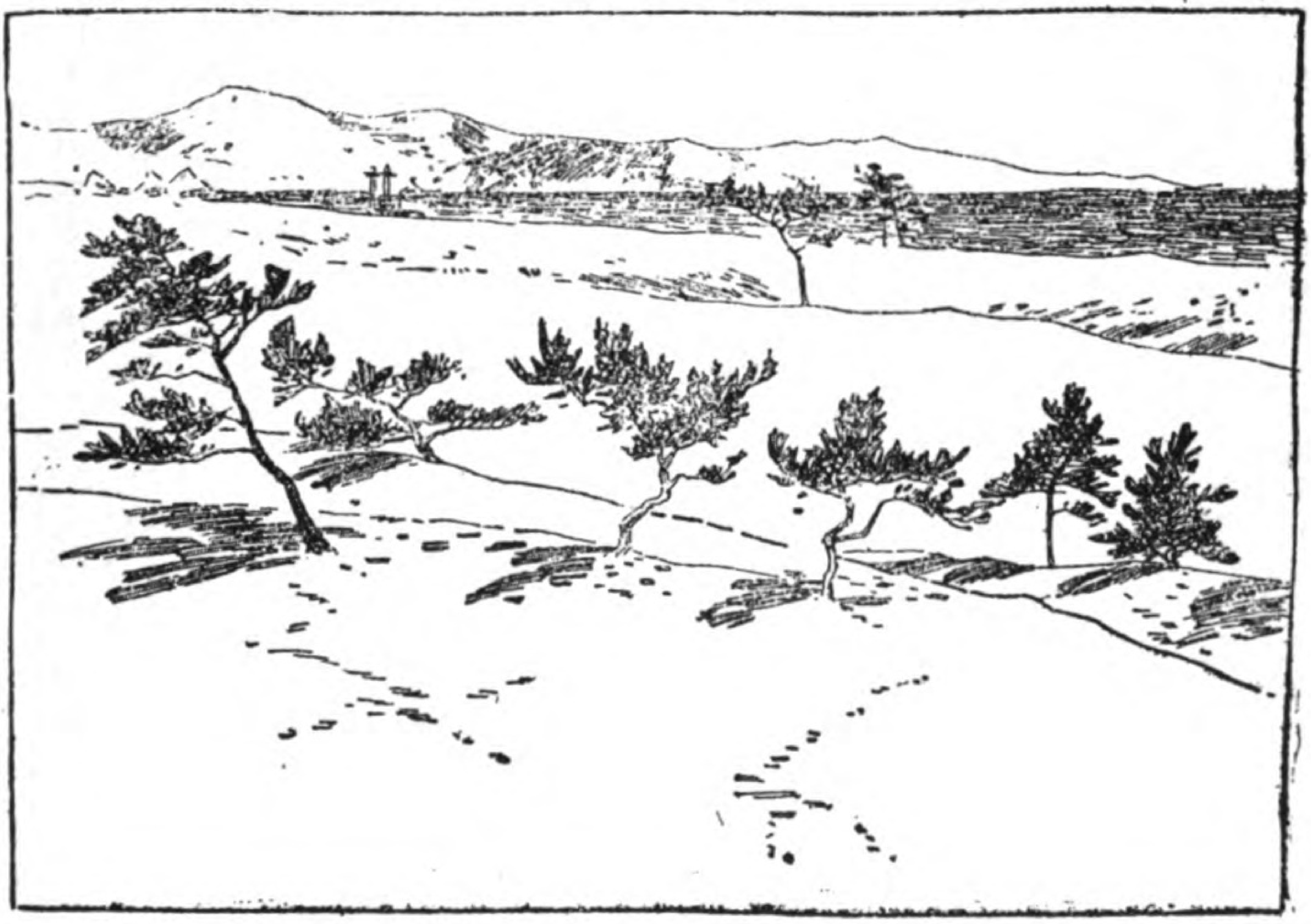
貴方、どうぞ御氣色をお直し遊ばして、永く此出雲の大宮にお留り下さいませ。大宮の美しい帳が四方を繞つて輕く垂れてゐる下で、絹の衾の柔らかに被うてゐる下で、又栲布の白い衾が清らかにさや〳〵と音を立てる下で、沫雪の樣に白く軟かな私の胸を、栲の綱の樣に白く淸らかな私の腕を、貴方の御手で抱き繞らし、又私の玉の樣な手を枕と遊ばし、股を伸して安らかに打寛いで御寢遊ばしませ。いざ御氣色を直して先づ此豐御酒を聞召せと、大御酒杯を良人の神に捧げられたのです。古事記には此次に、即ち御夫婦の神達は仲直りの杯を飲み交し、互に手を組んで頸筋へ掛けられたと書いてあります。詩としては勿論、倫理的に見ても男女雙方の美しい愛情を發揮せられた誠にめでたい歌だと存じます。

○下照姫命作

下照姫、又の名は高姫と申して大國主尊の御娘です。後世の衣通姫と同じ樣に肌の白い方で、衣の下が光ると云ふ意味で時の人が奉つた美稱でせう。其頃の日本の版圖は本島の外に支那の南海岸（閩越・今の福建省地方）から朝鮮の南海岸一帶に亘り、之を總轄するのは天孫人種の總本家であるところの最高の文明貴族天御中主尊の嫡統でありましたけれど、實際に於ては荒ぶる神即ち剽悍なる蕃族が各地に據つて居ります。一たび天御中主統の英主伊弉諾尊の敎化と武力とに由て稍統一の端緒が見えましたけれど、交通の不便な時代の人心は朝三暮四し易く、同じ皇統であり乍らも素盞嗚尊は朝鮮在住の天孫人種に擁せられて分裂し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

駿河三保松原



大國主尊は朝鮮を後援としたる出雲（のみならず、山陰、山陽、紀伊に及べる）大族に擁せられて分裂し其他日向大隅肥前肥後に亘る熊襲、薩摩半島に據ッて閩越地方と呼應する隼人の山津見氏、筑前の那の津（博多）を監視して四國に殖民し支那朝鮮に交通する海津見氏、又越の國を本據とする高志の蕃族は畿内山陰に進入し、陸奥を本據とする蝦夷佐伯の蕃族は東海道より大和紀伊の山間をも占據してゐます。其間に介在してゐる小い諸蕃も亦無數であッて、是等の大族と小族との間には常に爭鬪が斷え無いのです。中にも出雲の朝廷は支那朝鮮の文明を早く吸收する便利があるので人智が進んで居り、加之に祖父伊弉諾尊、父素盞嗚尊の英邁進取の氣稟を享けられた大國主尊が出て、神敎と武力、其他醫藥、農牧、貿易、殖産、植林等の善政を布かれた爲に版圖も次第に擴がり、當時に於る隨一の勢力を握ッてゐました。併し天照大御神を主權者と齋く高天が原朝廷は、天御中主統の總本家として伊勢國に都し、美濃尾張畿内の諸地方を治めて祭政一一聯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を行ひ、暫く日本一統の祖業を大成する時機を待ツて居られたのですが、高御産靈神、思金神などの皇族を始め、八百萬神と稱する多くの廷臣貴族の中に種々の智略に長けた政治家や將軍か輩出して、先づ出雲の大族から收めよう。其れには戰端を開くのは伊弉諾尊の弓つ山坂の例もあッて不利である。大國主父子を說いて平和なる條約の下に歸順させるのが上策であると云ふので、大會議の結果、天照大御神の御養子（素盞嗚尊の異母弟）天秀檜尊を國際談判の大使として出雲に遣されます。此大使は今の千家男爵の祖先です。然るに大國主は平和に國土を奉献する心でも、朝鮮を後援として領域の廣い優勢な出雲政府の廷臣や幾多の縣主は容易に之を承引きません。就中大國主の王子達が肯じないのです。秀檜尊は三年になッても復命しませなんだ。伊勢では秀檜尊の折衝の苦心も思はず、大國主に媚付いてゐるのであらうと疑ッて、更に皇族天若彦命を大使に任じて下しました。天若彦も亦國讓りの談判を開始する時機で無いのを見て、出雲に留り、

京都嵐山



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

政略の爲でもありませうか、大國主の御娘下照姫と結婚して八年も復命しませんので、伊勢からは刺客を遣はして射殺させました。天若彦の領地が其處にあッた故か遺骸を美濃國まで持歸ッて喪屋を建て、親戚友人打集り晝夜八日間歌舞音樂を奏して遊びました。之は死者を慰める古代の風俗です。其時下照姫の兄の味耜高日子根命も出雲から弔ひに來ましたが、其容貌風采が死んだ天若彦そッくりなので、伊勢から來た天若彦の父母が、我子は死なゝいでゐたと云ッて手足に取縋ッて泣きます、神道では穢い事を忌みますから、高日子根命は大に憤ッて「我は親友を弔ひに來たのに、なぜに穢き死人に比へるか」と鐵柄の劍を拔いて喪屋を切り放ち足蹴にして飛ぶ樣に歸つて仕舞ひました。そこで兄の穢れを雪ぎ其立派なる名を一般に知らせて兄の心を慰める爲に、衆人の中に立つて下照姫は次の歌を高らかに詠ひました。

天なるや　弟織女の
頸懸せる　玉の御首玉、
御首玉に　孔玉はや。
み谷　二亘らす
味耜高日子根　神ぞや。

伊勢の都は遠い地方から見れば空の果ですから、遠方を雲居と云ふのと同じく皇居のある伊勢を「天」と云ふのです。丁度近世京阪の事を上方と云つた具合に。其から都の物は何でも美しく立派ですから轉じて物の美稱にも「天の」、「天つ」と冠らせて用ゐます。此處の「天なる」は都に在る、皇居に在ると云ふ意。「や」は語調を美くする爲に挾む語。「弟織女」は若く美しい宮中の機織娘。「頸がせる」は首に懸ける事。色色の玉を圓く繋いで首輪としたのが「玉のみすまる」で「孔玉」は孔を開けて緒を通した其御首玉の玉。「はや」は驚歎した時に發する聲。「み谷」の「み」は接頭語。「二亘らす」は谷を二つまで越えて光りかゞやく事。語を補ッて歌の意味を言ひますと、此神（神は貴人の尊稱）を疎かに思ッて下さいますな。譬へば都の貴人の御料を織る美しい棚機姫達が頸に懸けてゐる御統

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の玉、あの御統に繫いだ孔玉の光の美しいことね丁度あの玉の樣に美しくて、その御姿の立派な事は谷を二つ越した向ひ迄も輝く程に秀れた味耜高日子根神ですよ。

華やかに情の昻つた、美い調子の歌だと存じます。良人の柩の前で卽座に兄の汚名を雪がれたのは、大國主の御娘に違はない勝氣な女詩人です。

序に高日子根命の劍は其柄を鍍卽ち鍍金がしあつたので鍍柄の劍とも神鍍の劍とも云ひます。（神は美稱。）又其刄の幅が廣いので大刄刀とも云ひます。「刀」は日本語、アイス語、朝鮮語に共通して刄物の事で、之が「刈る」と云ふ動詞にも轉じて居ります。又前の「鍍」は支那語です。

記者曰く、晶子女史の古事記の歌は一面神代詩の解剖であると共に、又一面日本建國の史的研究である、日本文壇の誇りであるこの一大天才の女史が茫邈として諸說混沌たる我が古代史に向いて明快なる斷案を下して、快刀一揮、本居平田の古學者は勿論、現代の諸博士も歐洲の東洋學者も未だ言ひ得ざるところの或者を說破したのは常面の一大快事である。殊に本章下照姬命作の條下の如きは其の着想の破天荒なる其の氣象の雄壯活潑なる其造語斬新奇拔なる、將たその論斷の大膽不敵なる眞に是れ空前の言、獨創の見。是や雄偉濶大なる我が日本建國の史實に向つて重大なる指示を與ふるものである、讀者の刮目を乞ひます。

△歐米印象記　　中村春雨著

著者が前後數年間歐米へ在學し遍歷したる間の日記、通信等を集めて一卷としたるものなり、單身萬里の波濤を蹈破し、兩大陸に數年間の攻學を畢れたる、其の男志既に尋常人の企て及ぶところにあらず、而して其の觀察するところ、社會、國情、生活、風物、政事の各方面に渡つて文明の批評をなす、その一種冷靜にして、文明の事物を批評する著者の頭腦は至るところの事物に觸れて其の眞相を看破す、就中紐育雜記、並に倫敦日記、伯林雜記の如き、實際足其の地を踏み、眼その場所を見るも斯くまでに其の生活、人情、風俗の巨細を知ること能はざるほどに詳しく描き出され色彩も音響も併せて捉へ得たる著者の靈筆は、さながら活動寫眞と蓄音機とを派れたる珍奇なる土産といふべし、吾人は將來の文壇に新らしき傾向を作るべき文豪の一人として、この人の歐米印象記を趣味深く味ふものなり、定價貳圓三十錢神田神保町春秋社發行、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の溫泉場めぐり

和歌の浦　浪

都の方々が、あるは伊香保にあるは箱根に。山青く水清いほとりに三伏の夏の暑さをさけ給ふ頃には。我等越の山家の里人も。そこゝに散在する溫泉に身を浸して夏の暑さを流すと共に。日頃の疲れを忘れます土用の丑の日には農家でも業を休み。出湯がりに出かけます。其日は何れの溫泉宿でも空室はない位盛況を呈します。春は櫻の咲き揃ふ頃よりやう〳〵肌寒むを覺ゆる秋の始め迄は。溫泉場のかき入時でありませう。越前には少ないけれ共一度加賀へは入ますと鑛泉脈があると見えて。數多くの溫泉が湧出します。鄙の出湯の起きふしも。都の御方には耳新らしう思さるゝ節もありませう。早苗とる鄙歌も間近く聞ゆる。昨日けふ。先づ近い所から溫泉めぐりをはじめませう。第一には

△蘆原溫泉

福井から五里程。金津で汽車を下り一里を車にゆられて蘆原町につく。こゝの溫泉は鹹味を帶びて透明です。皮膚病に宜しく又やけどには不思議な程です。命も危いといふ火傷患者もこゝで癒えたときく。町は狹いけれ共宿屋の數はなか〳〵多く。名高い紅屋の庭などには。萩の植込もあつて秋の野良を見るやうです。町の裏手は田圃の吹き通し夏の眞晝でも涼しい風は通ひます。八月の中旬には稲蟲送りとて田の畔に小さな燈火を點じます。これが幾百幾千と遠く續いた夜の景色は隨分と見事です。わざ〳〵見物に來る人さへあると云ふ。

金津町に戻り下り列車に乘る。國境の長い隧道を越すと加賀の國大聖寺驛につく。直に鐵道馬車にのる。四十分許りを馬車にゆられ漸う綠の山は身に迫り。大聖寺川の流れ。かすかに響く頃には。早。山中溫泉の町はづれに着く。

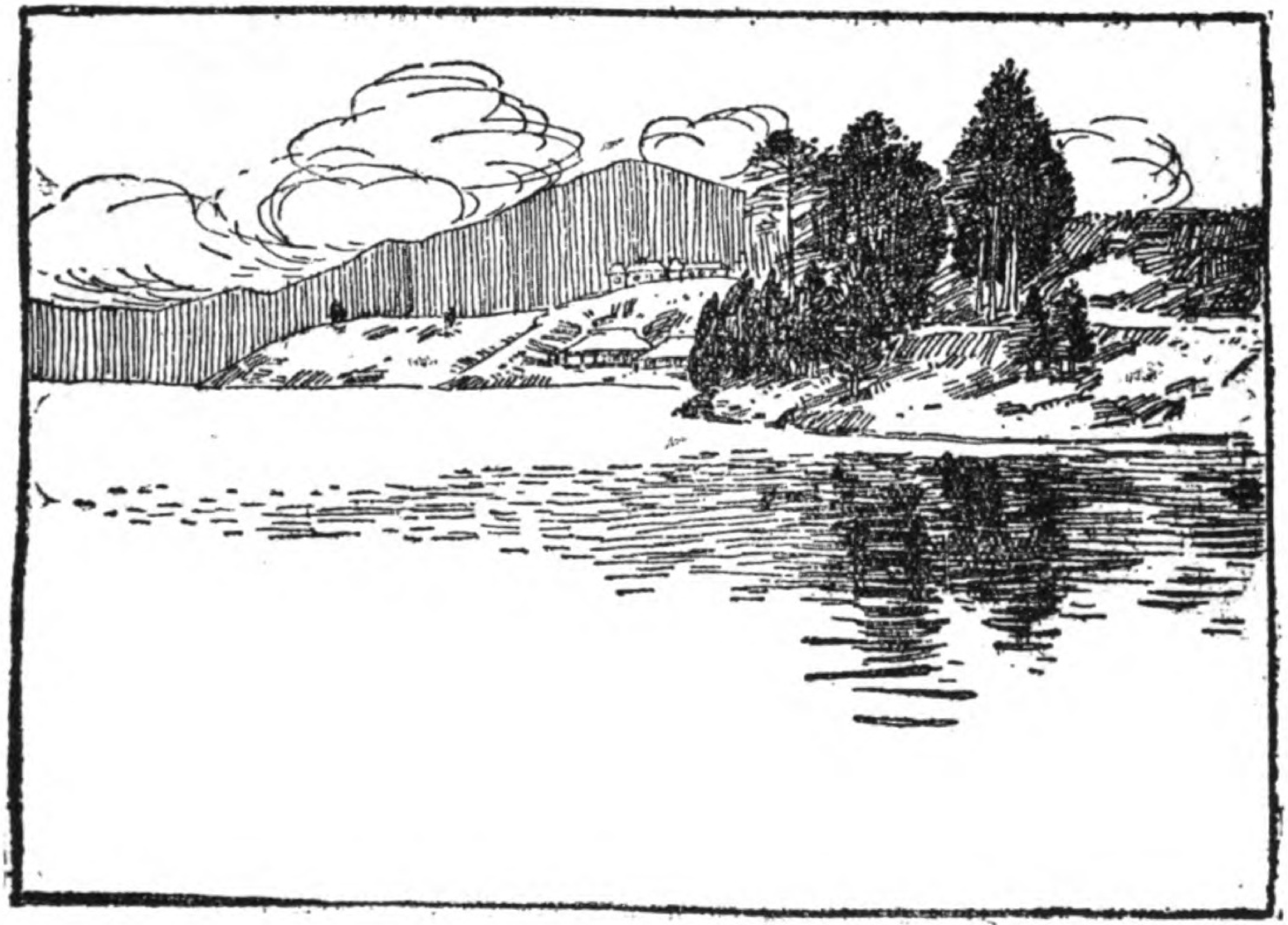
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△山中温泉

加賀の國でも山中は最古く最名高い所です。こゝの浴場は外に在つて總湯一ッ上等湯二ヶ所、宿屋は其周圍に在りまして吉野屋扇屋など最大きいです。こゝの出湯は其昔行基菩薩が鷺が葦間のお湯で傷を洗ふのを見て始めて温泉を開いたと傳へられます。彼の芝居でする加賀騒動などにも關係があるやうです。むかし加賀の殿樣が鷹狩に出られた時誤つて足に骨が立つた。其骨は彼の惡女中岩藤の骨であつたと云ふ。殿樣は足が痛み出し歩行も困難になつた時ふと見れば傍の葦の間に鷺が下りて。しきりに足を洗つて居る。よく〱見ればそこにはお湯が湧いて居る。早速御足を浸した所が痛みは立所にいえて。無事に御歸館なつたと云ふ。傳說ではありませうが。こゝの温泉は色々由緒があるやうです。中頃廢れたのを長谷部某が再興した由。今は長谷部神社とまつられて居ります。

お湯は鹽けはなく透き通つて温度は稍低い方です。胃腸病脚氣等に宜しく。日露戰爭の時など送還された脚氣兵士はこゝで病ひを養ひました。然し此湯は稍逆上するやうに思はれます、總湯の方は實に廣く此方の隅より彼方を望めば。朦朧と湯氣たちこめて見えわかず。底には大きな石がごろ〱として川の中で遊ぶやうな心地がします。二三年前迄は此浴場に着物を掛る所がなく。宿屋からは下婢を派出し浴客の着物十枚でも二十枚でもたくみに肩にかけ客の聲に應じて渡す。湯女のうたふ歌なども山中名物の一ッに數へられて居りましたが。去年改築され着物を置く場所も出來たよし。今は此地の名物の湯女の姿もないでせう。上等湯の方は浴槽も小さいけれ共すべての準備は整ひ綺麗です。山中の温泉の名高いのは其古いのにもよりませうが。又四圍の風光のすぐれたのにも依るでせう。遊んで見に行く所は澤山在ります。先づ第一に。こうろぎ橋これは大聖寺川の流れに架した橋で町からは三四町です此橋から見下せば川は數十丈の下を流れ靑く淀んで淵をなし物すごいやうです。やゝ上流に行きますと

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



箱根蘆の湖

急流は岩に激し飛沫は高くとんで挙々たるひゞき夏なほ寒くおぼえます。兩岸には茶店がかゝつて居りまして面白い岩のたゞずまひ。數箇の噴水をあしらつた風致。なつかしく思ひます。增善樓。最よろしく、鮎のお酢しに冷したビール、出湯の宿のつれ〴〵を慰めてあまりあります。其他萱野の大杉。道明寺ヶ淵。黑谷。藥師堂。名所は澤山ございます。大聖寺川の流れには勝地多く。岩に激する早瀨の音にも浮世の思ひは消されます。

土用の丑の日には近鄕近在から皆こゝの溫泉さして參ります。其時の總湯の雜沓などは實に非常なもの終夜夢も結ばず明します。一年一度の骨やすめ。黑い顏を白い手拭に包んだ娘さんもあれば。古びた麥わら。阿彌陀にかぶつた若い衆もあり。草鞋ばき。下駄ばき色々な面白い姿も見られます。宿屋は勿論總べての店は大繁昌。瓢や西瓜のたち賣り。立ち喰ひ。隨分すさまじい有樣です。

此地の產物たる塗物は其質かたきを以て賞せられ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

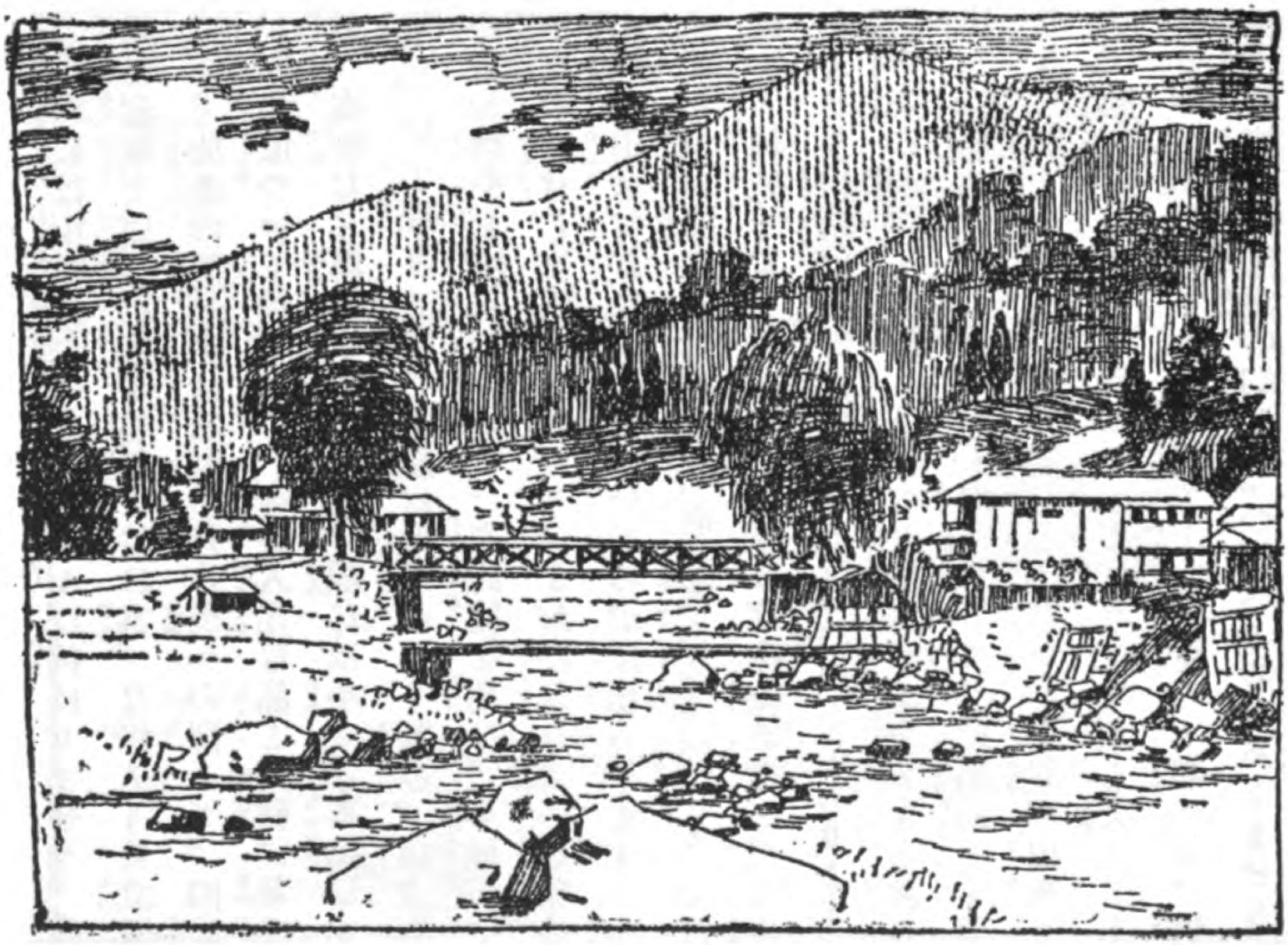
葛そうめんも夏はいゝものです。旅館の欄干から眺むれば。水無山は手に取るやう。頂にさつと雲かゝると見ればこゝの里には早しめ〳〵と雨が降る。雨あがりの夕暮れなど冷氣肌にしみて夏をも知らで過されます「山中や菊は手折らじ湯の匂ひ」芭蕉の句を味はつたばかりでもなづかしい土地柄です。

今度は山代温泉へ向ひませう。川波と云ふ所まで馬車それから人力車をかります。山代の町へは入れば先づ目につく二軒の宿屋。あらや。くらや。と構へも大きく奥深く金屏風など立ちめぐらした。先づ藏屋に宿りませう。

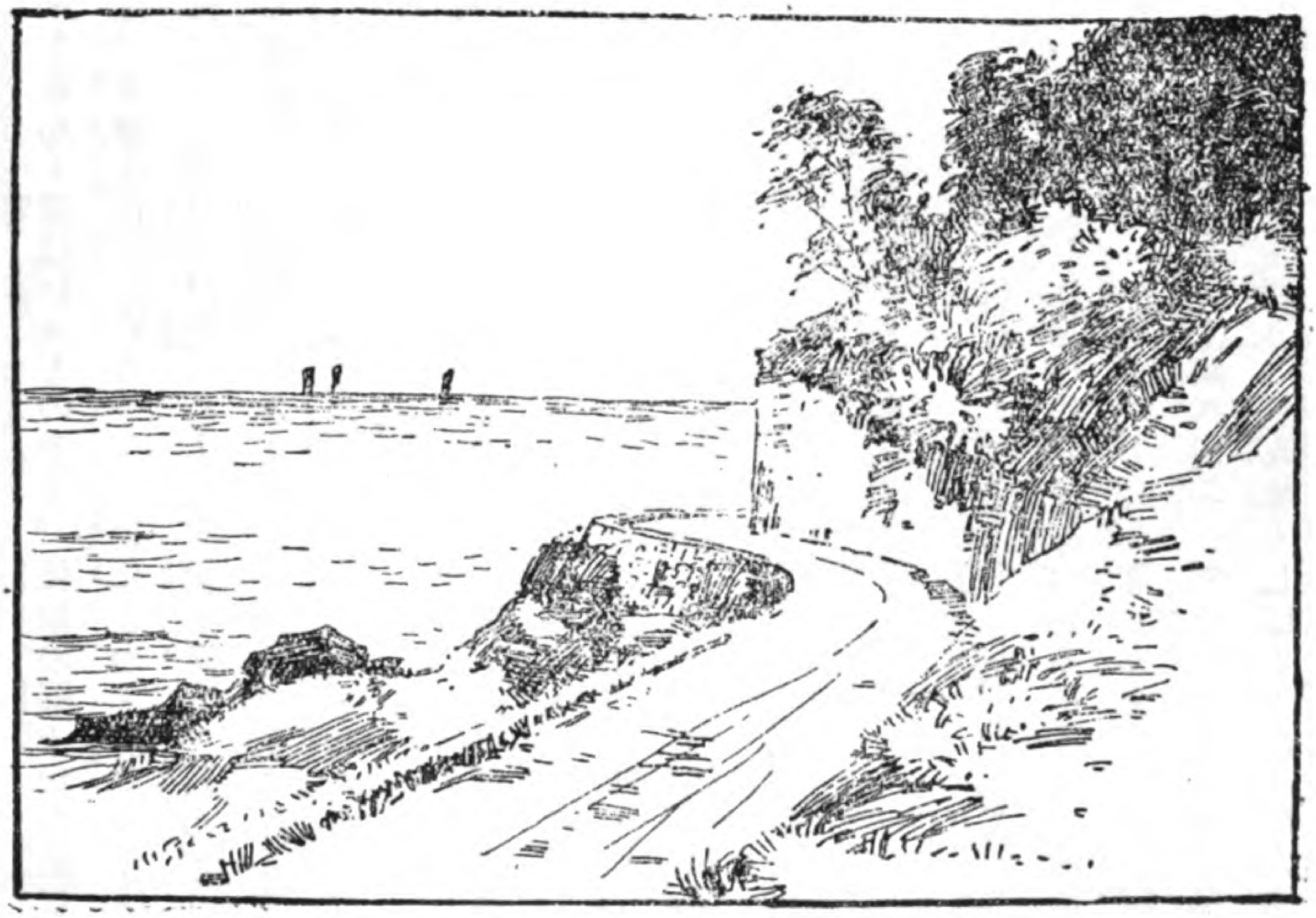
△山代温泉

こゝは山中のそれに比して町も狭く。淋しいけれ共。淋しい中に何となうなつかしい處があるやうで。雜踏する山中からこゝへ來ますと心も靜まります。車の響きを聞てばら〳〵と玄關へ出迎へる女中でも上品な風俗です。此地は貴顯方の御入來もしば〳〵あり都人士

鹽原温泉



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



伊豆名勝石橋山

の御車には山代温泉なる響き折々は傳はりませう。藏屋は舊家で座敷は稍〻陰氣だけれ共。なか〱に立派です。此邊の温泉宿は座敷の外に控への間とて。四疊か六疊位ついて居ります。客の入用な品と火鉢に茶道具、衣桁など程よく並べられ。隅には小さな茶棚などもついて在ります。藏屋は道具がよく整ひ。床ぶちからお膳やお椀に至るまで。高蒔繪を用ひ。小屏風や衝立の一寸した張りませでも。まがひなき昔の金梨地山代は田舍だけれ共旅館はいゝのが澤山あります。山代のお湯は味なし匂ひなし、底の底迄透き通つて。それは〱綺麗です。詩人にいはせれば玲瓏透徹とでも申しませう浴槽は三ッ、熱いのとぬるいのとがあります。又中央の小さな。かこひの中は熱湯がふつ〱と沸き出して居ります。土地から湧出するのは此熱湯です。こゝへ玉子を暫くつけて置くと丁度いゝ半熟が出來ます。此お湯を大きな樽につめて居りますから夫はどうするのと聞きますと。汽車で上方へ送ると答へる。遠い土地迄山代温泉の匂ひを。つたへるのでありませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋の朝など廣い浴槽に身をひたして窓ごしに澄んだ秋の空を仰ぎ。小鳥のさゝやきを耳にした時など。病ある身も心地さはやかに覺えます。山に添ふて建られたこゝの宿は見上ぐるばかり高い巖が聳え。細い瀧一筋緋鯉とぶ泉水に落ちて居ります。秋の頃は紅葉した楓が瀧の瀬にうつて。色面白くはえ渡ります。裏庭は山の上に在りまして。よくもこんな高い山を開いたものだと感心しました。打ち開けた遊園地。岩を重ね水をたゝえて此方に萩の植込あれば彼方に櫻やつゝじの花浴客用のブランコもあれば軟かい芝生もあり。頂上の東屋にいこひますと遠く〳〵打ちひらけた田野を一望にあつめ。白い蔽ひをかけた小さな馬車が山に添ふて進んで行くのが畵のやうだ。大聖寺山中間の馬車でありませう。

山代は山中のやうな繁華なさまはないけれ共。靜かで何となう捨て難く思はれます。秋くれ方の山代温泉はげに寂寞の境にある。靜かに病を養ふ人やゆる〳〵思ひをねる人などはこゝの出湯が適して居りませう。

志摩鳥羽の海岸



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こゝを見すてゝ片山津へと參りませう。

△片　山　津

ゆるぎ橋で汽車をすて二里許り人力車で山代山中とは反對の方角へ參りますと片山津溫泉につく。湯の出といふに宿りませう。此お湯は鹽辛く溫度も稍高いです。何心なく汗のついた半巾を洗ひましたら點々と赤いしみになりました。こゝは田舍で見る處もありませんけれ共。宿屋の裏座敷から見渡す廣い〳〵入江の景色はなつかしいです。今迄山のみに壓せられて居た頭もこゝへ來ますと輕くのびらかになります。夏の夕ぐれなどぼく〳〵した砂地を歩んで。皆こゝの水際につどひます。里の子が面白さうに游ぎまわつて居る處。夕陽の殘光のやう〳〵うすれゆけば。早東の空には月がほんのりのぞいて居る。宿屋の裏ではかゝりをたきます。月も高く〳〵昇つた頃には人影もやう〳〵疎らに。水面は薄霧におほはれて。砂に落つる我影のみ長く〳〵地に敷きました。

こゝは浴場も小さいだけ。世に知られる事も少なく。宿の女中などでも。山代山中に比してはよほどの田舍者です。費用はかゝからぬかはりに。口に合ふ食物なども少なく。入江の朝夕はなつかしいけれ共。こゝに長居もなり兼ねて今度は粟津溫泉にと向ひませう。

▲粟　津　礦　泉

動橋から汽車で粟津驛に下りる。こゝより人力車で一里程山深くは入りますと粟津礦泉にとつく。こゝでも舊家の中なる法師と云ふにまゐりませう。粟津はほんの山の中見る所もなくて朝夕は隨分退屈に思ひますけれども。胃病婦人病等には此のお湯が最も効能がございます。半透明で稍匂ひがいたします。法師は實に廣い宿屋で。家の中でもいゝ運動が出來ます。庭のお池には幾百の緋鯉群をなし。岸のつゝじも紅もゆる。一雨過ぎたほど宵の燈ろうに灯ぞ入れて。端居して眺めやれば。涼味肌にしみ夏は何處の空を行くやら。夏なき里にさまよふ心地もいたします。粟津は水の清い土地。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

玉のやうな清水はいつも滾々と流れて居ります。緑の山はたゞこゝもとに聳えたち。緑の色はいよゝ濃やかに。我身も緑に化するかとさへ思はれます。夏山になく郭公さへ折々は夢路にもかよひます。思へば溫泉宿の客の中でも遊びや避暑に來て居る人は面白くも暮さうが。長い病ひを養ひつゝ逗留する客人は。人に知られぬ思ひもあつて。涙にねられぬ夜半もあらう。粟津溫泉を出立する朝。隣室の女客の指環のゆるんだ細い手と。かたい握手も離別の悲しみ。御機嫌よろしうとたゞ一言。私は其まゝ車の上。後に殘つた淋しい面かげに思ひ出の種となる。山の中の溫泉場にも憂き世の影はほの見える。

行く山に。もや立ちこめて。小鳥しばなく朝の道。

五月雨時のわびしくて。今日も青葉に雨がそゝぐ。

△花袋叢書　田山花袋著

著者は變遷多き明治文壇に二度の花を咲かせたり、さはれ前者は空花にして後者は眞の花なりしか、彼れが自然派の將帥として最近數年間の花々しき武者振りは殆んど文壇の人氣を一身に集めたり、卒然として思へば彼れは運命の寵兒とも見るべし、さても十數年前江戸式紅葉が伊達の榮華の盛りを極めし時、誰れか十年後の今日同じ文壇に斯の如き猛者ありて傍若無人の聲價を博するものあらん事を豫期したらんや、圖り難きは人の身の上世の樣なり、彼れは確かに羅馬を倒せる北方の蠻族のごとき強き素質を持てるものなりし、彼れは鐵槌を揮つて纖弱なる白粉臭き文明を一撃に打ち倒したるものなり、その武者振りは勇ましとも勇まし、さりながらこの勇者にも亦長き雌伏の時代はありけり、十年前江戸文學が電氣燈のごとく輝く全盛の時代に當つてや、彼は未だ處女膜を破らざる純潔無垢のバーヂン趣味を歌へる、多感多淚の純情派の一文士として文壇の一隅にかすかに螢のごとき火を點しつゝありけり、當時江戸式文豪が今を盛りと咲きほこる牡丹、芍藥を手活の花となして我物顔にふるまひつゝありし間に彼れは野末のすみれ、蓮華草を摘みつゝ靜かに世の樣を眺めつゝありしなり、花袋全集一卷名張少女、女教師、島の心中、畫家日記、小桃源、孝僧一家の妻、初戀の心其他十數編は彼れが未だ自然派に鎧はれざる以前、則ち彼れが雪の下崩時代の佳作を集めたるものなり、定價貳圓博文館發行。

△終編伯爵夫人　田口掬汀著

その事件に變化多く背景も頗る廣くして、その人物の點出又多種多樣なる、一般讀者が讀んで面白く感ずるものは如何にしても此の種の小說なり、終編伯爵夫人は前編に引つゞいて結末の大團圓をなす、月に叢雲花に風、恨み多き人事の局面を捉へて巧みに描き成したる手際中々に當世流行の告白小說の及ぶところにあらず、銷夏の好伴侶たるべし定價九十五錢、本鄕金助町日高有隣堂

△明治富豪史　橫山源之助著

現代富豪の人物評は少なからずと雖も、其內面に立入りて金權發達の跡を細叙する事本書の如きは蓋し罕れなり、特に著者に多とすべきは金權と政權との關係を能く描かれたる點にあり、即ち第一編に於て、維新の當時の混亂より日淸日露の戰爭前後に於ける、所謂富豪の活動と其の術策を叙し、第二編に於て富豪貴族の現狀、其の頭目たる人物、其の家庭の有樣等を示し、第三編に於て現時海外に活動する人物と事業を評して殆んど餘す所なし、著者は長く勞働問題に潜心し、近くは明治闇黑史を研究して文名ある人、觀察銳利にして、事實の調査は徽細を極む、特に金權發達に貢獻せる無名の人物を逸せざりしは大に意を得たり、著者自らは他日の大成を期すといふと雖も、兎に角得難き史料なり、定價金七十錢、麴町區飯田町六丁目易風社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の田園生活

綾浪女史

三伏の暑を、鷗飛ぶ渚に凉しい風が袂を吹く神島海水浴場に避けて瀬戸内の美を専らにせうと豫て靜枝さんとお約束して置いたのに二人許ではと兩親の反對に逢ひ遂々オジヤンになつて了つた、俊子樣は母樣と遙遙須磨の叔父樣の處に入らつしやるし松崎さんは宮島廻りにお立なさるし、私許りつまらないわ、此間の百合子樣のお手紙にや例年の通り原釜に入らつしやるとやら、罪なくして此摺鉢平原のドン底に釜いりの刑を受けねばならぬ私を哀と思せ、父樣も母樣もあんまりなと怨んでは見たもの丶三十六計逃げ出す譯にも行かねば仕方なく〱縁近く針箱を持ち出した、風情もない庭に夏の眞晝の日を浴びて唯一本の山梔の花床しい香をぷんと送つて、そんなに不平を云ふもんぢやありませんよ、私を御覽遊せと云つた風は流石の私も幾分か胸が靜まつた、昨日鋏を入れた單衣を出す、薄い鼠がゝつた色に尾花と萩とがあつさり浮き出て居る、好きな模樣だ、不思議ね、自分のだと眞個にはかゞゆく此次のお茶の時、此單衣着て行きませう。

兩隣の原樣淸岡樣も御歸省遊したのでひつそりして居る、原樣の奧樣は、もうお生みになつたのか知ら、今月だつて仰有つてたが。私あの奧樣大好よ、優しい引つける樣なお目、何時も綺麗に束髮にお上げになつて白いリボンを左の方にさしてらつしやる、岡山の○○女學校出の才媛で十九でいらつしやるんですつて、そりや美しい方、直に馴れて了つて此頃では毎晩の樣に推參する、えい大抵、原樣の御外出をねらつて行くのよ、まあ、空巣狙見たいだつて、ホヽだつて原樣は耻しいのですもの、カイゼル式のお口髭に金縁の眼鏡は恐ろしくハイかつて見えるけれど、ごく男らしい、いゝ方よ、原樣では御夫婦揃つてらつしやるつて全くだわ、「奧さん」つて一寸作聲して戸を開けるとにつこり遊して「よういらつしやいました、美代子さん、是一寸綺麗でせうつて？」「美しい燈火の下に派手なメレン

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

スで小さな着物をぬつてらつしやるお姿、雜誌の口繪其儘でした、「學校時代には作文が大好でしたけどもうね、卒業して了ふと何にも想が浮びませんのよ、美代子さんなんか眞個に羨ましい」って仰有つた事があつた、得意の花嫁時代から母となつて漸々若き血潮が沽れ、糠味噌くさくなつて行く樣子が胸に浮び出て、私は何だか悲しくなつた、でも早く赤ちやんが生れるとい丶、坊ちやんか



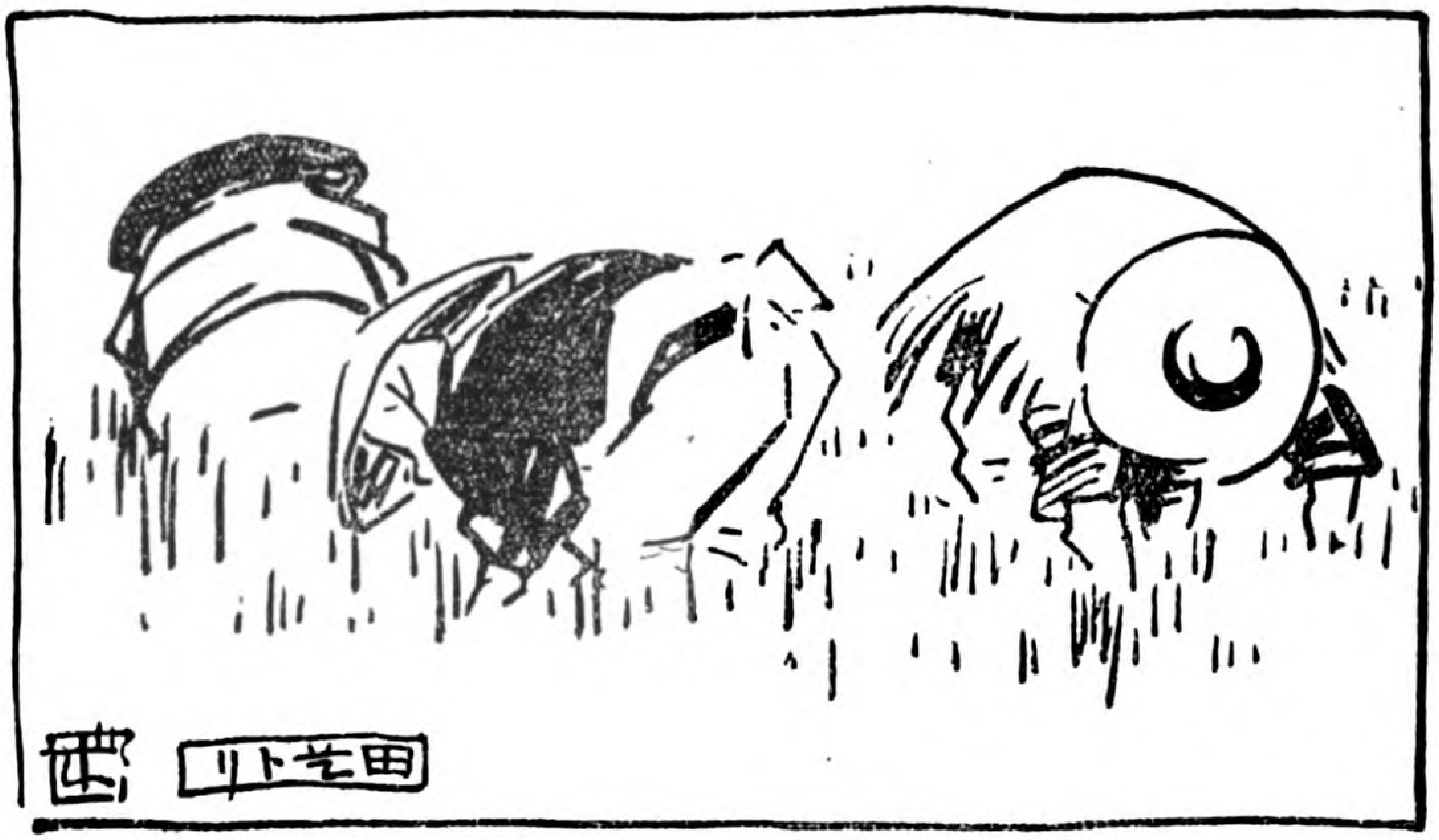
知ら、お孃さんか知ら、どんなに可愛いでせうね、あれ、八百屋が來て居る樣だ彼のお爺さんの言落が餘程可笑しいから出て見る、まあ〱南瓜許り、母樣は爪を立て見たり引つくり返したりして選つてらつしやる、「是いくら?」「チヤツ、三つで二十錢に負けときやあんへう、皆、福山から來居るんですえな、甘いこたあ請合ひますぞな」と爺さん、藥罐頭に湯氣をた丶せ乍らしやべる、何か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ばかりそれが有りますのはなぜでせう。」
母「考へてごらんなさい」
冬「考へても分りませんから、敎へて頂戴」
母「世の中には、隨分こすい人が有ります。支那人などは、一度自分の處へ來ましたお錢は、一々やすりをかけて、其の量目の少量をぬすみます。ですから周圍にギザ／＼をつけておきまして、削り取らぬ樣に豫防がしてあるのです。ギザ／＼の無くなつたのは、受取らぬと言はれても仕方がありませんから、自と盜まなくなります。併し、銅貨は削る者も有りませんから、ギザ／＼をつける必要はありません。ロシヤの一ルーブルの銀貨などは、緣にギザ／＼の無い代りに、刻印がぐるッと打ち込んであります。これでも、量目を盜むのを防げます。
でき上りました銀貨を、檢査する秤に、面白いのがあります。一枚づゝ自と出て來まして、秤に乘りますと、重さの適當なのと、輕いのと、重いのとが、三通りに分れて落ちるのです。
その他、一枚づゝ、眼で檢査する法なども有りますが、此の檢査は中々嚴密で、少しでも缺點の有るのは、又地金の方に廻して造りかへて仕舞ひます。併し、其の掛りの方は非常に熟練しておいでゝすから手の上へ、さら／＼と一枚づゝ落して、其の響きを聞いたゞけでも、直ぐ不完全な點を發見する位です」
冬「なぜ、昔の一文錢などの樣に、鑄物にしませんのでせう」
母「金銀などは、亞鉛をまぜないと、鑄物になりません。金銀の貨幣に亞鉛をまぜるなどはできませんし又、鑄物では、一分一毛の違ひ無く、千枚でも萬枚でも、皆同じく鑄ることが望まれません、又、型で推す方が、手早くできるからです」
冬「それでは、金貨や銀貨などは、少しも他の物が混らない純金純銀なのですか。」
母「いや、さうでもありません。金銀の純粹――混り氣の無いのは、柔か過ぎて、少し磨れますと模樣や

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た時、中國でもこんなものかと少からず失望した、私の胸に畫かれた中國は餘りに蟲がよすぎたのだから。丁度あの山の口を出た時此邊の山に淡紅の雲が澤山棚引いて居た、其雲が今此水蜜糖になつて私の口に入つて居る、中國山系は火山でないから富士山的の美は認める事は出來ない、が、暖國特有との景色は少からず私の胸の血を躍らせた、春は紫雲英が水田一面に山上の桃花と相應じて麥の緑と反映する紫の霞が山の麓をこめて山上山下に點在せる小家から細い煙が立上り、朝日がぱつと金線を亂射する、朝景色は實にいい。牛引いた男の子は小田の河



原に座を占めて麥稈眞田組む手を動かす、早い事は目が廻る樣牛は長閑に草を食べたり清らかな水に舌打ならして居る、魚は銀鱗をひらめかして目映い程飛上る、釣竿を垂れた今太公望も居る、堤の待宵草は夜を待ちげに靜かな草笛も時に聞える、曾つて繪で見た其儘の景色、私は是丈を德として友にも自慢をする、それから水蜜糖と薩摩芋と。

傍で牛乳を召上つてた父樣は

「甘いか」と仰有る。

「えい頰が落ちさうですわ。」

「こんな牛呑乳まれやしないよ水臭くて。」

「田舍ですものね、お腹悪くし

たち損ですわ。」

「父樣は默つて笑ひ乍ら本を見ていらしつた。

今朝は珍らしく早く目が醒めたから裏の戸を開けて外に出る、眞晝の焦熱に引換へて朝の心地よさ。「せんだん」の木の葉が涼しげに震ふ中から「ちい／＼」と蟬の聲がする、田には稻、畑には甘藷が所得顏に、小川には、もう一二疋目高が浮いて居る、葡萄は棚を被うて小さな靑い實が葉隱に見える、紫色に熟くす日を思つて私は微笑んだ。

胃の壯健を以て誇つてた私は最後にやられたので朝は斷食、一體此邊の水は惡いのよ、家のはいゝ分だけれど靜江さん處なんかまるで白水の樣だ、ほゝ私のは食過もあるかも知れないけれど、あら、大いにあるつて？　知らないわ。近所のお婆樣が赤痢にかゝつたと聞いては薄氣味が惡い、殊に今日は七夕で御馳走のある日なのに私許りつまらないわ、八代集等引き出して五色の紙に歌をかく、初めの中は丁寧に書いたが中頃になると、もう私も鶴ちやんも飽きて了つて「天の川」だの「七夕」だのと鄕音にして了ふ、是では棚機樣の願を叶へて下さらないも無理がない、漸く書き上げて靑笹に下げる、天の川から吹いて來る風にひら／＼と五色の浪が寄せる、私も鶴ちやんも、につこりした、まア詩的だわねえ、天の川の橋が鵲で彦星が渡るなんて、白い砂が一面にしいて撫子や待宵草が咲いて其傍に織姫がじいつと佇んでる樣が夢の樣に浮びくる。

本館發行の雜誌「太陽」は今回廣く懸賞を懸けて普く名作を募集する計畫を立てたり。詳しきとは八月の同誌上に發表される筈なるが、今大體の規定を聞くに、原稿は一篇二十五枚以上三十枚以下で締切は每月末日。賞金は一篇金百圓とのことなり。十月と來年一月とは小說と脚本とを發表し、其の他の月には或は小說、或は脚本の一種を、向ふ十ヶ月間每月一篇づゝ發表する筈なり。選者は森鷗外、幸田露伴、内田魯庵、永井荷風、巖谷小波、田山花袋、坪内逍遙、其他文壇知名の士

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當世畫美人の名所スケッチ旅行

河崎蘭香

青葉繁れる皐月の下旬、晴れもせず、曇りもやらぬ朝の八時、なつかしき京都奈良の見物をこゝろざして新橋へと行く相變らず忙しさうな人許り、丁度今若い外交官の赴任とかで見送りの人は一ぱい、身動きも出來ぬやうであつた。

御殿場へ來るとこゝろに待ち設けた富士は、今しも肩のあたりに雲が涌いてその半面へ流れかゝる、裾野は紫に、頂きは白く、且つ輝いて居る。こゝなりけりと大急ぎで畫帖取り出してスケッチしたらあらまアー鋸の目のやうな富士が出來た。

隣席の西洋人夫婦がしきりとおもしろさうに話して居たが、やがて私の方へ顔をむけて話しかけられたのには少からず閉口した。四時過ぎ名古屋へ着く此所で下車する。共進會で大分市中は景氣づいて居る。訪ねる先は久しく會はなかつた叔父樣のお宅。

なつかしい門に車が止まると聲を聞きつけて從妹が迎へる。叔母上は玄關を下りながらだしぬけにまあ。と仰しやる、祖母君は奥の間から世紀を隔てたお聲で私の名を言ひ〳〵。まあ〳〵と暫らくは互に顔見合せて……そのうち日も暮れて、お縁へ出ると月が木の間からさして庭の小池に涼しい漣が立つ。

夜は皆々打寄つてむかし語りをする、從兄の精さんの許嫁の峯さんがお琴をさらふといふので皆が膝をつらねてきく。中々手に入つたものである。

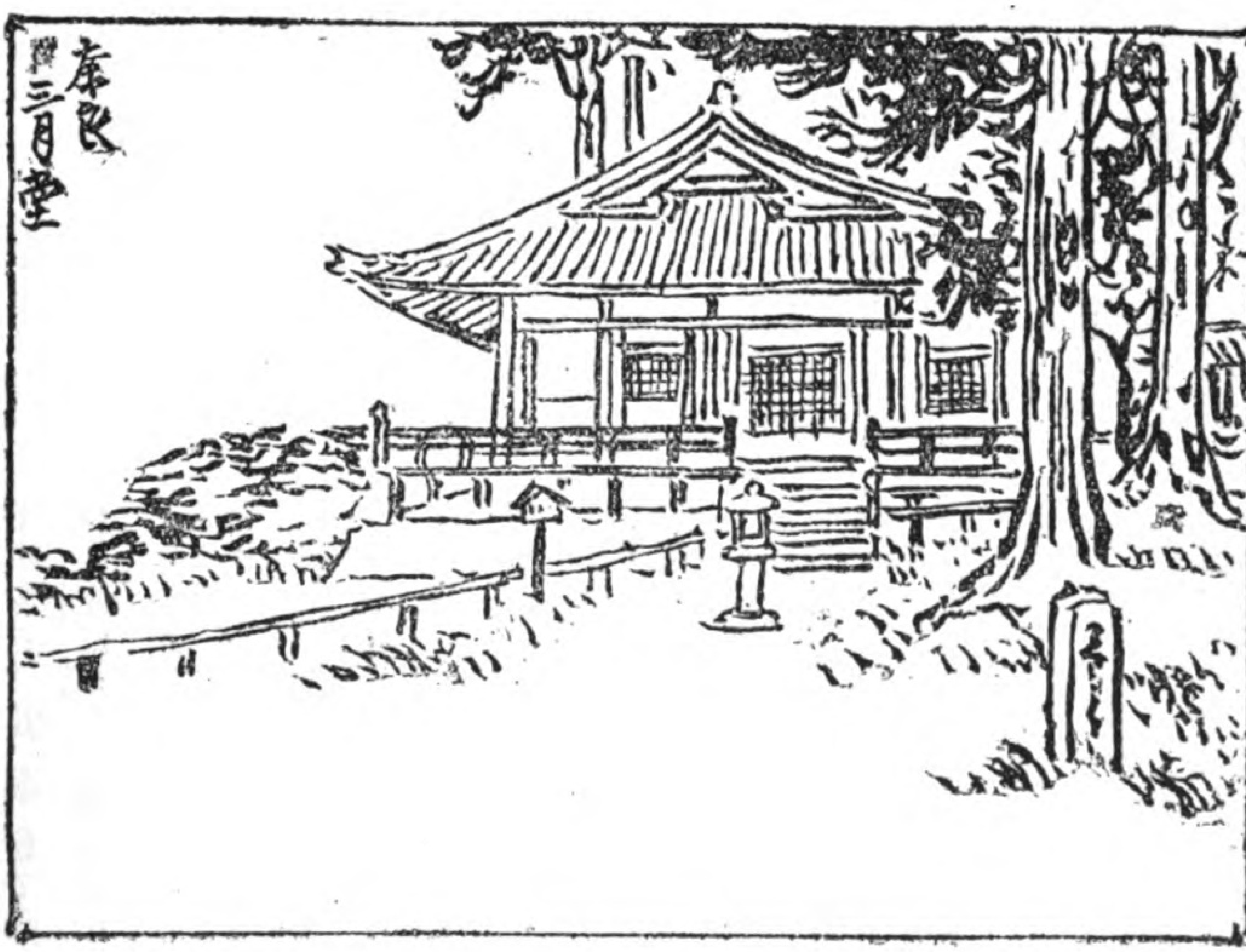
翌日叔父君に伴れられて共進會を見る、餘興の手踊が殊に、面白かつた。雪の精に扮した白絹の大振袖の乙女が雪を背景にした舞臺で、ひら〳〵と舞ひ立つ六つの花は、絹の袂に波うつて、賑やかな鼓たいこのはやしにつれ〳〵、さても綺麗な事夢のやうであつた。

あくる朝は名殘りを惜みて此家を立つ、停車場で叔父君に別れ京都に向ふ。富山の聯隊へか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へる精さんと米原までは一所で御蔭で退屈せずに來た、四時に七條の停車場へ着く。尋ねる家は一條烏丸御苑に近い晴々とした住居であつたすぐ汗になつた衣裳を替へて室町の舊師の家に參る。

二十五日朝十時奈良へ立つ。こゝは初めての旅である。今迄の經驗によると未見の土地はいつも想像と實際がちがう。そして失望する。しかし奈良ばかりは想像よりも宜かつた。こゝの風物の趣味深いのが自分に取てはなれがたい印象を殘したのは言ふまでもないけれど、尙ほ外にかくれた力



があつた。

想へば早や五年のむかしとなつた。友その人は才情勝れた身でありながら二十歳といふ秋不治の病にかゝつて永久に起たなくなつた。こゝはその人の故鄕である。友の短い生涯は只もう涙の歷史である。彼女はいつも希望にみてる淸く輝いた目をして玉のやうな心を其まゝの花の笑顏で人に接して居たので、其むねに漲る涙は多く知られなかつた。生前よく語つたこの故鄕の嫩草山の思ひ出を今さらながらに聞く思ひ。

友の靈は今いづこ！　拙

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

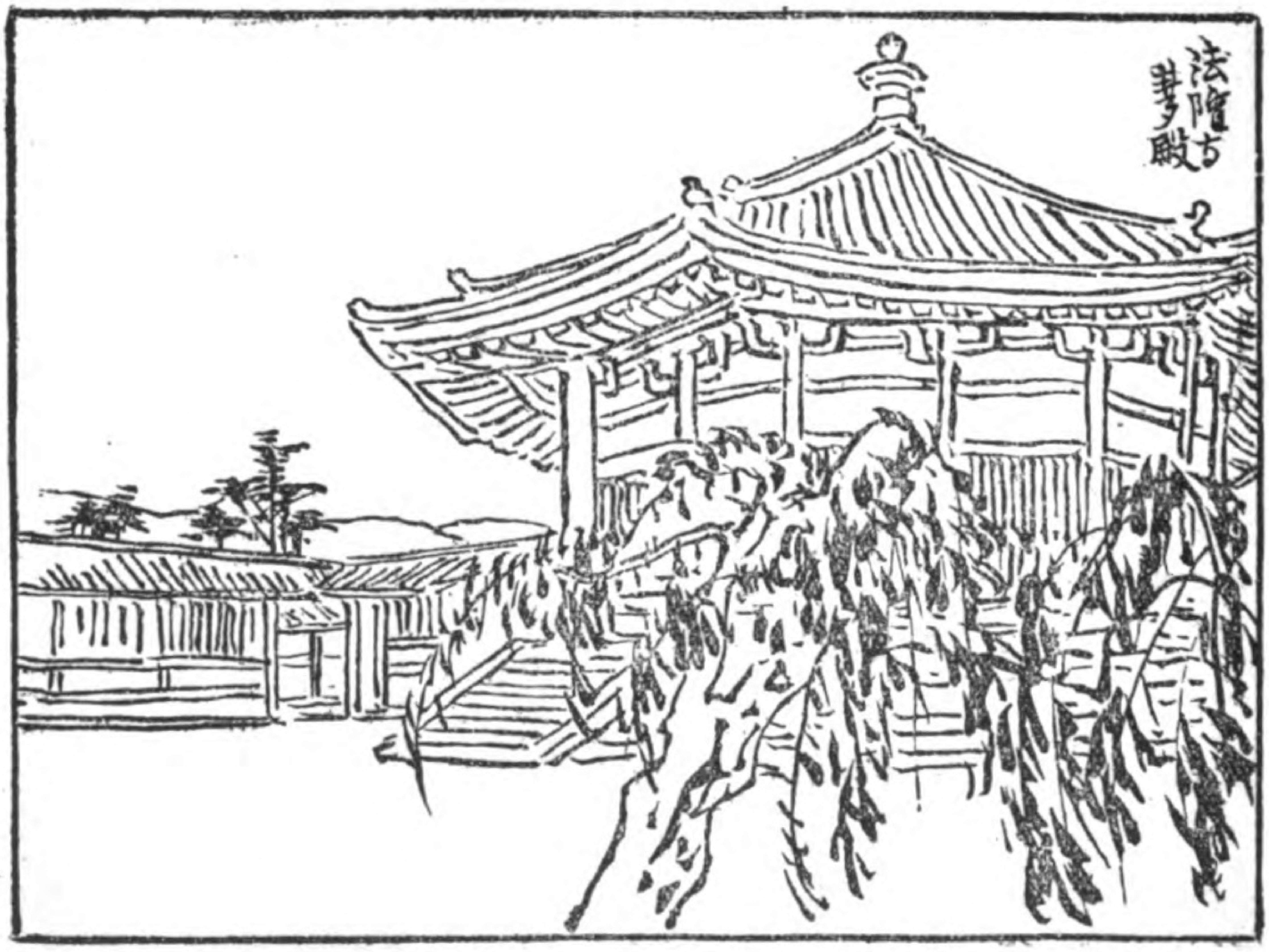
い運命にいぢけもせず、白百合のやうに氣高く無邪氣であつた彼女は紫の雲たなびくあなたに、幼き頃の山を夢みつゝ永い眠りについて居るのである。

その日は大佛から二月堂、三月堂、春日神社、手向山の八幡宮、興福寺、南圓堂、淺茅が原に猿澤の池と一と廻りして夕方歸て來た、夕餐したゝめて床に就いたが馴れない一人旅の、勞れて居ながらどうしても眠られぬ。

二十六日ね覺め勝ちなる夜も明けて杉の木の間がくれに鹿の群れが見える、青葉をわたる風が涼しい。朝から法隆寺へ行く、奈良から郡山驛を過ぎて法隆寺驛こゝで降りる、そこから二十丁許りの田舍道を行くと表門である。

此寺は南都七大伽藍の一で、此地一帶を古へ斑鳩の里といふたので又の名を斑鳩寺とも稱へる。

聖德太子創建し給ひし寺で推古天皇元年より十五年間に增築せられた一大大伽藍である。七大寺は千年以上の星霜に概ね荒廢して舊時の姿を見る事は出來ない

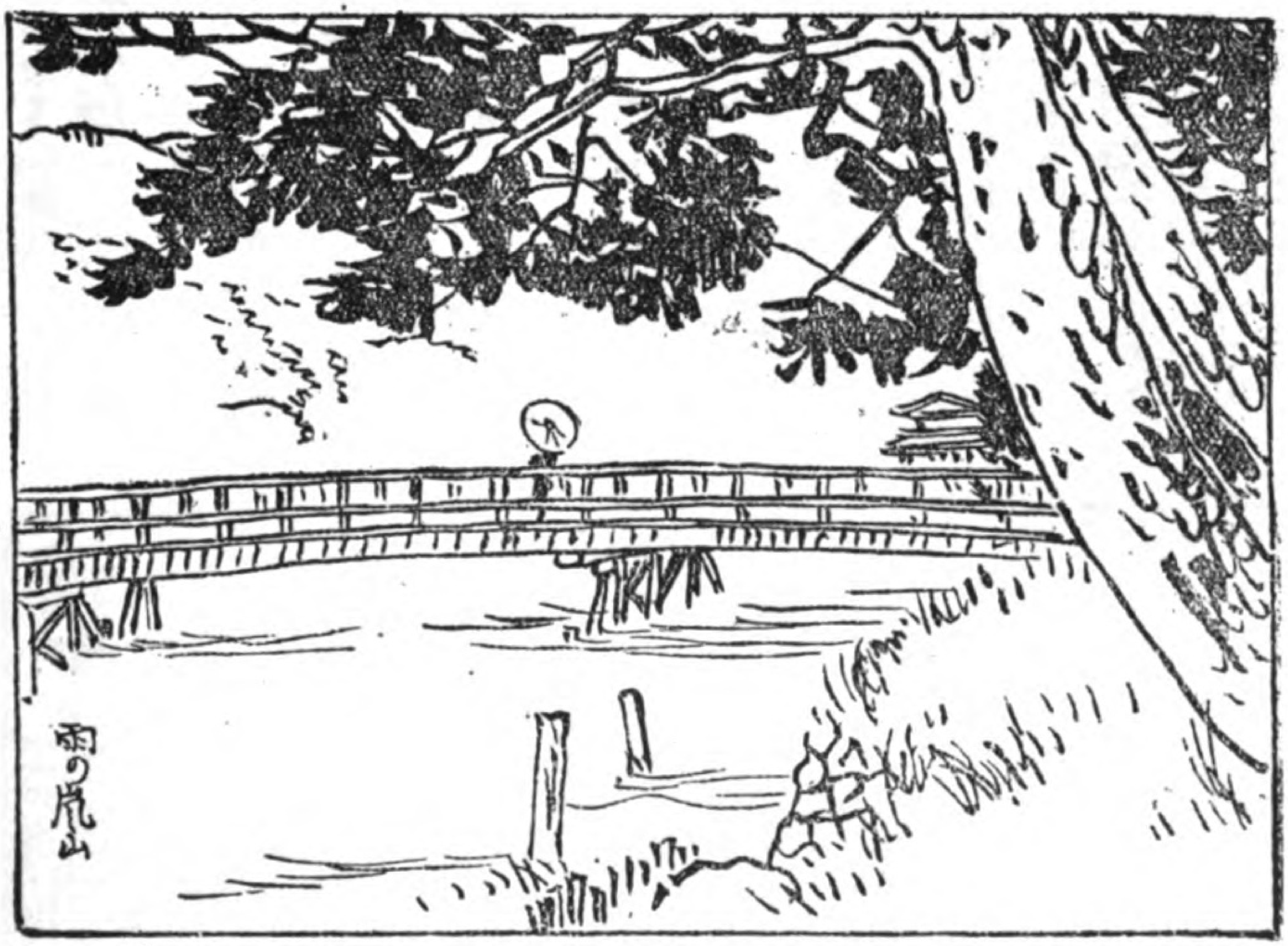


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けれど、此伽藍のみは創建當時のまゝを殘し境内二萬八千餘坪の中に太子在世の佛體什寶は儼然として殘て居る、歴史上、美術の材料の多い事はいふまでもない事である。金堂の佛體壁畫、只恍として我を忘れる。夢殿、東院、講堂、五重塔、一つとして其當時を忍ばれぬものはない。

半日を此寺に暮して歸りに龍田神社に詣づる。歌に名高いこの川は、龍田の町を南に流れて、堤の紅葉秋はさぞかしと思はれる。

午後當麻寺に向ふ、下田驛の停車場から五十丁と聞



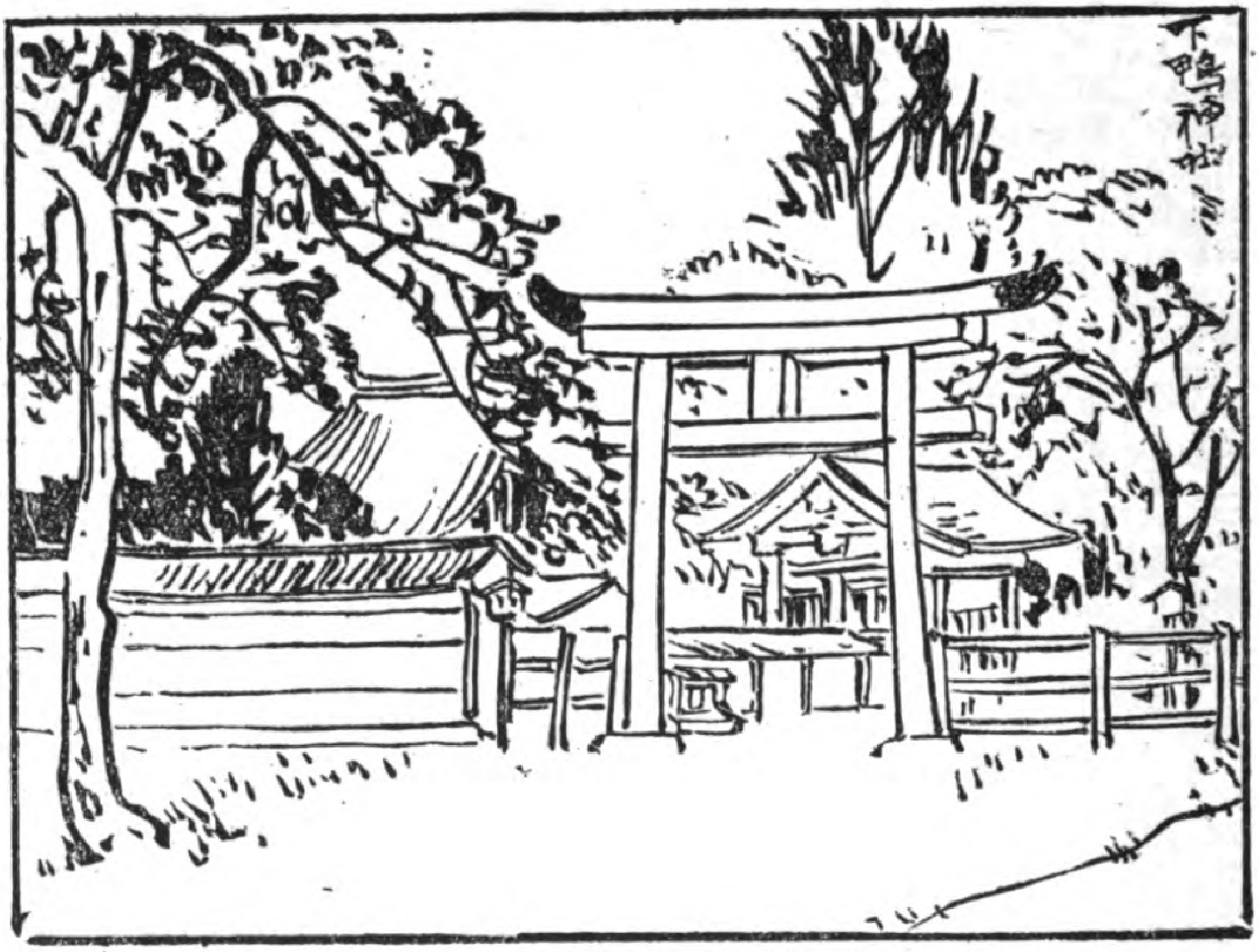
雨の嵐山

たが、でこぼこの田舍道を曲りくねりやう〳〵にしてついた。

廣々とした田畑のはては山で圍ふて居る。音に名高き河内の金剛山、伊勢の高見山、大和の生駒山など、遠きは青山黛のごとく近きは紫にうつすりかすんでどこかに馬子歌が聞える。麥の穗を渡る風なつかしく。所々の貯水池に青空の色が美くしく映えて居るまことに命がのびるやうな心地、右の方の森に五重の塔が見へだした。表門の所で車を下りる。

當麻寺は役の行者の練行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



地であの名高い中將姫が蓮糸を以て織られたといふ淨土曼茶羅が藏めてある。境内に竹がないとて姫が歌を詠まれた爲に一夜に一と節に伸びたといふ。其竹も見た。案内者が「あわれや中將姫さまは」と黄ろい聲を頭のてつぺんからあびせかけたのでがつかりした。靜寂な山門のあたり高い梢に蟬がしきりに鳴く、草に埋もれた石段をいくつか下りて廣い境内も殘りなふ見た。了つて奈良へかへる。

翌る朝二月堂から見下ろすと奈良の市街が一眸のもとに集る。

石段を上つて來る人の中に學生がある、老人がある、新婚旅行の人がある、さては團體見物人、漫遊の紳士、西洋人といふ風で廻り燈籠を見て居るやうな心地、それが皆のたり〳〵と、上つたり下りたりその悠長さ、奈良へ來ると、皆が奈良式になつてしまふものと見える。こゝで春日燈籠をスケッチして居ると同行二十人といふやうな團體がワイ〳〵と集る。

『あんた此方にかいてもらひんや』と前へ立ち塞が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて邪魔をする。貴方迄今寫して上げるからそこ動かないで下さいよと一寸政略的にいふと急にワーと廣くなる。

大佛の鐘が青葉を渡る。春日のおやしろから若宮をぬけて杉並木を下りると鹿がついて來た。

二十八日今朝はとう／＼雨になつた、嫩草山の方から次第に雨雲が重なつて來る。夏草の上をしと／＼と靜かな雨。博物館へ行て見る。東京のそれに趣きの違ふのは、佛像の多い事殆ど館の全部と云ふても宜い。晝宿へ歸つたが、雨はなか／＼止みさうにもない。ひとり旅の雨の宿は堪へられぬもの。もう京都へ歸らうと急いでみやげものなど調へて夕食すまして雨の中を停車場へ走らす。

プラットホームへ出ると車窓からザンザ降りの雨雫、暮れて行く奈良の町を雨の中に見過して汽車は走る。車室には只一人、笹藪の中を通る時などはザァザアといやな音がしてのん氣が通り越して、心細くなる。木津川が白く見える頃二三の乘客があつたのでやつと安心した。

八時過ぎ京都へ歸へる。待て居たとて迎へて下さる。急に賑やかになつたやうでうれしかつた。

二十九日昨日の雨は夜の間に晴れて朝日がきら／＼と暑い。今日は大佛から、三十三間堂、智積院と見て清水へ來ると乞食の子供がうるさくつきまとふ、車夫が叱ると喧嘩面になつて後から追ひかけてねだる。清水から圓山公園へ出る間の眞葛ヶ原の大雅堂、今は碑のみ殘つて廣い芝原になつて居る。智恩院八坂の塔をぬけて粟田の青蓮院へ來る。こゝも亦寶物の勝れたのが多い。餘り宜いのでいつしか案内者の列にはづれて方丈の方へ入り込むで我を忘れて見て居て叱られた。

永觀堂鹿ケ谷を通り過ぎて銀閣寺へ來る途中は實に宜い。京ならではと思はせる風致がある。銀閣寺では例の小僧が機械的に說明するのがをかしくてたまらなかつた。黑谷眞如堂を過ぎて、大學や高等學校のある岡崎吉田を過ぎて御所を斜に一條へ歸る。

三十日花園妙心寺内の麟祥院の和尙様をお訪ねす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。御門の處で車を降りると丁度御目に懸る『珍客來るだ』。と云ふて悦んで下さる。薄茶を戴いて、浮世の外のお話しを伺ふて居ると何だかむねがすくやうな氣がして嬉しかつた。廣い寺中に塵一つも見えず、苔蒸した庭の木の葉一ッ落ちてはゐない、丸で世界がちがふやうである。午時になつて修業の徒弟が麥飯の御馳走をして下さる。和尚樣が寶物を一々丁寧に案内して見せて下さつた。見盡くされぬほど宜いものがある。夕方になつてお暇を申すと『まあ今豆の飯をこしらへたぢや』。と强いてお引とめになる。好きなお精進をおいしく戴てお暇をする。

三十一日四年前こゝの師の君の愛娘と花の頃を舟で大堰川を下つた事がある。青葉の嵐山はどんなものかと樂みながら、汽車を嵯峨で降りて、天龍寺から大覺寺と見て嵐山へ來る、青葉繁れる櫻の木陰に、茶店が淋しく、だんごや櫻餅の旗がひらつく。三軒茶屋の前の渡船場から舟で上る。

棹をさすとすうと出る。兩岸の翠色、滴るやうだ。水澄んで魚の遊ぶのが手に取れるやうに見える。堤を大悲閣に行く人も、船で大堰川を上る人もほんの數へるほどしかない。きけば成ほど今日は晦日である。

赤岩から先きは瀬が早くなつて岩に碎ける浪がしらが白い。右に左に瀬を交して岩の間を筏が下りて來る保津の溪間は今つゝじが眞盛りとの話し。溫泉で食事をすまして又舟で下る。こゝで筆を洗つてスケッチすると靑嵐心地よくしばし浮世に在るのを忘れる。四時頃舟を乘りすてゝ渡月橋畔の茶店で休む。大原女が嵐山、風景の畫葉書を賣つてゐるので。宜いのを十枚だけ買ふ。

六月一日朝例になくぶら／＼と歩いて御苑を通りぬけるといつしか下鴨神社のそばへ來てゐた。薄苔と繁る森の中から赤い社が見えて神々しい。こゝらで一寸スケッチしてそれから又金閣寺へと行く。

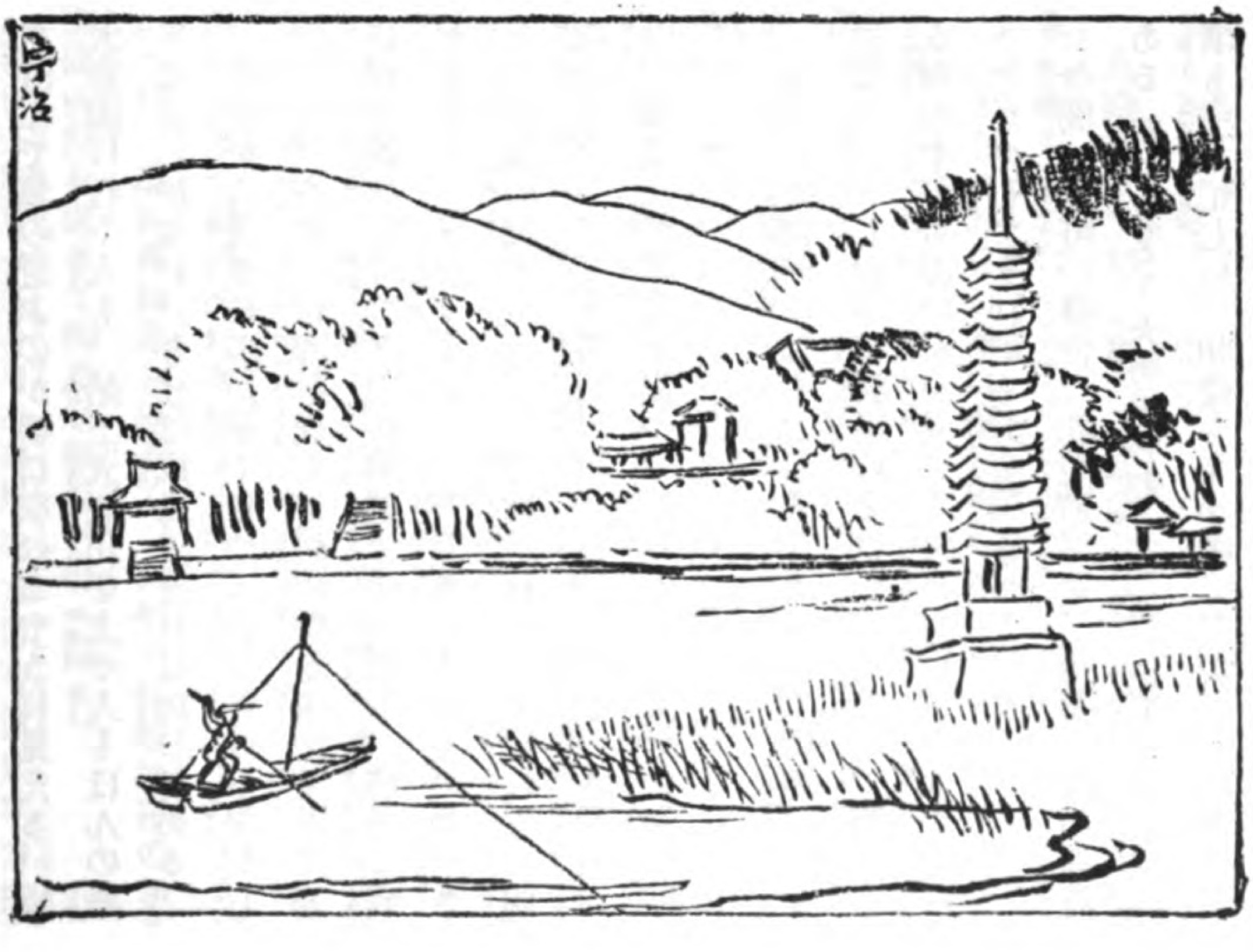
金閣は室町の盛世、鹿苑將軍が、榮華の後の別業である。門を入ると大勢の拜觀人が室に滿ちてゐた、案内者も中々忙しい。相變らず小僧どのが、「この水は足利

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

義滿將軍のお茶の水など〻黃ろく出す。足利の豪華もあればこそ其時代の建築も殘るといふもの。歷史は興味のあるものよと一人で感心する。歸りには紫野の大德寺を見る境內はなか〳〵廣い。桃山時代に因緣の深い寺である。治部少輔三成の墓などもあつた。寶物を拜觀して本堂から緣へ出ると小堀遠州の好みに造られたとかいふ庭が實に好い。遠く比叡の山を望んで加茂の松並木から紫野を一目に見渡した所は天然の風致をそのまゝ背景にしたところに、この庭の眞價があらはれる。

三日七條から乘つて宇治で降りる。停車場から縣神社の前を過ぎて名に高き、平等院へ出る、こゝでまた寶物を見て鳳凰堂の池の汀へ降りて來ると懷古堂の所へ出た。すぐ堤へ上ると宇治川の水がゆるく流れて高倘寺の森宇治神社などが向ひの岸に呼べば應へるやうに眺められる。

遊んで居る子供に川の水を汲んで來てもらつて宇治橋のかなたから浮島の塔のあたりをスケッチする。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



渡しを渡る。浮きしまのあたりは水が若芦にひたひたと瀬が早い。嵐山にくらべては眺めが廣いから晴れ〳〵するけれど、高倘寺の堤の方は水力電氣の工事中で所々赤土そのまゝの姿で少し風致が損はれた。

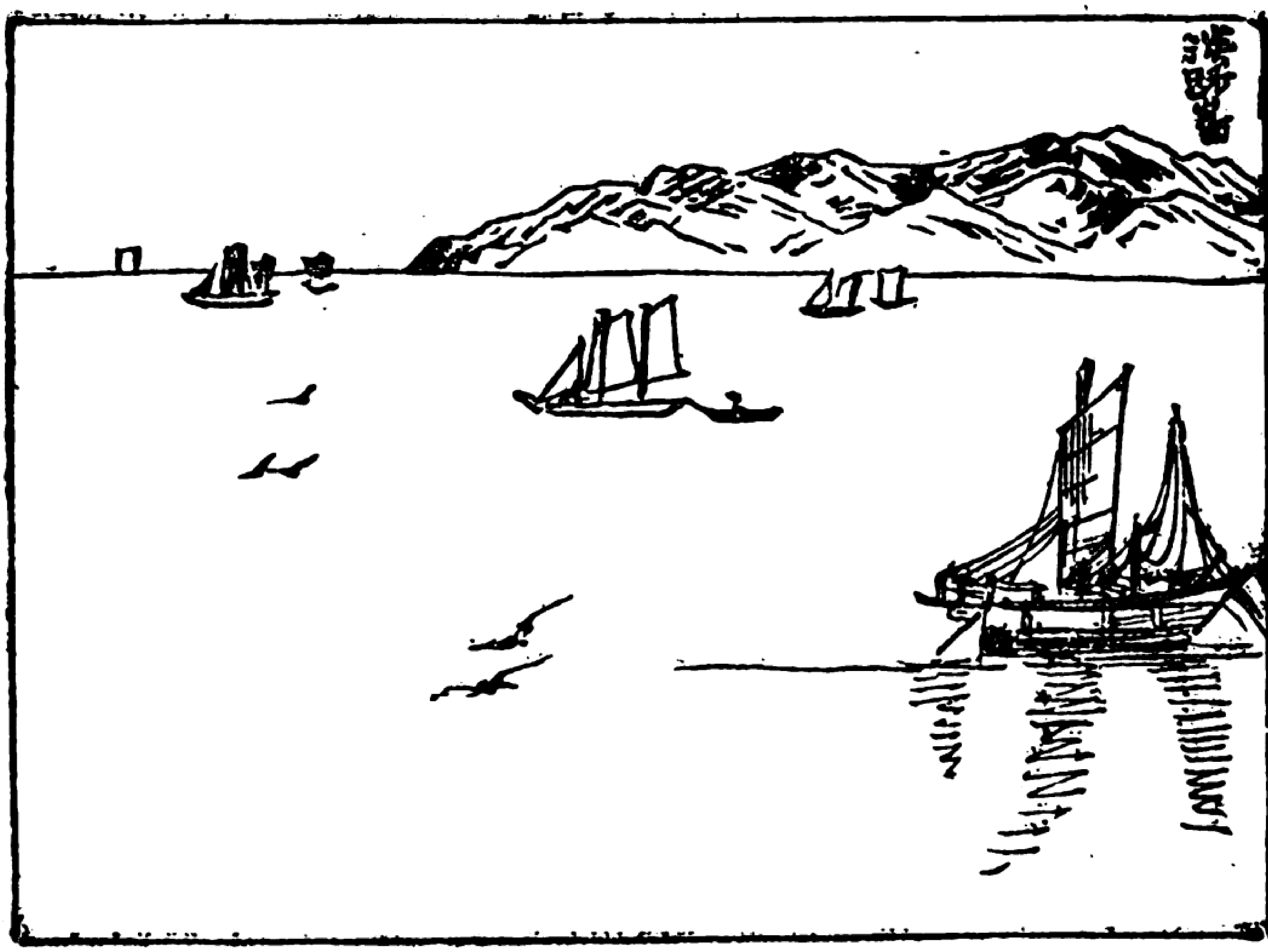
五日畫卷物の事で雨の中を嵯峨の奥の尼寺へ行く。歸路茶店で雨の嵐山を見る。霧が翠の山にかゝる。見るまに消えて行く。篠つくやうな雨が一しきり來て又小雨になつた。人影稀な渡月橋を番傘さした人が行く、さながら畫中の人。京の藝者がお客に伴れられて三軒茶屋へ入た。茶店の女中は見送つて欠伸をする。雨の嵐山は淋しい。スケッチして居ると簑を着た男が釣竿をもつて通りがゝりに立ち止まる『こないに雨が降るのが宜ろしか』と聞くので風流氣のない人の返事に困つた。

十日曇雨勝ちなので。此日も朝から博物館へ行く、鴨川の橋を渡るといつもは磧に草が生えて水が少ないが今日は濁水がどう〳〵と流れて、是が山紫に水碧くといふ鴨川かと呆れるやうだ。魚を釣つて居る人が多

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い東京の師の君の神戸出帆を送る爲め神戸へ向ふ。

十一日晴さても昨夜は大まごつきにまごついた事よ阪神電車で打出の濱へ打出され、夜中不知案内の土地をうろつひてやう〳〵尋ねる友の別莊へついた昨夜は暗くて少しも分らなかつたが今朝見ると見渡す限りの廣い畑地、所々に松並木が見えて砂濱も近い西に六甲山武庫山をひかへて居る。朝日が、遮るものも無い畑地の方から大きく出る。晴れ〳〵とした景色だ。昨夜と今朝と別天地の感がある。朝食をすまして友と共に



神戸へ行く。メリケン波止場で待ち合ふ事にして私は諏訪山の常盤へ行く、師の君は今門を出られる所だつた。波止場から小蒸汽に乘つて賀茂丸へ着く、見上げると城かと思ふやうに大きい。喫烟室、談話室、船の中とは思はれぬほど、餘り廣いので、うつかりすると出る道にまごつく。運動場から神戸灣を見ると林のやうな檣の數、小蒸汽は其間を縫ふて忙がしげに汽笛を上る。私もどこかへ行つて見たくなつた。

十一時出帆の鐘が鳴るので改めて君の健康を祝する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勇ましい旅路もいざとなると餘り宜い心持ちではない。印度人らしいのが歸國するのを内外人に盛んに見送られて花輪をさし上げて萬歳々々と樂隊ではやして別れを惜まれて居た。

午後須磨神社へ詣る。鹽屋垂水を過ぎて、舞子へ來た。白い砂濱から淡路島が手に取るやうに近く見える。春の海のやうな靜かな沖に白帆が點々して平和な畫だ。一寸スケッチしてすぐ又明石へ向ふ。

停車場からは四五丁の處。石段を上りつくすと人丸神社へ參詣する。『ほの〴〵』と明石の浦を思ひ出す。

神社から明石の濱の磯馴れ松が、土佐派の畵のやうに見える。勞れた足を引いて夕方打ち出の濱へ歸つた。

十二日發此日は朝から雨雲が出てむし暑い。打出の次ぎに蘆屋と云ふ驛がある。此所に住居して居る知人を訪ねて又友と二人大阪へ向ふ。梅田から乘かへて天王寺で下りる。車窓から宜く大阪城が見えた。空は灰色ににごつて居る。あの煤煙のむらがる下には汗と油で精力を勞らせて居る人が限り知れぬと思つた。天王寺の龜の池に龜の多い事には驚く許りである。石かと見たのは皆龜であつた。能樂臺は龜の池の上に珍らしい大きな石を以て組み立てられある。能衣裳や能の面は皆寶物拜觀所に陳列されて見るべきものが多い。

住吉神社は歌の神さまと聞いた。石燈籠が數へ切れぬほど並ぶ中を通ると本社が見える。松の向ふに反り橋が懸つた所は一寸龜井戸の天神さまを頭に浮べる。

かけじや袖の高しが濱は近いと聞いたが行かなかつた。道の兩側の家に燒きいもの名物が山のやうにある。電車を大濱で下りた。海岸へ出ると茅の海ははるかに大阪の築港が見える。白帆が入江を歸つて來る。模糊として浪路の末遠く見えるのは。昨日あかず眺め暮らした須磨明石の浦々と數へられた。遠くも來つるものかなと思ふ。靜かな浪打ちぎはに子供も大人も打ちつれて泳ぎをして居る。入江のさまや島のたゝずまひ。南海の果ての馴れし故郷が偲ばれてなつかしい。

夕陽美くしく暮れ行く磯を名殘り惜い思ひに引かれながら歸ると大阪は早や夜の都である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山中海濱 夏の生活法

糸　左　近

▲山と海

問　爲す仕事も濟み氣掛りも無ければ、いざ心の洗濯にと旅行を思ひ立ち候。就ては山にせんか海にせんかと決し兼候が、何方が宜しう御座いませう。

答　ヒステリーとか、神經衰弱とか乃至は月經不順、子宮病等の氣味ある方々や、お子供達は山即ち輕井澤とか諏訪溫泉とか乃至は中禪寺とかへ御行きになつた方が宜しく、呼吸器の故障ある人や、皮膚を健かに鍛へたき目的の方、乃至は何の故障も無く健全なる御婦人は海殊に海水浴場の設有る地に行かれ度候、其の譯は言ふまでも無く、山は地が高くて涼しく、海岸は日光を反射して暑く、而して山の空氣は神經を强くするに効があり、海の空氣は呼吸器を癒す藥となる、纎弱い方は海岸の暑さに堪へ難く、健全なる人は暑さに抵抗するの素養を作る可く、皮膚を健かに鍛へんには海水浴をなして濱邊に砂浴を試みるなどの夫々特長があるからです。若し子宮病月經不順等のある方は湯治を兼られて山籠りが好都合である。

▲汗不知

問　夏は暑きが自然の理法で、此の時に汗の流るゝはこれ亦自然の法則とは申しながら、人並外れて玉をなし瀧をなすはいと辛う御座いますが、少くする工夫もがなと問ひまゐらする。

答　硼酸浴とて硼酸と申す藥を浴湯に入れて浴する方法も有り、又其の硼酸を水に溶して汗の多く出る額や腋の下などに塗布すれば、汗を少くすると共に、腋臭を防ぐ手段にもなるけれど、元來夏は汗を流して體溫を發散せしめ、暑さを凌ぎ易くするものに候へば、可成は斯る不自然の方法を止めて、日中の溫湯浴をなされ度候。即ち中食後三十分時程休憩して、之より拭掃除、打水體操などクル〳〵運動すると、さらでだに暑

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

き夏の日中なれば、汗は流れて着物を搾るやうになる乃で其の濡れたる着物を脱ぎ、ザンブと熱い位の温湯に浴し、浴後北窓の下に暫時坐つてると、自ら涼味を覺え、之より就寢時まで長い時間汗が出ぬのみならず暑さの何物たるを知らぬやうになること受合です。これ皮膚の生理を利用したるもの、所謂汗を出して汗を出さぬ秘法である。

▲蚊遣の水

問　夏は晩餐が終つてから日中の暑さも打ち忘れ、家族團欒四方山の談が何より樂しきに、あな惡し、蚊軍襲ひ來り、迚も起きてること叶はず候が、去りとて蚊遣火は烟くて蚊よりも我等が却つて苦しく候、左候へば何とか他に防禦の術も有りますまいか。

答　夏は午前四時に夜が明け、午後七時に日の暮るゝものなれば、十五時間の長い間樂しまるゝこと、されば早寢早起の習慣を養はせんとて神即ち自然は朝顔といふ美しい花を咲かせて之を眺めよと促し、日暮よりは蚊といふ厭ふ可き蟲を呻らせて、默々の中に早く晩餐を終へ早く寢に就けよと戒め給ふのだ。されば何を苦しんで蚊遣の法を講じませう。されど又神は衞生の法を實行する人の爲には其の蚊を遣し給はぬものである。然らば其の方法は如何と云ふに、家の内外を清潔に掃除すべきは勿論、塵埃や不潔な物を消毒或は燒き捨て、溝や水溜には石油を注いでおくと蚊の發生を防ぐのみならず、諸病を豫防する秘法である、之をこれ蚊遣の水と申しする。

▲色を黑くせぬ藥

問　海水浴を致して身體を彌が上にも彌增しに强くせんと思ひまするが、如何せん一利一害は數の免れぬものにや、顏色のいとゞ黑くなるに氣遲れ致し候が、之を防ぎつゝ爲す法は無きものに候や、無理なる願とは存候へども女の心を推し給へてよ。

答　色の黑くなるを恐れて海水浴を爲さんとするは恰も死を恐れて敵と戰ふが如し、されど幾分か之を防ぐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

方法無きにしもあらず。そは硫酸規尼涅を單軟膏と適宜に混ぜ合せ之を顔に塗り而も海水浴帽を冠つて太陽の直射を防がれ候はゞ左程黒くなり申さず候。

◆夏の化粧藥

色を白くする方法

問　幼少な折に何かの本で見ましたが、夏に生ずる野菜物の中で色を白くし、且つ皮膚を艶かにする藥があるとやら、今覺えて居らば直ちに實行せんものをと齒痒く存じ居り候。何の野菜物に候や。



秩父山中水川村

答　冬瓜と胡瓜に含める液體は自然の化粧水である。冬瓜を細かに挫き之に日本酒を入れて煎じたる汁若くは胡瓜を細かに薄く切り擂鉢で揉み、其の汁を搾つたものを顔や手足などに塗れば色の白くなること妙なりと昔より言ひ傳へてゐるし、又醫師中にも信實しやかに述べてる人もある。この二つの液體が黒い色素を除いて白くするか否かは疑はしいけれど、艶々と色美しくなり、皮膚の爲に有益無害なるこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と丈は確かです、此の盛夏の産物を利用し一つ試み給へとなん、お勧め申す。

▲甘露の水

■氷水は衛生上宜しからぬものと承り候が、去りとて夏は咽の渇くもの、咽が渇くのに無理に堪へ居れば宜しからずと存じ候が、この氷水に代ふ可き善い飲料水も有りますまいか。

答 熱湯を大きな徳利に詰め、コロップを以て密栓し之を半日程深い井底に漬けておくと非常に冷たくなるのみならず、一旦煮てある爲に水傷の憂が無い。乃で咽の渇いた折この水半合程に稀鹽酸三四滴乃至は五六滴滴し、砂糖を加へて飲めば所謂甘露の味がして爽快を感ぜらるゝと同時に、鹽酸は諸黴菌を死滅せしめる効が有るから、傳染病豫防の一策ともなる。併しながら餘りガブ〳〵澤山に飲めば鹽酸過多症になつたり、下痢を催したりする。所謂過ぎたるは猶及ばざるが如しとは之にも當嵌る金言であらう。

▲救急箱

問 温泉場や海水浴場に幾週も滞在する折、時には過つて怪我をせぬとも計られず、時には食傷することが無いとも限られぬ。其他火傷をなし、毒蛇に咬まれ、或は發熱に侵されぬとも保し難し、斯る際お醫者が來らるゝまでの救急療法を敎へ給はれ。

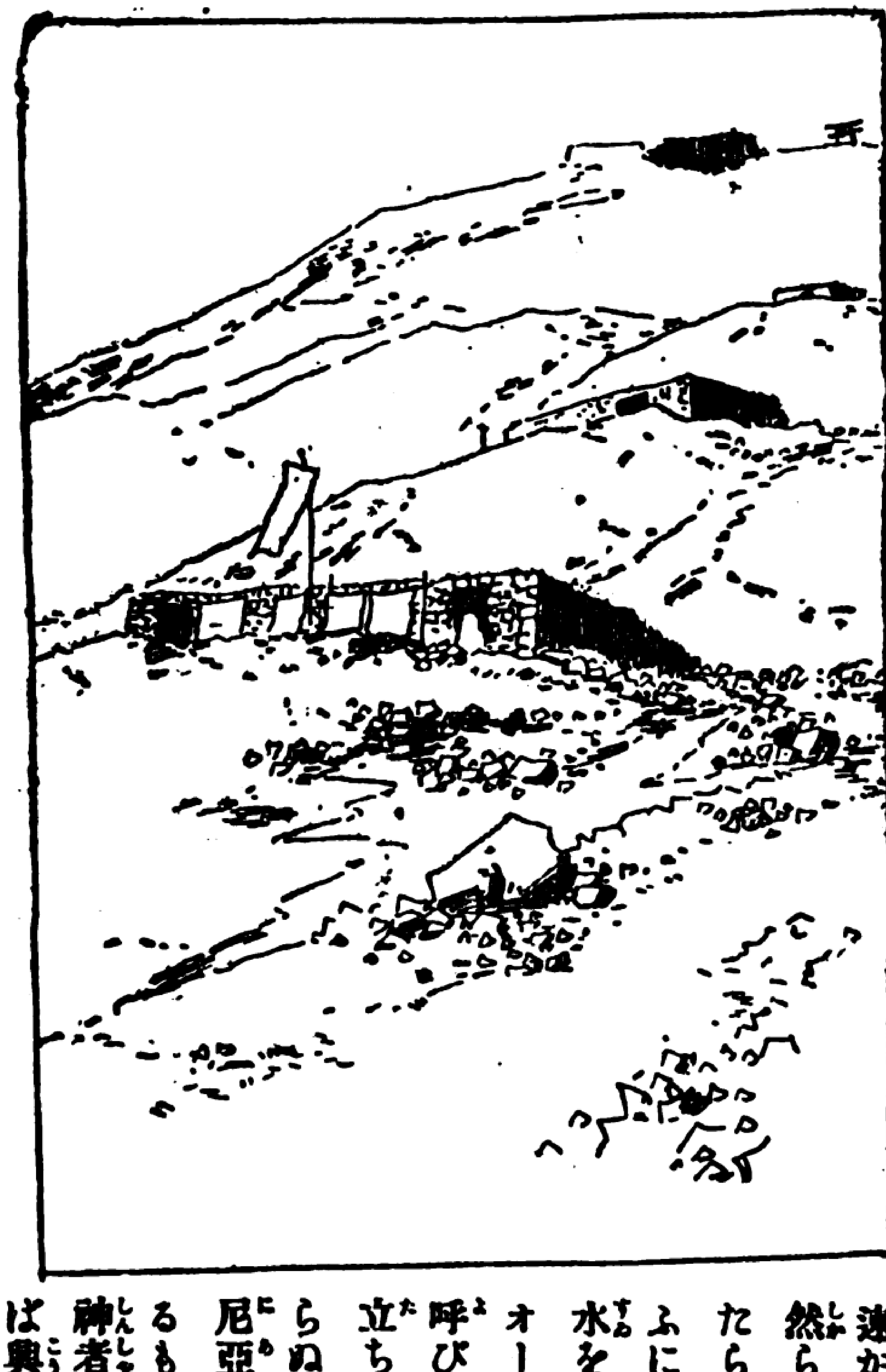
答 善いお心掛かな、されば、左の品々を一つの箱に入れて携さへられよ。

二十倍の石炭酸水、一磅。デルマトール、半℥。昇汞ガーゼ、半反。獨逸絆創膏、一鑵。亞麻仁油紙、十枚綳帶、五卷。幅二寸の物、二卷。幅一寸の物、二卷。幅五分の物、一卷。亞鉛華軟膏二℥。卉菁軟膏、一℥。剪刀、一個。ピンセット、一個。スポイト、一個。氷嚢、一個。海綿、二個。安母尼亞水、一磅。芥子、三℥。赤葡萄酒、上等舶來三℥。アスピリン、一℥。重曹、一℥。體溫器、一本。

▲右藥品等の説明

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

過つて高い所から落ちたと同時に下に何か危險物が有つて、身體の或る一部に創を受け、出血淋漓迸るとすれば如何に處置す可きか、先づ救急箱を開き、海綿を取り出して其の出血を壓迫しておき、一方には二十倍の石炭酸水一合に水二合を加へて五十倍とし、之を以て其の創を洗ひ、デルマトールを撒布し、昇汞ガーゼを石炭酸水に浸し、之を當て亞麻仁油紙を被ひ、其の創の大小に依り相當の繃帶を取り出して繃帶をする。次に、出血はせぬけれど強く打



富士登山の五合目

身をして其部が痛くて堪らぬときは、氷嚢に氷、氷無きときは冷水を入れて之を當て、ドン／＼冷却せしむる、斯うしておいて速かに醫療を受ける然らば落ちて氣絶したら何うするかと云ふに、早速安母尼亞水を嗅がしめながらオーイ／＼と大聲に呼び、兎に角正氣に立ち返らしめねばならぬ。斯の如く安母尼亞水は實に要用なるもので、凡ての失神者に嗅入せしむれは興奮刺戟の功あること甚だ大なるものだ。正氣に立ち返つたれど、大に衰弱虚脫してゐる時には如何にするか、それには例の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

赤葡萄酒を十瓦乃至二十瓦（一小盃に一杯程）に水を加へて稀薄にし、之を服ましむれば血液大いに循環し、一方ならず精力が附いて來るものだ。掛洋燈が頭上に落ちて火は全身に蔓つた、さあ何うする、醫者の來るまでには其儘火葬になつて了はねばならぬ、乃で直に其の人を倒し、薩摩緣或は夜具の類を以て身體を包み、コロ〳〵轉がして火を揉み消し、消えたら着物を脱ぎシャツの類は剪刀を以て切り取り、火傷したる部は冷水を以て冷し、水ぶくれは針にて刺し、水を出してから亞鉛華軟膏を塗つておく。次に毒蛇或は犬に嚙まれたら如何曰く矢張其の救急箱を開いて芫菁軟膏を塗け、其の毒を吸ひ出さしめおき、一方には急使を醫家に走らすが宜い。次に綠滴る樹の蔭を散歩してると、豈圖らんや小蟲が飛んで來てブーンと耳中へ入り込んだ。指を入れて取らうとすれば益々深く這入る、斯る時には何うする、即ち例のピンセットを取り出し、「さあ之で摘み出して下さい」と他人に賴み、取つたら微溫湯をスポイトに含ませ、シユー〳〵と洗つて貰へば速にサツパりとなる。ピンセットは斯の場合のみならず、海水浴などしたる折手に刺の立つた時でも、咽に食物の閉塞したる折にも之にて摘み取れば、實に都合の好いものだ。ウツカリ誤つて何か毒物を飲食し、胸がムカ〳〵して堪らぬ、救急箱に何か宜い物が無いか知ら、有る有る早速芥子を、取り出して湯に溶し、グツと服む、嘔氣頻りに催し、取つたる飮食物を悉く吐いて了ふあゝこれで氣持が善い、すんでの事で一命に障るのであつた。其他芥子は痛む場所に塗つたり、或は小兒急癇の時などに芥子湯をして脚を溫め、血液を下部に導くなど、是非共箱の中に貯へておかねばならぬ。夜は既に更け人聲靜かなる折に忽ち身體は火の如く熱し、苦悶に堪へぬ所から檢溫器を取り出し計つて見れば四十度に垂〳〵とす、けれども醫家へ走らす可き使者を賴むも氣の毒である。此の時に當つて賴みとす可きは唯一つ救急箱あるのみ、取りも直さず開いて、アスピリン半瓦に砂糖を入れて服み、夜の明るを待ち、醫師の來診を乞ふ時分は既に熱も下つて殆んど平熱。まづは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一安心、別に悪い物を食べた覺えは無れど、急に激なす嘔吐、然るに時は午後、何れの醫師も生憎留守、乃で用に立つは重曹である。即ち重曹三瓦を水一合に溶し、少し宛適宜に服みながら氷片を喫してゐると、即て醫師の來診。「此の分なれば別に御心配な事もありませぬ」次に救急といふ譯でも無いが轉んで一寸擦り剝いたとか、ナイフで小さな創を附けたとかで、醫療を乞ふ程でも無いから、其儘打棄つておくと、時には其創から毒物を吸收し甚しきは破傷風になるやうな事がある。されど、之が心配になるからとて、仰々しく繃帶する程の創でも無い場合には、逸絆創膏を炙き火にて焙り、又は石炭酸水で洗ひ、之を貼ておけば必ず大事にならぬ、烟草や袂糞を附けるなどは眞平御免。以上は旅行の間に合せに一例宛を擧げたに過ぎぬけれど其の他種々の場合に此の救急箱を應用せらるゝことの大なるものである。是非是非買ひ調へて携へ給へ。



富士登山の頂上

▲銷夏法の秘訣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

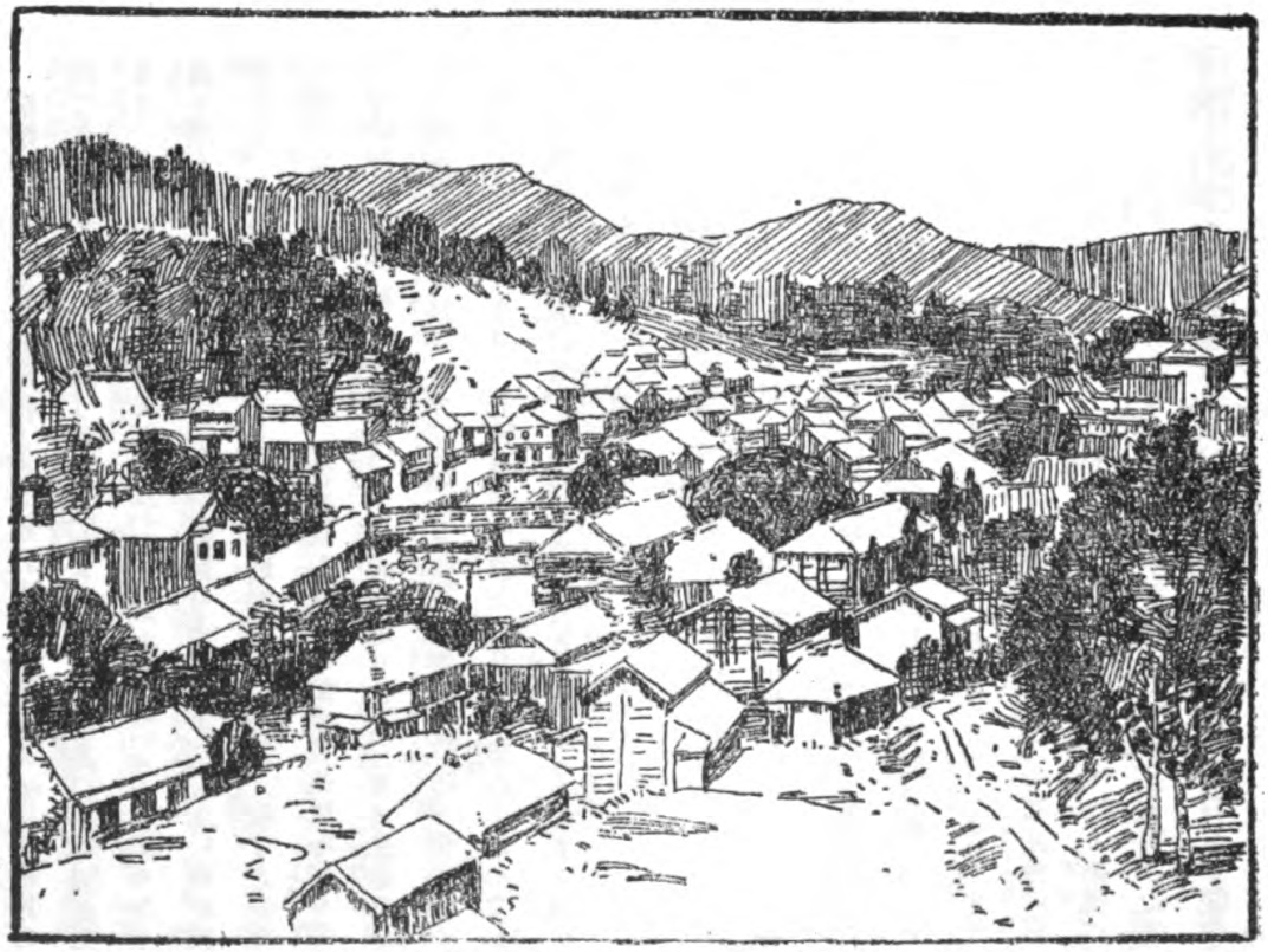
問　銷夏法の最も有効なるは何でせうか。

答　私が嘗て獨園禪師に聽いた一語を記して御答へ致しませう。禪師曰く『貪慾、怠惰、不正直、虚榮、嫉妬などに充らたる不德な人は常に不安の念に驅られ、齷齪この世を送るが故に身は如何に涼しい高樓に棲んでゐても暑くて堪らぬけれど、正々堂々たる精神を持し、俯仰天地に愧ぢぬ人は西日射す九尺二間の裏店に居ても淸風颯々として來るを覺ゆるものだ。』と、實に味ある言葉で之が銷夏法の第一等かも知れませぬ。又一歩進んで、此の灼くが如き炎熱有ればこそ黃金の稻も熟るのだと思へば避暑旅行も有つたものに非ず、天に對して此の炎熱を感謝せねばなりませぬ。

暮さばや淸き心に夏三月

△小賣商店簿記講習會

女子教育界の活動家にして、寸時も其の手を休めざる眞悦孝子女史は〝夏季割烹講習〟の外、暑中一月間商店簿記講習會なるものを開き、市内の小賣商店の主婦に向つて簡易なる簿記法の講習會を開き、講習は一日二時間宛にて五日間にて修了する由なり。此の簿記法に依れば一冊の手帳と一本の鉛筆あれば金錢の出納を遺憾なく爲し得る筈なれば、定めし希望者も多かるべし、先づ最初は麹町邊より始め、漸次赤坂、四ッ谷等成るべく廣く東京市内に及ぼす豫定なりといふ。



伊豆の修善寺

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



いろいろの実驗

仕事の捗取る方法

沼津　田坂千代子

お暑い時分、お仕事など致しますと、時々睡氣が催して來て困りますが、私は時計と競爭いたして此の睡覺を追拂ひます。その仕方と申すは、先づ今ま時計の彼の針が、十分の處に在る故、三十分の處に來る迄には何處までとか、二時が鳴るまでには何處まで縫はうとか、一人で心に定めて致しますと、思ひの外早く仕上ります。又今一つは是丈縫つたら「夏の温泉場」を讀み、又是を仕上げたなら「病人に對する同情」を讀まうと、斯う云ふ風に致すのです。私は毎日この仕方で面白く仕事を致して居ります。

花粉の人工媒助

信濃　恒子

園藝種子の改良新種を得ようと思はゞ、是非花粉の人工媒助を行はねばなりません。今を盛りの朝顔などは、最も容易に好結果が得られます。之を行ふには開花の前日に、蕾の一部を裂いて、ピンセットで雄蕊を悉く取り去つて置いて(蕊は五本ありますが中央の太いのが雌蕊ですから、之を傷めては爲りません)翌朝開花を待つて、欲する花の雄蕊を取つて參つて、雌蕊の頭へ接觸せしめ、手術後は蟲媒を防ぐ爲め、寒冷紗製の框で、覆ふて置けば宜しいのであります。私は未熟ながら此法を數年來行つて居ります、昨年の品評會で共樂牡丹と命名されました物などは、花徑五寸、花瓣百餘を有し、翌日まで凋みませんでした、皆樣も試みて御覽遊ばせ、在來種の單純なる培養よりも、どんなに趣味が深いか知れません。(賞)

呼笛のおかげ

東京　繁子

去んぬる六月なかば、母校に同窓會がございました。私は先生や學友にお逢ひした嬉しさに、つい日の暮れるのも知らず遊び暮し、トップリと日が暮れてから學校を出ました。途中に松林がございます、極く寂しい處です、そこに差懸りますと、バラ〳〵と三四人の書生風の男が出て來て、寄り付きました。不意に驚いて「何するんです」と怒鳴つて見ましたが、利目がありません、無理に手を取つて引張ります。女の力では何うすることも出來ません、唯だ藻搔いて居ましたが、ふと帶の間へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

手を入れると細引で取つた呼笛が障りました、で思はず其を口に入れ、夢中でヒリ〱と鳴らしたところ、書生は何と思つたのか、急に手を放して逃げ出しました、それから此呼笛は肌身はなさず持つて居ります。

破れ物の荷造り方

吳　野口雪子

私は主人の轉任毎に引越して歩きますから、今では馴れて、荷造りが上手になり、何一つ破壊しません。私は平常から心懸けて蜜柑箱や丈夫相な箱は成るべく保存して置き、又他から來た手紙の後日必要の無いものは、一々紙に包み、定つた箱の無い物は一旦前の箱に順序よく詰め、其の隅々には此紙を火箸の様な物で固く詰めます。かうして出來上つた小箱を一纏めにして更に大箱に入れます。斯様に致しますと、たとへ太く物に衝突ても其部分丈で、決して他の箱に影響しません。また濡れ紙を貼つても可いのですが、詰め物さへ堅ければ決して破れるきつかひはございません。

子供は叱るものでない

美作　田鶴子

末の弟は今春から小學校に上がる事となりました。奇妙に學校が好きで、毎朝早くから出懸けますから、是には一向世話も焼けませんが、悪戯と我儘の烈しいのとには、ほと〱閉口致して居ました。事々に叱つても割合に効はない、却つて反抗心を起させる本と存じ、悪戯する時もがみ〱叱る事なく「お前は學校に上つて居るのに、そんな事しても宜いのかね」などゝ、優しく說き聞かして居ました。この効があつたのでせうか、此頃では大して悪戯を爲ないやうになりました、それかと申しても決して元氣消沈などゝ云ふ様な事はございません。

私共が他所様へお伺ひ致した時など「そんな悪戯すると學校の先生に言ひ付けますよ」などゝ仰有つてるのを時々耳にすることがございますが、學校や先生を宛で獄舎か獄吏でもあるかの様な口吻。私はひそかに寒心の至りに堪へません。

子供が危険な物を持つた時

陸中　靜子

昨年の秋でした、私が顔を剃つて、剃刀を一寸鏡臺の上に置きましたら、傍に見て居た寛坊(當時二歳)が直ぐに其を取つて、齒の方を摑みましたから、私は驚いて、直ぐさま取戻さうとしましたが、なか〱放しません。何うしたらよいかと思つて居た處へ、臺所から下女が飛んで來て、小石を拾ひ、いきなり手水鉢に投げ込みました。すると寛坊は直ぐに剃刀を投げ出しました。危ない處を下女の氣轉で助かりましたから、厚く禮を言ふてその剃刀を褒美に遣つた事があります。何でも子供が危ない物を持つた時には無理に取返さう

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とせずに、自分から放さす様な工夫を考へねばならぬと思ひました。

子供の爪

兵庫 文子

皆さま、子供の爪を伸ばして置く程危険な事はありません、お隣りの奥様が二つになる坊ちやんを抱つこして入らつしやいましたが、何ういふ機でしたか、坊ちやんの薄い爪が奥様の御目に瑕をつけました、まあ大變、早速お醫者様に見てお貰ひなさいましたが、大層深い瑕だと仰有つた相です。それから四五日といふもの、奥様は眼瞼が疼いて夜分休むことも出來ぬと申して閉つて居られました。今日で十四五日になりますが、いまだに繃帶しておいでゝす。子供の爪だとて油斷は出來ません、大變な目に逢ひます。皆様御氣をおつけ遊ばせ。（賞）

縮緬の耳

花すゞき

縮緬を反で買ひますと、兩端に耳と云つて、太糸の織つた處があります。あの兩端の縦糸を抜いて、わきの方から引抜いて行きますと綺麗に糸が取れます。で、この糸に少し撚をかけて、二色位使つて、ランプ敷や花瓶敷を編みますと、糸が大きくてシヤンとして、光澤がありますから、大層綺麗な物が出來ます、二寸位のが四つもあれば結構出來ますためして御覽あそばせ。

御飯の移し方

伊豆 宮尾清子

青葉の影鬱しうなると共に、餘程御注意遊ばしても、御飯を饐して御困りになる事がございませう、御飯を腐敗させない様に致しますには、先づ一時間程前にお米を磨ぎ、水に浸し置き、釜に入れる折、再び清水で洗つて炊きます。そしてお櫃へ移しますには、釜の中央は能く水分を引いて居りますから、之をお櫃の底に移し、釜に接した處は上に置いて早く頂く様にいたし、お櫃が空いた時は湯を入れて三十分許り置き、洗つて乾燥させ、長く水に浸して置かぬやうに注意致しますと、籠に入れませんでも、二晝夜位は決して腐敗する心配はございません。是は私が多年の經驗に依ることですから、試して御覽あそばせ。（賞）

茄子の御飯蒸し

福岡 せい子

茄子は斯うして頂くのが、一番旨しい様でございます、其は別に鍋で煮る手数もなく、只だ普通の御飯を炊き、其御飯が噴き出して出來上がる一寸前に、茄子を丸の儘、そつと載せて置きますと、御飯が出來上がる時分にけ柔かく煮えて居りますから、之を出して小口切に切つて、生醤油などで頂きます、飯の上で煮たのですから、柔らか飯粒はついて居りますが、なかなか旨しうございます。極く手軽に出來ますから、皆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樣もなすつて御覽遊ばせ。

葡萄餅

宇都宮　平井ひさ

砂糖を交ぜた餡を可成く小さく丸めて、米利堅粉なり、饂飩粉なりを盆の上に撒いて置いて、先に丸めた餡の團子を其上に轉がすと、白餅と餡に粉が着きます。其れを蒸籠に入れてざあつと蒸すと、着いた粉が衣に成つて、葡萄餅が出來ます、之を實物の葉の附いた莖に實が綴つてる樣に體裁よく菓子器に盛つて客に出せば中々面白い、奇妙な物です。

青物のはしり

東京　なでしこ

野菜物にせよ、果物にせよ、決してハシリを買ふではありません、まア例へば一本二錢の胡爪でも、一週間も經てば三本二錢位になりますのを、其ん珍らしいではありませんか、而も物のはしりは珍らしいばかりで決して成熟した時程の味はありません、些少の事ですが、一家の主婦たるものは此邊にも心を配られねばなりますまい。

簡易な肥料

安房　宮本白露子

皆樣のお家で牛乳をお取りなすつて、能く乳呑へおあげになつても、牛乳の壜には必ず少しづゝ殘るものですが、其を牛乳屋に直ぐお渡しにならないで、この空壜の中へ水を入れ、よく振つて盆栽や萬年青へおかけになると、中々よく利きます。

マッチを音のせぬ樣に摺る法

熊本　月見草

私の父は酒癖が惡くて、醉ふと少しの音にも目を覺して八釜しく申します。そこでマッチを摺るにも戰々兢々、何うしたら靜かに行くかと色々案じた末、マッチの頭を唾で濡らして摺りましたら、些とも音がしませんでした。

雨傘に文字を書く法

曾我　操

雨傘に文字を書きつけるには、硯の中に水を入れる代りに酢を入れて能く摺つて、其の墨液で書くのが一番です。この墨液は普通の布に用ひても、濕氣のある絹地に書いても、よく落付いて、決してにじんだり、散つたりする樣なことはありません。

鼠よけの妙藥

三重　藤田貞子

大切の器物や衣類の入れてある所は鼠がよく齧ゝものですが、之を防

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぐには其場所にナフタリンを少し買つて入れて置きますと、シミなどは無論つきませんし、鼠の溜らぬことは不思議な位です、衣類には少し香が移りますが、日に當てますと、直ぐ香がぬけます。

蚤の糞

福井　八木あい

皆様に仰山らしく申上げる程でもございませんが、此頃の様に蚊が出てお困りの時は、お茶の出殻を乾してお置きになると、蚊いぶしに妙です。それから最う一つは、着物に蚤の糞が着いたら、鹽でお洗ひになると、綺麗に落ちます。

炭の粉と玉子の殻

姫路　いと子

先月號の實驗欄に、炭の臭氣止、が出て居ましたが、あればかりでなく、炭の粉を戸棚の中に入れて置きますと、魚や肉が早く腐敗しませんし、壜の中の汚れを洗ふには玉子の殻を砕いて入れて、ゆすぎますと油氣の様なものでも見事に取れます。また瀬戸引鍋を洗ふのにも極く宜しうございます。

帯封と柳行李

松山　いそか

雑誌や新聞の帯封は蓄へて置いて、之で塵拂ひを作ると大層使ひ好うございます。又柳行李に書いてある墨字を除くには大根卸しを塗つて置いて、少らくして布で拭き取りますと、綺麗に取れて了ひます。

三つの試驗

石見　秀子

○黐の衣に着いたのは、大根の絞り汁で洗ふと直ぐ落ちます。
○魚肉の油ジミは菜葉で洗ふと直ぐとれます。
○麩を能く煎つて、細末にし、紙袋に入れて置いて　必要の場合に取出して水で解くと、直ぐ糊が出來ます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



和歌

佐々木信綱先生選

一等 ○ 下總 小出保子

秋の空ものによろこぶ少女子の瞳の如くすみわたりけり

評 秋晴の空を巧にも譬へられしかな

二等 ○ 美作 青山いま

やう〳〵に人妻といふ身になれてすが〳〵しうも初秋に入る

評 うら若き妻の初秋すがた、うつくしう思ひやられて

二等 ○ 東京 小島きぬ子

蟲ひとつ灯をめぐりゐてやむ母の御息かなしき五月雨の夜

評 五月雨の宵胸にしみ入るやうきこゆるなるべし。

三等 ○ 青森 工藤しげえ子

靜かなる夏のまひるの教會の窓うすあかくうばら花さく

評 とがりたる屋根、赤き建物なども見ゆるやうにて。

三等 ○ 岡山 廣岡しげを

あやめ咲くみ寺の濠に白露の靜にそちる初夏の朝

評 すが〳〵しき歌

三等 ○ 横濱 小豆澤しげ子

金絲雀は春の日あびて文をよむ君が窓べにやすらかになく

評 よめる書は新らしき詩集にやあらむ。はた外國の書にやあらむ

秀逸

○ 阿波 大久保八千代

朝顔の一つ〳〵に花小さくなりゆく日より悲しさ増しぬ

○ 群馬 板橋淺子

うなゐ等が螢狩する聲きゝて失せにしちごを又思ひ出ぬ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○　播磨　井上富子

五月雨のそゝぐ山邊の一つ家にわび住み給ふ母を思へば

評　都會に出でゝ人の家に仕へなどする人の子のよめるやうに思ひなされて

○　高崎　松島稲子

夕顔の花咲く家に灯ともして舟の人まつ鄙の夜島

評　此歌かつて一度見しやうの心地すれど、同じ作者にや。はた我がひがおぼえにや。

○　千葉　鈴木孝子

灰色に低う暮れ行く黃昏を南に向ふ白鳥のむれ

○　豐後　是永こま子

歌おもふ人にふさはし音もせず柔しう降る紫陽花の雨

評　一二句獨あらばや

○　堺　さくら

鐘なるや山の上なる夕雲は聖者の様に紅蓮のやうに

○　京都　大井光子

梅雨晴の後の暑さの堪へかたみか弱き郷里の母思はる

評　二三句原作後の暑さに堪へかねて

○　高崎　茂木美津子

魚市場いま運び行く大鮫の大き鱗に夕立のふる

○　東京　雨角とし子

月見草うなだれて咲く宵やみにゆあみしをればこほろぎのなく

評　自然なる中に味ひあり

佳作

○　[illegible]　桑井かた子

白濱を君と行く夢醒しるは[illegible]の波の追ふに似る聲

○　山城　中西白濱子

白雲の往來に晴や近からん[illegible]鳴く里の少女兒

○　石見　青柳芳子

[illegible]の[illegible]の夕戸によれば小雨そぼ降り[illegible]の花散る

○　長崎　竹下静子

ほのぼのと明けはなれゆく大ぞらの明星淡く風に消えゆく

○　芝　[illegible]

川添ひや清き月さし白がれのしづくする見ゆ夕顔の花

○　埼玉　[illegible]子

目ざむれば青田も見えず山もなし思へば遥し[illegible]ます里

○　香川　藤村すがゑ

炎たちし我手そとろにふるはれて亡き子を思ふ五月雨の日よ

○　大阪　[illegible]

[illegible]を思へど追へど貴かるなさきなむの遠ざかりゆく

○　小樽　あやめ女

ゆるやかの光を帯びて丘に立ち曠野のはての落日を見る

○　千葉　植木つた子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我妹子と母を思ひて語らしゝ夕月清き椽の庭

○ 肥後 まつ子

よそ人のうつりすむとはしりながらなほのぞき見るなつかしの家

○ 下総 岩瀬不二野

あやめ散る白あやめ散るあやめ散る清き水ゆき風吹きくれば

○ 福井 伊藤 [illegible]子

笠とればゆく雲白う花粉にゆるうらもわたる午すぎの風

○ 神戸 松下 眞子

その後な如何にと君よ問ひますな三年の今もうらぶれのわれ

○ 東京 金井 [illegible]子

親かる友は眠れり白ばらの花に笑顔の亡き身うづめて

○ 福井 [illegible]場英世女

花ふゞきすさぶ夕なよそにして讀經しづけき春の山寺

○ 京都 たづ子

打しめりあやめぞかほる杜鵑鳴くやさつきの夕月にして

○ 東京 文 子

春のゆく古里の山青葉してさやかに我をむかへかほなる

○ 東京 國分 [illegible]子

みそ萩の花さく頃を故郷の風鈴そよぐ軒ぞこひしき

○ 牛込 [illegible]子

時めける若人に似て美しく葉がくれに笑む柘榴の花よ

○ 四谷 [illegible]田 [illegible]子

[illegible]みたくとなりのけむり[illegible]さもの若葉をこめぬ初夏の宵

○ 札幌 ふ み

ほとゝぎす若葉すゞしきかげにして君をまつ間の夕月夜かな

○ 横須賀 小夜子

湯煙の風に亂れて咽せ返る中を西行き東ゆく我

○ 大和 静 子

幼子の立ち初むるにも似たるかな垣根にはへる朝顔の花

○ 宮城 鈴木ちぎく

よしなくもこゝろは春に別れきてほどもへざるに君と別るゝ

○ 本郷 壬生 むめ

飴賣りのはやしに暑さいやましぬ片側町のひる下る頃

○ 美作 村上敏子

星の影冷たき水にそめいでゝ山の湖わびしく暮れぬ

○ 麻布 照 子

あけぼのゝ大野にたゞよふ草の香に南の國のふるさとを戀ふ

○ 摂津 和久かつ子

紅躑躅ゆらめくみえてさみどり窓に吹き入る青嵐かな

○ 三河 三浦なか子

河面に立てる小波しばらくもまどへる我をなぐさめなくに

○ 東京 玉 露

薔薇賣る少女の姿[illegible]にほの白う見ゆ明方の町

○ 横濱 隅枝夫美子

紫陽花の花咲く庭の梅雨の日に君が姿を忘れかねつゝも

○ 北海道 酒井 ひさ

たのみにし人さへ今はつらかりき誰にかたりてながむこの身ぞ

○ 横濱 櫻井朝子

青葉若葉はひねもす夜もすがら深き思ひのわが胸に似る

○ 函館 岡田 [illegible]子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

離れたる鰕夷が島根は美るはしや初夏頃を鈴蘭の咲く

○　麹町　牧野はん子

歸り來て見れば葉柳しづくして月夜蟋蟀淋しさに鳴く

○　熊本　しぐれ子

彩りし夕燒の雲眺めつゝ低き聲にて詩などを誦す

○　相州　中田雪子

富士のみをうづみのこしてよはなべて綠りしたゝる初夏の山

○　淡路　國分光枝

雨あがり露にぬれたる初夏の森より海に虹あらはれぬ

○　韓國　末つむ花

かしこしや帝ましけむ大殿の春のおばしま花の雪降る

○　兵庫　ふみ子

うちよする磯邊の松に涼しさをたゝみかさぬる八重の汐風

○　大阪　小野秀子

いたつきの室の軒ばにしみ〳〵と音なふ時雨おとぞさびしき

○　三河　はる子

五月雨の今日も暮れ行くおばしまに物思ひ居ればほとゝぎすなく

○　東京　櫻あさ子

たゞ眉の美しかりし君とのみ村をはなれし綠柳の宿

○　京橋　毛利まつ子

世の悔の憂をしらず若き子は桃色絹に物を思へる

○　小石川　土屋喜美子

都人來ませ此頃山風はひる夜わかずほとゝぎすなく

○　四谷　戸田道子

夕闇の小暗き中に油繪の浮き出しごとき紫陽の花

○　宮城　太田やう子

暗がりにかけ遊ぶ子や二廿月彌うさす戸を蝙蝠のとぶ

○　美作　性全みれ代

逝く春の若葉にそゝぐ雨の夜のすさびに淡き死など思ひぬ

○　熊本　白萩

大らかに日に向ひつゝ野踏みて深く呼吸する初夏の朝

○　下關　松山瀧子

いく度となくたへがたき悲しみを繰り返す如水車めぐりぬ

○　香川　山地とく

まぐさかる荒野の中の一つ松わがたつあとは誰がいこふらん

○　安房　五月女

わが妹の赤き帶干す庭陰の清水に風の薫れるがよし

○　新潟　西野春江

露ふくむ草にふるればみ涙のこぼるゝに似てさびしかりけり

○　新潟　櫻井きく子

病める母がしばしが夢の枕邊に夕日は長き影を落しぬ

○　岡山　紫陽女

まろ〳〵とまろぶ葡萄の碧瑠璃をありし日思ひ掌に愛づ

○　宮城　加藤篤子

いその宿しらべやさしき琴の音の松原遠く漂れ行くかな

○　仙臺　南琴代

日の出前朝霧はるゝ山の峡白百合の香の淡くたゞよふ

○　宮城　村山すみゑ

醒り際の夢は破れてほとゝぎす白き敷布に涙そゝぎぬ

○　小石川　川岸てる子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋晴や麗き日うけて飛行機の花野の空の雲に入る見ゆ

○　大阪　紫　花

亡き母に面かげ似ればゆきずりの名知らぬ人もなつかしきかな

○　下谷　伊東百合子

時折に友のいひける言葉など思ひ出でつゝ針運ばせぬ

○　東京　金子みれ

病人のたゆるひまなきわが家のにはは小さしほゝづきの花

○　丹波　齋藤一枝

雲のあなた彩衣召せる舞姫の裳の裾はそよ風となる

○　群馬　林きみ子

みやこにはかゝるながめのなからまし田毎々々の月のさやけさ

○　君代　富子

ちやるめらのひゞきに胸を躍らせしいとけなき身を懐しき哉

○　千葉　加瀬紀久子

影うつる池のあやめにかさなりぬ長きみ袖のむらさきのかげ

○　豊後　熊谷ゆき子

かゝる日はこの夕潮の岸に立ちのどかに君ら歌ひてあらむ

○　美作　田鶴子

われ終に妻とよばれて母となりぬ都のそらに憧憬れつゝも

○　東京　雅子

さみどりに揺うごきてうす月の入江にかゝる宵の村かな

○　大和　操子

美しき都言葉に語りつゝ踊る人見て涙する我

○　大阪　四角けい子

折々に涙ぬぐひてしめやかに物語りする夜のしづけさ

○　伊豫　水野時枝

美しき衣縫ひ給ふ姉君の御目のほとりかゞやきみちぬ

○　四坂島　渡邊條子

さく花の一つ一つがうつくしき乙女に化しぬ白蓮月夜

○　北海道　筧のしづく

父逝きて母まで病むと聞きし朝あめの山路を越ゆる悲しみ

○　久留米　野瀬冬子

賤の女のとき洗衣五月雨にほすひまもなしくちはつるまで

○　埼玉　近藤ふぢ子

白百合の薫りに酔ひてそと立てば青田を渡り夕風ぞふく

○　越後　時雨女

清水湧く松の木蔭の涼しさに登山の行者今日も憩ひつ

○　府下　砂金ふく子

月たかしうばら花さく竹垣根夜干の衣に川風ぞふく

○　千葉　高橋まん

せゝらぎの音かすかなる岸に立ちて君まつ宵の月草の花

○　釜山　米原英子

病める子は母のひざの上にねむりけり愛の雫を胸に植ゑつゝ

○　東京　松子

青嵐窓に吹けば端近き蚊遣のけぶり白う流るゝ

○　下關　瓦木みす子

何となう胸やすからぬあしたかな母の病みぬと旅に夢見て

○　小石川　房子

初夏や土の香にほふ朝の庭にいとしご抱いて蝶をおふかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



書簡文

櫻島より

鹿兒島 ゆかり

みどり樣、月影の涼しい時節になりましたれ。私、今、散歩から歸つて見ますと、靜な漁村は、もうすつかり眠つてゐます。私は、月の夜の濱邊の散歩が大好きなので、今夜も一人で心ゆくまで逍遙しましたの、例の「磯の灯」綴りて夏くる夜中に、岩打つ波音、ひとり高しかゝれる苫舟人はれたり、誰にか語らむ「旅のころ」つてのを口吟みながら……私は天國にでも昇つた樣な氣になりましたわ、そしてれ、あの三年前エツキスカーションで此地に參りました時、百合枝樣と三人で、お辨當喰べた彼の大きい岩れ、――ほゝ波打際の――あそこに腰を卸してちら〳〵する鹿兒島市中の灯を眺めながら瞑想に耽りましたの、すると、遠い岬の方からかすかに尺八の音、耳を澄まして聞いてゐますと、それがまた貴嬢のお好な追分!、ほんとに涙ぐまれるほど嬉しうございました、みどり樣も屹度この月夜にあのお離れで ムーンライトか何か彈いてゐらつしやるだらうと思ひます、どうぞお手紙を下さいましなお待ち申しております。さやうなら。(壹等)

山と海

駿河 若葉

海の友より

私は今、清見潟に來て居ります、夏は海に限りますすれ、涼しくつて空氣がよく、そして魚が鮮しいですもの。私はこの頃毎朝旭がきら〳〵と出る時分波打際を徜徉ひますよ、その時の心持は譬へやうもありません夕の海も詩的ですれ、あなたも入らつしやい。宿は一碧樓よ。

山の友より

お手紙ありがたう。あなたは興津にいらつしやるとの事、お羨ましく思ひます、波打際の御逍遙は嘸かし愉快な事でございませう。けれど山里の夏の生活も亦た別種の趣がありますよ、朝早く露を分けて裏の小山へ登り、山百合の香を嗅ぎながら、朝日の昇る景色を眺めますのはほんとうに好い心持ですよ、私は夕顔棚の下涼み、誠に暢氣なものです、あなた山里の夏も詩趣が溢れてゐますよ。お閑の時にはちと此方へもいらつしやい。(貳等)

不運を訴ふ

京都 京子

昨日は色々と田舍者には耳新しき花の都の便り御聞せ下され、ありがたく暫し我をも忘れて讀入り候。御前樣には次第に都馴れ給ひてのマダム振り、何共御羨やましき限りに候。御幸福なるに引かへて一人田舍に取殘されし私淋しきにつけても身の境遇を託つ事のみ彌勝りて、涙の中に日を送り居り候。さるを悲しき上にも悲しき事の重なるもの哉。此迄は何事も御相談申上げて御心配をかけ、その都度御力盡し被下候甲斐もなう、いよ〳〵此度は覺悟を極めればならぬ羽目と相成り候、御承知に、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

でも候はんが、先日の新紙に在外社會家の關係者としての中には宅の名前も見出し候、今は何の御談も出來候べき、御兄弟の事業の為め身を犠牲としていよ〳〵離別と決心致し候、あゝ、私程不幸な者の又と有之べきや、今は只だ未來の光明を差見つゝ、遊びし昔の戀しく候、また〳〵申上度事盡きず候へども餘りの嬉しさに思ふ十分の一も書け申さず候まゝ、追々と御相談も願上度と居存候、何卒草深き古里に不孝に泣く妹あるをお忘れなき様に祈り上候、かしこ。(秀逸)

麓野より

鎌倉 橋本登代子

月見草の黄く開に咲きて、小さき螢飛ぶ麓野の夜を遠く〳〵兄と私とは逍り申候。都の方にありては、蚊群る大に、夏の夜の可笑しさなど打ち興じ紛ひ居ることに候なるべし。されど私が彷ひ行く林間の路は樂波る風も爽やかに、山の端に薄月淡く眠りて、螢する身にはあはれ侘びしき詩境にて候。夏童にても候ほど麗はしき螢光も舞り、可憐なる常夏の花も咲き亂れ居るべく候はんも、夜のことゝて、物哀れなる蟲の諧調の外に、遠山の暮子ほのかに見ゆるのみにて候。

小端の音ばかりなる架橋を渡り、寂し氣に垂る木草の畔に就き、兄が持つ提灯の光を頼りて、谷を越え、丘を越え、更に松の木多き峠を上り果てたる時、私はちらと一つ、二つ、星とも紛ふ赤き灯を見て驚喜いたし候。おな懐かしき赤き灯よ。二人は直に我が家をめがけて走り出し申候(秀逸)

ハーモニカの音を聞きて

東京 幸子

葉さん！ 私は今橋の上に立つてゐます。岸に繋いだ舟は月影を浴びて蒼白く、汀の柳は黒い影を水に映してゐます。おゝ涼しい風ですこと！ 何處からともなくハーモニカの音が聞えます。誰のすさびか玉を轉す様な節の音は餘音嫋々として水の面を流れて行きます。私はふと、卒業式のすむだ翌日、鎌倉に旅行した時の夕を思出しました。星輝く鎌倉の夜、旅の宿の欄干に靠れた葉さんが、大塔の宮をお吹きになつた、あのハーモニカの音、よかつたわねえ。私は懐舊の涙を誘へて聞き惚れました。葉さん！ あれつきりもう逢はれなくなつて了つたのね。月清き今宵、鎌波源ふ龍ヶ浦曲に、白いお浴衣の袖翻して、お好きな笛に波の音と調べ合せていらつしやるんではないでせうか。あゝもう一度葉さんの笛が聞きたいわね。(秀逸)

秋さんへ

長崎 田中得子

秋さん、お手紙も夢二畫集、確に受取りました。「お情すぎて情ない」とは此事で御座りませう。私がまだ二十歳の身で潮の香高き一漁村の小學女教員となつた理由を貴孃は能く御存じでせう。あの晩秋さんは同情の涙もて紫矢絣の袂を濕されたでありませんか。それに若き人の血汐を沸騰せしめる夢二の畫を見て如何して土臭い鼻垂相手に冷かな女教員生活が送られませう。日曜の朝、校舍の裏の椎の木の蔭で初夏の大氣を吸ふてゐました時、小使から手紙と此畫集を受取りましたが、畫集の一頁毎に私は古傷を抉られる様な思ひが致しました。其の古傷から若しや血が出たら、それは真紅な熱い血ではなく、ドス黒い冷やかな血であらうと思ひます、秋さん、願きもの症が只絆ぶは、あまりに罪が深う御座りますよ。(秀逸)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もと召使ひし女の養子を迎へると聞きて

東京　深田さくら

承れば其許には此度いよ〳〵新屋の久さんをお迎への事とお定まりなされ候由、母御には定めし〳〵御安心なされし事と存じ候、當方にても一同久さんならば、其許のため、家の爲め至極結構な事と嬉しう御祝ひ申候、日頃控へ目勝ちの御許の事故、充分御承知の事とは存じ候へども、兎角家つきの嫁と申す者は、夫を座布團同樣尻に敷いて、威張る人多き樣に見受けられ、またさらでもあたりの人があれは家付きの嫁故と何かにつけて言ひ度がる者に候へば、此邊は篤と御考への上充分妻としての任務を怠らぬ樣頼み入り候、扨て甚だ粗末ながら御祝ひの印迄に白絽一反小包にて差出し候まゝ御受納下され度、來るお盆には御夫婦御同道にて御出での程待ち入り候、目出度可祝。

南米のペトローサルへ

越後　北岡倭文子

貴樣、私は今思ひ出多い貴島樣の、緣の菜園に立つて居ります。數へれば十餘年の昔になりますれ、貴樣が五つ私が四つ、二人が此庭に筵を敷いて飯事して居ましたのは、ふと枝につるした、赤い實が旨さうだと言つて、辛いとは露知らず半分づゝ食べた時は苦しかつたわれ、大事に隣近所を騷ぜましたつけれ、私あの辛さなら艱難でも嘗めて見度いと、思ひますよ、御別れしてから二年、永い月日でしたれ、あともう一年、思ひますよ、毎日この木蔭に立つて!!!、あゝ南米の樫樹の蔭に、今君は、何を思つて被居るでせう。アマゾンの河畔、見渡す限り、十方風の薫句ふ御國に、私の爲めに働いて被居る御姿を、校の休みに此庭に來て、偲ばぬ日とてはありません。御身體を御大事にして頂戴ー。

海邊より

牛込　平塚白百合

此頃は朝晝二回づゝ海に這入りますの、何の位お泳ぐかと仰有るのですか、左樣掛値なしの所二間位ですわ。兄は口が惡くつて、露ちやんのは、まるで猫が水に落とされた樣だな——ですつて、そりや兄の樣に遊泳部のチャンではございませんもの、河童のお仲間入りは出來ませんわと言つてやりました、くやしいから迯れ、ハヽヽヽヽすると兄はどうだい、それだけ泳げるなら兄樣が手を引いて沖の見物でもさせやうかですつて、まさか浦島ではございますまいし、兄樣の龜ぢや眞平ですわホヽヽヽでも、御蔭で隨分黑くなりましたわ。

そして貝も澤山たまりましたの。毎朝まだ人足のついてない頃、深呼吸しに行つて拾つて來るのです、それは美しいのがありますのよ。貴孃もお手すきになりましたら早くゐらしやいましな。なるべく早くれ。千鶴さんもつれてれ。妹なんかもう首を長くしてゐますのよ。お叔母樣によろしく。では此度れ、さやうなら。

家庭の情況を里の母に

大和　靜子

母樣、案じたよりは家政も六ケ敷くはありません、晝は二人共留守ですが、夕方歸宅して入浴しますと、春やと三人樂しく夕食を濟まして、面白い夫のお話し、其が終ると伴れ立つて川原へ散歩に參ります、それから私の琴に夫の尺八合奏、何ないつても姑や小姑はなし、ほんの水入ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ず、ですからね、それは〳〵樂しく賑やかな生活を致して居ります、近所の人は屹度氣狂だと思つて居るでせう。春やもね、いつも奥様は優しくして下さるつて大喜びなの、今に初孫の可愛い顔でもお目にかけますわ。先は御體御大切に、さやうなら。

歸郷中友の許に

露子

去る十三日馬關出發、十五日無事國安村に着き申候、十有餘年見ざりしなつかしの故郷、かの城山の見えし時は思はず大聲にて車夫の手前も恥ぢず母を呼び、驅け申候。瓦町に入り候時は昔ながらの家並、他國の人の見給はゞ田舍じみたと厭に思召し給ふならんも、私には昔を偲ぶよすがと嬉しく存じ申候、然し總て前世紀式には少々驚かされ申候、交通機關の不備の地は哀れなものと存じ候、共に學び共に遊びし昔の懷しく候て態々御家の在りし跡尋ね候處、共に樂しく語りつゝ味ひし枇杷も柿も柚子も昔の儘に候へども、見知らぬ人の影見え候には物足らぬ心地いたし候。柿よ枇杷よ我を知れるかと問ひ候へども何の答もなきまゝ、後見返りつゝ歸り申候、委しくは後の便りに、かしこ。

兩親へ

愛知　佐東貴久

麥秋の忙しさについ御無沙汰、まげてお許し下されたく候。只今も麥打の疲れを湯に入りなり候に、柿の暗い梢に細い日のかゝり候を見ては急に在所が戀しくなり申候。妹も弟も健かにてか、父上の畑は花咲き候や、春蠶の成績は如何に、夏蠶の掃立は何日頃、何枚程、承り度候日増に暑さを加へ候につき、御老體お厭され度、あなかしこ。

夢便り

山梨　小百合

お懷かしい姉様が夢に現はれて、いろんな事をなさるんですもの、私は慌てゝ寢床から跳ね起き、そして直ぐに此手紙を書く氣になつたの、夢は何處か温泉場の樣な處、姉様と私と二人で行つてたのよ、すると急に姉様のお姿が見えなくなつたので、私は氣が氣でなく、女中に問へば何か用事がおあり遊ばしてと言ひますの。

草深い細道を露踏んで花踏んで、スタ〳〵歩いて行くのは姉様、私は「姉様」つて狂氣の樣に叫びながら追駈けるのに、姉様は後も振向かない袖を頭に押當てゝ急ぎ足、いつか瀬際に懷しいお姿はかくれて了ひ、山の麓の流れの岸に私は只一人寂しく立つて居ました。目が覺めて氣になつて堪まりませんの、姉様御變りはありませんか、何卒直ぐ御返事をね、御葉書でも宜しうございますからね、待つて居ますよ。

宮仕へせる友へ

牛込　輝子

光子様寂しいわー。五月雨降る日窓に倚つてぢつと色移り行く紫陽花の花を眺めて居ると、何となしに耐らなく戀しくなつて、冷たい涙が知らず〳〵頰に傳ふて來ますの。

何故、と訊かれても、自分ながら分らないのですもの、あゝ……私どうして、こんなに氣が弱くなつたのでせうね、こんな時に、あなたと語り合ふ事が出來たなら、どんなに嬉しいでせう、逢ひ度いわ光子さん、そして心の限り泣いて〳〵涙の乾くまで泣き度いわ。でもそれは迚も、叶はぬ望、あなたは一と世界離れし雲上人、容易くはお目に掛れないのね

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

どうしませう。あゝ、私嬉しいわ。

結婚せし友へ

三重 櫻

お懐かしいますゑ様、昨日はお美しい御氷室の姿頂きまして有難う。幾度も拝見致しました。あなたとう／＼御両親のお勧めに從ひ遊ばして若葉の薫る卯月中旬に御結婚なさいましたつてね、私も今少し近くに居れば、それこそ早速飛んで行つて、花のお姿の榮ある首途にしみ／＼とお別れの言の葉、はた又お祝ひの辭も親しく申上ぐる筈でしたものを、深山百里の餘も離れてゐる身は思ふに任せません。只だ／＼あなたが理想通りの家庭を造られて美しい新婚の夢の何時迄も覺めないやうに、そしてあなたの健康を祈り上げます、日頃お優しい君の折にはお忘れなう願のお便りれ、どうか御良人様によろしく、お傳へ下さいませ。

なつかしき友に

旭川 敏枝子

香代子様、御變り御座いませんか。懐しいホームを造られてから早や一ヶ月、朝風涼しき丸窓に物靜かに、日比谷の大神宮の夜を偲び玉ふ。赤い手柄のマダム姿は、嘸ぞお美しい事で御座いませう。ホヽヽヽあのマガレツトに五吋もあるリボンかけて、往來を濶歩なされた頃と今とのコントラストはどんなでせう、拝見致したうございます。どうぞ御寫眞一葉御贈り下さい。

現今の私は、艶氣もなく塞みもない田舍娘、優美を誇つた肩に鍬を擔いで、鉛筆持つた手で、泥いぢり。でも時々は都戀しと思はぬでもありません。どうぞ御便りを。

都の友に

名古屋 千石梅子

英子様、此頃はどうしていらつしやいますの。私は極めて呑氣に暮して居ります。今ではもう昔の虚榮も何も忘れて了つて、毎日朝から晩迄裏の百姓のお爺さんから「儂が若い時はのうの」百萬遍を聞かされながら、一日呑氣にお針してますよ。都會生活なんて、しみ／＼いやなものだと悟りました、今の私に取つては今住んで居る御器所村が一番の仙郷ですよ。私はいつまでも此村を離れません、一生御器所村を私の故郷とするつもりですの、英子様お笑ひ遊ばすな。私はもう全然田舍乙女と變りましたよ、こんな田舍者になつてもいつまでも昔のまゝの親友と思召して御暇の節は御玉章下さいましれ、さらば御身御大事に皆様によろしく。さやうなら。

都の兄様に參らす

千葉 山口秋子

兄様の此度の御失敗は只々御病氣の爲めと、殘念乍ら諦らめ居りしにかく／＼の始末と御歸郷中の一郎様から伺ひました時は、夢かとばかり人目も恥ぢず泣きました。御察し下さい、誰に着せるでは御座いませんが、何事も心に忍び乍ら只御成業の日を樂しみに骨身惜まず母様と二人で働いて、御送り申上げた、お金を底知れぬ酒氣の中に投げ込まれ、仇し花を手折る料に捨てられ様とは、神ならぬ身の今まで知らなかつたので御座います。嗚呼兄様よ、御心が狂つたのですか、惡魔に誘はれたので御座いますか。ちと私共の氣にもなつて下さいまし。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



日記文

裁縫日記

伊豫　芳子

私は何故かうも無細工なのであらうか、同じ女學校出でも、里の妹なんかは、尤も年中裁縫ばかりして居るけれ共、それは〳〵よく縫ふて、一般の賞め者である、出來ばへも實に見事なものだのに、姉ながら私はいつも〳〵滿足に縫へた事はなく、どこか申し分ばかり、一度だつて氣に入つた事はない、自分でさへかうだもの、お姑樣が始終お小言を言はれるのも無理はない、之でよく學校に居た時八十點より下らなかつたものだけれ共姑樣も姑樣だ、私にぢき〳〵に此處がかうだと言ふて下されば、どんなにうれしいか知れないに、何時も良人にばかりいやみをおつしやるから、その度に非常に良人のお氣を惡くする、あゝ……、なさけないどうにかして最少し上達したい、（一等）

長い一日

日本橋　壽枝

蟲々と響く汽車の音に夢破れてパチと目を開けば、今迄在りし友は影もなく、淋しき朝風の身に沁み渡る、親しく語り合ひし、聲音は、尙耳に殘りて夢共覺えず、暫し愿ひに沈む、枕時計は五時を報じぬ、靜かに起き上り重き頭押えて勝手へ行く、「母上は今朝は如何？又夢見たの」と笑ひ給ふ、婆やも傍から「お釜がふきましたから今日は誰方か東京から入らつしやいますよ」と慰めて吳れる、聞き流して畑へ出て豆の莖をまいたり、小蟲を取つたり、鷄に水を吳れたり、あゝこんな單純な日課をもう三月も繰り返して居るのか、一體いつになつたら醫者は東京へ歸るのを許すのでせう、午後は床の上で淋しい悲しい長い日を過した、

（二等）

走馬燈日記

東京　なでしこ

連日の雨やつと晴れてけふは實に心持がよい、早速洗濯にとりかゝるまあ水道の綱いこと、細いこと、鼠の尾ほどしか出ない、じれつたき思して漸く洗つた、晝飯後初めて自分で梅をつける、梅一升に鹽何合だつたか内證でブツクを見てゐる所を、夫に見つけられて笑はれた、夜は友人を見送りのため新橋ステーションへ行つた、構内はもう夏帽涼しき青年の方々でうめられてゐる、見送る人も送らるゝ人も皆滿腔の笑があふれていそ〳〵としてゐる、歸りには銀座通りをさまよつて居たが、ふと走馬燈が目についた時、覺えずあるものにおそはれた樣な氣がした、あゝ、私もかくして有耶無耶と廿年の前半期を過ぎ去つたのかと思ふたら急に淋しうなつた、（三等）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

安産のお守り

麹町　野　菊

「今日の五日は丁度戌の日だから、ぜひ御貴の安産の御札を頂いて來やう」と先日から仰有つて入らして、今朝は早くから水天宮様に御參詣、御歸りも御晝すぎ、丁度早退の夫と同じ時だつた。「よく御願ひして受けて來たのだから有難いのだよ」とて少さい御供を下すつた、實家に居る頃なら「馬鹿らしいわ」と一言にけなしたものだが、今は御姑様の私ない御志と、一つは初産の身の不安で。何でも頼みなるものにもすがりたいといふあはれな心から、「どうぞよい子を安々と産みます様に」と御祈りして直ぐ、御姑様も「あゝそれでよい……」と満足かうなづいて御出になる、ソツト夫の方を見ると、だまつてたゞ笑つて居られる、（秀逸）

夏

東京　若　紫

五時半起床、今日も又暑くなりさうなお天氣だ、朝御飯の前に庭に出て見る、二三日見なかつた間にコスモスが私より高くなつた、未だ一寸位の時に目つけたほうづきに、只一つ青い少さな實がなつた、垣根の朝顔が、白が四ツしぼりが十一、紫が七ツ咲いた、後で皆に話したら閑人は違つたものだれと笑はれた、でも胡瓜の花は數へなかつたの？つて兄様が云ふ、午後ほどき物をする、夕方入浴後お隣に行つて敏子さんと加留多する、蚊に食はれるのも知らず夢中で十時迄やつた、家へ歸つて見たら手と足がブツ〳〵眞つ赤になつて居た、十時半就眠、（秀逸）

青葉日記

熊本　白　萩

庭に面した八疊に、裁板を持ち出して、お仕事を初める、そよ〳〵と青葉を渡る涼風に、ともすれば薄もの丶上布を吹きまくられるので、物尺で押さへながら箆を附ける、やがて母様が被來した、二人で縫ひはじめる、母様は種々と昔、昔と云つてもまだ母様のお若かつた頃のお話をして下さる、私達が若かつた頃はれ、お羽織には黒襦子に刺繍をした衿をかけたよ、それから又着物の振りには、派手な色の片でへりを取つて、それは〳〵綺麗なもの、そして襞を桃割に結つて赤いかざりをかけ、道成衣裝を着た娘なんか花の様だつたよ。と母様はさも懐舊の情に堪へぬらしう被仰る、私はよく繪に見る濃い華やかな元祿時代の女を思ひ浮べた、（秀逸）

ワツフルを燒く

長野　淺　輪　久　子

今日は、もうカステーラも、紅梅燒も皆退治してしまつて、何もないので、私は此間伯母様に教はつた、ワツフルを試に製へて見る事にした、早速白前掛かひく〳〵しく、かほるを相手に臺所に立出て、火をおこすやら、膨らかし粉がないので、かほるを取りにやるやら、ひつくり返る様な騒ぎして、やつと違つたどんなかと、味を見ると、案外美味しく出來たので、思はず得意の笑が顔に溢れる、まア母様にお目にかけやうと、皿に盛つて持つて行くと、「おやもう出來ましたの、大變早く、これなら不意にお客様が見えても、まごつかなくてすみますれ」つて笑つてゐら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しつた、それから、お隣家の坊つちやんに少し差上げ様と思つて、かほるに持たせて上げたら美しい硝盃子を澤山頂いて來た、

思出の記

大阪 青木織枝

あゝ今日も亦雨、ほんとにいやになつてしまう、かういう時にはいつも縁側の柱にすがつて、なつかしい〳〵福知山を思ふのが私の癖である一體私の生れは東都の麻布で、丹波は第二の故郷、そこへ私が行たのわ十四の年の師走の、しかもおしつまつた廿八日だつた、行つて見れば思つた程の蕃國でもなく、昔噺に聞いた様な鬼もをらぬ、三丹第一の都會であつた、今私は煙の都で紙より薄い人情を悲しんでゐるが、照様、米様はどうしてゐらつしやるだらう、其結婚遊したきりそよとのおたよりもない、小松様や、東都に御遊學とやら風のたよりに耳にした辻子様は御壯健かしら、

現像室

相模 石田則子

戸棚兼帯の暗室だから、狭くつて暑苦しい、おまけに蚊が舟幽靈の様な悲しげな聲を出して、襟元をさして痒くてたまらない、だが今が繪の浮き出て來る肝心な時だから、そんな事にはかまつて居られない、一生懸命にバットをゆり動かし、時々裏を返して出來加減を見る、先日京子様からの御寫眞の裏に、「之は私の學校の運動場、ローマ、マガレットの花盛り」と書いてあつたが大に癪だつたから、一つ皮肉に「どうせ田舎はこんなものに候」と書かうと腹案する、もう良い様だ、ざぶ〳〵と洗つてハイポーの中につき込んで飛び出す、

ほつと息をつく、あら大變々々、おろしたての白地に現像液の黄ろいしみをこしらへてしまつた、母様に叱られぬ様に、そつと湯殿に洗ひに行く、

娘の日記

東京 しづ江

今日も雨、いつも乍らじめ〳〵して氣持が悪るい、十時頃軍醫學校へ行く、何だか勝手が解らないので考へて居ると、軍人らしい白飛白が、「貴女外科ですか、それではその札を外科室へ置いてゐらつしやい、藥は後で處方を呉れますからその窓からお出しなさい」と親切に敎へて下さつた、

待てども〳〵中々番が來ない、たまり兼ねた大あくび袖で顔かくした時、扉が明いて、「内田さん」、藥壜を藥室の窓へ出して待つこと一時間、もう疾つくにお晝は過ぎた、

家に歸つたのが二時、「どうも御苦勞だつたね」と母様に云はれてくたびれも忘れたが……あの軍人らしい人の親切は忘られぬ、その面影も

小園日記

駿河 若葉

一日、葵がもう盛をすぎて、梢に小さき花が二つ三つ殘つてゐる許り、紫陽花は眞盛である、艶麗な花ではないが、何處となく俳趣があつて捨て難い、朝顔の垣をつくる、夕顔のも、二日、天笠牡丹が美しい、變種に面白いのが出來た、一重で眞中から薄赤く暈けてゐる、兄様は薄月

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花と名をつけられた、なじき草を鉢へ植ゑる、山百合の蕾が大きくなつた、三日、晝、松葉菊が可愛らしい、眞赤な日傘を挿してゐるやう、この花は貝細工と同じやうに雨天又は曇天には凋んでゐる、誰が自然に臭を厭ふ事を敎へたのであらう、

父が手作の胡瓜十ばかりとる、假令細くとも味は格別である、畑へ播きもしないのに西瓜が一本生えた、父がとらうといふのを母がとめても う餘程大きくなつた、始めて蟋蟀がなく、

水無月日記

麻布　百合香

雨も降らず、時々は陽もあたつて心地よい、一聯隊の裏の坂を通つたら、電信柱に白墨で大きく、「空中の賊は飛行器に乘つて、此東京を荒すべし」と落書してある、惡太郎か小僧の悪戲だらう、東京を荒すでは變だが、海賊陸賊に對して、空中の賊も面白い、珍らしい落書と思ふ、籠の目白が止り木から止り木に移る忙しさ、時計のセコンドより僅か遲い位、さぞお腹が空く事だらう、お父樣と霞町の縁日に行つて見る、露滴る翠緑の盆栽類は男に、赤、黄、紫色とりどりに美しい草花は女や子供に喜ばれて、植木屋の前は人だかりが多い、莖の白い藤色の小さい花の可愛いゝ珍らしい高山植物、名は忘れたが五十錢のを、鉢無し十二錢にませて、求めて歸る、植木棚の下に置いたら、草葉に眠る胡蝶の夢破つた白いのが、ひらひらと舞ひ上つた、

訪問日記

牛込　輝子

品間から仕掛けて居。た單衣も出來上つたし、あまり久しく御無沙汰をして居るので、午後から雪子さんのお宅へ行く、綠滴らん許りの江戸川邊の楓の木蔭を通つて、雪子さんの所のお玄關まで來ると、赤さんの泣聲がするおやお客樣か知らと、ためらつて居ると、「アラ輝子さんぢやないの？」と、云はれるので、振り向くと、雪子さんが哺乳器を持つてニコニコ笑ひながら立つてお出になる、お髮はいつお上げになつたか後れ毛だらけ、これが今迄只の一と筋でも、毛の落ちて居るのが嫌ひだつた方とはどうしても思はれない、まるで別人のやう、女も子供が出來るとあゝも自分の身をかまはなくなるのかと思つたら、つくづく情けなくなつた、

朝顔豫撰會

牧藤　恒子

七月二日、土曜日、朝顏品評會も愈々近くなつて來たので、明日の日曜を幸ひに、豫撰會を催さうと、母樣に相談して、妾は十時頃から案内狀を十三通認めて、夫々持たせて上げた、三日、日曜日、星一つ東天紅の五時前、飛び起きて見れば、咲けき匂ふ百餘鉢の美事さ、純白、絞り丸咲、切咲、撫子咲等を、順序頁く室内へ列べて、皆樣のお越しを待つ、

六時頃からそろそろお越しになつて、あれよこれよと品定の結果、黃性林風葉、梅絲大牡丹咲（今朝咲いたのは花徑四寸三分花瓣の數九十八瓣を備ふ）外四種を出品する事に定つた、皆樣へ紅茶と、內で採れた蜂蜜を、添へて、フライライスをお進めしてから、豫撰せられた五鉢と、昨年一等賞の共樂牡丹とを庭先へ持ち出し、皆樣を背景としてピントへ收めた、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



絽の丸帯

攝津　たきの

嫁つた姉様が來て、又何んか母様におねだりをしてゐる、そこへ私が邪魔をしたので、姉様はさも情けなさそうに、「だつて白絽のまる帯位ゐなくつちや仕方がありませんよ」、

母様はもう還暦の御祝ひも眼前、其上此頃は以前よりも大層お弱りになつたのに、こんな事で始終御心を痛まして居らつしやる、

「母様、私は何にもいりませんから、姉様に仕て上げて下さい」と云つたら、母様は「だつてこの前もおまへの帯にと買つて置くと、それももつてかへつたんだもの、ほんとに六つにもなる子を持つて居て、今少しはわかりさうなものだに」とお眼にはあやしい露が宿つて居た、あゝほんとに母様は御氣の毒だ、（一等）

登山歸り

本郷　小谷彌生

彼の人達は到々馬の御厄介に成つてしまつた、日頃健脚家を以て自任してゐる私の得意さ、魚砂を蹴つて走りの道をひた走つた、馬の道はZ字形、走りの道は一直線、見る間に遠く隔つて、馬子の鄙歌も馬の嘶きもかすかに薄れて消えて行く、太郎坊に鳥渡休み、馬返しは素通りにしてなつかしい裾野に出た、家づとにと昨日契つて行つた美しい花の數々を、思ふ存分摘んで、手に餘つたのは着て居た蓆に包んで背に……

淡々と湧く傍の泉で砂まみれの顔や手を洗つて居たら、當世マガレツトの草刈女で御座い」と大聲に笑ひながら、和夫さんと兄さんが裸體になつてしきりと身體をふいてゐる、「良い氣持だよやつて御覧」、

何時か淺間神社の林に來た、行くさは招く樣だつた尾花も今は左樣ならとお辭儀をしてるやうだ、さらば富士の高根よ駿河の大原よ（二等）

わが妹

近江　木村みね

今は此樣に睦い家庭の人となつてゐるが、とは折々妹と話す言葉である、母は妹が二つの時、父は八つの時死なれた、あとは繼母と養父の家になつた、そして男子が出來てからは繼母の態度はすつかり異つて來た御飯の時、寢る時、着物から履物、さては日々の家業のお手傳まで皆きはだつて異つて來た、あの寒い冬の夜に叱かられて二人が家の外へ出されて月をしめられた事や、その時の繼母の顔や眼の光は、思ひ出しても身ぶるひがする、私がなければ妹も泣く、妹がなければ私もなく、二人で夜を泣きあかした事もあつた、寢る時も泣く時も妹が第一の便りであつた今も倘月や花はまるで二人のもの、又これのみが我らのもの丶樣に思はれる、（三等）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

晝

牛込　近藤美代

古本屋の前に、七つ許りの女の子が、鐘を敲きながら大聲で何か歌つて居る、近所から集まつた大勢の子供は、さも感心した樣にその子の顔を見つめて居る、道行く人は皆不思議さうに振りかへつて行く、中には側まで來て顔を覗き込んで行く人もある、それでも女の子は平氣で、猶聲張り上げて歌ひ出す、本屋の店に居る人は笑ひながら見て居る、燃える樣な眞晝の光りが、薄黒い女の子の顔をヂリ〳〵と照りつけて居る、

松風

大磯　道子

夏は來ぬ、大磯小磯の濱づたひ、花の袂や羅の裳ひるがへす美くしの都の風は又おそひぬ、長者林の片ほとりに、片向きたる屋根、くちたる柱、「母樣おそう成りまして‥‥御熱は如何‥‥、」濱路よりあへぎ〳〵歸り來りし孃、絲の黒髪は無造作にたばね、幾度も〳〵水をくゞりしにや、縞目も別ぬ衣‥‥、雪をあざむく白きうなじ差しのべて母の枕邊によりそひぬ、「母樣、今日は夙く貝が賣れまして、御藥を三日分ほど買つて參りました」、病みたる母親はかすかに孃の顔を見守りぬ、ものいはぬ目よりはハラ〳〵と高來山より吹き落す涼風は、松間にたゞよう詩歌な、夕陽いろどり靜かなる波の上に‥‥‥‥(秀逸)

あはれ夢

長崎　松村登美子

あはれ世は夢か、昨日の市街は野と成りて、空しく殘る破れたる瓦、崩れたる壁、燒け朽ちたる板、夕陽かすかに之を照して、千年の松も、綠濃やかなりし、大木も、燒けたゞれて枯木の如く立てるぞ哀れなる。親しき友の家も、戀しき君が住家も、あゝ、その面影今いかに、灰と化したる戸數三百有餘、家を失ひし人一千人、いたましいかな、昨日の樂園、今日は修羅場、朝の街は夕に荒野と變りたるこそうたてけれ、おゝ見ゆるよな〳〵我目の前に、家屋にさえぎられて見えざりし島も、舟も、やさしき白帆も、(秀逸)

嫁ぐ人

曾我操子

黒雲が空を蔽ふて今にも降つてきさう、くる日も〳〵雨ばかり、もう軒端の玉水の音も聞きあいた、昨日の振袖の縫揚を出してせつせと針を動かす、やうやく三時頃に仕立上げて、糸くずをのけて綺麗に疊む、自分ながら可笑しいほど念を入れて縫つた、裾模樣の亂菊が如何にも氣に入つたので、今更の樣に見とれた、一昨日仕上げたばかりの洗朱の地に蔦の葉を染出した帶をあてゝ見て、ほんとうによく似合ふ事とひとり心につぶやいた、

懐しきもの

札幌　俣野やす子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

栗の花淋しうこぼれて、小雨侘しき夕べ、そゞろ繰返し見る幼き頃の日記、武樣とばらの取合ひして泣きぬなど、覺束なげなる筆の跡、君世に在せしそのかみ偲ばれて、なかしうも悲し、一抱にも餘る幹、雲に入るかと怪しまれて、濃緑の葉、すゞしき音、例へば世を忍びたる聖者が姿、木に懐しきは楡なりかし、

夢の如く思ひ出さそふ唐人笛の音、鈴蘭の音、はた紫に眠る明の星なんど、なべて懐しきものになむ。

土用干

山口 田村菊子

簞笥の中から、思ひもよらぬ浴衣が出て來た、洗ひ晒しだが、折り目も正しく、大柄な、絣もまだ消えてはゐない、肩上げとても昔のまゝ、打ち廣げて見ると、思ひ切つて長い袖たけ、

あゝ、十五の年……、妾は刹那十五の年に若返つた、風薫る夏の夕、涼み臺に月を眺めつゝ、姉さん達と如何ばかり罪なき過去を語り、さては甘き將來を夢みたであらう、

妾は立ち直つて、そつとそれを着て見た、あゝ、懐かしい十五の年、

月下の瀧

島根 あそやぎ

圓かな月は昇つた、闇に包れた溪谷も、今は生々してきた、空は雲一片もなく、月の光で青白く見える、絶えず落ちては流れ流れては落つる瀧は、綾に皎々と輝てゐる、落ちた水は岩に嚙き月光を碎いて彼方に走り去る、風もなく辺りは森として、只もう太古の樣、瀧が颯と飛沫を散らせば、霧は瀧壺の面に立迷ふ、

スヰートピー

山梨 櫻子

希伯來書第七章の研究をすませ、石川先生のお祈があつて、會は閉ぢられた、いつもながら一種云ひ知られぬ堅い信念を得た樣な思を抱いていそ〱門を出た、西日を洋傘に避けて、讃美歌を小聲に吟みながら、お濠傍を家路へと急ぐと、後から小刻みの靴の音、振り返るとミスマリア、「やつと追ひ付きましたよ」と鮮やかな日本語、クリーム色の上衣に濃淺黄のスカート裾長く、右手に目も覺める樣な花束持つて、表情のある顏にほんのり上氣した美しさ神々しさ、ほんとに教會の花だつて皆樣がお賞めになるのも無理はないと沁々見恍れてゐると、何と推してか、突と差し寄つて、「此花綺麗でしよ、スヰートピー、日本では連理草、れ、あなたに皆上げませう」、(秀逸)

夢

東京 若紫

葉櫻の陰の土橋の上から、釣する里人を眺めて居ると、向ふ岸で美しい人がしきりに私を呼ぶ、脊のスラリと高い、目の黑い人だ、何處かで見た人に違ひないと思つて居る中に、美しい人は私の手をひいて、ソヨ吹く風をスカートにはらませながら、空へ向つて歩み出した、一寸二寸五寸一尺二尺と地から離れて、果ては森の鳥居迄も見えなくなつた、不安の念がムラ〱と湧き出して、つと美しい人を見上げた時、私の身體は幾丈とも知れぬ深い谷底に落された、崖のつたかづらから垂れた露で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

氣がついて目を開くと、枕元に燈る行燈は淋しく消えかゝつて、戸の隙間から朝の光りが差し込んでゐた、

月の夜

神戸　悦子

月は美しく、凉しい風はたえず吹いてくる、一しきり軒の風鈴が察らしい音を立てたと思ふと、丸窓に寫つた松影がさら〳〵とゆれた、隙はきら〳〵とかゞやいてゐる、若葉ごしにちら〳〵と見える燈籠の火をぢつとながめて居ると、何處からか絶え〳〵の琴の音、ふと亡き姉を思ひ出した、よく秋の夕などに、十三絃を取り出して、淋しい曲をかなでゝは何やらもの思ひに沈み給ひしあのお姿が目に見える樣だ、

琴の稽古

京都　黄菊子

明日は家事と英語の試驗があるから、今日は止して歸らうかと思ひ乍ら、通りかゝると、つひゆかしい音にひき寄せられて入つてしまつた、大きな島田髷の頭を少し傾げて、長い唄をどよみなく彈き流して座を退つたお雪さんは、おゝ暑つい と汗を拭ふ、次は我校一の才媛の澄子さんで六段の三段の所で困つてゐるのを、先生とお雪さんが見て妙な笑ひ樣をする、澄さんが爪を納めかゝると、お雪さんはお師匠さんおほきにと言て歸つて行く、いやな感がした、歸路澄ずさんは學校で教へて下さるといゝのにねといふ、

夏の夕暮

牛込　輝子

行水に、一と日の暑さを快よく流して、團扇片手に腰打ちかくれば、あたりはやう〳〵黄昏れ行きて、やり水凉しげに、木々の梢は暗に包まれ、垣根の月見草の淡く咲き出でたるが見ゆ、去年の夏、大磯より持ち返りし白百合の、夜目にもしろく浮き出せるが、折々の凉風に思ひ出せし如くよき香送り來るもうれし、

深夜

姫路　靜香

街燈の光が茫として霧の中に輝いて居る、動いて居る物は一つもない所々に落ちた白い紙片が晝の雜沓の樣を耕つて居る、空は曇つて居る眞黑な薄くろしい空はこの街を抑へて居るのだ、不意に彼方から足音がして來たと思ふと、霧の中から黑い姿がひよつくりと現はれた、兩方から近づいて丁度街燈の下で行き違ふと、其男は此方を向いて私の顏を見た私も其顏を見た、何所となく淋しいおど〳〵とした樣な顏附だ、何かに追はれて逃げて來た樣な顏付だ、氣がしさうに擦れ違つて行つて了つたすると自分は今の男の顏が衣して居つた樣な心持がして來た、果しもない野を歩いて居る樣だ、恐しいものが追つて來る樣だ、私は急いだ、街燈が風にゆら〳〵と動いた、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花園

明石の浦　静香

若松の根をさけて作れる花園に種子を蒔かんとて庭に降りたつ、苔が甘を傾けてより數日、今朝見ればひなげしの花一輪、露おもたげなり、コスモスとは情き名なれども、花のすがたはなか／＼にすて難ふなむ、就波根朝顔、連理草など、何れ床しくやさしからずやは、情深き友の遠に送り給ひし種子の數々、蝦夷菊、花葵、ヒテンス、または撫草はこの浦の鮑の貝にものし給へとつれなの友よ、

手足清めて緣に息ふ程に、しめやかに雨降り出でつ、籬の卯の花白妙なすに、下の百合さへいと白きは物足らぬ心地こそすれ、あはれ今宵血に鳴く一聲もがな、

にわか雨

瀧の川　奈美子

空がどんよりして來た、紅いダリアの冴えた花瓣が黒ずんで見える、變なお天氣ねーと姉樣はお裁縫の手を止めて空を仰いでゐらつしやる、と「降つて來ましたよ、早く洗濯物を」と母樣がお緣の方で大きな聲、二人は庭から玄關からかけ出して取り込んだ、大きなのがポツ／＼やつて來た、お役所や學校の退ける時間だなと思つて窓から見てゐると、眞先に駈けだしたのが紳士風の男で、新調らしいパナマ帽子をいきなり懐へ納めて丸くなつて行つた、少し遅れて評判の床屋のハイカラ女が悠々とやつてきたが、ピカリと光るや見掛によらぬ驚き方、黒い太い足を出してのめりさうにして歩いて行つた、街路は一しきり賑はふ、奥からは新茶を注いだ音がしてきた、

歸省の前夜

牛込　平塚白百合

お土產を買つて歸ると、各室もにぎやかに火影がもれて、盛に話しがはづんでゐる、買つて來た物を同室の靜枝さんの前に並べてゐると、非出さんと、早川さんがやつぱり大風呂式御携帶でお買ひ物ごひらうにゐらしつた、程なく隣室の時田さんも村上さんもゾロ／＼と大入滿員、持寄せのお茶菓子を開いてゐると、あんまりにぎやかなので、舍監樣までゐらしつた、今日は制度も何もぬき、勝手なことを云つてゐると、舍監樣があなたはいゝお土產をもつておかへりですれ、とおつしやつたので顔がほてつてしまつた、十一時、靜枝さんは小さな息をたてゝいう故郷にかへつた夢なかばらしい、先程の舍監樣のおこと葉を思ひ出して、もう一度成績表を見てはゝ笑みながら枕についた、

別れ

千葉　山口あき子

碧い空が段々暮突に被はれて行く、明日は都の人となる妹の手を取つて、軟かな草の上を靜かに歩いた、別れを惜しむ姉の言葉を何と聞いて居るか、別に悲む色もなく、只々華やかな都の樣を夢見て居るらしい、私は眼をすへて妹の緋縮緬の帶揚をうらめしく眺めた、いつの間にか青葉の間に淡い月が昇つて居る、語りたい事は山程ある、聞いて戴きたい事もある、だけれど私は何事もいへない、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



俳句

天　鮎一尾藻の花白き流れかな　日本橋　靜香

地　雨の日は故郷戀し柿の花　和歌山　富美子

人　裏庭に草履更けり夏の月　長崎　早田三重子

秀逸

夏菊の花白かれと思ひけり　阿波　芝武乃

夏の月風は柳にとゞまりぬ　廣島　英子

灸暑き眼に輝くや百日紅　韓國　松田かよ子

砥に針の銹研き居れば雷雨かな　岩代　木口よし子

朝月の影まだ細しほとゝぎす　埼玉　永島菊子

獻上の鮎を乗せけり終列車　愛知　三浦しの子

稻妻や大漁のあとのこぼれ魚　愛知　大塚政子

白蓮の咲いてわが村明易き　栃木　福原りん子

吹き送る風にあやめあり青田面　千葉　市川いく

蟲干に樂譜をほこる女かな　栃木　高安とし

田舍者と馬鹿にせられし暑さ哉　愛媛　とめよ

姫百合の咲いて徑あり草の庵　大阪　海老操子

病み臥して耳にことさら蟬時雨　大森　もゝ子

一本の日傘五人や渡し舟　北海道　堀内きよ

よく聞けば床の邊らしきりぎりす　膽振　石井富子

甲板に錨星を見る月夜哉　長野　尾藤いつ子

神前に束帶の人清水湧く　信州　恒子

蚊柱や湖水を渡る三井の鐘　岡山　紫陽女

紙燭して蟲聞くらしき女哉　東京　竹内富子

牛の背に蠅も眠れり眞晝時　牛込　輝子

巨蟹の空喰む相や雲の峯　千葉　ひかる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帆綱を抱えて眠る漁師かな　大阪　小野まつ枝
ほりばたの柳あぶなし螢とり　神田　螢狩女
夏の月に七浦巡る小舟哉　愛媛　近藤留代
龍巻のある洋艦見えて雲の峰　伊勢　加納みわ子
道迷ふ前な森の一文字　福岡　津田芳野
湯あみせる赤子をふきぬ初夏の風　本郷　千鶴幸
軍艦の帆柱高し夏の月　仙臺　岡田村雨
先途は雲に入るなり夏の富士　岩代　武田けさ子
突堤に浪のしぶきや雲の峰　越後　岩本芳子
川舟に聞く琴の音や夕涼み　山口　松村やす子
畑中に五つを得たり初茄子　埼玉　篠宮光枝
橋に居る人皆しろし夏の月　陸奥　橋本しづ子
白鳳の蝶舞ふ土間や夏芝居　本郷　壬生此花女
雲の峰田毎に灰のわきかへる　京都　夕空
蚊遣せば故國懐かし家の暮　京都　さみだれ
妹去りて我が肩働く納涼哉　牛込　萩原くに子
宵月の光ににげしほたるかな　越後　北川俊文子
海に臨む片側町や夏の月　下野　川久保しも子
七夕や軟かく妹のあらひ髪　大阪　露香
五月雨や針めどくらき窓の隅　神田　入木阪市子
乙女子が浴衣の模様や螢草　神戸　義子
羅衣の袖に囚られし螢かな　神戸　井代孤子
行水に肌はづかしき夏の月　淡島　伊東小百合
雲の峰底に涼しき清水かな　岩代　露子
昔若き女心や螢狩り　神田　市女

茨の香の我が顔なでる風哉　錦町　ふし子
卯の花や君を待つ間の夕灯　麹町　牧野杏子
百合多き山村に入るや蟬時雨　東京　雅子
桑實の女子も露の命かな　上總　あさ子
靜なる家の小窓に風かをる　麻布　鈴木常子
高樓に琵琶の音澄みて夏の月　熊本　細川響子
明月や稲葉に光るつゆの玉　美作　田鶴子
十八の昔がたりや土用干　大阪　前川綾子
五月雨のはれ間を飛ぶや蝶二つ　芝　くに子
南瓜花出て鳴く蜂は黄に染みぬ　新潟　高橋やす子
炎天や屋根に枯れたる草細き　横濱　山崎美都
むつましや妹背と見えてはい二つ　山梨　山本玉枝
古址や昔を忍ぶ松の聲　栃木　篠崎みほ子
辷り行く白帆のかげや地平線　横須賀　小夜子
屋臺店の日は午に近し葉鷄頭　熊本　須磨子
夕立や雲を蹴飛ばす風の脚　三島　遠山・霞子
火は蟲にとられて一人月見哉　廣島　英子
香焚いてかたびら着たる女かな　下野　香蘭女史
夏痩せの肩細うして窓による　福島　紫陽花
師の家を去りて螢の川づたひ　神田　ゆうなぎ
桔槹に汲む水清し露かな　栃木　加藤房江子
五月雨やあらぬ處に水の湧く　大阪　古川深香
花賣りの小唄涼しや朝月夜　岐阜　今井智惠
ぎをん會や一人はほしき男の子　大阪　花香
入相の鐘の音に笑む月見草　越後　優子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

讀者倶樂部

▲花散里の君の佳人の奇遇を讀みて、自分もかう綾子樣の長いお袖の中に入つて行つたやう、鵠沼の停車場でお二人の美しい目と目、優しい手と手が合つた時、其の袖口からそつとのぞいて居た程、眞實に淡白と無雜作に束ねたルイサ卷と、ぬれ羽のやうな高島田とが目の前にちらつきますわ、あゝ次號が待ち遠うですこと、どんなお話しが交されたかと、此の綾子樣と上原綾子樣と屹度同一の方と私は思ひますわ。(本鄕霜生)

▲私去年の九月の增刊お願ひ致しましたら、皆樣より送つて下さいましたが、一番先に下すつた石黒樣に書籍差上げたので、後からのは一々送りかへしましたが、佐藤數惠子樣、貴女も送つて下さいまして、誠にありがたう存じました然しおかへし致したう存じますが、御住所が分りません、何卒御知せ下さいまし。(西尾稻子)

▲近頃はまた米國の事が色々と誌上にも見え、又倶樂部にも度々御顏出しの姉樣方が御ありですれ、私大へん嬉しいわ、何か皆樣の御内で米國の事を聞きたいと御思召の方々は、御尋ね下さい、私の知つて居ります限り何でも御話し申上げます。(米國にて深雪)

▲六月號の偉木軒子樣の日記ほと〳〵感じました、千代子樣にも劣らぬ御文章、おうらやましう存じます、早やく塚本さんと御結婚遊ばせ、早くマダム振りが見たうございます。(兵庫縣印南郡的形村松尾りつ子)

▲松山月の君、貴女も御同感ですか、嬉しいこと、妾はある深遠なる目的を懷いて某女流作家の妹にして頂いて居りますの、自分の勉め、學ぶべき道を忘れたわけではないのですが、萩香樣のお筆路を見る度每に、氣が立つて、同じ女の身やはかと特有のまけん氣が出て、一時夢中になりましたので、己が勉めを忘れて熱中してはいけないと姉樣に叱られました、けれども力かぎり腕をみがいて居ります、江戸ッ子は淺薄な者だ相です、それ御承知ならどうぞ末ながくお忘れ下さらない樣に(壽枝)

▲甚だ恐れ入りますが、藤村詩集おあきの方は私の獨步集、おてんば娘日記等とお取りかへ下さいませんか。(東京青山原宿三九、高橋美津子)

▲小樽の千代子樣の仰しやつる通り、私も神奈川の岩田小春といふ方に「嫁に行く人」を送りましたが、着いたとも何ともいつてまゐりません何卒本誌愛讀の方にさういふ方のないやうに致し度存じます。(麻布喜惠子)

▲五月號の和歌「おもかげの文に似たるときくごとにそと立ちて見ぬ姿見のまへ」の作者米國村越光子樣、貴女はもし元新發田高等女學校卒業生で、服田光子樣では入らつしやいませんか其後校報に村越となられた事を承知致してをりますそれなら次號誌上で御返事下さい。(新發田の香保世)

▲花散里樣、ほんとにおうらやましふ存じます花の主なる千代子樣と手を取つて鵠沼海岸の御逍遙、どんなにお樂しかつたでせう、いづれ劣らぬ文壇の花なるお二方を、遙百里の山川をへだつる奥羽の空からお慕ひ申して居ります、花散里の君よ、どうぞこの次を早ゝ見せて頂戴、胸をどらせて待つて居ります。(仙臺大和田花子)

▲内藤樣に申上ます、貴女はいつも〳〵私如き田舍娘のとんと譯のわからぬ六ッかしき英語だのを御入れ遊ばして、御作を御出しなさるので、誠に困ります、十八娘なのに、私と大變なちがひ、どうしてあんなに男子の事なんかよくしつて入られるのでせう、都の娘はちがつたものですれ、私あんなハイカラ娘大々的すきませんから、以後御作を御出しなさらん樣に願ひます處女のくせに……、皆樣何と左樣でせう、いかゞ(堺の小娘)

▲仙臺の二高生の御方へ御ねがひ申し上げます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七月一日發行の誌上で拜見いたしましたみこゝろのほどいくへにも御察し申上げます、私もそんな兄樣がほしう存じます、御言葉にあまへまして勝手がましきこととなれども御妹子樣の忘形見なる六月一日發行の女學世界お惠み御送り下さいませんか、ご胤のほどはきつと御返しいたします。(岐阜縣加茂郡東白川村越原今井智惠子)

▲京都驚の宿樣、園藝同好、お宿所御知らせ下さいませ、播種以來數十日、愛養の甲斐あつて、今は妾に匂ゆる花壇の可愛さよ。朝貌も可なりに出來ました、御望の方には珍種苗と朝貌の寫眞との交換に應じます。(信洲三留の青木恒子)

▲私は景色の繪はがきを集めて居りますが、皆樣方のお住ひの地方の繪はがきと交換願ひます。(甲府市柳町前田ふみ子)

▲私の夫はこの一月頃からどうやら肺病の樣に醫師が申居り、此病氣はとてもなほらぬとかに候が、私は二人小さき子供をかゝへて財產とては一文もなき身、將來どうして生活して行かんかと、明ても暮ても只々それのみ心配でなりません、私如き無學の者にでも將來自活で通して行かれる職を今より教はり度存じますが、何とぞ同情ある讀者諸姉、あはれと御思召して御教示下され度、合掌して御願申上ます。(あはれの露)

▲記者樣、今回私共は相謀つて、文才を磨く目的を以つて、小さな會を設け、折々會員は投書するは勿論、會の事情も時々は報告致しますから、何卒〳〵御盡力を願ひます、會の名は今の氣候に因なんで若葉會とつけました。(大阪高橋みさ子、松村高枝子、芳村濱子、竹村きよ子、川崎愛泉)

▲なつかしい野菊樣、昨年より今年にかけての御活動振りの目ざましい事、いづこの御方かと、心ひそかに存じ居りしに、思ひきや當年の隆子の君ならんとは、西の國より遙に君の御健全を祝上げ候、君はいさを樣と共に小さき胸を去り得ざりし我なつかしき君に候、戀しきはつぼみれ、花すゝき時代の昔に候よ、此度まぼろし日記を拜見して、うたゝ懷舊の情に堪えず候、紫の筑波の麓に、平和の生活を樂しみ給ふ君よ、幸におはせ。(つゆ子)

▲攝津ばら子樣へ申上ます、私もかねてよりあなた樣と同じ望みでございますから、是非御來遊下さい、待つてをります。(神戶市二ノ宮町一丁目新川筋東花子)

▲皆樣、隨分お暑くなりましたのね、私ほんとにいやですわ、ねむくつて、蚊がたべて、オホゝゝ、それはさうと、休暇を利用あそばして皆さん大磯へいらつしやいな、いゝ所ですわ。(大磯みどり)

▲皆樣の內に御病氣や御宅の都合で女學校にゆかれない方、又中途御退學のお方がございましたなら、大日本國民中學會の女學部へ御入會の事をお勸め申ます、私も講義錄によりて勉強いたして居りますので、益ある事は明かでございます、女學校へ通つて居りましても大變助かりますよ、詳細はいつでも申上ませう。(京都市五辻智惠光院四入小林廣次郞方小林あい子)

▲七月號に「病人に對する同情」を書かれた白百合樣、私は貴女の人となりを敬慕します、定めし見聞の多い都に幾年を過された方で、必ず二十二三以上のマダムだと御察し申上升、承れば目下御病氣の由、昨今は如何で御座い升か、時節柄御案じ申上升、どうか御自愛のほど、私もかげながら祈つて居ります。(なでしこ)

▲全國の本誌愛讀の諸姉樣、もしや大和地方へ御越しの節は、是非吉野郡小川へ御出で下さい、明治維新前に天晴れ君國のために御手柄遊ばされし吉村寅太郞樣外數名の義士の墓所を御案內申します。(小川のほとりにて淸子)

▲米國モンタナの三根武子樣、私は米國の事に就いてはいろ〳〵趣味をもつて居るもので、米國の片田舍に貴女が居らつしやると聽きまして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

おなつかしうございます、どうぞこれを御縁に今後御文通下さい、私は日光山の近所です、お好みなら繪葉書でも何んでも御送り申します。(栃木縣下都賀郡稲葉村大字羽生田蒔合セト)

▲毎號の本誌に御才筆御ふるひ遊ばす萩香様、上原綾子様、あふるゝ御文才にまだ見ぬ御二方様をどんなにかお慕ひ申し上げて居ります、綾子様は學習院御出身でゐらつしやいませう、御伺ひ申上げたい事も御座います、御差支なくば、御二方に御交際願ひたう御座いますから、恐れ入りますが、下名迄御住所御もらし御願ひ致し升。(麻布區霞町一番地戸田百合香)

▲お姉様方のお内に、本誌昨年の五月と十二月號お持合せが御座いましたら、何卒お貸し下さるか、お譲り下さいませ、相當にお禮いたします。(宮城縣宮城郡七北田村上谷川萱場白萩子)

▲おなつかしき諸姉様私の手許に文章學院編の文章新辭典ありますから(最新)思ひ出の記、ツルゲネーフ短篇集、ハイカラ令嬢いづれにても御交換下さいませんか。(秋田郡辨邊村石井露草)

▲京都の宮川しづ子様、七月號にてお答へ下されありがたう存じました、兵庫の和子様、私の姉は信子と申ます、貴女のお尋れの者は私の母で御座います、貴女のお姓名をなにとぞお知らせ下さいまし、貴女も女學院にゐらした方ですか。(韓國釜山西町一丁目長谷場純子)

▲與謝野晶子先生の雑記帳拝見する毎に、到底男子も及ばぬ頭腦をお持ちになつた御えらゐお方と感じ入ります、其非凡の御風貌が御慕はしうございます、内藤千代子様と、上原あや子様とのお作、私ほんとうに大好、よくもあゝ思ふまゝに筆がまはるもので御座いますれ、しかも其筆まはしが鋭くて且つ上品で、何とは無しにお作を透して其氣品が窺はれます、それから記者様にお願ひします、毎號の口繪に文士、歌人とか、名士とかいふ様な方々の最近の御肖像か、又は家庭といふやうな趣味ある寫眞も掲げて頂きたう御座います。(新潟縣龜田町濵島優子)

▲皆様の中で、昨年發行の「心の日記」お持ちの方がありましたら、暫く拝借さして下さいまし。(静岡縣濵松連尺中村いち)

▲信濃の優栄子様、御なつかしう御座ります、私も信濃ですわ、そして今遠い國で一人ぼつち暮して居ますの、一度はあのなつかしい輕井澤を經て父母を見舞ひます、あなたの御文を拝見して來らむ歸郷の折が忍ばれます、御住所御知らせ被下い、繪はがきなりと御贈りいたします。(米國深雪)

▲記者様、東洋女塾及び清韓語教員養成所は東京の何所にございますか。(清國にてはな子)——赤阪區青山北町六丁目東洋婦人會内にあり升。

▲どなたか「嫁ぐ人」をお持ちの方は御ゆづり下さいませんか、暫時の拝借でもよろしう御座います。(滋賀縣大津市柳町林愛子)

▲私は、本年二十歳にて、裁縫、茶、花等の心得ある者で御座いますが、木綿宿物で奉公致したいのです、東京の華族様か大家で小間使にでもお使ひ下さる事は出來ませんでせうか、忠實におつかへ申す心で御座います。(茨城縣眞壁郡下妻町鯨井富士子)

▲小樽の千代子様、岡山のすみれ様、お二人共岩田小春様に「嫁ぐ人」を御送りあそばして、私し送りましたが、何とも御返事がありません物品をうけ取つて何の返事もないのは不都合ではありませんか。(麻布北日下窪町鈴木喜恵子)

▲記者様、力行女學校長島貫兵太夫様は何地に御住ひで御座いますか。(長野ちどり)——小石川區駕籠町五十一番地です。

▲仙臺の二高生様、私の死にました從兄の事によく似て居りまして、なんだか御なつかしうございます、どうぞ四月號を御めぐみ遊ばして下さいませ。(大阪市西區南堀江四丁目疋田壽子)

▲記者様御願ですから、與謝野晶子様のお寫眞を御出し下さい、一生の御願です。(尾道なでし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こ)

▲相變らず萩香樣は大層な御人氣です事れ、素よりいゝには違ひない、けれど女は女、私は河岡潮風さんの溫泉場の方がいゝわ、彼の人生の爽快を遺憾なく御寫し遊ばした處は皆樣如何ですか、矢張男の方は、何處かに骨が有る、それに處々面白い和歌等お入れ下すつて、私誌中で一等だと思ふわ、何卒今後かゝさず御寄稿を切に希ひます。

▲それから記者樣に御願ひです、もつと夢二式の挿畫を澤山に御載せ下さい、私大好なんですもの。(京都白草女)

▲皆樣の御中で、本誌五月號御不用の御方は、何卒御送り下さいませんか、御禮は繪葉書にて致します。(山口縣玖珂郡余田村竹內伊志子)

▲皆樣と繪端書の交換を願ひます。(福岡縣鞍手郡直方町多賀町中野菫花)

▲姉樣達の中に夏子(小說)の後編を御持ちの方は御座いませんか、若しお有りでしたら、一週間許拜借出來ますまいか、御禮には繪葉書か小說を差し上げます。(遠江西渡坂倉たみ子)

▲口繪は此頃はいつもよいのばかりですれ、私每號切り取つては本にしておきます、つまらない時出して見るとたのしみなものですよ。(八王子野菊)

▲皆樣は御壯健で海に山にと樂しき御旅行を遊ばすのでせう、中禪寺へも內外國の避暑客が澤山入り込みますのよ、虛榮心の強い私などは羨望に堪へないわ、……アノ一寸誌友諸孃のうちで鵠沼へ御避暑にお出掛けでしたら、ホラ、萩香樣の御宅を御探し遊ばして、其の報告を讀者倶樂部で皆樣へ御紹介下さいな、も一つ御願があります、流行の本源たる東京に御住ひの御方は、我々田舍の少女に時々の流行の樣子、髮でしたら結び方を、本倶樂部をかりて御紹介下さいませ。(幸の湖畔なる下野草)

▲相模の八重樣、御言葉うれしう御座います、まことに不束者でございますが、貴女こそどうぞ御交はり下さいませ、野菊樣、まあ、呆れてしまひました、たんと何とでもおつしやい、御自分こそ校中の花とて上級生からも下級生からも大さわぎされてゐらつしやる癖に、おぼえてお出で遊ばせ。(大久保妙香)

▲萩香樣へ、あの私百合香と申します不束者、どうぞ御見知り置きあそばして、ほんとに、いつも御作を拜するごとに、御なつかしく、御目にかゝりたう存じます、どうぞ、こんな者でも御交り下さいまし、わたくしも、あなたとおない年の一月生れです。御うつしゑが拜見したいわ。(麻布百合香)

▲紀伊の松島千枝子樣、其後は大變御無沙汰に暮して居まして、どうぞ御許し遊ばせ、近頃は誌上に一向御作を拜見致さない樣に思ひます、どうなさつたの?、ふるつて御投書遊ばせよ。(滋賀縣かめ子)

▲一月發行の「マダム振」お持ちの方は御惠ぐみ下さいませんか、御送付下さいましたら、私の寫眞でも、當地名所繪はがきでも何んなりと御望みに應じます、もし御惠み下さるのでしたら御住所御知らせ下されば私の方からさきに御送りいたしてもよろしう御座います。(小樽區火町二ノ四橋本久子)

▲一月の臨時增刊「マダム振り」御不用の分御持ちの方はありませんか。(丹波柏原新町小林房枝)

▲攝津の末摘花樣、毛髮の食養法本欄で指示せよとの仰せでございましたが、限りある本欄ではとても〳〵申しつくせませぬ故あしからず、又北海道の可哀女樣も御同樣あしからず思召し下さいまし。(京都神谷都子)

▲皆樣のうちで四月の本誌の御不用のものがありましたら御送り下さいませんか、相當の御禮を致します。(越後中魚沼郡十日町宮入豐子)

▲內藤千代子樣、石內富枝子樣、どうぞ〳〵每號御作をお出し下さいまし、私いつもおもしろ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く〱拝見いたして居ります、何だか目に見えるやうで、よみながらひとりでクス〱處ではない大わらひする事があります、そして傍の者によく笑はれます。私から云ふ面白い物が大好、涙の出るやうなのはよむにたへません。(廣島ムラサキ)

▲やつぱりあの戸田様でゐらつしやいましたのれ、御なつかしう存じます、私も同窓會に參りたいと思ひますけれど、此の頃は耳がすつかり駄目で御座いますもの、恥かしくて……、ほんとにつまりませんわ、けれど山﨑秀子様が御親切にも筆談でなぐさめて下さいますの、いつも一人で皆様のおうはさを致して居ります、此の後共誌上でお交はりを。(四谷高林方、荒木すゞ子)

▲皆様の御友情のほど、かたじけなう存じます、尙ほ此後は端書に和歌を書いて、交換を願ひます。(綠りこき山許にて小春子)

▲皆様、去年九月の增刊の滑稽智惠競べ中に有つた滑稽の智慧判斷、あれ驚く程宜く當つて居りますのよ、私のなどはもう〱的中で、成程と感心致しました、家中の者の誰が見ましても、宜く當つて居ます。(瀬浪子)

▲皆様の中で昨年の一月十五日發行の「こゝろの秘術」御持ちの方は何卒お惠み下さいませんか、御禮は必ず致しますから、しばらくの拝借にてもよろしう御座います。(大阪府下北河内郡友呂岐村大字太間大西民子)

▲私の家は皆女學世界の愛讀者でございますの母が一卷一號から愛讀して、次に姉がいたして居りましたが、此の頃では引きつゞき私が拝見して居ります、足らはぬ妹と思し召してどうぞ御交際下さいまし、さて私は園藝に大層趣味を持つて居りまして、京都の叔の宿様の御説大賛成でございます、何卒此の欄で草花培養について有益な御話しや、御注意をお聞かせ下さいますやう願ひます、御手紙の交換をも願ひます。(岐阜縣惠那郡長島町永屋梨枝子)

▲物集先生のお作またも、紙上にのせてありましたれ、面白く目次によつて眞先に拝見いたしました、陸奥の安達原今は附近に停車場も出來て居ます故、昔を尋ねる雅人も隨分多いとの事です、温泉場の河岡先生に……御病氣、早々御全快あらんことを、そして次號にも、私の好きな、日記御掲載願ひます。(陸奥の綠子)

▲私都合によりまして日本の古切手御望みの方に相當の價にて御ゆづりいたしたうございますが、御入用の方がおありでしたら、御住所御きかせ下さいまし、中には御珍本のもあります。(東京小石川夏菊)

▲大阪市の政代様、早速「驚ろく手紙」御惠送下さいまして、有がたう御座います、御住所がわかりませんから、本欄で厚く御禮申します。(北河内三つ島にて末摘花)

▲皆様、私は可愛想に一人ポツチなのです、兄弟姉妹の眞の味を存じませんのよ、それ故只女學世界をのみ無二の友とし、居りますのです、皆様の中で御一人娘も御座いませうれ、どうか不束者ですが妹と思つて御交際下さいな、私どんなにうれしく思ふか知れませんわ、又皆様も何卒御交際を御願ひ申します。(大阪府下北河内郡友呂岐村大字太間大西民子)

▲米國モンタナにいらつしやる三根武子様、はる〲故國遠く離れて、異鄕の空にお住ひですとか、何だか悲しい歴史をもつていらしやる方のやうに、お察しいたして居ります、お差しつかへのない限り、おうち明け遊ばせな、私及ばずながらお慰め致したいと存じて居りますから。(志摩海岸にて浪子より)

▲雨しめやかに降る夕、庭の木立を眺めながら想ふのは、女浪男浪の絶えず歌調ぶる鵠沼のほとりに玉藻匂ふ風を浴ぶる君が上、あゝ、御目に懸り度いわね、けれ共萩香様は、「眞の自分といふものを、めつたな人に知られ度く無い」つて御仰るのだから、いくら思つても戀しても……あつく〱桃代さんが羨ましいわ(東卯日合著)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸賞募集 迷信に囚はれたる婦人

迷信に囚はれたる婦人の行爲に就て趣味ある記事を募る

〆切 八月二十五日限

通俗哲學者の説に曰く、迷信は人の一生を支配する大引力なりと、是れ今日の科學を全く無視したる言なり、されど翻つて考ふるに、心象の上に齎らす文明科學の力は、その實案外微弱のものにして、十中の八九は猶不可思議なる感情の支配に屬す、凡百の迷信はこの不可思議なる感情と抱合して様々なる變態行爲を演ず、殊に婦人に於て尤も甚しとなす、今この情態を冷靜に觀察し、この行動の跡を仔細に尋ぬるは、啻に趣味感の上に無限の味を感ずるのみならず、又人間處世の上に幾多の暗示を得る事ならんと信ず、依てこゝに迷信に囚はれたる婦人の行爲に就て各種の趣味ある記事を募る。

賞金は一等より五等まで左の割合にて總計二十名に呈す。

賞金

▲壹等	金參拾圓	一名
▲貳等	金拾五圓	一名
▲參等	金拾圓	三名
▲四等	金七圓	五名
▲五等	金五圓	十名

規程

△原稿は普通原稿紙十枚以上の事
△原稿の終に住所氏名を記する事
△宛名は博文館女學世界として封皮に特記する事
△當選の文は九月中旬の増刊號に發表す
△賞金は發表の當日現金にて發送す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

才媛文壇懸賞募集（七月十二日〆切）

▲美　文（二十字詰十五行以内）

▲日　記（二十字詰十五行以内）

▲書簡文（二十字詰十五行以内）

▲いろ〳〵の經驗（十五行以内）

▲和　歌（一人一首）

▲俳　句（一人一句）

▲笑話　▲誌友倶樂部

△美文、日記、書簡文、いろ〳〵の經驗の四種は用紙は半紙の事△和歌、俳句、笑話、倶樂部は端書に限る、△字體は楷書にて正しく書く事、不分明の字又は亂れたる書體は沒書とす△名宛は博文館内女學世界宛とし△原稿に文の種類及び住所氏名を明記する事

賞品

△美文△日記△書簡文
天賞壹圓五拾錢、地賞壹圓、人賞五拾錢

△和歌△俳句△笑話
天賞壹圓、地賞七拾錢、人賞五拾錢

△いろ〳〵の經驗（賞壹圓以下）

毎月一回一日發行

定價表

一冊（紙數二百八頁）…金二十錢
四冊（三ヶ月分）……前金七十五錢
八冊（半ケ年分）……前金一圓四十五錢
十六冊（一ケ年分）……前金二圓八十錢
定刊數……十二冊
内（増刊四回…一、五、九、十一月價格同一）

郵税　一冊　二錢

廣告料

廿四字詰	一行	四半頁	半頁（卅三行）	一頁（六十四行）
特等	……	……	……	五十五圓
一等	……	……	廿三圓	四十五圓
二等	……	十圓	十九圓	三十八圓
三等	五十錢	七圓五十錢	十四圓	二十八圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

註文略規

●本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
●御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す
●郵券代用は一割増にて五厘一錢の切手に限る
●一覽目錄御入用の方は二錢券相添申込あれ

不許複製

明治四十三年七月廿六日印刷納本　第拾卷第拾號

編輯兼發行人　松原岩五郎

印刷人　山田英二

印刷所　博文館印刷所
東京市小石川區久堅町百八番地

發行所　東京日本橋區本町三丁目　博文館

電話本局　三百三番　千十八番　二千六百二十番　三千二百二十九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各女學校 高等小學校 生徒＝夏季休業中必需書

博文館編輯局編纂

明治四十三年



各高等女學校等に於て、生徒に夏期休暇日誌を記載せしむることは、近來殆その軌を一にせり、然るに之に恰當せる書冊あらざるため、亂雜なる書き方に流れ易く、敎師は之を閲覽訂正するに苦しみ、生徒はこれが保存にその興味を缺く弊多しこれ等の弊を矯むる目的を以て、本書を發行し來りしこと數年幸に江湖の好評を博して、殆んど全國各女學校及小學校女子部に採用せられたり因て本年もその內容を全く改めて既に發行せり。初版に於て前年と同一部數を發行しある本誌は**再版**の已むなきに至れり以て本邦女子敎育の機運をトするに足る。……

裝釘……正價 送料……割引

全一冊洋裝菊判石版表紙美裝
紙數五拾頁　石版口繪挿入
(甲)三、四、五年用 (乙)一、二年用 各一冊
正價　各金拾貳錢
郵稅　各金四錢

割引
▼五十冊以上…一冊送料共 金拾一錢五厘
▼百　冊以上…一冊送料共 金拾錢五厘
▼二百冊以上…一冊送料共 金九錢五厘

注意
一、臺樺清韓送分は…一冊に付三厘增の事
二、內地代金引換小包送分に同三厘增の事
但臺樺清韓行代金引換小包送りは注文者の負擔を減ずる爲め前記三厘增の外割增を爲さゞる事

發兌元 東京本町 振替口座東京二四〇 博文館

女(後付の一)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博文館編輯局編纂

明治四十三年

夏期休暇

小學生日誌



洋裝菊判（石版刷表紙頗美本各册口繪寫眞版挿畫等豐富）

注意

一、臺灣、樺太、清國、韓國、送分は一册に付三厘增しの事

二、內地代金引換小包送分は一册に付三厘增しの事

但臺、樺太、清國、韓國行、代金引換小包送りは……注文者の負擔を輕からしめんため前記三厘增の外割增を爲さゞる事

本誌……尋常科五版

高等科六版に進めり

以て本誌が如何に好評を以て歡迎せらるゝかを知るに足る。

本書は夏期休暇を利用して兒童の常識を養成し併せて、日誌の記載方を練習せしむる目的を以て、編纂したるものにして、創刊未だ兩三年に過ぎざるも望外の好評を得、絶大の部數を發賣せり、本年は殊に實驗家の意見を參照訂正を加へ既に市に出だせり、亦た賣り切れとならざる內速に購求あれ

（定價）

▼尋常科第三學年用（紙數每册四十二頁）正價各一册五錢五厘

▼同　第四學年用　郵稅　一册二錢宛

▼尋常科（第五學年用 第六學年用）（紙數每册四十二頁）正價各一册七錢

▼高等科（第一學年用 第二學年用）郵稅　一册二錢宛

特別割引

尋常小學三、四學年用

五十册以上	一册送料共	金五錢八厘
百　册以上	一册送料共	金五錢六厘
二百册以上	一册送料共	金五錢四厘
三百册以上	一册送料共	金五錢二厘
四百册以上	一册送料共	金五　錢
五百册以上	一册送料共	金四錢八厘

尋常小學五、六學年用　高等小學一、二學年用

五十册以上	一册送料共	金七錢貳厘
百　册以上	一册送料共	金七　錢
二百册以上	一册送料共	金六錢八厘
三百册以上	一册送料共	金六錢六厘
四百册以上	一册送料共	金六錢四厘
五百册以上	一册送料共	金六錢二厘

東京日本橋區本町三丁目　**博文館**　振替貯金口座東京二四〇〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

在倫敦 田中涓人君著

最新 倫敦繁昌記

全一冊

洋装四六判 総クロース
紙數七百五十頁
正價金壹圓
郵税金八錢

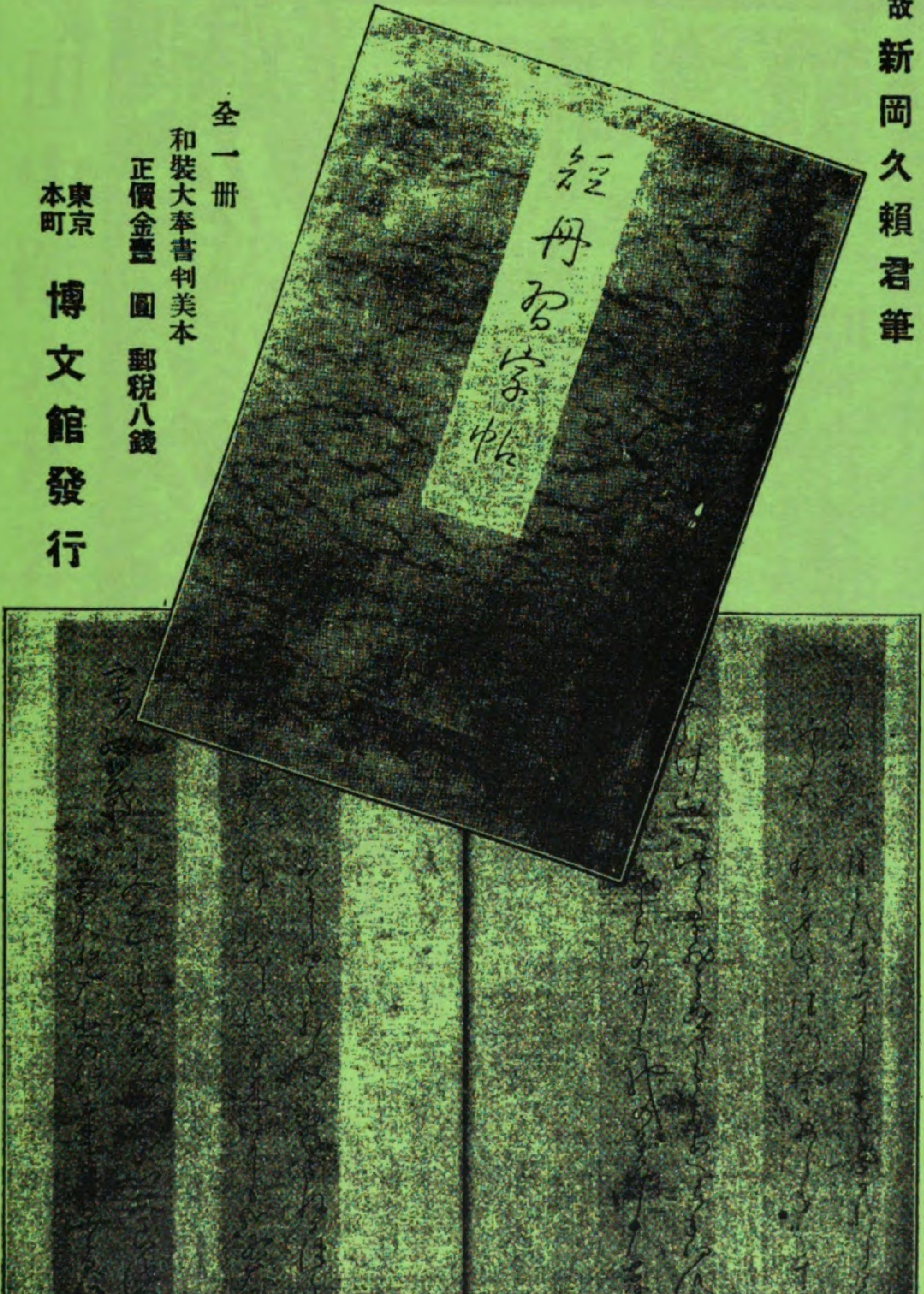
一般の讀物としては、遙かに**小説以上**の**興味**を覺えしめ、**漫遊客**の**顧問**としては、専門のガイド將に顏色なからんとするもの、是れ本書也。實に著者が着倫以來、年餘に亘る**綿密周到**の**觀察**は、孰れも**犀利痛快**なる**筆**に依りて紙上に**生動**し、何人と雖も、一度巻を手にせんか、遂に之を蔽ふの遑あらざらしむるの概なくんばあらず。收むる處、地理あり、歴史あり、人情あり、風俗あり、制度あり、文物あり、敎訓あり、諷刺あり。而して**附錄**渡邊小城君の**倫敦はがき便**は、趣味の横隘行文の流麗眞に小品文の上乘なるもの亦指針となり、參考とすべきの事項に富めり。**時**恰も**日英博覽會**の**開催**に**際**す。時節柄江湖の一讀を求む。

東京 博文館 本町

女(後付の三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故 新岡久頼君筆



全一冊

和裝大奉書判美本

正價金壹圓　郵稅八錢

東京本町　博文館發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文學士 大町桂月君著

女學生訓

▼第七版▲

洋裝小判 正價廿五錢 郵稅四錢

本書は大町桂月君が例の鋭利なる筆鋒を以て當代女學生の失點と注意すべき事と及び有形無形に襲ひ誘惑等に就て懇切丁寧に教訓せられし絕好の金玉文字なり、女子諸君一讀再讀暫くも座右を放すべからず

（東京本町 博文館發行）

千河岸櫻所君釋

女訓評釋

和裝大判 正價六拾錢 郵稅十錢

●女今川 ●女訓孝經 ●女小學 ●女論語

●女實語教 ●女大學 ●女孝經 ●內訓

●女庭訓 ●女中庸 ●女誡 ●女範

松原岩五郎君著

女學生の栞 （（三版））

▼洋裝大判 正價卅五錢 郵稅六錢

此書立言の根據は專ら婦人をして獨立自營の氣象を養はしむるに基き、文章は平易流暢を旨とし、丁寧親切より利害のある處を辨識して聽明なる婦人の智識に訴ふ書中諷諭諧謔の筆を弄して、時弊を刺し、或に毒舌を以て單刀直入婦人の弱點をえぐる處あり、世間未婚の婦女子は勿論、花嫁、主婦、母親いづれも新日本の淑女たらん人は一讀して著者が萬斛の淚の如何なる點に向つて灑げるかを知りたまふべし。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

與謝野寛君著

詩集 檞之葉

全一冊

菊版半截上製紙數三百卅頁

正價四拾錢　郵稅　錢

詩壇の平靜を破つて一石を投ずるものは此集なり。小曲百六十篇、雜體四十二篇、短歌數十首を收む。詩の愛深き人人よ。ふと思ひつめたる刹那の『我』を彈じて高調を出だす著者の奇才を見給へ。

前田雪子女史抄譯

家庭小說

小姫君

慈愛深い父母の膝下で、嚴格な家庭の敎育を受けて生育つた、最と睦ましい姉妹の姫君は、浮世の戀愛を夢む時、父母に由つて定められた婿君を嫌つた。奇才に富み、頓智に長けた妹なる小姫君は、花もうら羞かしい十七歳の年頃に、その機智を遺憾なく發揮し、嚴父慈母が豫想した婚約をがらりと外させ、日頃仲の好いお友達なる令嬢を媒介して、孰れも滿足、しかも幸福なる三組の婚姻を成立たせた手際の鋭敏な所、ナイーヴな所、是れ本書の主眼併せて善良な家庭の有樣も窺はれる。

洋裝四六判
總クロース南京綴
紙類約二百八十頁
正價四十五錢
郵稅六錢

東京日本橋本町三丁目　博文館　振替口座東京二四〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中學世界

第拾參卷第十號 八月十日發行

菊判美本 紙數二百四十頁 毎號外國語欄十餘頁 口繪 水彩畫 ペン畫 鉛筆畫 寫眞版 十餘頁

定價(一冊)廿錢 郵税二錢

▽評論……山路愛山

●今期入學失敗者の善後策……東京高商校長 澤柳政太郎
●中學生の勉强法……文部省專門學務局長 福原鐐二郎
●畫聖ラハエルの話……文學士 小松月陵
●青年五色論……札幌中學校長 山田幸太郎
●感慨多き自治寮の三年間……田中明
◎霧島登山記 田山花袋
◎私の投書家時代 中村春雨

學術上の南極探險 横山理學博士

南極探檢と予の決心 陸軍中尉 白瀨矗

◎無目的旅行 江見水蔭
◎僕の野球物語 神吉キャピテン慶應
●予の徒歩旅行奇談……伊藤銀月
●ナイヤガラ瀑布を泳ぎし快男子
●長距離競走練習法……明石和衛
●東都諸學校夏季休暇中の活動振り……
●新渡戸博士の『長脇差』……(アネクドート)

▽青年期の悲觀思想……浮田法學博士

東京本町 振替東京二四〇番 博文館

女(後付の七)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最新發明 肺病。肋膜 新藥に就きて

獨逸ドクトル 高平氏報告（醫事週報二七號報告再錄）

新治療劑主藥の諸結核による熱度下降は可驚著效あり四十度を示す熱は本藥應用後は常溫下に減じ患者は藥劑が無味なるを喜び之が服用を嫌忌せず食慾を增進す

右の外本劑の著効ある事は既に諸家の試驗報告及賞讃により明らかなれども今本院服藥患者につき其成績を左に報ぜん

●金森某（德義上住所姓名を秘す）女子三年前發病途に末期重症の**兩肺結核**に陷り咳嗽たん盜汗發熱激しく度々喀血し非常に羸瘦す服藥壹週頑固なる熱を去り咳嗽喀痰を輕快す服藥貳週喀血やみ臥褥せしもの屋外に出で日光に暖をとるに至る連用三十日病全く治し食慾進み體重を增加せり

●兵頭某卅一歲男**肋膜炎**（喀血無し肺病初期の疑あり）胸部痛み食不振身體倦怠盜汗。咳嗽。頭痛あり身體羸瘦を見る卅九度に至る發熱あり服藥五日奏効あり二週にして全治す僅々二週にて全治する如きは病輕症なるに因るとは云へいかに新治療劑が肺病。肋膜。肺炎。肺尖加答兒。氣管支加答兒。腹膜結核等の諸症に對し可驚効力ある全治藥なるを知らん以下病歷を細述する時は冗長に亘るを以て左の通略式とす

患者	性	病名	成績
三村	男	兩肺結核	無効
中川	男	肺尖加答兒	全治
松信	男	結核性肋膜及腹膜炎	全治
笠井	女	肋膜炎	全治
上野	男	右肺結核及腸結核	全治

成績	患者	性	病名
全治	龍谷	男	兩肺結核末期
全治	宮本	女	結核性肋膜炎
微効	岡田	男	氣管支加答兒及肺炎
全治	阿崎	男	右肺結核及腹膜結核
全治	神村	男	肺結核初期

斯の如き好成績は從來の藥物に於て見る能はず我國藥劑界名譽の發明藥として報告する義務あるを信ず叉効力多大にして持長服藥するも副作用なく殊に**喀血**と其豫防に可驚効あるを以て醫藥の傍ら服用最も妙ならん吾人は病者に向って新治療劑は現今に於て完全なる發明藥なるを紹介し安心服藥せん事を勸むと共に醫師は自家患者に本劑を投藥せん事を勸告す●本治療法を知らんとする患者は貧富の別なく、醫者にも療法あり）遠慮なく送料郵券二錢添東京神田竪大工町拾三番地療養院製藥所村尾明治堂宛申込あらば新治療法の書を無代貰ひ得らる、故是非一讀あれ益する處多からん、之れにより全治の幸福を得らるべし

藥價
壹週金二圓
貳週參圓九十錢
參週五圓七拾錢
四週七圓貳拾錢
五週九圓

東京神田竪大工町 療養院 製藥所 **村尾明治堂**
電話本局參千七百五十二番（私書函神田本局第三號）
振替口座東京壹四參壹九番

田山花袋君著

近作十五篇

洋裝四六判美本
紙數五百餘頁
正價七拾五錢
郵稅八錢

（目次）
▼拳銃 ▽庖丁 ▼父の墓 ▽二階の一間 ▼寫眞 ▽一家の主人 ▼竹馬の友 ▽罠 ▼死 ▽町より山へ ▼丘の家 ▽二人づれ ▼騎兵士官 ▽錘 ▼幼兒

東京日本橋本町三丁目 **博文館發行** 振替東京二百四十番

女（後付の八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

柳清香油

けいそかう油

紳士貴女用 フロラー香水

二十錢 一円廿錢 一円八十錢



美術小間物化粧品

東京日本橋通二

柳屋本店

電話本局二〇一

理想的最新製劑

ちゞれ毛くせ直し

ベント

本品を一度使用せば如何なるチゞレ毛クセ毛にても立處に直伸す永く使用せば根本的にチゞレ毛クセ毛の有る處を忘るべし

定價 大金九十錢 中金四十七錢 小金廿五錢

送料 市内四錢 市外八錢

最新輸入高等染髪料

しらが赤毛そめ ヘーヤダイ

大壜金貳圓五十錢 中壜金壹圓 小壜金五十錢

送料 市内四錢、市外八錢

此の二大有効製劑の説明は左の書に詳記せり

最新衛生化粧美髪法

本書の内容

◎しらが、赤毛染の話
◎ちゞれ毛くせ毛直しの話
◎抜毛どめ、ふけとりの話
◎毛のなき所に毛の生へる話
◎毛髪の洗ひやうの話
◎毛髪營養の話
其他毛髪化粧に關する秘訣

本書御入用の方は郵券二錢封入御申込あれば無代進呈す

發行所 東京本所區外手町八十七番地 深澤國華堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(明治四十三年七月廿六日印刷納本)
(明治卅三年十二月廿五日第三種郵便物認可)

注意深き主婦の御手柄

一家の者が下痢其他の惡疫に罹った時
兼ての用意此時と
ヘルプを用ひて
應急手當に成功したは
確かにダイヤの指輪に値ひする

●**家庭衛生**の如き細心の注意を要する事は、天性注意深き御婦人の手に俟たなければなりませぬ、故に下痢患者の多い今、惡疫流行の今、理想の腸胃藥たる**ヘルプ**を御準備なさる樣勸告致します

●下痢に苦しむ人 ●惡疫を恐れる人

早く理想の腸胃藥**ヘルプ**を用ひよ

柏村博士創製
下り腹とめ



効能

●痢病●腸加答兒●時候あたり●水あたり●寢冷●腹痛●吐瀉●食傷等
一切の下痢を止め腸胃を整ふ

醫者の來る迄

ヘルプが必要、凡て傳染性腸胃病は其起るや疾風の如く一刻の差遂に生死の境となる袖手して醫師の來るを待つは迂なり直ちに**ヘルプ**を服用して輕症の間に全治せよ

發賣 東京市日本橋區本銀町 電話本局千〇九十七番 津村敬天堂

(定價金貳拾錢●郵税貳錢)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

監修
小山静子　KOYAMA Shizuko
京都大学大学院教授

女学世界（じょがくせかい） 明治期復刻版⑦
明治43年7月（第10巻第9号）、8月（第10巻第10号）

2010年7月10日　第1刷発行　　定価（本体20,000円+税）

監　修　小山静子
発行者　富澤凡子
発行所　柏書房株式会社
東京都文京区本駒込1-13-14（〒113-0021）
電話　03-3947-8251［営業］03-3947-8254［編集］
協　力　株式会社博文館新社
印　刷　株式会社友美社
製　本　有限会社青木製本

ISBN978-4-7601-3855-5　C3321

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

A 1,134,308

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN